（仮称）千葉市高浜保育所新築工事

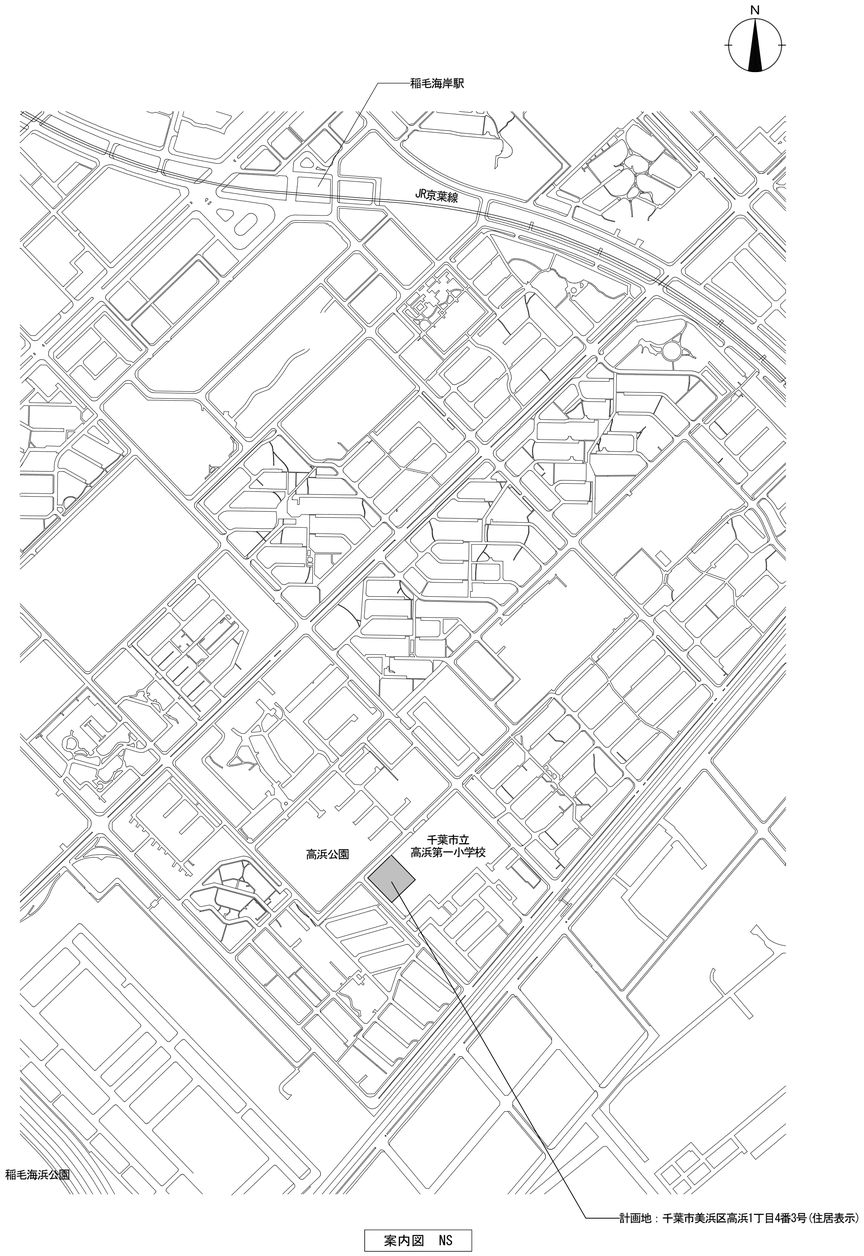
図面リスト

縮尺はA1サイズを表す

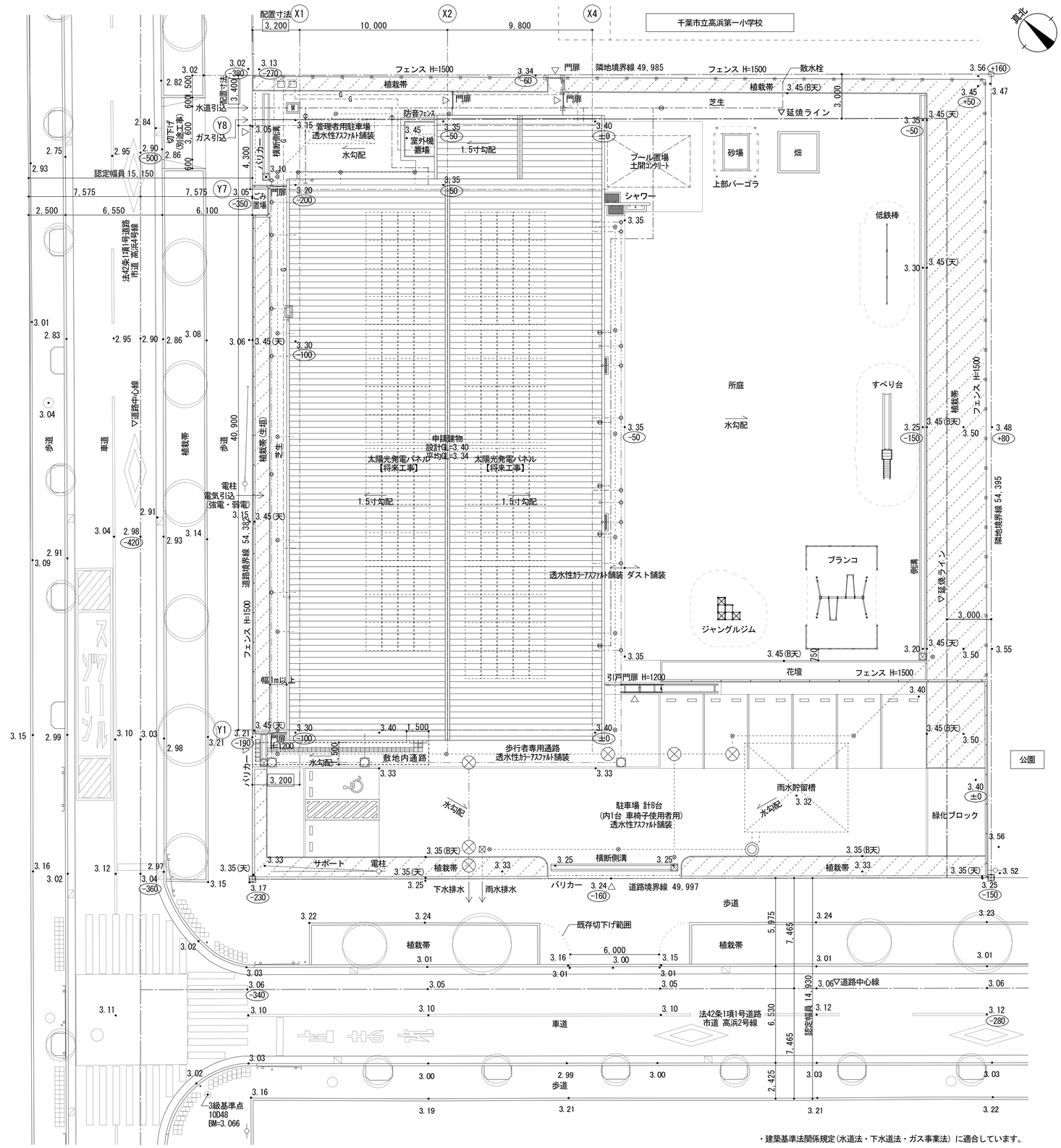
意匠図		
図面番号	図面名称	縮尺
A-00	表紙・図面リスト	―――
A-01	案内図・配置図	1/150
A-02	敷地求積図・面積表	―――
A-03	工事区分表	―――
A-04	仕上表	―――
A-05	平面図	1/100
A-06	ピット伏図・屋根伏図	1/100
A-07	立面図	1/100
A-08	断面図	1/100
A-09	天井伏図	1/100
A-10	矩計図-1	1/30
A-11	矩計図-2	1/30
A-12	平面詳細図-1	1/50
A-13	平面詳細図-2	1/50
A-14	展開図-1	1/50
A-15	展開図-2	1/50
A-16	展開図-3	1/50
A-17	展開図-4	1/50
A-18	展開図-5	1/50
A-19	展開図-6	1/50
A-20	展開図-7	1/50
A-21	建具キープラン・建具表-1	1/50,100
A-22	建具表-2	1/50
A-23	建具表-3	1/50
A-24	建具表-4	1/50

意匠図		
図面番号	図面名称	縮尺
A-25	家具・掲示板・サインキープラン・家具詳細図-1(参考図)	1/20,100
A-26	家具詳細図-2(参考図)	1/20
A-27	家具詳細図-3、掲示板詳細図(参考図)	1/3,20
A-28	サイン詳細図(参考図)	図示
A-29	調理室配置平面図・機器表(参考図)	1/30
A-30	部分詳細図-1	1/5
A-31	部分詳細図-2	図示
A-32	部分詳細図-3	図示
A-33	部分詳細図-4	図示
A-34	法規チェック-1	1/100
A-35	法規チェック-2	図示
A-36	外構図-1	1/150
A-37	外構図-2	1/150
A-38	外構詳細図-1	図示
A-39	外構詳細図-2	図示
A-40	外構詳細図-3	図示
A-41	埋設管経路図	1/150
A-42	仮設計画図(参考図)	1/150
A-43	既存杭配置図(参考図)	1/150

構造図		
図面番号	図面名称	縮尺
S-01	構造設計標準仕様	―――
S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	―――
S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	―――
S-04	鉄骨構造標準図(1)	―――
S-05	鉄骨構造標準図(2)	―――
S-06	先端羽根付き鋼管杭基礎設計施工標準	―――
S-07	鉄骨柱脚部設計施工標準図	―――
S-08	杭 伏図	1/100
S-09	基礎・1階 伏図	1/100
S-10	中2階・M2SL 伏図	1/100
S-11	R階・母屋 伏図	1/100
S-12	軸組図(1)	1/150
S-13	軸組図(2)	1/150
S-14	杭・杭頭補強・基礎・柱脚 リスト	1/30
S-15	地中梁・スラブ・鉄骨柱 リスト	1/30
S-16	鉄骨大梁・二次部材・継手 リスト	1/30
S-17	継手リスト(2)	1/30
S-18	鉄骨詳細図	1/30



案内図　NS



・建築基準法関係規定(水道法・下水道法・ガス事業法)に適合しています。

(±0):地盤高さ(設計GLからの高低差)を表す
設計GL=BM+0.334

配置図　S=1/150

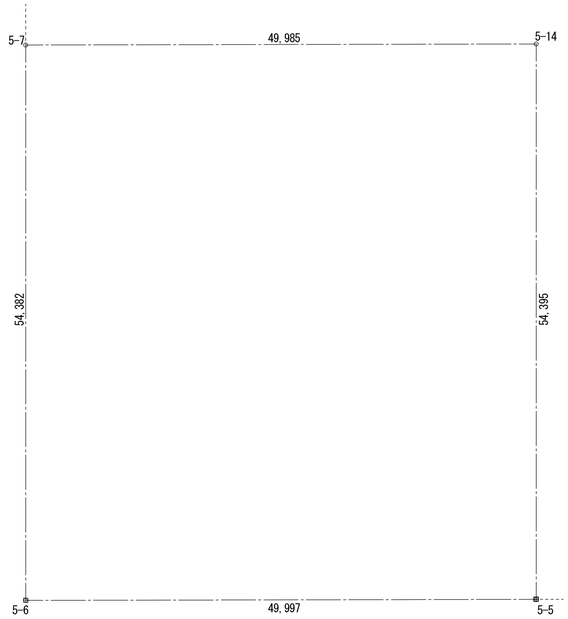
敷地概要

計画地	地名地番：千葉市美浜区高浜1丁目3番
	住居表示：千葉市美浜区高浜1丁目4番3号
敷地面積	2,718.92㎡
敷地に接する道路	南側：高浜2号線[市道]　幅員14.93m(認定幅員)
	西側：高浜4号線[市道]　幅員15.15m(認定幅員)
用途地域・地区	第一種中高層住居専用地域、建築基準法第22条区域
建ぺい率(限度)	70%（角地緩和　10%）
容積率(限度)	200%
日影制限	3時間 － 2時間［測定面 4m］
	高さ10mを超えないため、対象外
高さ制限	第一種高度地区(31m)
	道路斜線　1.25　適用距離20m

建物概要

主要用途	保育所　(08180)
工事の種別	新築
建築面積	779.70㎡
建ぺい率	28.68%
延床面積	786.58㎡
容積率	28.16%
構造・階数	鉄骨造 地上1階建て
設計GL	BM＋0.334m
平均地盤面(平均GL)	設計GL － 0.06m
最高高さ	5.71m
最高軒高	5.38m
耐火性能	準耐火建築物(ロ-2)

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和　8 年　1 月 25 日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	案内図・配置図	縮尺	1/150(A1) 1/300(A3)	図面番号	A-01
			特記事項		特記事項		特記事項							

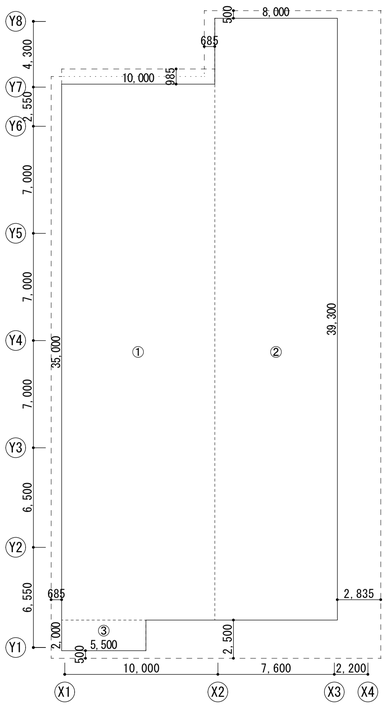


地積測量図 S=1/300

座標面積計算表

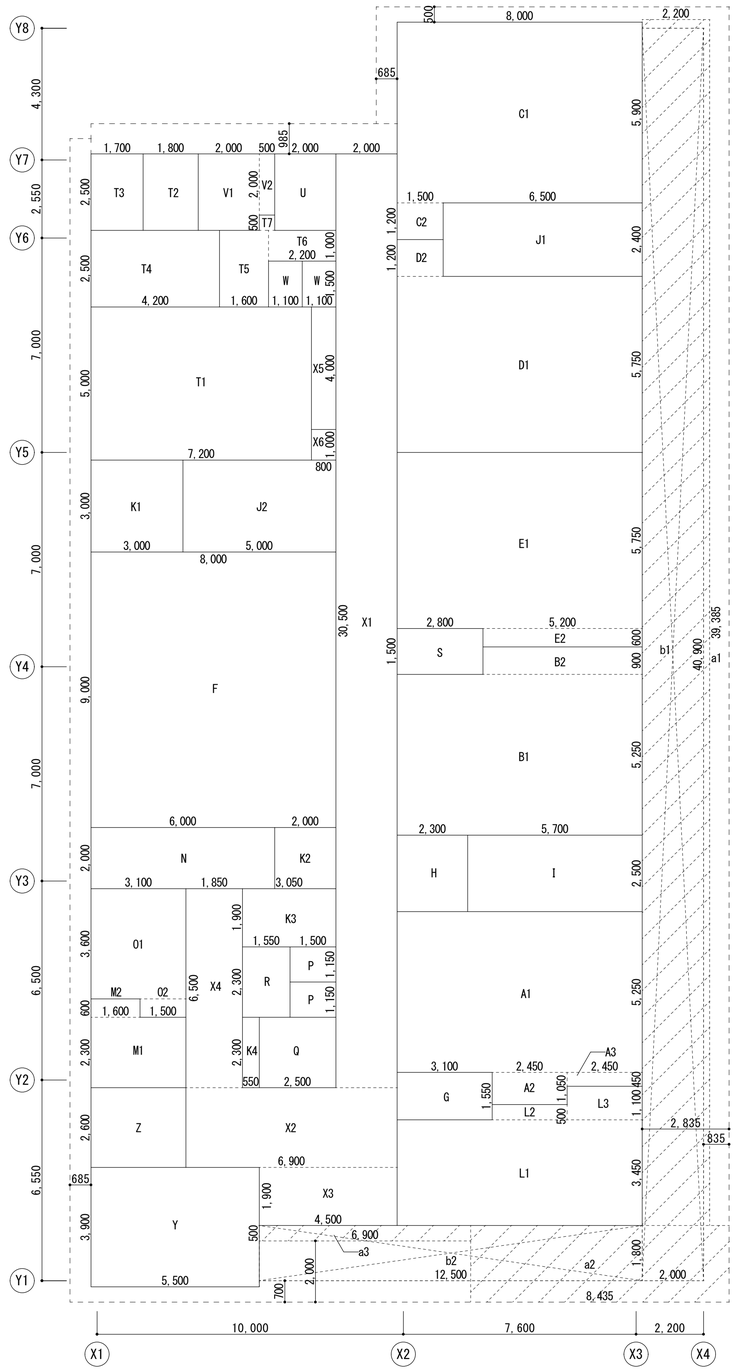
記号	X	Y	L
5-14	-42,549.603	22,222.624	675.400000
5- 5	-42,587.437	22,183.542	54.395
5- 6	-42,551.448	22,148.836	49.997
5- 7	-42,513.632	22,187.917	54.382
5-14	-42,549.603	22,222.624	49.985
		合計	5,437.8514
		1／2	2,718.926
		敷地面積	2,718.92㎡

5-5、5-6はコンクリート鋲有
5-7、5-14は杭を打つ等して、完了検査時に該当箇所を明示すること



床面積求積図 S=1/200

①	10.000	x	35.000	=	350.000000
②	8.000	x	39.300	=	314.400000
③	5.500	x	2.000	=	11.000000
			合計	=	675.400000
			床面積		675.40 ㎡



建物求積図 S=1/100

面積表

記号	室名	計算式					
A1	0,1歳児室	8.000	x	5.250	=	42.000000
A2	布団他収納	2.450	x	1.050	=	2.572500
A3	収納	2.450	x	0.450	=	1.102500
B1	1,2歳児室	8.000	x	5.250	=	42.000000
B2	布団他収納	5.200	x	0.900	=	4.680000
C1	3歳以上児室(1)	8.000	x	5.900	=	47.200000
C2	収納	1.500	x	1.200	=	1.800000
D1	3歳以上児室(2)	8.000	x	5.750	=	46.000000
D2	収納	1.500	x	1.200	=	1.800000
E1	3歳以上児室(3)	8.000	x	5.750	=	46.000000
E2	ﾛｯｶｰ・上部収納	5.200	x	0.600	=	3.120000
F	遊戯室	8.000	x	9.000	=	72.000000
G	調乳室	3.100	x	1.550	=	4.805000
H	沐浴室	2.300	x	2.500	=	5.750000
I	未満児トイレ	5.700	x	2.500	=	14.250000
J1	以上児トイレ(1)	6.500	x	2.400	=	15.600000
J2	以上児トイレ(2)	5.000	x	3.000	=	15.000000
K1	布団他収納(遊戯室内)	3.000	x	3.000	=	9.000000
K2	倉庫(1)	2.000	x	2.000	=	4.000000
K3	倉庫(2)	3.050	x	1.900	=	5.795000
K4	収納	0.550	x	2.300	=	1.265000
L1	事務室	8.000	x	3.450	=	27.600000
L2	分電盤	2.450	x	0.500	=	1.225000
L3	医務スペース	2.450	x	1.100	=	2.695000
M1	男性更衣室兼休憩室	3.100	x	2.300	=	7.130000
M2	収納	1.600	x	0.600	=	0.960000
N	女性更衣室	6.000	x	2.000	=	12.000000
O1	女性休憩室	3.100	x	3.600	=	11.160000
O2	収納	1.500	x	0.600	=	0.900000
P	職員トイレ(1)(2)	1.500	x	1.150 x 2	=	3.450000
Q	多機能トイレ	2.500	x	2.300	=	5.750000
R	給湯室	1.550	x	2.300	=	3.565000
S	洗濯室	2.800	x	1.500	=	4.200000
T1	調理室	7.200	x	5.000	=	36.000000
T2	検収室	1.800	x	2.500	=	4.500000
T3	食品庫	1.700	x	2.500	=	4.250000
T4	下処理室	4.200	x	2.500	=	10.500000
T5	調理室前室	1.600	x	2.500	=	4.000000
T6		2.200	x	1.000	=	2.200000
T7		0.500	x	0.500	=	0.250000
U	調理室男性更衣室兼休憩室	2.000	x	2.500	=	5.000000
V1	調理室女性更衣室兼休憩室	2.000	x	2.500	=	5.000000
V2	収納	0.500	x	2.000	=	1.000000
W	調理室トイレ(1)(2)	1.100	x	1.500 x 2	=	3.300000
X1	玄関・廊下	2.000	x	30.500	=	61.000000
X2		6.900	x	2.600	=	17.940000
X3		4.500	x	1.900	=	8.550000
X4		1.850	x	6.500	=	12.025000
X5	配膳カウンター	0.800	x	4.000	=	3.200000
X6	EPS	0.800	x	1.000	=	0.800000
Y	一時預かり室	5.500	x	3.900	=	21.450000
Z	相談室	3.100	x	2.600	=	8.060000
				合計	=	675.400000
				検算用床面積		675.40 ㎡

延床面積

記号	場所名	計算式			面積(㎡)
A～Z					675.400000
a1	テラス・避難車置場	2.200	x	39.385	86.647000
a2	自転車・ﾍﾞﾋﾞｰｶｰ置場	8.435	x	2.500	21.087500
a3	－	6.900	x	0.500	3.450000
				合計	786.584500
				延床面積	786.58 ㎡

建築面積

記号	計算式			面積(㎡)
A～Z				675.400000
b1	2.000	x	40.900	81.800000
b2	12.500	x	1.800	22.500000
			合計	779.700000
			建築面積	779.70 ㎡

建蔽率

779.70 ÷ 2,718.92 x 100	28.6768
建蔽率	28.68%

容積率

A～Z + a1 + a3	765.497000
容積対象床面積	765.49㎡
765.49 ÷ 2,718.92 x 100	28.1542
容積率	28.16%

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	図面名 敷地求積図・面積表	縮尺 1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号 A-02

工事区分表　※別途関連工事との施工区分は下記による。その他、下記に記載のないものは特記仕様書による。

項目	内容	建築	電気	機械	整備	屋外	別途	備考
1 仮設	1 仮囲い	○			○			
	2 共通足場、外部足場	○						
	3 作業足場	○	○	○				
	4 監督員事務所	○			○			備品等も含む
	5 受注者事務所・材料置場等	○	○	○	○			
	6 残材場外処分	○	○	○	○			
	7 各種引込に伴う負担金および申請手続等	○	○	○	○			
	8 工事用の給排水、電力等（本受電前基本料金を含む）	○	○	○	○			受注者負担(着工から引渡まで)
	9 試運転用の給排水、電力等	○	○	○	○			受注者負担(着工から引渡まで)
	10 資材搬入養生等	○						
	11 備品養生					○		
2 本設・引込み及び接続	1 電力工事		○					
	2 本受電以降の工事中の基本料金	○	○	○	○	○		従量料金は関連工事別
	3 試運転調整用仕様料金（電力、給水、排水、ガス等）	○	○	○	○			関連工事別
3 撤去工事	1 既存囲障（基礎共）	○			○			区分範囲は図示
	2							
4 杭工事	1 鋼管杭の設置	○						
	2 土工事（建築物配置範囲）	○			○			
	3 杭頭処理・フーチング	○						
	4 一部 メッシュフェンス設置（基礎共）	○						区分範囲は図示
5 躯体関係、スリーブ	1 RC梁、壁、床部分の設備用箱入及びスリーブ	○	○	○				幼児用大便器用箱抜きは建築工事
	2 外壁サイディングの穴あけ	○	※	※				※φ300以下は各設備工事
	3 1,2の墨出し	○	○	○				
	4 1,2の開口用補強	○						
	5 貫通穴及びダクト空隙充填		○	○				
	6 撤去後の不要なスリーブ等の穴埋め（補強不要箇所）		○	○				
	7 ピット用、タラップ	○						
	8 見えがかり部分の穴埋め後の仕上補修	○						
	9							
6 機器等の基礎	1 機器用基礎（コンクリート打ち）仕上げ含む	○						
	2 機器取付用のアンカーボルト取付		○	○				
	3							
7 天井	1 機器、器具の補強を要する取付用開口及び下地補強	○						
	2 1の墨出し		○	○				
8 室内壁	1 軽量間仕切壁の開口補強	○						
	2 補強を要するボードの開口	○						
	3 補強を要しないボードの開口		○	○				
	4 開口部の墨出し	○	○	○				
	5 114条区画貫通処理	○	○	○				
	6							
9 改め口、点検口	1 床・壁・天井の点検口	○						
	2 1の墨出し		○	○				
	3 各種シャフト点検口	○						
10 排水	1 各種床排水金具			○				
	2 流しの排水金具	○		○				キッチンユニット・流し台の排水トラップは建築工事
	3 汚水、雑排水経路（マンホール等蓋共）			○				
11 雨水排水	1 雨水桝までの屋外竪樋	○						
	2 地上部の屋外雨水配管、桝（マンホール蓋共）			○	○			区分範囲は図示
	3 雨水貯留槽流入桝及び流出桝				○			
	4 雨水貯留槽本体、流入桝及び流出桝から雨水貯留槽本体への配管				○			
	5 雨水貯留槽流出桝内のポンプアップ設備				○			
	6 屋外側溝（U字溝）、集水桝、グレーチング	○			○			区分範囲は図示(管理者用駐車場のみ建築工事)

項目	内容	建築	電気	機械	整備	屋外	別途	備考
12 ガラリ	1 同上接続ボックス、チャンバー			○				
	2 同上用防火ダンパ（ＦＤ）			○				
	3 ドアガラリ	○						
	4							
13 動力	1 一般用動力操作盤及び電動機端子接続までの配管・配線・結線		○					
	2 パッケージ型空調機用電源で手元開閉器以降の二次側配管・配線・結線		○					
	3							
14 制御	1 空調用制御機器及び操作用機器取付け及びその配管・配線・結線			○				
	2 衛生用液面制御機器取付け及びその配管・配線・結線			○				
	3 制御盤への一次側電源供給		○					
15 防災	1 自然排煙の排煙口及び手動開放装置	○						
	2 電源及び火災信号の一次側電源の配管・配線・接続		○					
16 消火関係	1 消火器収納ボックス	○						
	2 消火器						○	
	3 ガス緊急遮断弁及び制御盤、遠隔操作盤工業用ガス検知器			○				
	4 同上制御盤一次側電源供給及び移報表示		○					
	5 同上制御盤以降二次側の配管・配線			○				
	6 一次側電気工事、表示警報、自火報受信機に至る電気工事		○					
	7							
	8							
17 空調・換気	1 パッケージエアコン・ファンコイルユニットのスイッチ及び配管・配線			○				
	2 パッケージ室内外機間の配管・配線			○				
	3 同上室内機、室外機への一次側電源供給		○					
	4 全熱交換器ユニットのスイッチ、配管配線			○				
	5 同上電源供給		○					
	6 換気扇及び取付			○				
	7 配管・換気扇等の取付用サッシパネル取付	○						
	8 換気扇スイッチ及び配管・配線		○					
	9 換気扇用サーモスタット(単相機器)			○				
	10 外壁取付のウェザーカバー・ベンドキャップ取付			○				
	11 同上コーキング処理	○		○				
	12							
18 通信関係	1 電話機器 取付・配線		○					
	2 電話交換機の新設		○					
	3 監視カメラ 機器・配管配線		○					所庭監視用
	4 ＬＡＮ用配管・配線		○					
	5 防犯カメラ・センサー						○	機械警備関係
	6 CHAINS取付・配線						○	
	7 同上配管		○					
	8 インターホン		○					
19 調理室関係	1 調理室内排水桝及びグレーチング蓋(ゴミ受けバスケット共)	○						
	2 調理室排気フード(SUS製)(グリスフィルター共)			○				
	3 レンジフード本体			○				
	4 調理機器の新設(トラップ共)						○	
	5 4に伴う管工事			○			○	機器との配管接続は別途工事
	6 配膳カウンター及びカウンター前後の建具						○	
	7 調理室、検収室、調理室前室内手洗器			○				

項目	内容	建築	電気	機械	整備	屋外	別途	備考
20 トイレ、湯沸室その他水廻り	1 幼児用手洗器、掃除流し(水栓、排水トラップ込)			○				
	2 同上組込洗面器、水栓			○				
	3 同上水栓			○				
	4 鏡(既製寸法)			○				
	5 鏡(大型特注品)	○						
	6 キッチンユニット(IHコンロ込)流し台(排水トラップ込)・吊戸棚	○						
	7 流し台水栓			○				
	8 自動水栓の電源供給		○					
	9 電気温水器			○				
	10 同上用電源供給		○					
	11 おむつ交換台・ベビーチェア	○						
	12 ペーパータオルホルダー	○						
	13 洗濯機パン、排水金具			○				
	14 ガス乾燥機架台	○						
	15 配管用ライニング	○						
	16 子供用大便器・小便器の手摺			○				
21 カーテン	1 カーテンボックス、カーテンレール新設	○						
	2 カーテン新設						○	
22 外構関係	1 芝生見切り	○			○			区分範囲は図示
	2 縁石(土留めレンガ他)、緑化ブロック、花壇・畑				○			
	3 犬走り、ごみ置場、プール置場	○						
	4 屋外舗装の新設	○			○			区分範囲は図示(管理者用駐車場のみ建築工事)
	5 手洗い・足洗い・シャワー	○						
	6 5の水栓、5の排水金具			○				
	7 遊具、パーゴラ				○			
	8 メッシュフェンス	○			○			区分範囲は図示(一部杭打工事)
	9 バリカー							区分範囲は図示(管理者用駐車場のみ建築工事)
	10 大型引戸門扉(通用門含む)				○			
	11 駐輪場・ベビーカー置場アーチ	○						
	12 電力引込柱又はボックス(マンホール共)		○					
	13 所庭屋根、プール屋根のテント、目隠しシート					○		
	14 所庭屋根の支柱・基礎				○			
	15 プール屋根の支柱・基礎	○						
	16 屋外流し			○				
	17 散水栓及び給水管			○				
	18 点字タイル	○			○			区分範囲は図示(ｴﾝﾄﾗﾝｽのﾀｲﾙ床部のみ建築工事)
23 植栽	1 敷地内の植栽の新植、客土				○			
	2 歩道植栽帯の植栽の撤去・新設				○			
24 その他	1 事務用家具、什器関係の新設						○	
	2 歩道切り下げ				○			
	3 2に伴う植栽桝の撤去・新設				○			
	4 保育室の据付家具	○						
	5							

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日
			特記事項	特記事項	特記事項

図面名	工事区分表	縮尺	-(A1) -(A3)	図面番号	A-03

外部仕上表

部位		仕上
屋根	屋根	木毛セメント板 t=40 + ポリスチレンフォーム3種b t=25 + 改質アスファルトルーフィング t=1.0 + カラーSGL t=0.4 立平葺き + 雪止め金物 太陽光発電パネル設置(将来工事)
	棟	屋根同材加工棟包み
	鼻隠し・破風	木毛セメント板 t=40、アスファルトルーフィングの上、屋根同材加工
樋	軒樋	落葉除け一体型樋 ガルバリウム製
	竪樋	カラーVP管 φ100、φ50

部位		仕上
外壁	外壁	鉄骨胴縁の上、透湿防水シート + 通気金具 + 窯業系サイディング 光触媒コート t=18 縦貼り (一部横貼り)
	柱	DP塗装(1級) コーナーガード(角柱のみ)
	外巾木	モルタル金ごての上、基礎巾木用塗料
軒裏		FK t=6.0 EP-G 一部、FK t=12.0 EP-G
エントランス (床・スロープ部)		モルタル下地の上、磁器質タイル 100角 点字タイル、手摺 : アルミ製、ポスト

部位	仕上
ベビーカー・自転車置場 避難車置場	モルタル t=40 刷毛引き(構造スラブ上部) / 土間コンクリート t=150 刷毛引き(その他) 自転車用アーチ、アーチ 袖壁 : コンクリート製 H1500、一部メッシュフェンス
テラス	土間コンクリート + 鋼製束の上、人工木デッキ(遮熱・帯電) t=25 ベビーゲート : メッシュフェンス H=900 手洗い・足洗い・シャワー : コンクリート製
プール置場	土間コンクリート + 防水モルタル金鏝の上、エポキシ樹脂系塗床(防滑仕様) プール屋根 : アルミ製支柱 目隠し設置用フック付 着脱式

内部仕上表

階	室名	居室	床 下地	床 下地高さ	床 仕上高さ	床 仕上	巾木 仕上	巾木 H	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	天井 天井高	廻縁	備考
1階	0,1歳児室	○	RC	-100	±0	乾式二重床の上、クッション付複合フローリング t=15 (挽板3mm、床暖対応仕様) 一部 乾式二重床の上、畳(縁なし) t=55 一部 乾式二重床の上、ビニル床シート(防汚) t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5の上、岩綿吸音板t=9	2700	塩ビ	幼児用ロッカー、汚れ物ロッカー 遊具用ロッカー フック、掲示板、吊戸棚、鏡、カーテンボックス
	1,2歳児室	○	RC	-100	±0	乾式二重床の上、クッション付複合フローリング t=15 (挽板3mm、床暖対応仕様) 一部 乾式二重床の上、畳(縁なし) t=55 一部 乾式二重床の上、ビニル床シート(防汚) t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5の上、岩綿吸音板t=9	2700	塩ビ	幼児用ロッカー、汚れ物ロッカー 遊具用ロッカー フック、掲示板、吊戸棚、鏡、カーテンボックス
	3歳以上児室(1)(2)(3)	○	RC	-100	±0	乾式二重床の上、クッション付複合フローリング t=15(挽板3mm) 一部 乾式二重床の上、ビニル床シート(防汚) t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5の上、岩綿吸音板t=9	2700	塩ビ	幼児用ロッカー、汚れ物ロッカー 遊具用ロッカー、道具整理箱、掃除用具入れ フック、掲示板、吊戸棚、鏡、カーテンボックス
	遊戯室	○	RC	-100	±0	乾式二重床の上、クッション付複合フローリング t=15(挽板3mm)	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5の上、岩綿吸音板t=9	2700	塩ビ	カーテンボックス
	調乳室 給湯室		M	-30	±0	ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G * GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G キッチン前面 : GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0	LGS	FK t=6.0 EP-G	2300	塩ビ	流し台(湯沸室) キッチン(IHコンロ付、調乳室) 吊戸棚、消火器ボックス(調乳室)
	沐浴室		M	-30	±0	ビニル床シート(防汚) t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0 * GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	LGS	FK t=6.0 EP-G	2300	塩ビ	おむつ交換台
	未満児トイレ		M	-30	±0	ビニル床シート(防汚) t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0 *	LGS	FK t=6.0 EP-G	2500	塩ビ	おむつ交換台、幼児用手摺、吊戸棚、鏡
	以上児トイレ(1)(2)		M	-30	±0	ビニル床シート(防汚) t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0 *	LGS	FK t=6.0 EP-G	2500	塩ビ	幼児用手摺、吊戸棚、鏡 床下点検口(以上児トイレ(2)のみ)
	倉庫・収納 布団他収納		M	-30	±0	ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G * GB-R t=12.5 EP-G	LGS	GB-D t=9.5	2700 (保育室内) 2600 (休憩室内) 2500 (その他)	塩ビ	収納棚 床下点検口(3歳以上児室(2)内のみ)
					+100 (休憩室内)	一部 乾式二重床の上、ビニル床シート t=2.0									
	事務室・医務スペース	○	RC	-100	±0	乾式二重床の上、ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5 ビニルクロス貼り	2700	塩ビ	吊りカーテンレール、カーテンボックス、鏡 分電盤(別途工事)
	男性更衣室兼休憩室 女性休憩室	○	M	-30	±0	ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り	LGS	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り	2700	塩ビ	カーテンボックス
					+100	乾式二重床の上、畳(縁なし) t=55 一部 乾式二重床の上、複合フローリング t=15	畳寄せ								
	女性更衣室		M	-30	±0	ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5 ビニルクロス貼り	2700	塩ビ	カーテンボックス
	職員トイレ(1)(2)		M	-30	±0	ビニル床シート(防汚) t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G *	LGS	GB-R t=9.5 EP-G	2300	塩ビ	吊戸棚
	多機能トイレ		M	-30	±0	ビニル床シート(防汚) t=2.0	腰壁用巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G * GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G 腰壁(H=900):不燃メラミン化粧板 t=3.0(増張り)	LGS	GB-R t=9.5 EP-G	2500	塩ビ	おむつ交換台(折畳み)、ベビーチェア 床下点検口
	洗濯室		M	-30	±0	ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G * GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	LGS	GB-R t=9.5 EP-G	2300	塩ビ	ガス乾燥機置き
	調理室 【火気使用室】	○	M	-30	±0	ビニル床シート(調理室用・防滑) t=2.0	床材立上げ	60	LGS	GB-R t=12.5 + 12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0 GB-R t=12.5 + 不燃GB-S t=12.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	LGS	FK t=6.0 EP-G	2500	塩ビ	消火器ボックス、配膳カウンター 排水桝
	検収室	○	M	-30	±0	ビニル床シート(調理室用・防滑) t=2.0	床材立上げ	60	LGS	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	LGS	FK t=6.0 EP-G	2300	塩ビ	
	食品庫		M	-30	±0	ビニル床シート(調理室用・防滑) t=2.0	床材立上げ	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G * GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	LGS	FK t=6.0 EP-G	2300	塩ビ	
	下処理室	○	M	-30	±0	ビニル床シート(調理室用・防滑) t=2.0	床材立上げ	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5の上、GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0 GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	LGS	FK t=6.0 EP-G	2300	塩ビ	フック(エプロン用)
	調理室前室		M	-30	±0	ビニル床シート(調理室用・防滑) t=2.0	床材立上げ	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G *	LGS	FK t=6.0 EP-G	2300	塩ビ	鏡、天井吊物干し金物
										掃除用具入れ部分 GB-S t=12.5 EP-G		FK t=6.0 EP-G	2300		
	調理室男性更衣室兼休憩室 調理室女性更衣室兼休憩室	○	M	-30	±0	ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り	LGS	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り	2700	塩ビ	カーテンボックス
					+100	乾式二重床の上、畳(縁なし) t=55 一部 乾式二重床の上、複合フローリング t=15	畳寄せ								
	調理室トイレ(1)(2)		M	-30	±0	ビニル床シート(防汚) t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G *	LGS	GB-R t=9.5 EP-G	2300	塩ビ	吊戸棚
	玄関・廊下		M	-30	±0	ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5 ビニルクロス貼り 一部 GB-P t=9.5	3800 2700	塩ビ	下足箱、受付カウンター、ベビーゲート、フック 消火器ボックス
				-50	-20	一部 磁器質タイル 100角(土間部分)	磁器質タイル	80							
	一時預かり室	○	RC	-100	±0	乾式二重床の上、クッション付複合フローリング t=15(挽板3mm)	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5の上、岩綿吸音板t=9	2700	塩ビ	カーテンボックス
	相談室	○	M	-30	±0	ビニル床シート t=2.0	ビニル巾木	60	LGS	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り *	LGS	GB-R t=9.5 ビニルクロス貼り	2700	塩ビ	カーテンボックス

凡例

記号	名称	記号	名称
■下地など		■塗装	
RC	コンクリート	EP	合成樹脂エマルションペイント
M	モルタル	EP-G	艶有り合成樹脂エマルションペイント
LGS	軽量鉄骨	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
CB	コンクリートブロック	DP	耐候性塗料
CC	軽量コンクリート	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り
SL	セルフレベリング		
■ボード類		■その他	
GB-R	石膏ボード	SGL	エスジーエル 次世代ガルバリウム鋼板
GB-F	強化石膏ボード		
GB-R-H	普通硬質石膏ボード		
GB-D	化粧石膏ボード		
GB-P	化粧吸音石膏ボード		
GB-S	耐水石膏ボード		
DR	ロックウール化粧吸音板		
FK	ケイ酸カルシウム板		

断熱材リスト

部位	断熱材	
屋根	押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温板3種b t=25	
外壁	押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温板3種b t=60	
天井/一部壁	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 24k t=100	
床下	押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温板3種b (打込) t=25	外周設置面より400mm以上 貼り下げること

認定番号

材料名	認定番号
石膏ボード(GB-R) t=9.5	準不燃 QM-9828
化粧石膏ボード(GB-D) t=9.5	準不燃 QM-0524
耐水石膏ボード(GB-S) t=9.5,12.5	準不燃 QM-0898
窯業系サイディング 光触媒コート	準不燃 QM-0674
ビニルクロス	不燃
石膏ボード(GB-R) t=12.5	不燃 NM-8619
不燃耐水石膏ボード(不燃GB-S) t=12.5	不燃 NM-9639
化粧吸音石膏ボード(GB-P) t=9.5	不燃 NM-5430
普通硬質石膏ボード(GB-R-H) t=9.5,12.5	不燃 NM-5430
岩綿吸音板 t=9	不燃 NM-8599
不燃メラミン化粧板	不燃 NM-2183
艶有り合成樹脂エマルションペイント	不燃 NM-8585
ケイ酸カルシウム板(FK) t=6.0	不燃 NM-3522
不燃パテ	不燃 NM-3918-1
カラーSGL	不燃 NM-8697

耐火リスト他

部位		内容
114条区画	壁	鉄材下地 GB-R t=9.5 + 12.5 両面貼り(屋根裏まで)
		平成12年建設省告示第1358号
	柱	GB-R t=9.5 + 12.5 被覆(屋根裏まで)
		平成12年建設省告示第1358号
内装制限(天井・壁)		準不燃以上(すべての室)

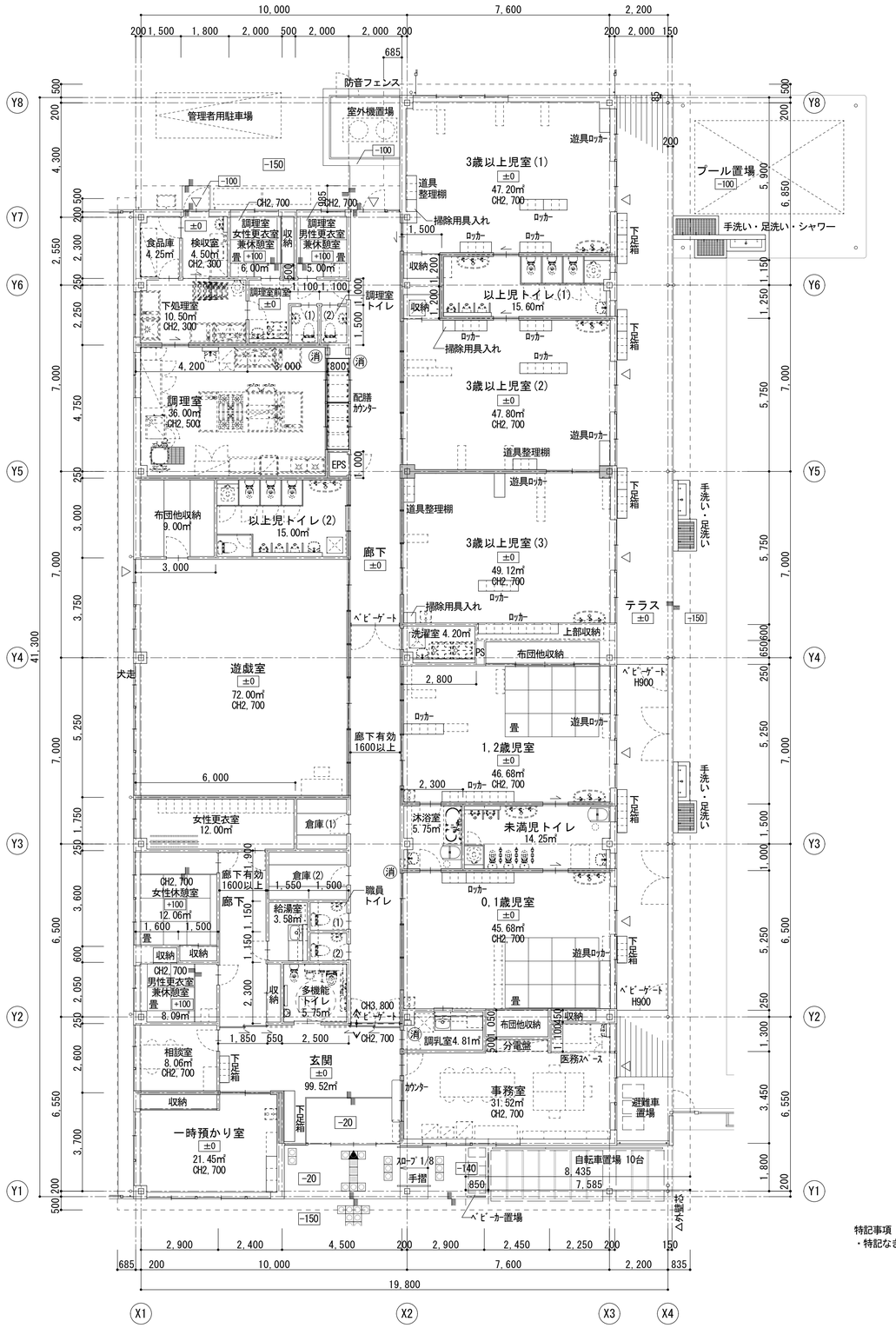
特記事項

・使用建材は小屋裏、天井裏を含みすべて告示対象外又はＦ☆☆☆☆とする。
・使用建材にクロルピリホス・石綿を添加した材料を使用しないものとする。
・法37条に適合する建築材料を使用すること。
・廊下・玄関の塩ビ床シートはすべり抵抗値 CSR 0.35～0.9とする。
・エントランスの磁器質タイルはすべり抵抗値 CSR 0.5～0.9とする。
・ビニル床シート、ビニルクロス貼りは木目調を選定できるものとする。
・壁仕上＊は、防煙壁を形成する箇所及び114条区画壁を形成する箇所に
　配置し、必ず上張りGB-R t=12.5とする。

参考メーカーリスト

部位・材料等	参考メーカー	参考商品品番・仕様・色調
外壁	KMEW	ﾈｵﾛｯｸ 光ｾﾗ18 ｶﾝﾀｰﾋﾞﾚ NH5921A(縦貼り)
		ﾈｵﾛｯｸ 光ｾﾗ18 ﾅﾁｭﾗﾙﾚﾝｶﾞ 18 NH5576U(横貼り)

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	(仮称) 千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名: 仕上表
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺: -(A1) -(A3)
									図面番号: A-04

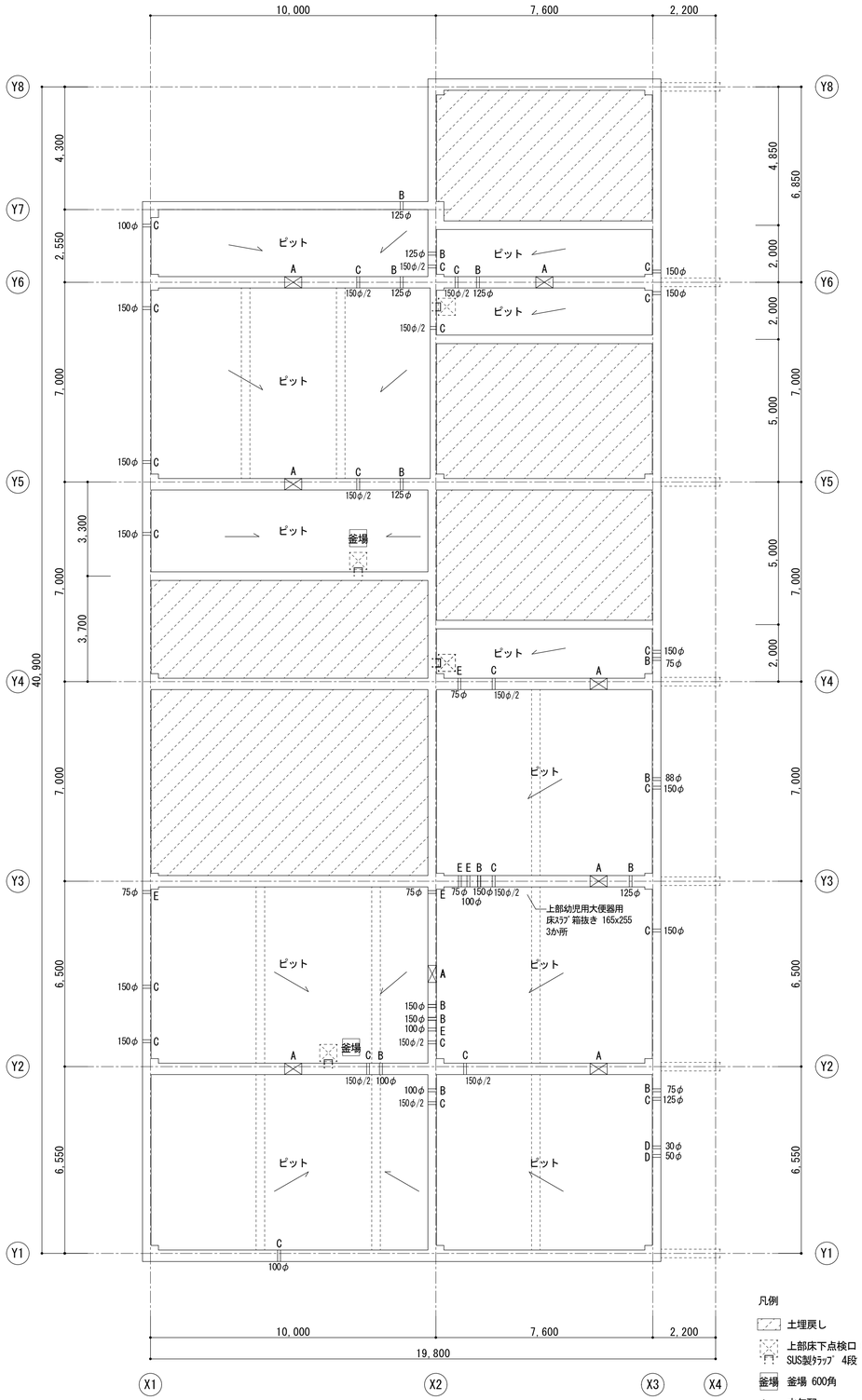


1階平面図 S=1/100

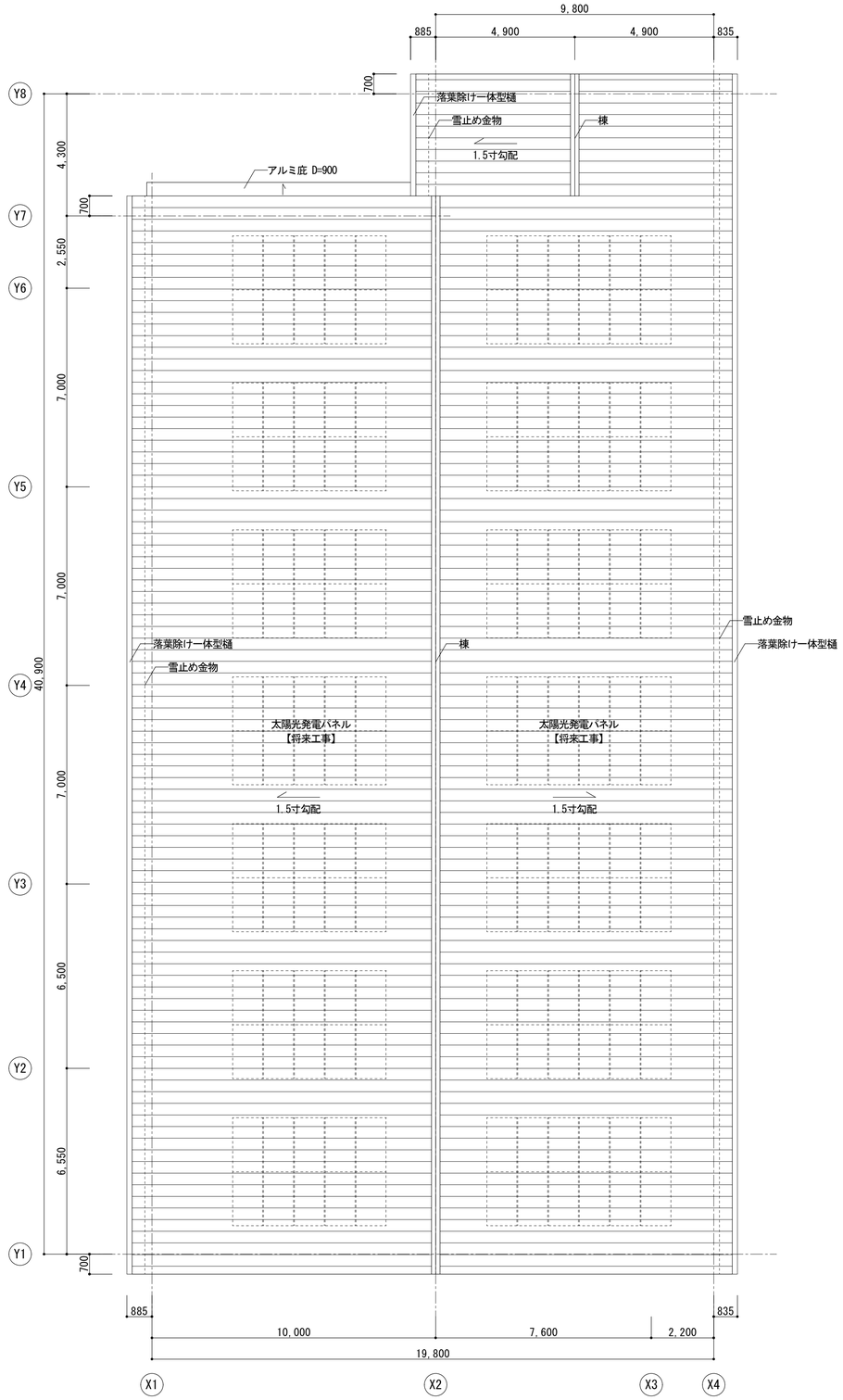
特記事項
・特記なき限り、基準FL=設計GL+150 とする。

凡例
- ±0 基準FLからの高低差を示す
- 114条2項 区画壁
- 点字タイル(警告ブロック)
- 点字タイル(誘導ブロック)
- 床下点検口 600角
- 消 消火器ABC粉末10号(壁埋込BOX共)
- ▼ 主要な出入口
- ▽ 出入口

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	平面図	縮尺	1/100(A1) 1/200(A3)	図面番号	A-05
			特記事項		特記事項		特記事項							



ﾋﾟｯﾄ伏図 S=1/100



屋根伏図 S=1/100

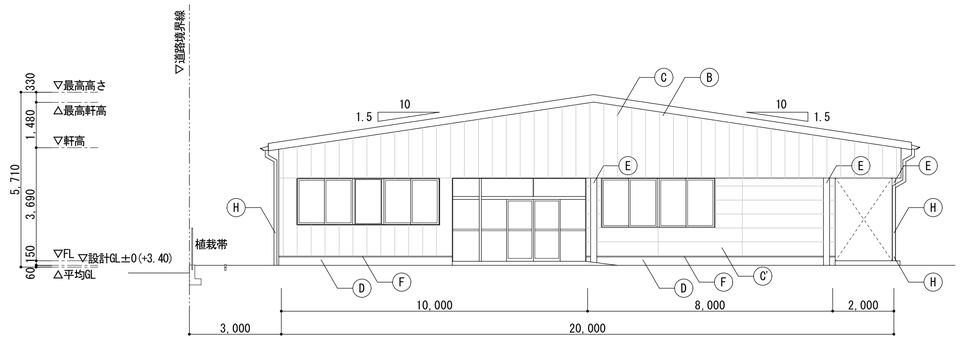
凡例

- 土埋戻し
- 上部床下点検口 600角 SUS製ｽﾗｯﾌﾟ 4段
- 釜場 釜場 600角
- 水勾配

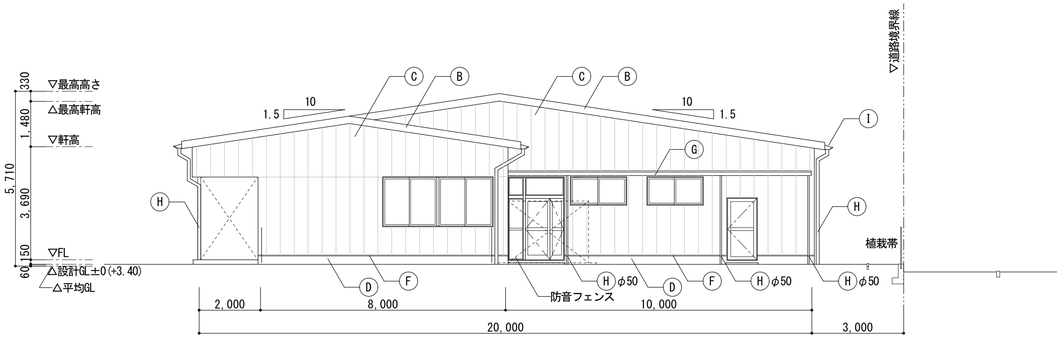
ﾋﾟｯﾄ内ｽﾘｰﾌﾞ	A	人通口 φ600
	B	上水用
	C	排水用 (150φ/2は下部に配置)
	D	電気用
	E	ガス・床暖房用

特記事項
・特記なき限り、ﾋﾟｯﾄ水下L=基準FL-1950 とする。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名 ピット伏図・屋根伏図
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺 1/100(A1) 1/200(A3)
									図面番号 A-06

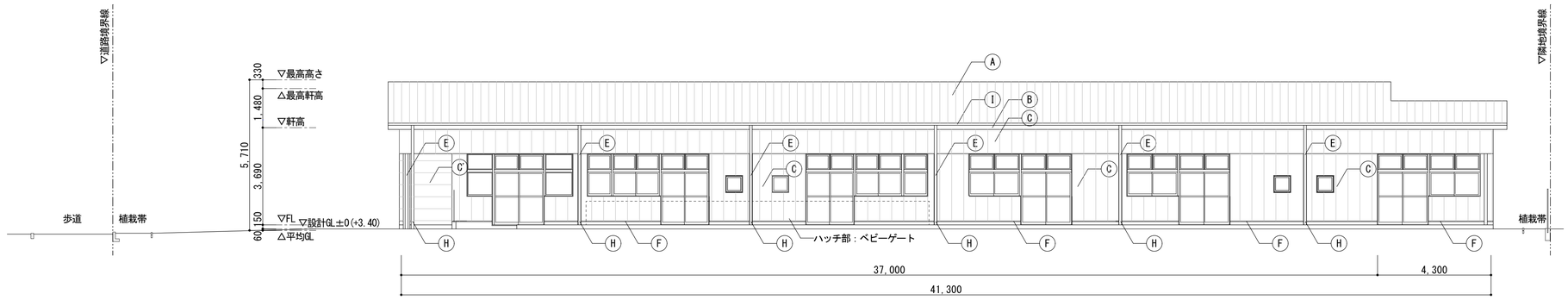


A-立面図

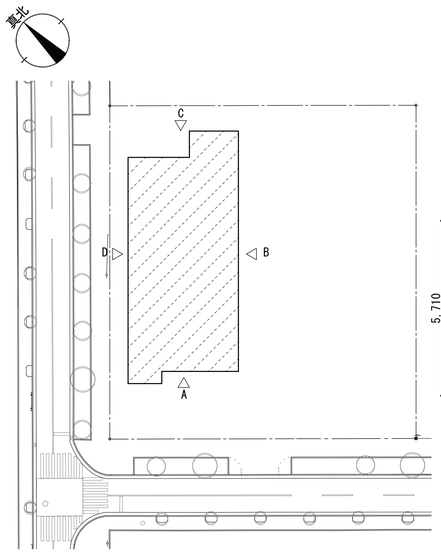


C-立面図

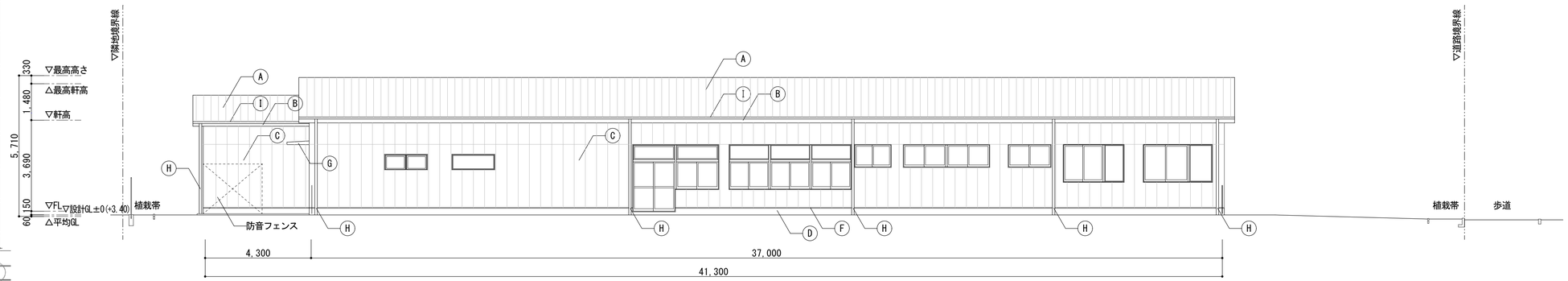
外部仕上表	
A	屋根：カラーSGL t=0.4 立平葺き
B	鼻隠し・破風：屋根同材加工
C C'	外壁：窯業系サイディング 光触媒コート t=16 C:縦貼り、C':横貼り
D	外巾木：モルタル金ごての上、基礎巾木用塗料
E	柱：DP塗装
F	ガルバリウム製水切材
G	アルミ庇
H	竪樋：カラーVP管（特記なき限りφ100）
I	軒樋：落ち葉除け一体型樋



B-立面図

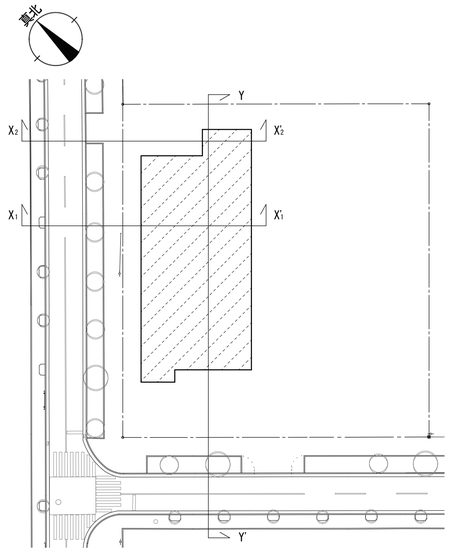


キープラン

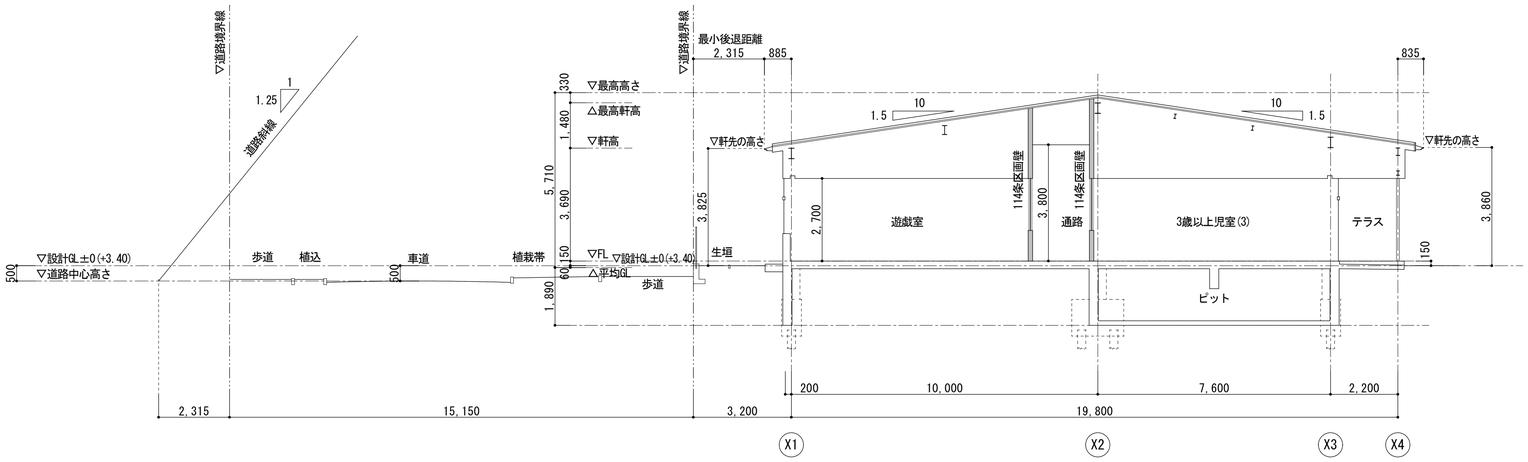


D-立面図

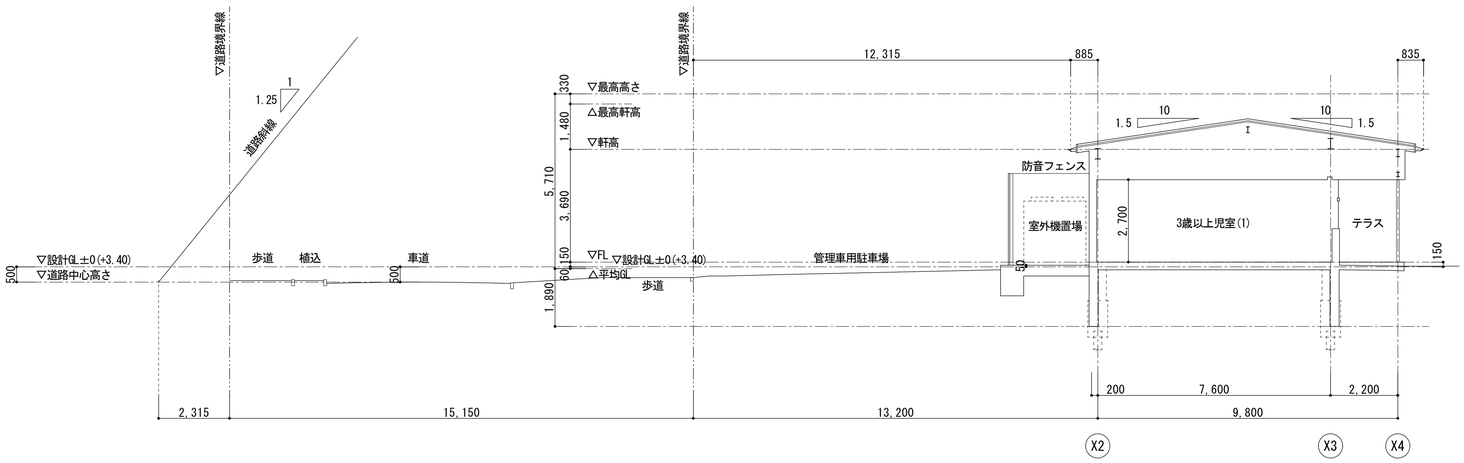
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	立面図	縮尺	1/100(A1) 1/200(A3)	図面番号	A-07
			特記事項		特記事項		特記事項							



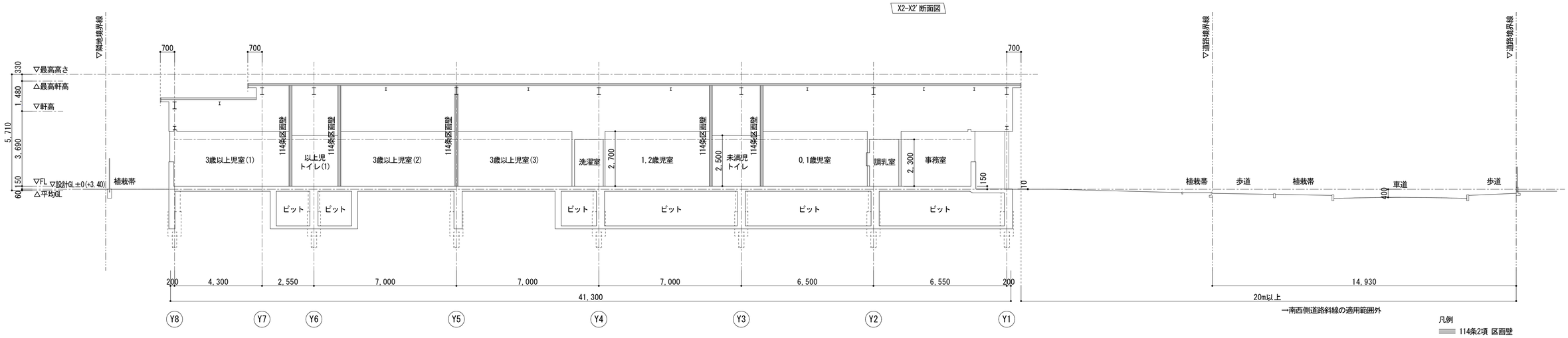
キープラン



X1-X1' 断面図



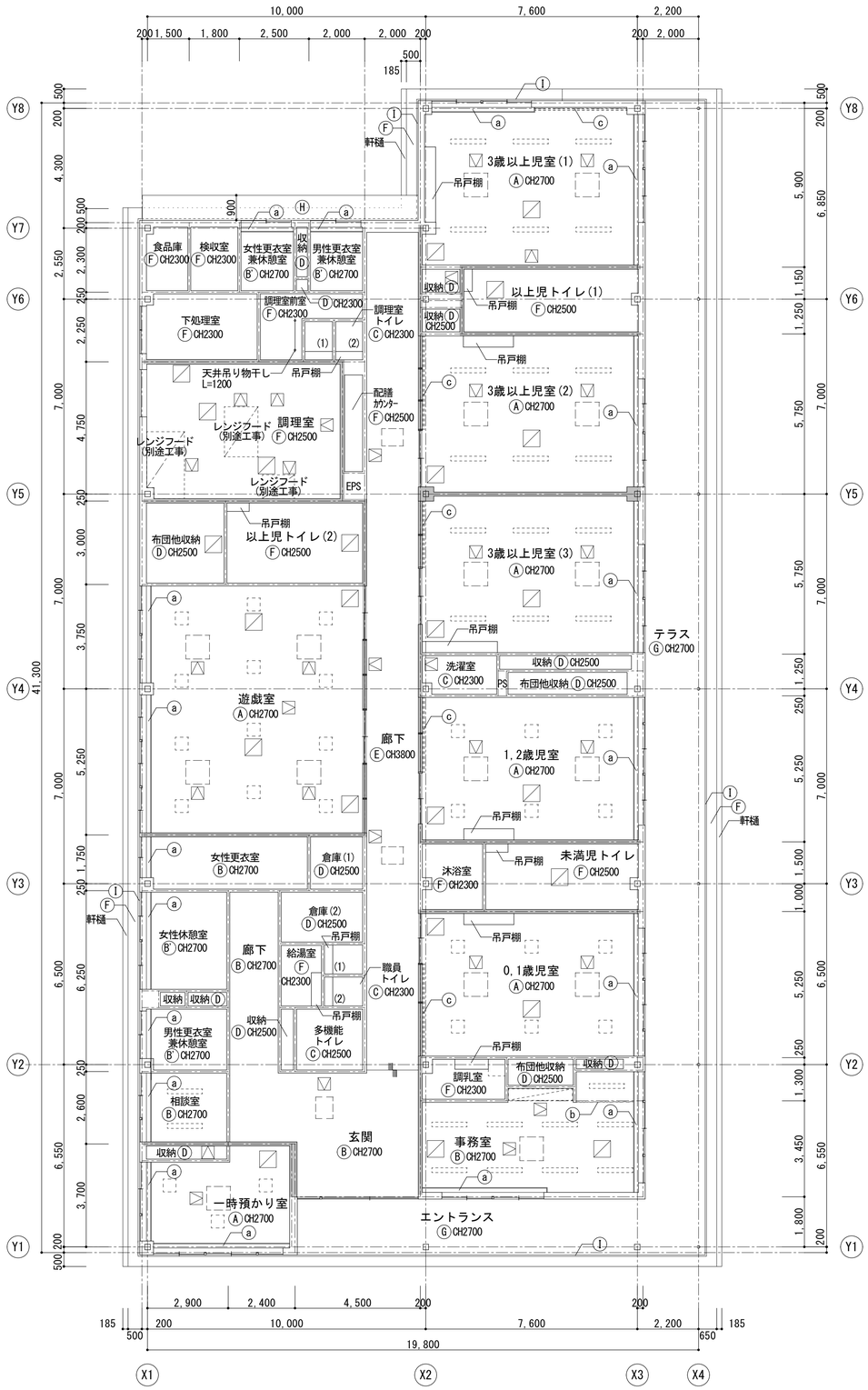
X2-X2' 断面図



Y-Y' 断面図

凡例
114条2項 区画壁

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日	図面名	断面図	縮尺	1/100(A1) 1/200(A3)	図面番号	A-08
			特記事項	特記事項	特記事項						



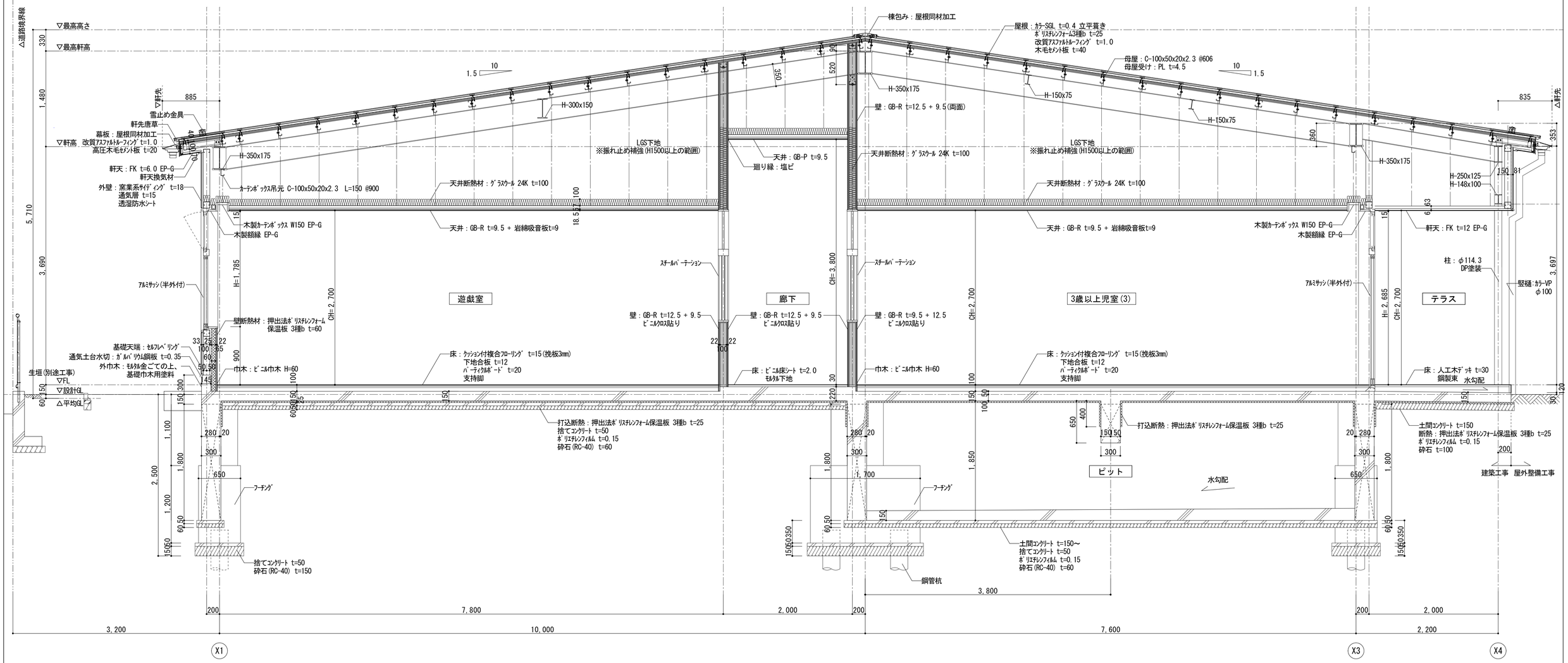
天井伏図 S=1/100

凡例	
Ⓐ	GB-R t=9.5の上、岩綿吸音板t=9
Ⓑ	GB-R t=9.5 ビニルクロス貼り
Ⓑ'	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り
Ⓒ	GB-R t=9.5 EP-G
Ⓓ	GB-D t=9.5
Ⓔ	GB-P t=9.5
Ⓕ	FK t=6.0 EP-G
Ⓖ	FK t=12 EP-G
Ⓗ	アルミ庇
Ⓘ	軒天通気金物
ⓐ	木製カーテンボックス
ⓑ	吊カーテンレール
ⓒ	ピクチャーレール[:==========] 各箇所ﾌｯｸ6つ

	114条2項 区画壁
	天井点検口:アルミ 450角(目地タイプ) 33か所
	天井点検口:アルミ 600角(目地タイプ) 24か所
開口補強	照明:170x1254 29か所 462x462 27か所 空調:850x850 16か所 775x620 3か所

CH****は1FLからの高さを指す

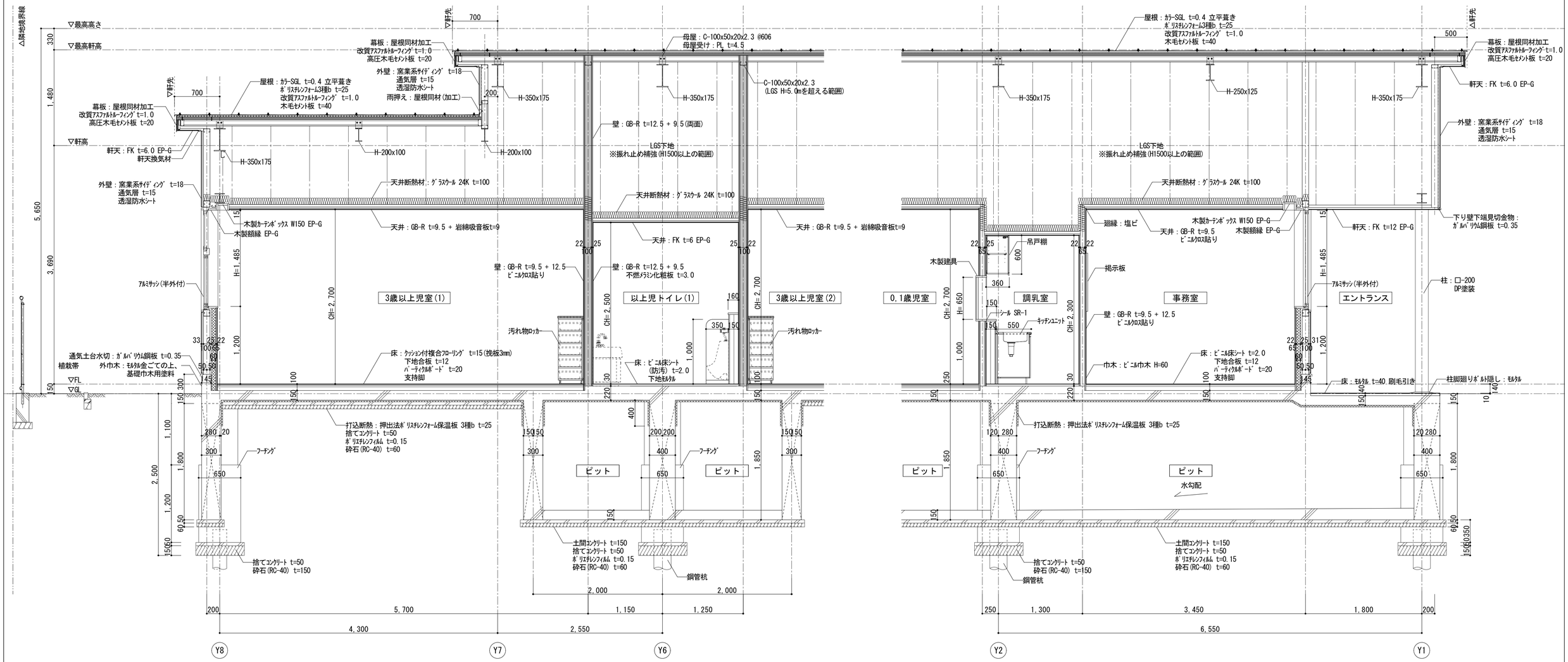
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	(仮称)千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	天井伏図	縮尺	1/100(A1) 1/200(A3)	図面番号	A-09
			特記事項		特記事項		特記事項							



凡例

114条区画壁(45分準耐火構造)

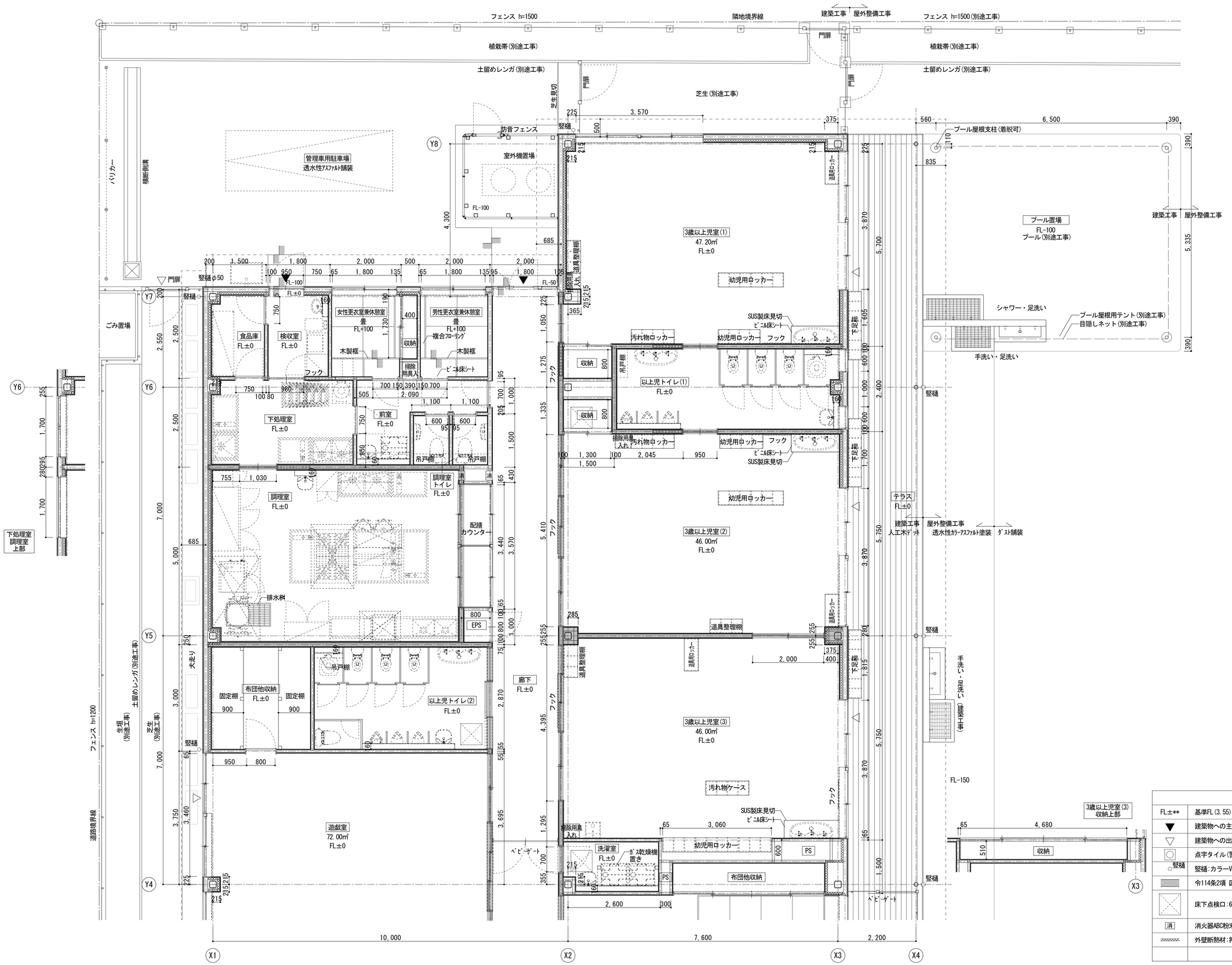
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	矩計図-1	縮尺	1/30(A1) 1/60(A3)	図面番号	A-10
			特記事項		特記事項		特記事項							



凡例

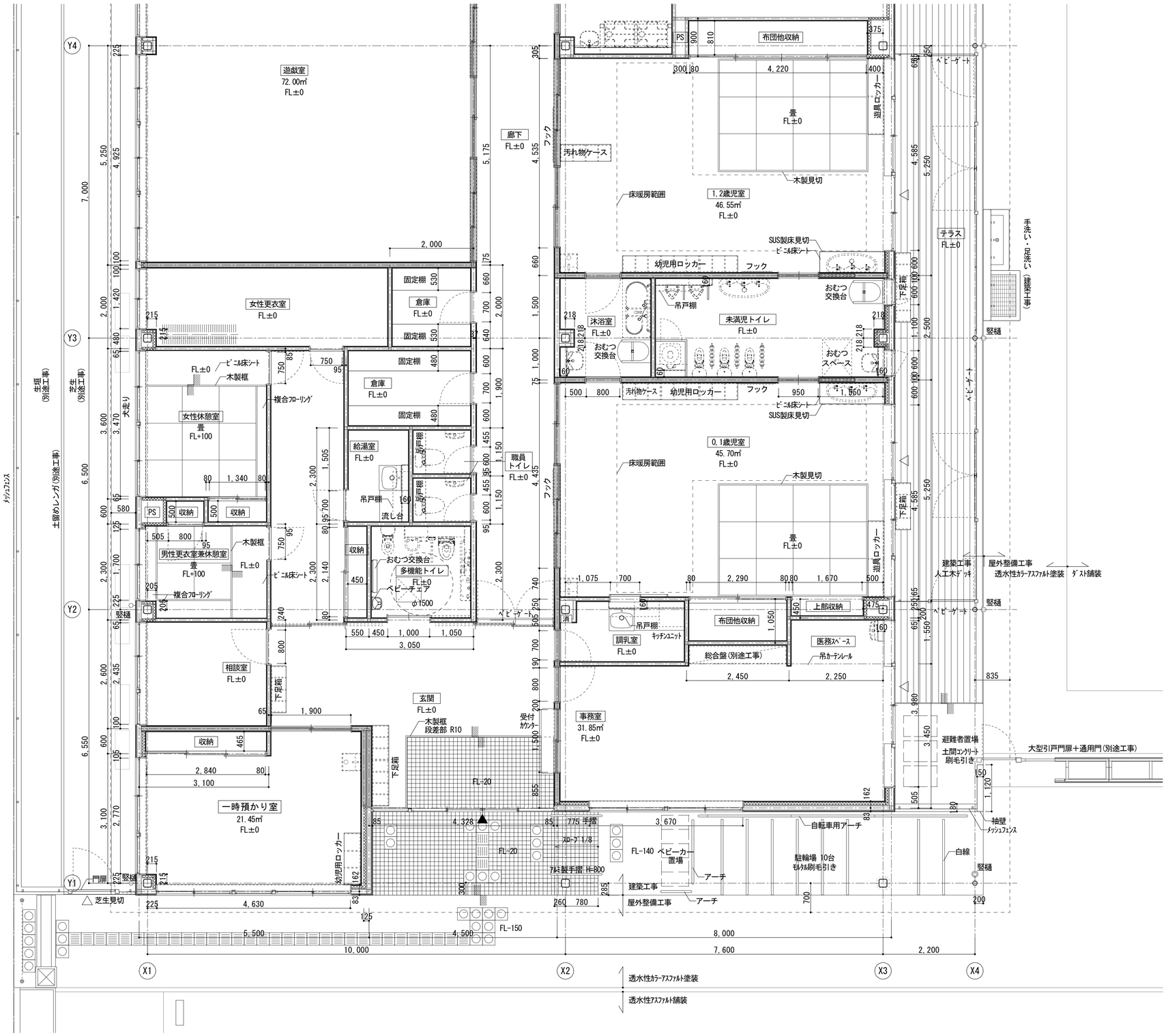
114条区画壁(45分準耐火構造)

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	矩計図-2	縮尺	1/30(A1) 1/60(A3)	図面番号	A-11
			特記事項		特記事項		特記事項							



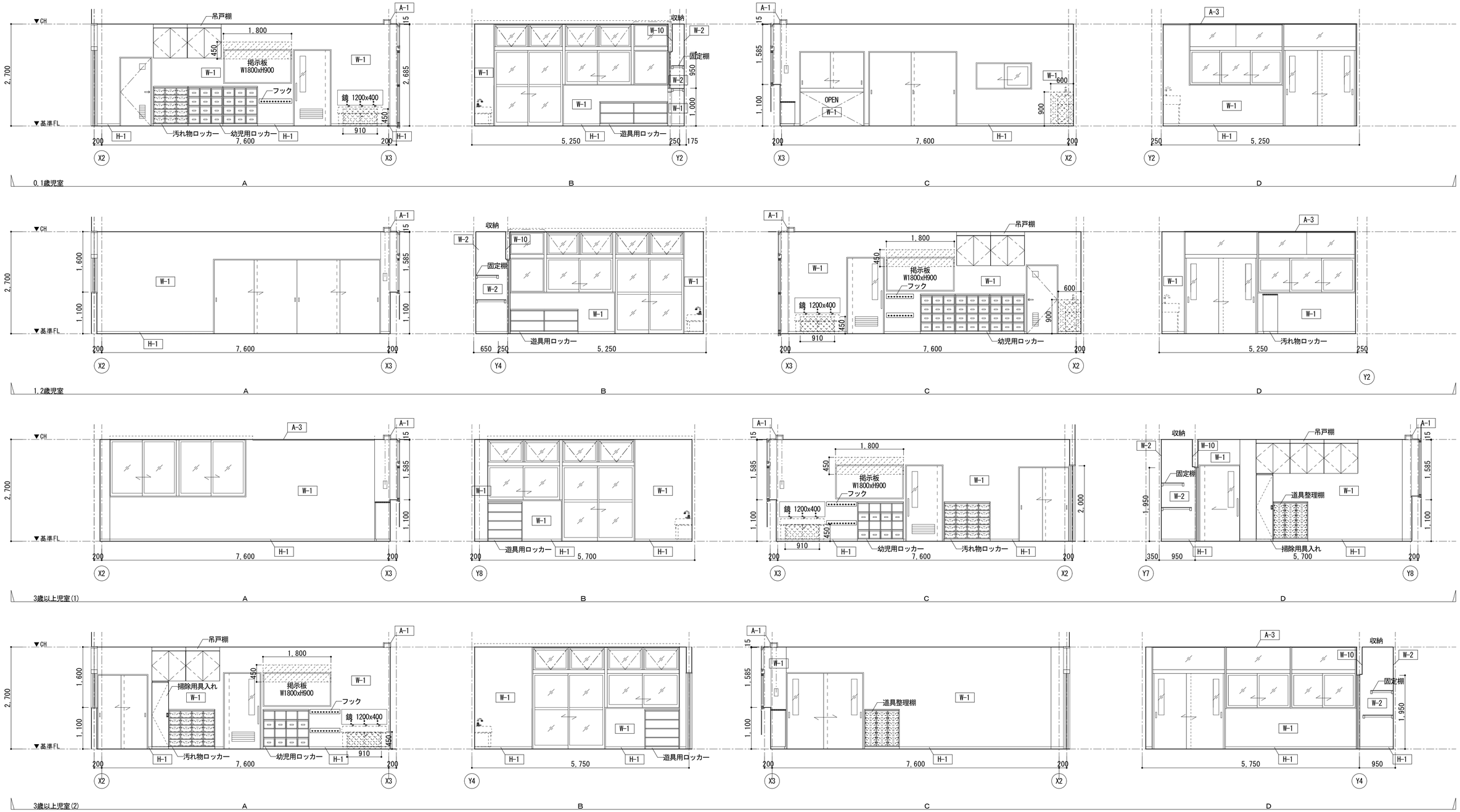
凡 例	
FL±**	基準FL(3.55)からの高低差
▼	建築物への主要な出入口
▽	建築物への出入口
◎	点字タイル(警告ブロック)
○ 竪樋	竪樋:カラーVP管(特記なき限り φ100)
▭	令114条2項 区画壁(45分準耐火構造間仕切り壁)
⊠	床下点検口:600角(防水・防臭型)
消	消火器ABC粉末10号(壁埋込ボックス共)
∿∿∿	外壁断熱材:押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b t=60

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	(仮称) 千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名 平面詳細図-1
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺 1/50(A1) 1/100(A3)
									図面番号 A-12



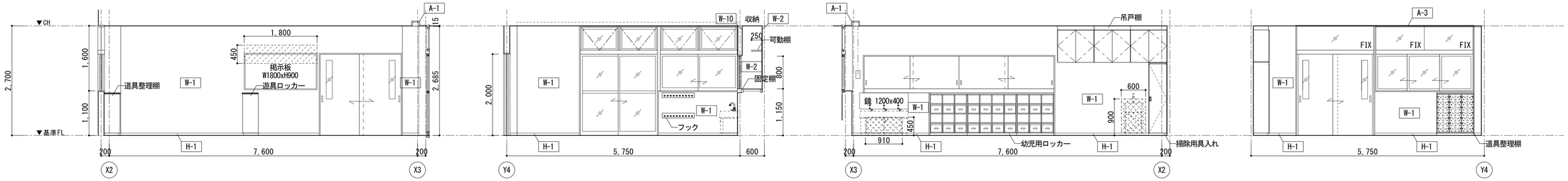
凡 例	
FL±**	基準FL(3.55)からの高低差
▼	建築物への主要な出入口
▽	建築物への出入口
◎	点字タイル(警告ブロック)
竪樋	竪樋:カラーVP管(特記なき限り φ100)
	令114条2項 区画壁(45分準耐火構造間仕切り壁)
	床下点検口:600角(防水・防臭型)
消	消火器ABC粉末10号(壁埋込ボックス共)
	外壁断熱材:押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b t=60

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	(仮称) 千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	平面詳細図-2	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-13
			特記事項		特記事項		特記事項							

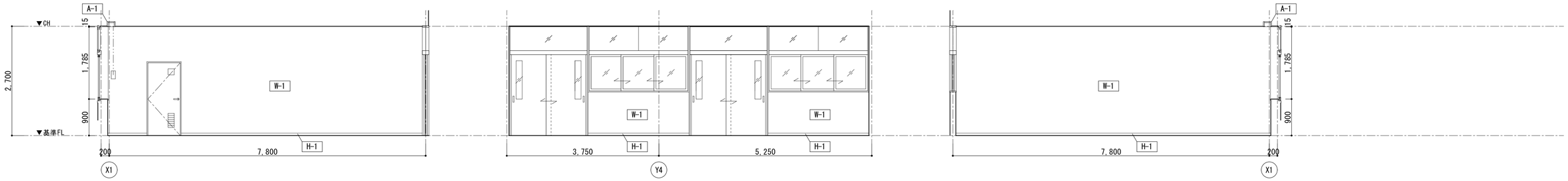


壁仕上げ凡例		巾木仕上げ凡例		その他凡例		特記事項
記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	・サインについてはサイン詳細図を参照のこと。
W-1	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り	H-1	ビニル巾木 H=60	A-1	木製カーテンボックス	・建具については建具表を参照のこと。
W-2	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G	H-2	畳よせ	A-2	アルミ製カーテンレール	・断熱の範囲は平面詳細図及び矩計図等参照のこと。
W-3	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-3	床材立上げ H=60	A-3	アルミ製ピクチャーレール	・ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-4	GB-R t=9.5 + 12.5の上、GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-4	磁器質タイル H=80			(構造用合板 t=12、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-5	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	H-5	腰壁用巾木 H=60			・ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-6	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					(耐水合板 t=24、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-7	GB-R t=12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-8	GB-R t=12.5 + 12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-9	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り					
W-10	GB-R t=12.5 EP-G					
W-11	GB-S t=12.5 EP-G					

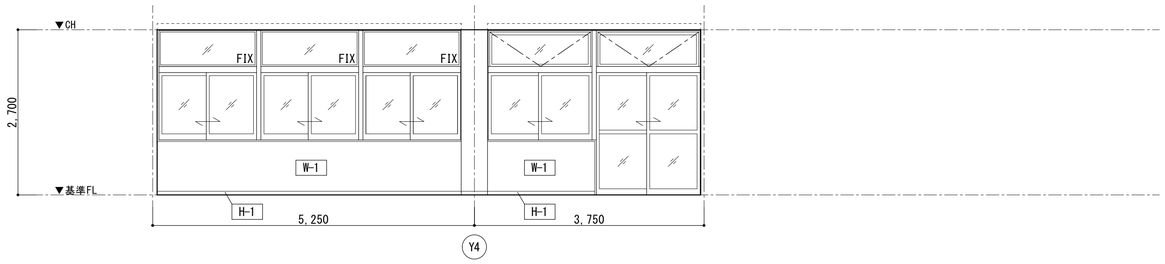
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	展開図-1	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-14
			特記事項		特記事項		特記事項							



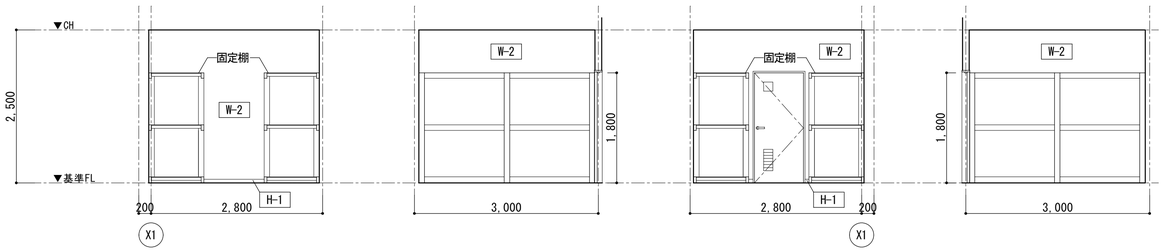
3歳以上児室(3)　A　B　C　D



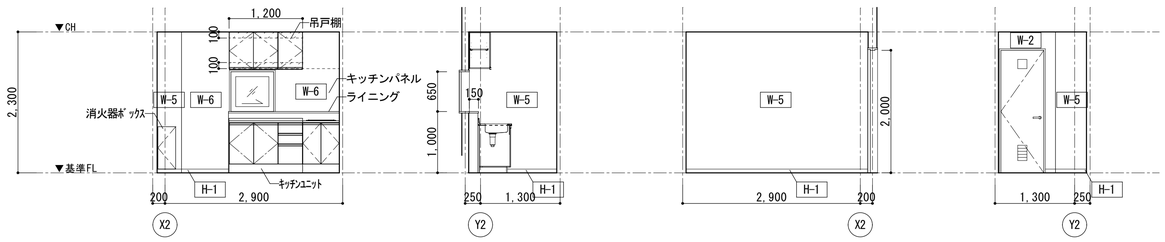
遊戯室　A　B　C　※C面のﾋﾞﾆﾙｸﾛｽは木目調想定



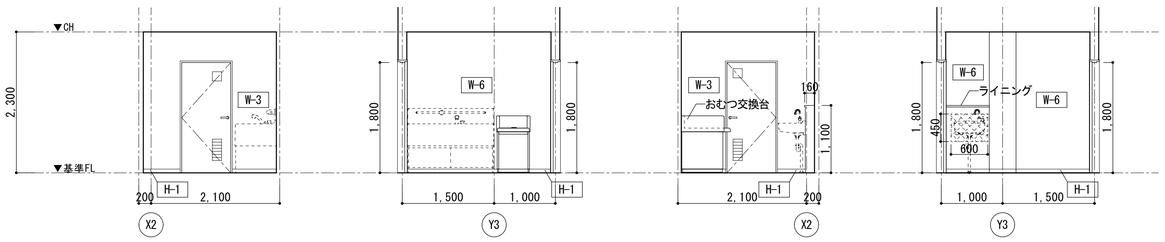
遊戯室　D



布団他収納(遊戯室内)　A　B　C　D



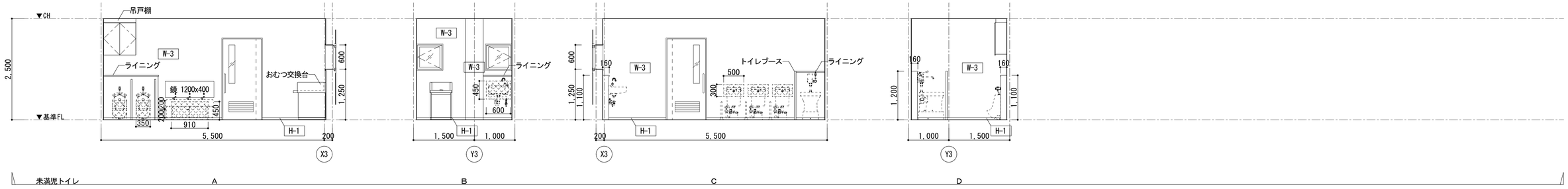
調乳室　A　B　C　D

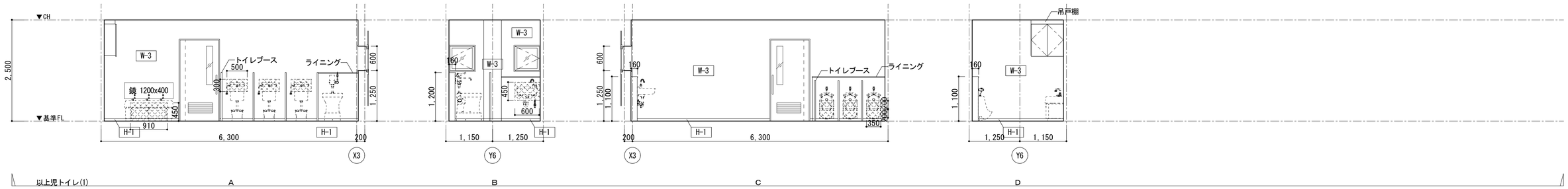


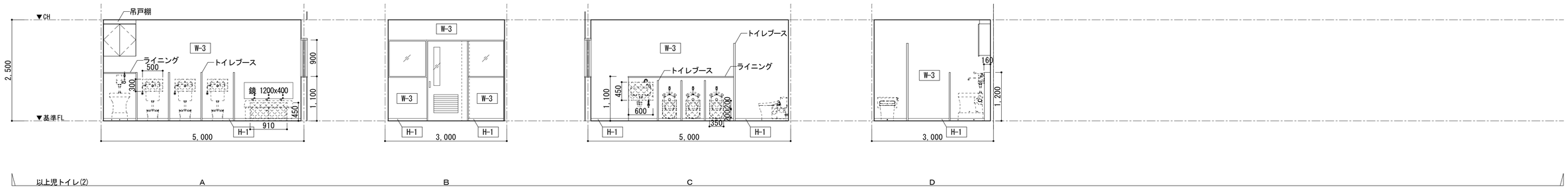
沐浴室　A　B　C　D

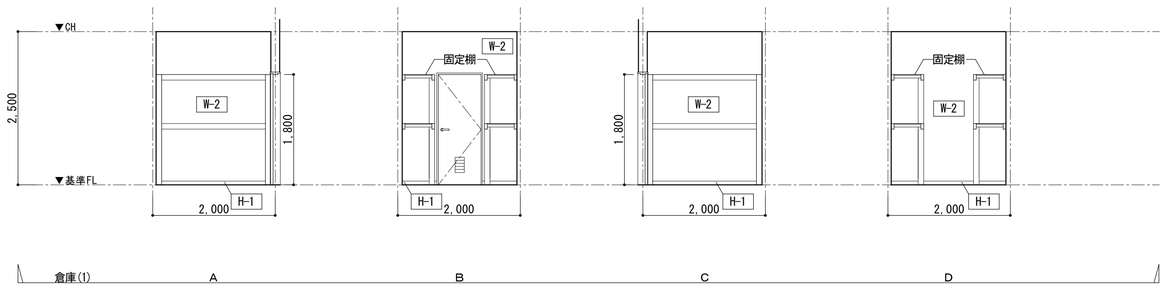
壁仕上げ凡例		巾木仕上げ凡例		その他凡例		特記事項
記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	・サインについてはサイン詳細図を参照のこと。
W-1	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り	H-1	ビニル巾木 H=60	A-1	木製カーテンボックス	・建具については建具表を参照のこと。
W-2	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G	H-2	畳よせ	A-2	アルミ製カーテンレール	・断熱の範囲は平面詳細図及び矩計図等参照のこと。
W-3	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-3	床材立上げ H=60	A-3	アルミ製ピクチャーレール	・▨ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-4	GB-R t=9.5 + 12.5の上、GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-4	磁器質タイル H=80			(構造用合板 t=12、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-5	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	H-5	腰壁用巾木 H=60			・▨ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-6	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					(耐水合板 t=24、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-7	GB-R t=12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-8	GB-R t=12.5 + 12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-9	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り					
W-10	GB-R t=12.5 EP-G					
W-11	GB-S t=12.5 EP-G					

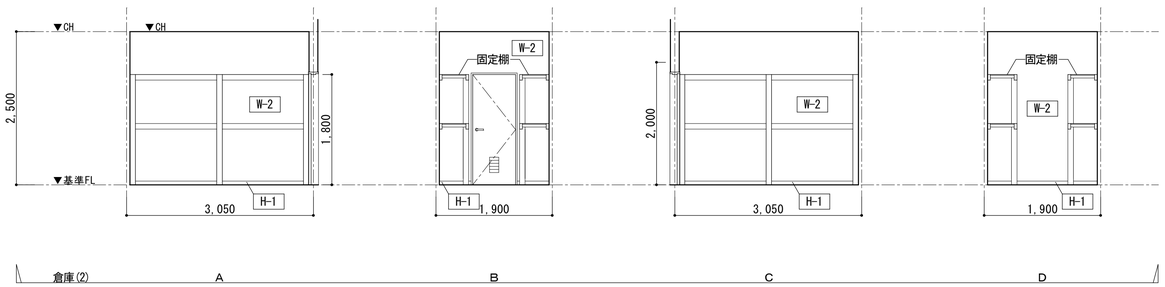
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	展開図-2	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-15
			特記事項		特記事項		特記事項							









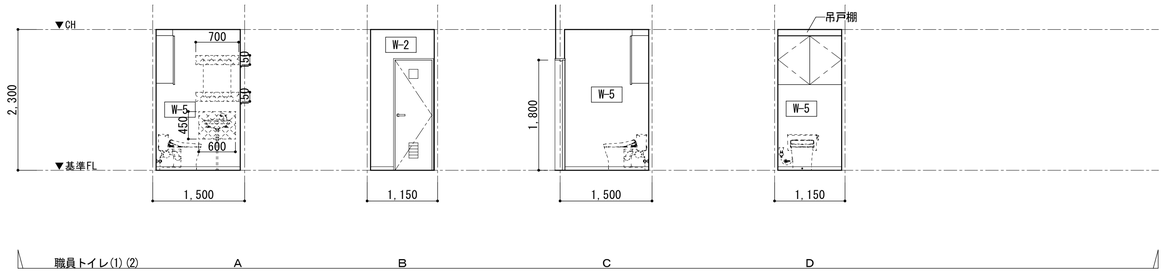


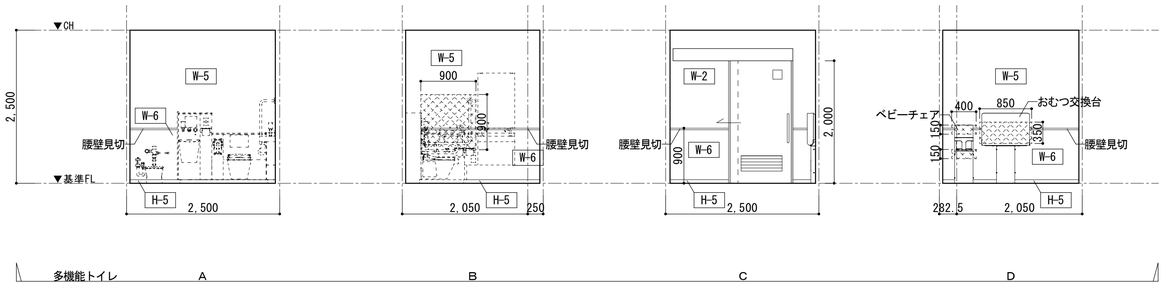
壁仕上げ凡例		巾木仕上げ凡例		その他凡例		特記事項
記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	・サインについてはサイン詳細図を参照のこと。
W-1	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り	H-1	ビニル巾木 H=60	A-1	木製カーテンボックス	・建具については建具表を参照のこと。
W-2	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G	H-2	畳よせ	A-2	アルミ製カーテンレール	・断熱の範囲は平面詳細図及び矩計図等参照のこと。
W-3	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-3	床材立上げ H=60	A-3	アルミ製ピクチャーレール	・▨ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-4	GB-R t=9.5 + 12.5の上、GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-4	磁器質タイル H=80			(構造用合板 t=12、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-5	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	H-5	腰壁用巾木 H=60			・▨ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-6	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					(耐水合板 t=24、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-7	GB-R t=12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-8	GB-R t=12.5 + 12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-9	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り					
W-10	GB-R t=12.5 EP-G					
W-11	GB-S t=12.5 EP-G					

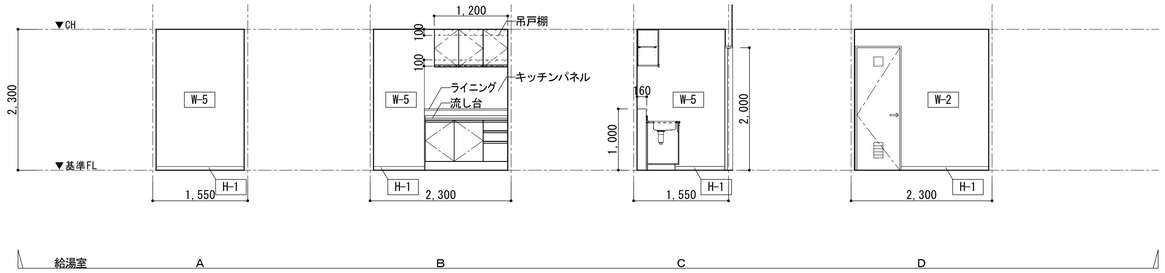
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	展開図-3	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-16
			特記事項		特記事項		特記事項							

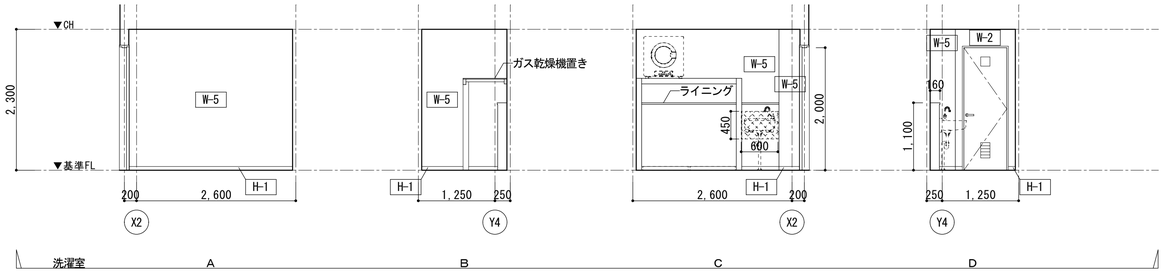
壁仕上げ凡例		巾木仕上げ凡例		その他凡例		特記事項
記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	・サインについてはサイン詳細図を参照のこと。
W-1	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り	H-1	ビニル巾木 H=60	A-1	木製カーテンボックス	・建具については建具表を参照のこと。
W-2	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G	H-2	畳よせ	A-2	アルミ製カーテンレール	・断熱の範囲は平面詳細図及び矩計図等参照のこと。
W-3	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-3	床材立上げ H=60	A-3	アルミ製ピクチャーレール	・▨ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-4	GB-R t=9.5 + 12.5の上、GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-4	磁器質タイル H=80			(構造用合板 t=12、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-5	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	H-5	腰壁用巾木 H=60			・▨ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-6	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					(耐水合板 t=24、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-7	GB-R t=12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-8	GB-R t=12.5 + 12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-9	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り					
W-10	GB-R t=12.5 EP-G					
W-11	GB-S t=12.5 EP-G					

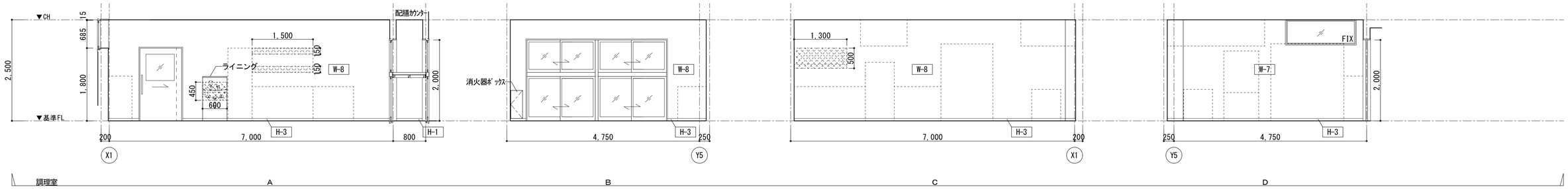
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	展開図-4	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-17
			特記事項		特記事項		特記事項							

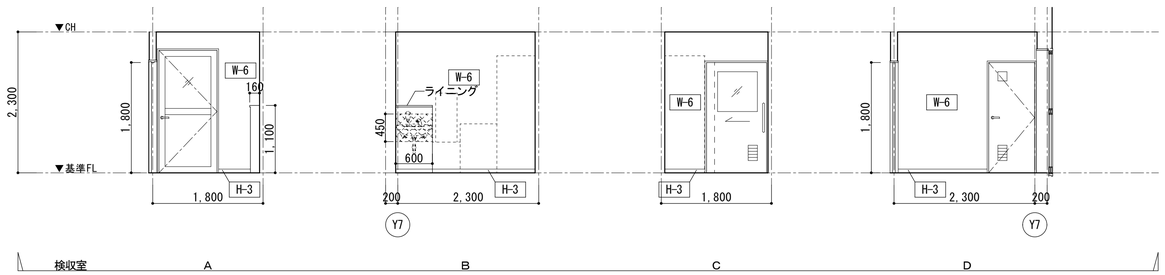


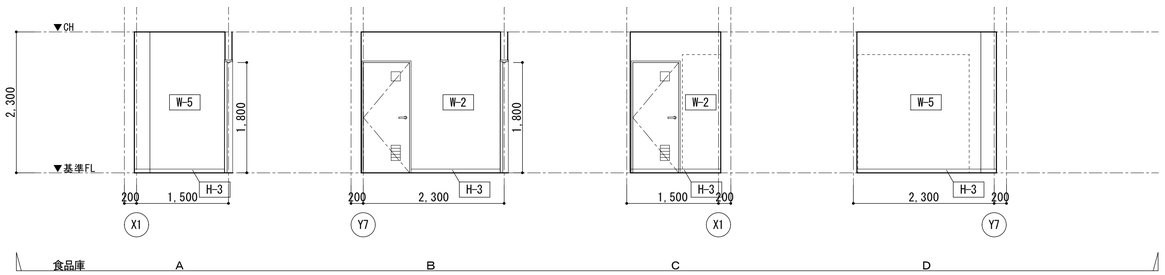






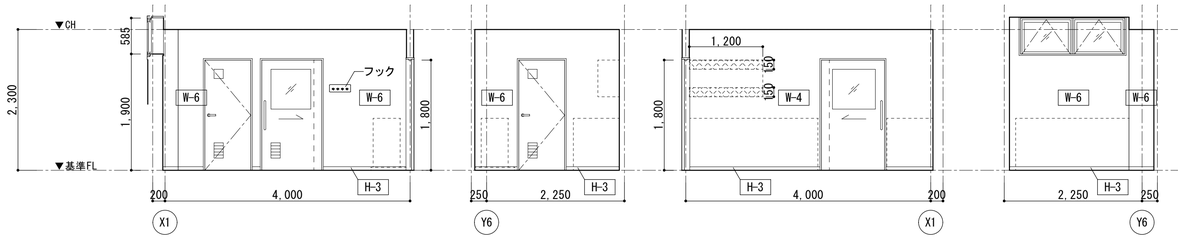




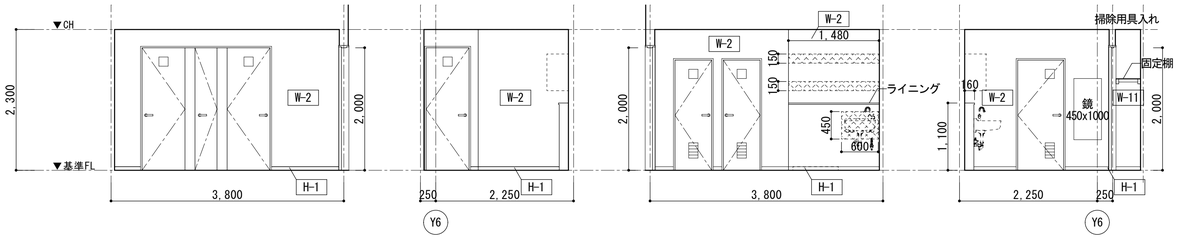


壁仕上げ凡例		巾木仕上げ凡例		その他凡例		特記事項
記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	記　号	仕上げ	・サインについてはサイン詳細図を参照のこと。
W-1	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り	H-1	ビニル巾木 H=60	A-1	木製カーテンボックス	・建具については建具表を参照のこと。
W-2	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G	H-2	畳よせ	A-2	アルミ製カーテンレール	・断熱の範囲は平面詳細図及び矩計図等参照のこと。
W-3	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-3	床材立上げ H=60	A-3	アルミ製ピクチャーレール	・ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-4	GB-R t=9.5 + 12.5の上、GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-4	磁器質タイル H=80			(構造用合板 t=12、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-5	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	H-5	腰壁用巾木 H=60			・ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-6	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					(耐水合板 t=24、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-7	GB-R t=12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					
W-8	GB-R t=12.5 + 12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					
W-9	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り					
W-10	GB-R t=12.5 EP-G					
W-11	GB-S t=12.5 EP-G					

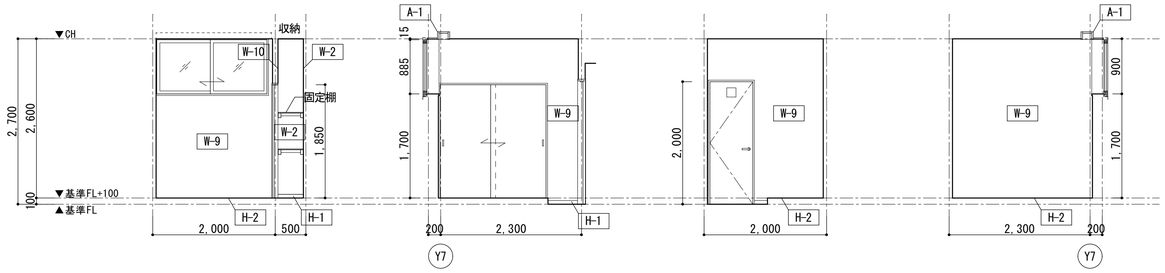
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	展開図-5	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-18
			特記事項		特記事項		特記事項							



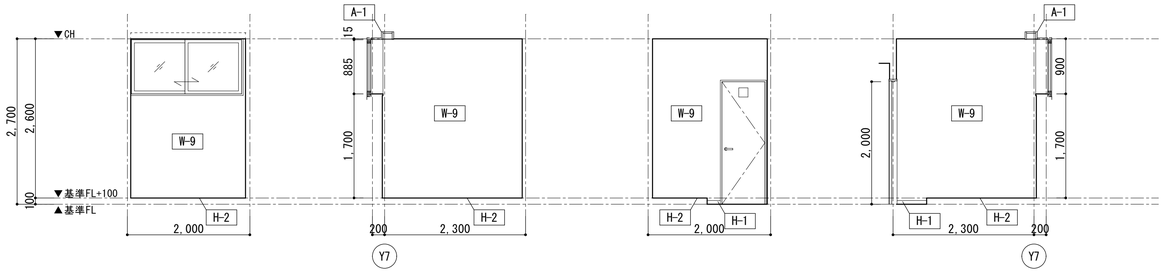
下処理室 A B C B D



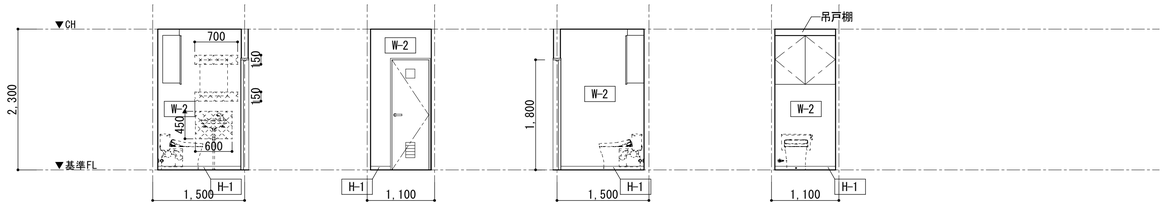
調理室前室 A B C D



調理室女性更衣室兼休憩室 A B C D

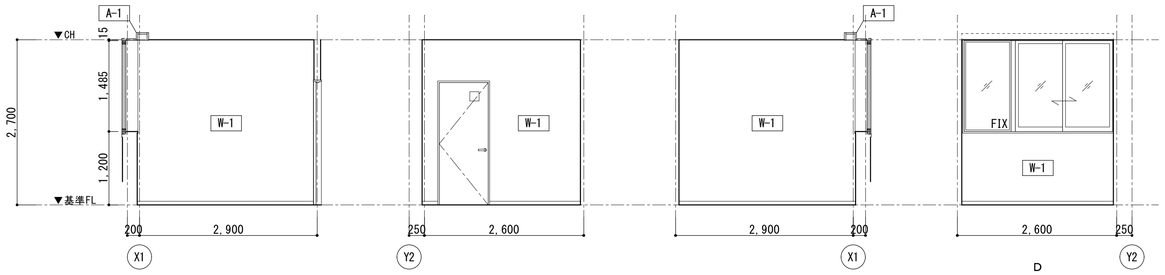


調理室男性更衣室兼休憩室 A B C D

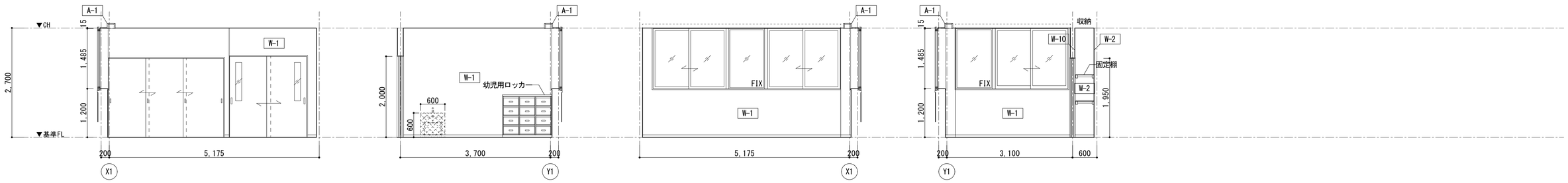


調理室トイレ(1) A B C D

※調理室トイレ(2)は(1)を反転させたものとする



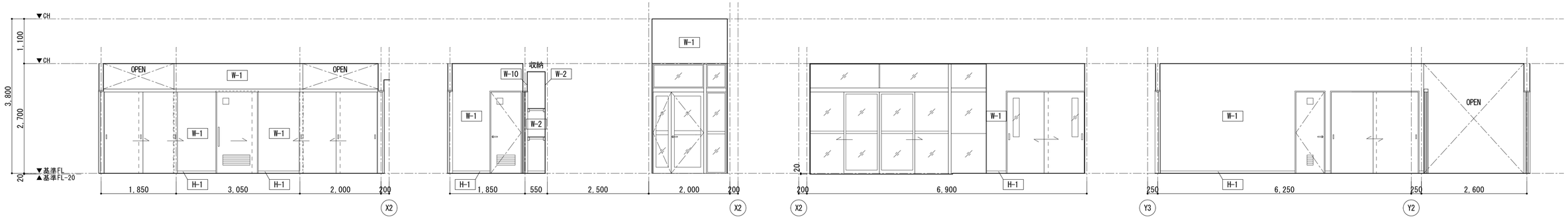
相談室 A B C D



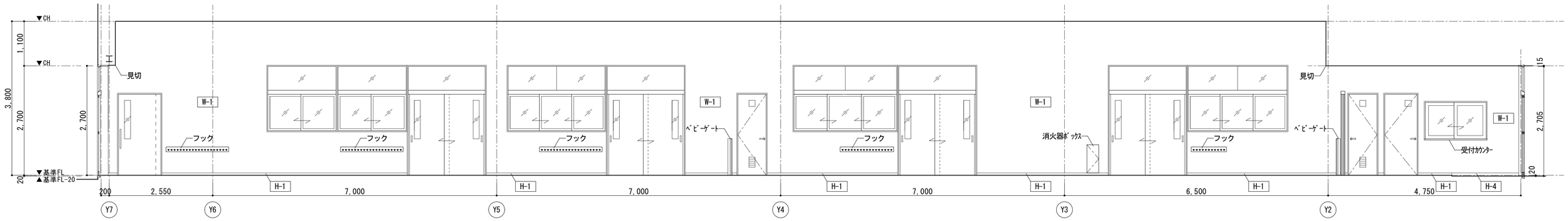
一時預かり室 A B C D

壁仕上げ凡例		巾木仕上げ凡例		その他凡例		特記事項
記 号	仕上げ	記 号	仕上げ	記 号	仕上げ	・サインについてはサイン詳細図を参照のこと。
W-1	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り	H-1	ビニル巾木 H=60	A-1	木製カーテンボックス	・建具については建具表を参照のこと。
W-2	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G	H-2	畳よせ	A-2	アルミ製カーテンレール	・断熱の範囲は平面詳細図及び矩計図等参照のこと。
W-3	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-3	床材立上げ H=60	A-3	アルミ製ピクチャーレール	・ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-4	GB-R t=9.5 + 12.5の上、GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-4	磁器質タイル H=80			(構造用合板 t=12、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-5	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	H-5	腰壁用巾木 H=60			・ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-6	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					(耐水合板 t=24、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-7	GB-R t=12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-8	GB-R t=12.5 + 12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板 t=3.0					
W-9	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り					
W-10	GB-R t=12.5 EP-G					
W-11	GB-S t=12.5 EP-G					

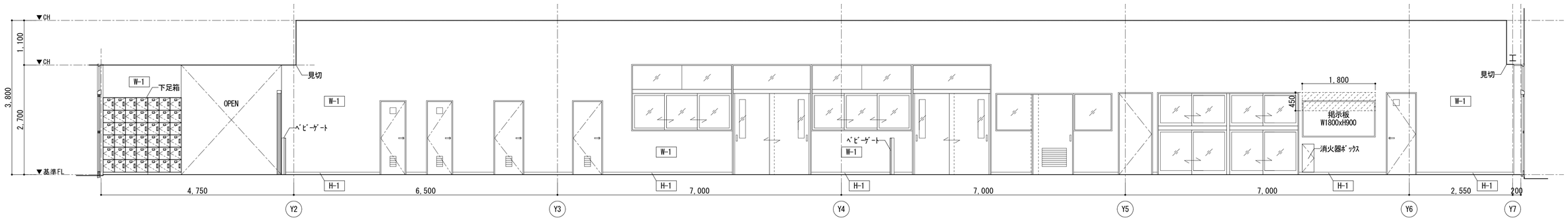
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	展開図-6	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-19
			特記事項		特記事項		特記事項							



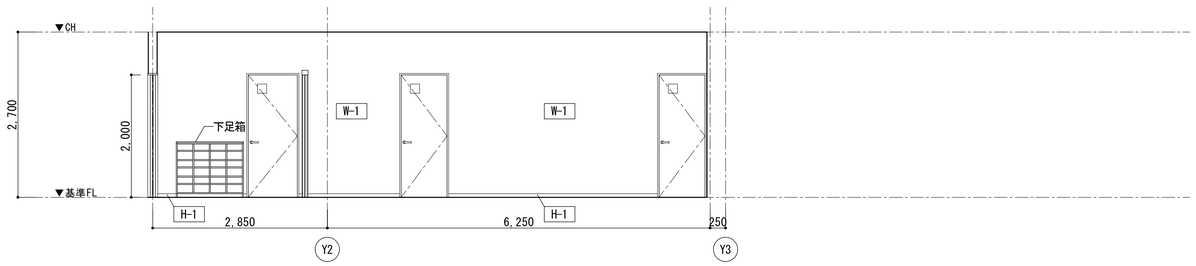
玄関・通路 A A' C B'



玄関・通路 B



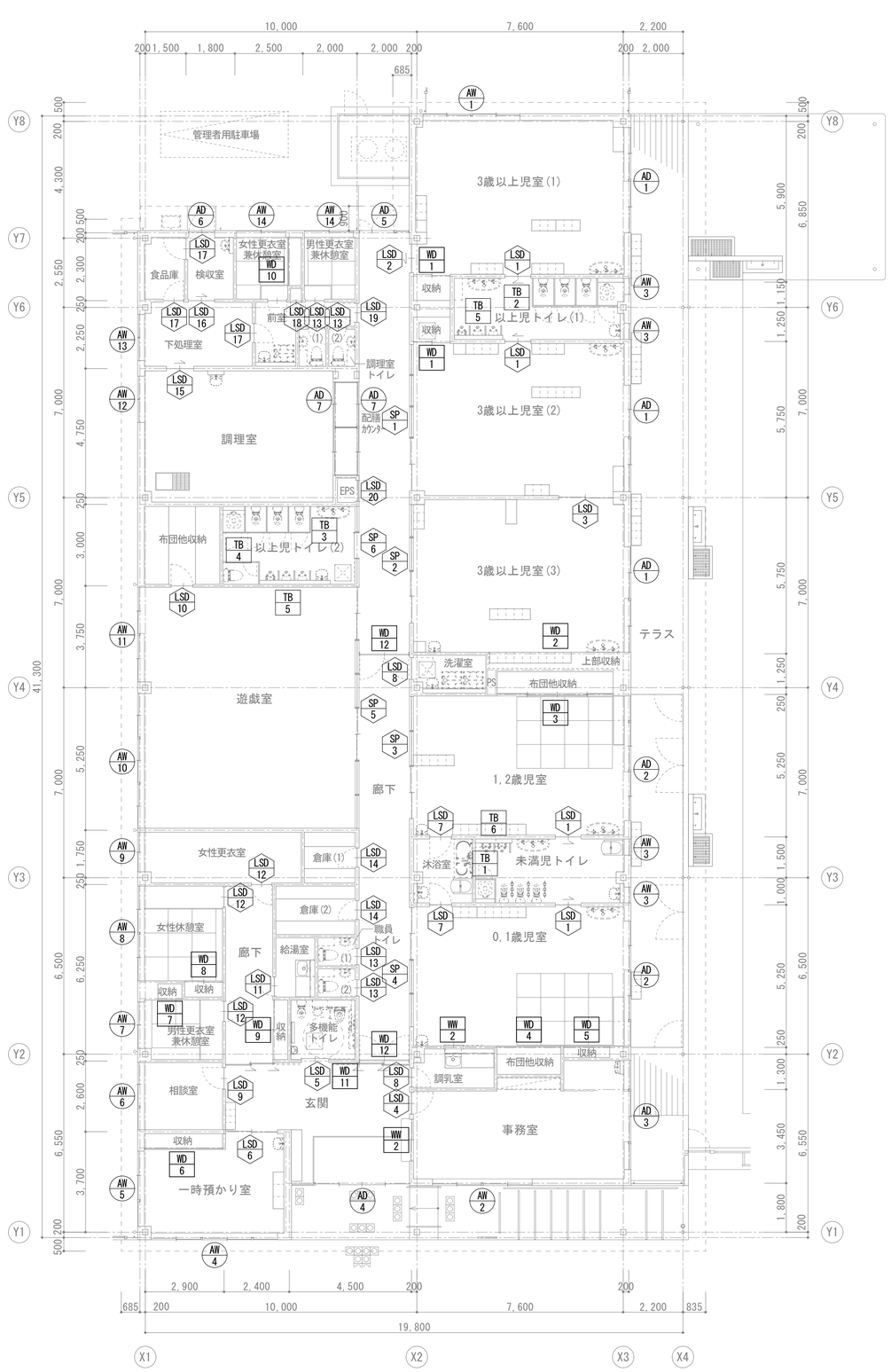
玄関・通路 D



玄関・通路 D'

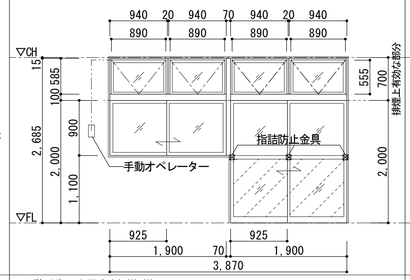
壁仕上げ凡例		巾木仕上げ凡例		その他凡例		特記事項
記号	仕上げ	記号	仕上げ	記号	仕上げ	・サインについてはサイン詳細図を参照のこと。
W-1	GB-R t=9.5 + 12.5 ビニルクロス貼り	H-1	ビニル巾木 H=60	A-1	木製カーテンボックス	・建具については建具表を参照のこと。
W-2	GB-R t=9.5 + 12.5 EP-G	H-2	畳よせ	A-2	アルミ製カーテンレール	・断熱の範囲は平面詳細図及び矩計図等参照のこと。
W-3	GB-R t=9.5 + 12.5の上、不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-3	床材立上げ H=60	A-3	アルミ製ピクチャーレール	・ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-4	GB-R t=9.5 + 12.5の上、GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0	H-4	磁器質タイル H=80			(構造用合板 t=12、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-5	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 EP-G	H-5	腰壁用巾木 H=60			・ 部は取付器具等用の下地範囲を示す。
W-6	GB-R t=12.5 + GB-S t=9.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					(耐水合板 t=24、補強方法はメーカー仕様に依る)
W-7	GB-R t=12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					
W-8	GB-R t=12.5 + 12.5の上、不燃GB-S t=12.5 + 不燃メラミン化粧板 t=3.0					
W-9	GB-R t=12.5 ビニルクロス貼り					
W-10	GB-R t=12.5 EP-G					
W-11	GB-S t=12.5 EP-G					

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	展開図-7	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-20
			特記事項		特記事項		特記事項							



記号	名称	個数
AD 1	アルミ製引違い戸＋外倒し排煙窓	3

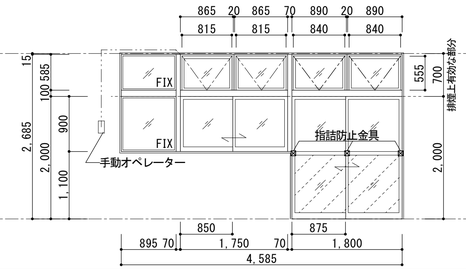
建具意匠・寸法



取付箇所	1階 3歳以上児室(1)(2)(3)
仕上見込	アルミアルマイト 70
硝子	FL3+FL3(合わせ)+A+TLE4[掃出し窓下部]、T4+A+TLE4[その他]
付属金物	クレセント錠、隠蔵式手動オペレーター(埋込ハンドルボックス)、指詰め防止金具、サポートハンドル(掃き出し窓)、網戸、付属金物一式
備考	木製額縁 t=25 EP-G

記号	名称	個数
AD 2	アルミ製引違い戸＋FIX＋外倒し排煙窓	2

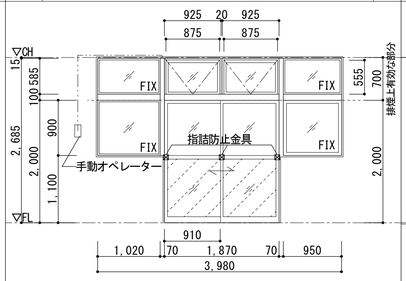
建具意匠・寸法



取付箇所	1階 0,1歳児室、1,2歳児室
仕上見込	アルミアルマイト 70
硝子	FL3+FL3(合わせ)+A+TLE4[掃出し窓下部]、T4+A+TLE4[その他]
付属金物	クレセント錠、隠蔵式手動オペレーター(埋込ハンドルボックス)、指詰め防止金具、サポートハンドル(掃き出し窓)、網戸、付属金物一式
備考	木製額縁 t=25 EP-G

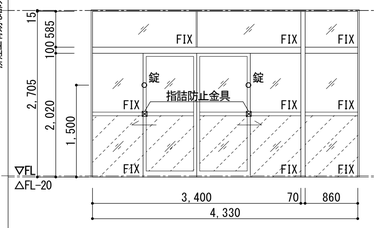
記号	名称	個数
AD 3	アルミ製引違い戸＋FIX＋外倒し排煙窓	1

建具意匠・寸法



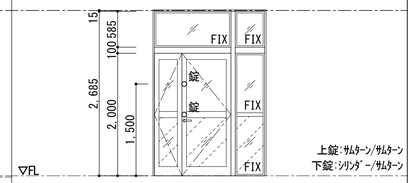
取付箇所	1階 事務室
仕上見込	アルミアルマイト 70
硝子	FL3+FL3(合わせ)+A+TLE4[掃出し窓下部]、T4+A+TLE4[その他]
付属金物	クレセント錠、隠蔵式手動オペレーター(埋込ハンドルボックス)、指詰防止金具、サポートハンドル(掃き出し窓)、網戸、付属金物一式
備考	木製額縁 t=25 EP-G

記号	名称	個数
AD 4	アルミ製両引分け戸＋FIX	1



取付箇所	1階 玄関
仕上見込	アルミアルマイト 70
硝子	FL3+FL3(合わせ)+A+TLE4[掃出し窓下部]、T4+A+TLE4[その他]
付属金物	電気錠、大型引手、指詰め防止金具、サポートハンドル(掃き出し窓)、網戸、付属金物一式
備考	木製額縁 t=25 EP-G 内側から鍵を用いずに開錠可能とし、見えやすい箇所に開錠方法を表示

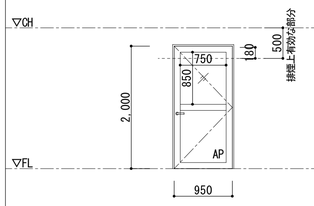
記号	名称	個数
AD 5	アルミ製両開き戸＋FIX	1



取付箇所	1階 廊下
仕上見込	アルミアルマイト 70
硝子	FL3+FL3(合わせ)+A+TLE4[掃出し窓下部]、T4+A+TLE4[その他]
付属金物	丁番、レバーハンドル錠、サムターン錠、ドアクローザー フランス落とし、ステンレス水切り、網戸、付属金物一式
備考	木製額縁 t=25 EP-G

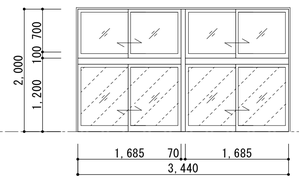
記号	名称	個数
AD 6	アルミ製開き戸	1

建具意匠・寸法



取付箇所	1階 検収室
仕上見込	アルミアルマイト 70
硝子	FT4+A+TLE4
付属金物	丁番、レバーハンドル錠、ドアクローザー ステンレス水切り、ステンレス網戸、付属金物一式
備考	アルミ製額縁 t=25

記号	名称	個数
AD 7	アルミ製引違い戸	2



取付箇所	1階 調理室-廊下
仕上見込	アルミアルマイト 70
硝子	FL3+FL3(合わせガラス)[通路側下部]、T4[その他]
付属金物	クレセント錠、付属金物一式
備考	木製額縁 t=25 EP-G(廊下側)、アルミ製額縁 t=25(調理室側)

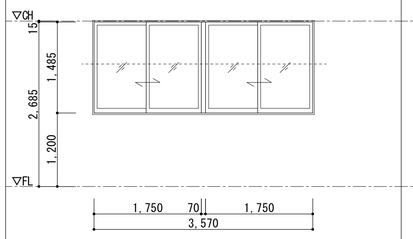
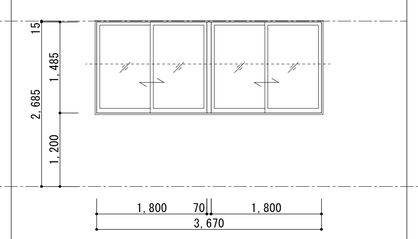
【略号】

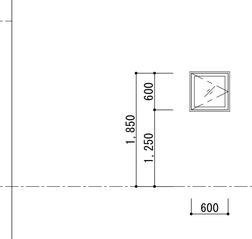
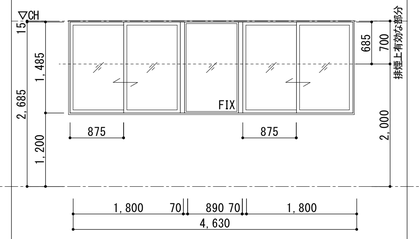
■建具の種類と符号		■ガラスの種類と符号	
AW	アルミ製窓	FL	フロートガラス
AD	アルミ製ドア	F	型板ガラス
AG	アルミ製ガラリ	T	強化ガラス
SD	スチール製ドア	FT	型板強化ガラス
SG	スチール製ガラリ	TLE	Low-E強化ガラス
SP	スチールパーティション	PW	網入り磨きガラス
SSF	ステンレス製製開口枠	A	空気層
LSD	軽量鋼製ドア	+F	飛散防止フィルム貼り
WD	木製ドア	AP	アルミパネル
WW	木製窓		

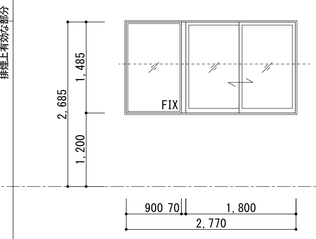
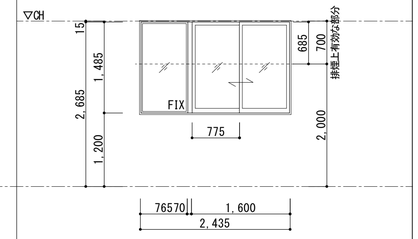
【特記事項】

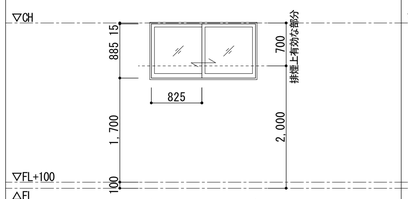
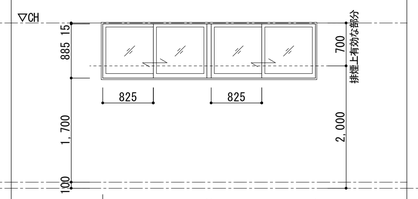
・寸法はSPを除き、枠内有効内法を示す。製作にあたっては現場実測のこと。
・開き勝手については建具表の他、平面詳細図等も確認のこと。
・外部に面するアルミニウム製建具の性能等級等
　種別：A種(耐風圧性：S-4,気密性：A-3,水密性：W-4,枠の見込み寸法：70mm)
・アルミアルマイトはステンカラーを標準とする。
・アルミ製建具の▨部は、合わせガラスとする。
・TLE(Low-E強化ガラス)は室外側とする。
・A(空気層)の厚みは6mmとする。
・一般金物の材質は、SUS304製とする。扉は原則として戸当り付きとする。
・レバーハンドル・把手類の位置・仕様については監督員との協議による。
・手動オペレーター、排煙上有効な開口部のクレセント錠の設置高さはFL+1500とし、
　見やすい方法でその使用方法を表示すること。
　錠の高さは、いたずら防止のため、原則としてFL+1500～1600とする。
・レバーハンドル錠、シリンダー錠は本締錠とし、原則として彫込型として
　室内側にサムターンを設けるが 、位置・仕様については監督員との協議による。
・クレセント錠はロック付とする。
・ドアクローザーはコンシールド型とし、
　常時閉鎖LSDを除きストッパー付きとする。
・ガラリは、開口率35%以上で、山形ガラリとする。
・切窓、ガラリは全て枠なしとする。
・木製建具・枠・額縁の樹種は、米栂(EP-G塗装部)・ﾗﾜﾝ集成材(UC塗装部)とする
・網入り磨きガラスPWは縦ワイヤーとする。
・外倒し排煙窓の開放角度は45°以上とする。
・114条区画上のLSDの引込戸は、下地の鋼材をC-100x50等とすることで、
　壁内外を有効に区画できるものとすること。

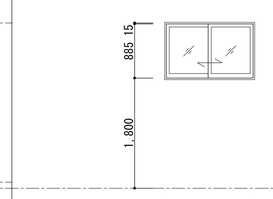
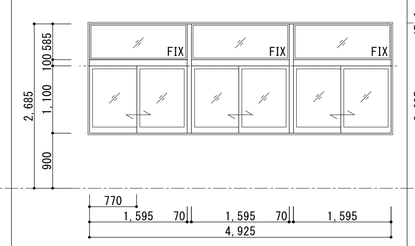
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 特記事項	図面名	建具キープラン・建具表-1	縮尺	1/50,100(A1) 1/100,200(A3)	図面番号	A-21

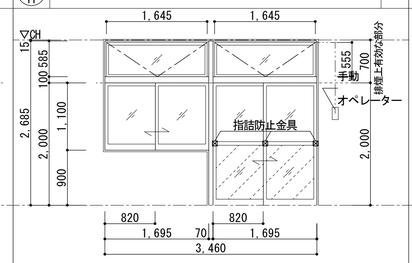
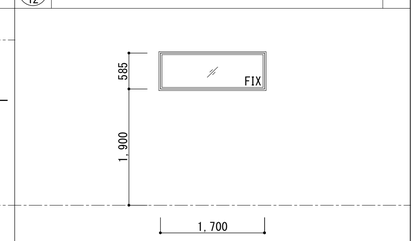
記号	名称	個数			
AW 1	アルミ製引違い窓	1	AW 2	アルミ製引違い窓	1
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 3歳以上児室(1)		1階 事務室		
仕上見込	アルミアルマイト	70	アルミアルマイト	70	
硝子	FT4+A+TLE4		T4+A+TLE4		
付属金物	クレセント錠、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		クレセント錠、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		
備考	木製額縁 t=25 EP-G		木製額縁 t=25 EP-G		

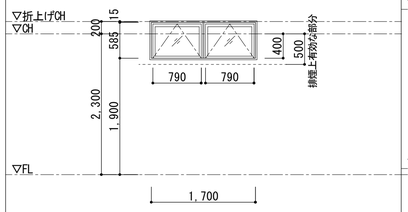
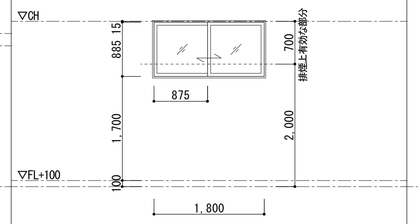
記号	名称	個数			
AW 3	アルミ製たてすべり窓	4	AW 4	アルミ製引違い窓+FIX	1
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 未満児トイレ、以上児トイレ(1)		1階 一時預かり室		
仕上見込	アルミアルマイト	70	アルミアルマイト	70	
硝子	FT4+A+TLE4		T4+A+TLE4		
付属金物	カムラッチハンドル、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		クレセント錠、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		
備考	木製額縁 t=25 EP-G		木製額縁 t=25 EP-G		

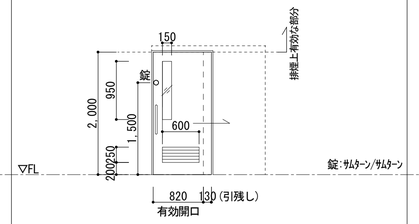
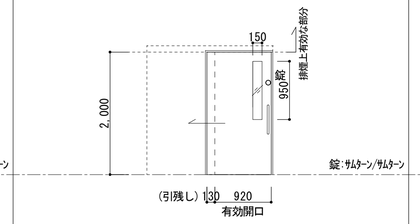
記号	名称	個数			
AW 5	アルミ製引違い窓+FIX	1	AW 6	アルミ製引違い窓+FIX	1
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 一時預かり室		1階 相談室		
仕上見込	アルミアルマイト	70	アルミアルマイト	70	
硝子	FT4+A+TLE4		FT4+A+TLE4		
付属金物	クレセント錠、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		クレセント錠、網戸、付属金物一式		
備考	木製額縁 t=25 EP-G		木製額縁 t=25 EP-G		

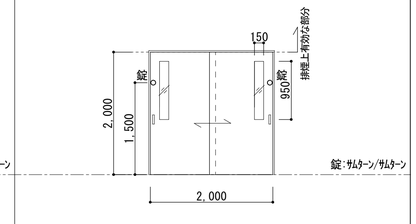
記号	名称	個数			
AW 7	アルミ製引違い窓	1	AW 8	アルミ製引違い窓	1
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 男性更衣室兼休憩室		1階 女性休憩室		
仕上見込	アルミアルマイト	70	アルミアルマイト	70	
硝子	FT4+A+TLE4		FT4+A+TLE4		
付属金物	クレセント錠、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		クレセント錠、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		
備考	木製額縁 t=25 EP-G		木製額縁 t=25 EP-G		

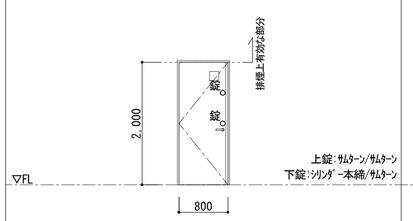
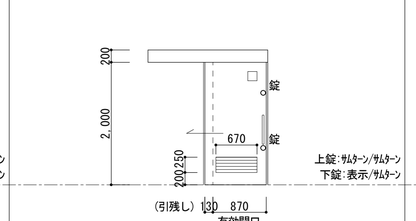
記号	名称	個数			
AW 9	アルミ製引違い窓	1	AW 10	アルミ製引違い戸+FIX	1
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 女性更衣室		1階 遊戯室		
仕上見込	アルミアルマイト	70	アルミアルマイト	70	
硝子	FT4+A+TLE4		FT4+A+TLE4[下部]、T4+A+TLE4[上部]		
付属金物	クレセント錠、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		クレセント錠 網戸、アルミ水切り、付属金物一式		
備考	木製額縁 t=25 EP-G		木製額縁 t=25 EP-G		

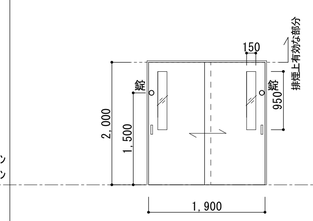
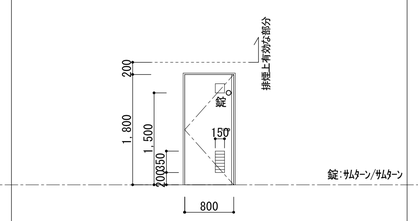
記号	名称	個数			
AW 11	アルミ製引違い戸+外倒し排煙窓	1	AW 12	アルミ製FIX窓	1
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 遊戯室		1階 調理室		
仕上見込	アルミアルマイト	70	アルミアルマイト	70	
硝子	F3+FL3(合わせ)+A+TLE4[掃出し窓下部]、FT4+A+TLE4[腰窓部]、T4+A+TLE4[上部]		FT4+A+TLE4		
付属金物	クレセント錠、隠蔵式手動オペレーター(埋込ハンドルボックス)、アルミ水切り 指詰防止金具、サポートハンドル(掃き出し窓)、網戸、付属金物一式		ステンレス網戸、アルミ水切り、付属金物一式		
備考	木製額縁 t=25 EP-G		アルミ製額縁 t=25		

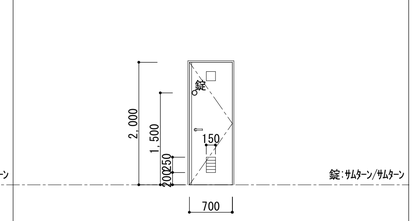
記号	名称	個数			
AW 13	アルミ製滑出し窓	1	AW 14	アルミ製引違い窓	2
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 下処理室		1階 調理室男性・女性更衣室兼休憩室		
仕上見込	アルミアルマイト	70	アルミアルマイト	70	
硝子	FT4+A+TLE4		FT4+A+TLE4		
付属金物	開閉用オペレーター、ステンレス網戸、アルミ水切り、付属金物一式		クレセント錠、網戸、アルミ水切り、付属金物一式		
備考	アルミ製額縁 t=25、開放角度45° 以上		アルミ製額縁 t=25		

記号	名称	個数			
LSD 1	軽量鋼製引込戸	4	LSD 2	軽量鋼製引込戸	1
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 未満児トイレ、以上児トイレ(1)		1階 3歳以上児室(1)		
仕上見込	アクリル焼付	164 / 129	アクリル焼付	164	
硝子	T4		T4		
付属金物	棒状取手、サムターン錠、ダンパー付吊レール SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式		棒状取手、サムターン錠、ダンパー付吊レール SUS製沓摺、付属金物一式		
備考	指詰め防止ゴム		指詰め防止ゴム		

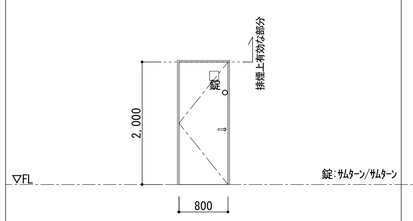
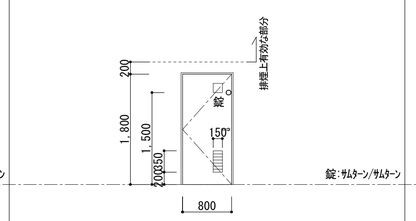
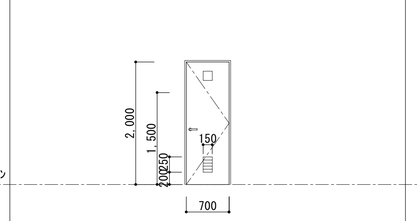
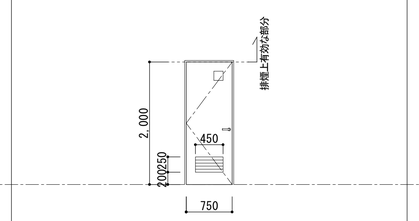
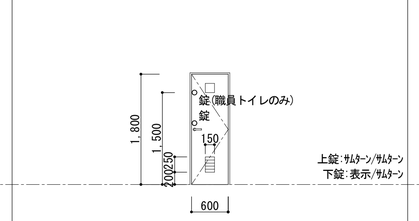
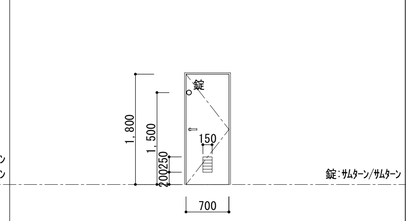
記号	名称	個数			
LSD 3	軽量鋼製引違い戸	1			
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 3歳以上児室(3)				
仕上見込	アクリル焼付	164			
硝子	T4				
付属金物	掘込引手、サムターン錠、ダンパー付吊レール SUS製沓摺、付属金物一式				
備考	指詰め防止ゴム、三角ストッパー				

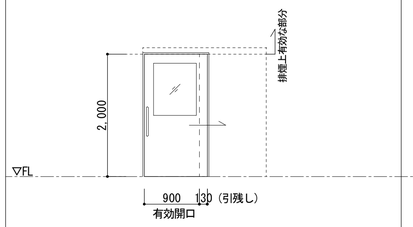
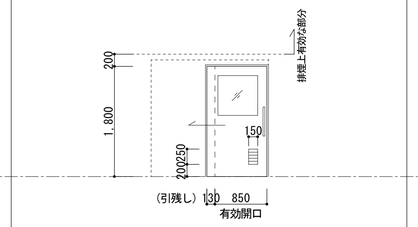
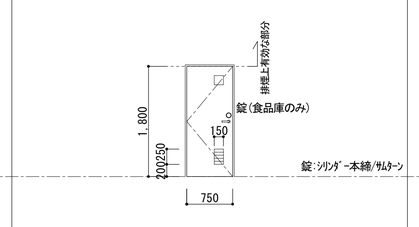
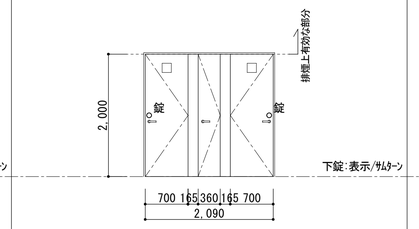
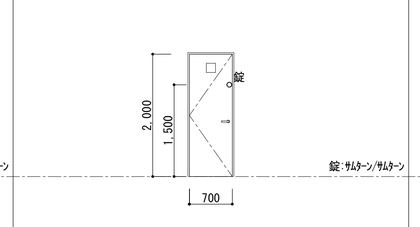
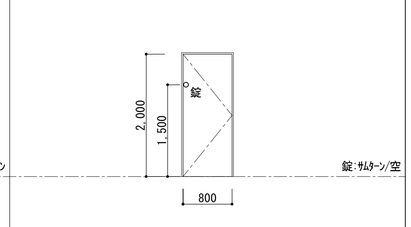
記号	名称	個数			
LSD 4	軽量鋼製片開き戸	1	LSD 5	軽量鋼製片開き戸	1
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 事務室		1階 多機能トイレ		
仕上見込	アクリル焼付	164	アクリル焼付	129	
硝子	T4		FT4		
付属金物	丁番、レバーハンドル錠、サムターン錠、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式		棒状取手、サムターン錠、表示錠、ダンパー付吊レール 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式		
備考	指詰め防止ゴム(戸先)、指詰め防止枠(戸尻)				

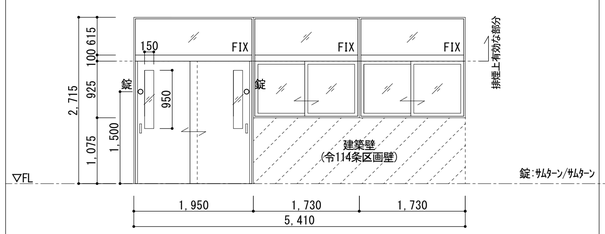
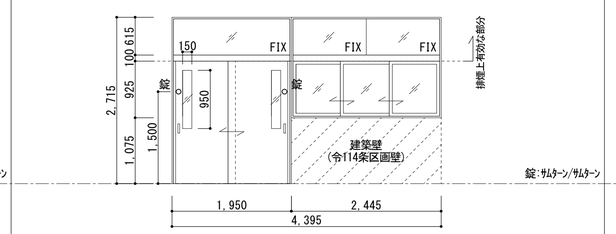
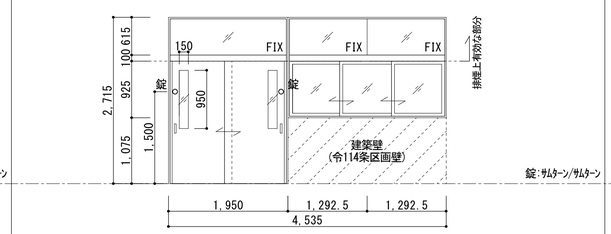
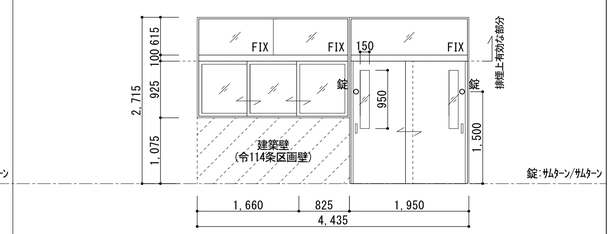
記号	名称	個数			
LSD 6	軽量鋼製引違い戸	1	LSD 7	軽量鋼製片開き戸	2
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 一時預かり室		1階 沐浴室		
仕上見込	アクリル焼付	164	アクリル焼付	164	
硝子	T4		T4		
付属金物	掘込引手、サムターン錠、ダンパー付吊レール 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式		丁番、レバーハンドル、サムターン錠、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式		
備考	指詰め防止ゴム、三角ストッパー		指詰め防止ゴム(戸先)、指詰め防止枠(戸尻)		

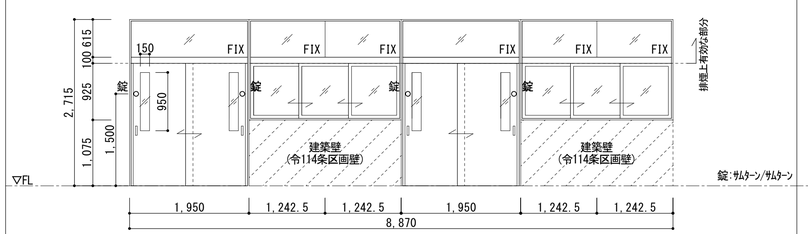
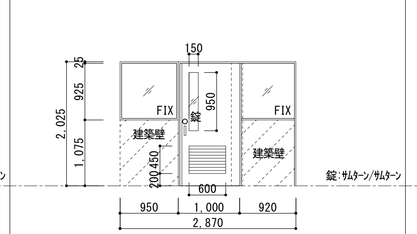
記号	名称	個数			
LSD 8	軽量鋼製片開き戸	2			
建具意匠・寸法					
取付箇所	1階 調乳室、洗濯室				
仕上見込	アクリル焼付	164			
硝子	FT4				
付属金物	丁番、レバーハンドル、サムターン錠、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式				
備考	常時閉鎖式(ストッパー無し)、指詰め防止ゴム(戸先)、指詰め防止枠(戸尻)				

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	建具表-2	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-22
			特記事項		特記事項		特記事項							

記号	名称	個数	LSD 9	LSD 10	LSD 11	LSD 12	LSD 13	LSD 14
			軽量鋼製片開き戸	軽量鋼製片開き戸	軽量鋼製片開き戸	軽量鋼製片開き戸	軽量鋼製片開き戸	軽量鋼製片開き戸
			1	1	1	3	4	2
建具意匠・寸法								
取付箇所			1階 相談室	1階 布団他収納(遊戯室内)	1階 給湯室	1階 男性更衣室兼休憩室、女性更衣室、女性休憩室	1階 トイレ	1階 倉庫
仕上見込			アクリル焼付 129	アクリル焼付 129	アクリル焼付 129	アクリル焼付 129	アクリル焼付 164 / 129	アクリル焼付 164
硝子			T4	T4	FT4	FT4	FT4	–
付属金物			丁番、レバーハンドル、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式	丁番、レバーハンドル、サムターン錠、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式	丁番、レバーハンドル、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式	丁番、レバーハンドル、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ(女性更衣室のみ)、付属金物一式	丁番、レバーハンドル錠、サムターン錠、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式	丁番、レバーハンドル錠、サムターン錠、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式
備考					常時閉鎖式(ストッパー無し)			

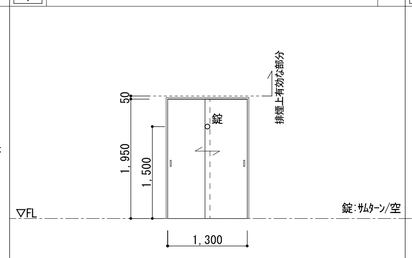
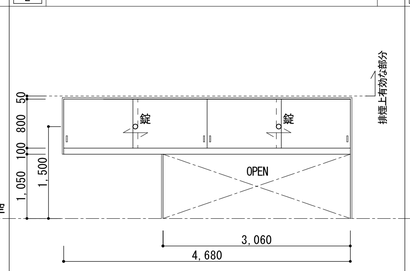
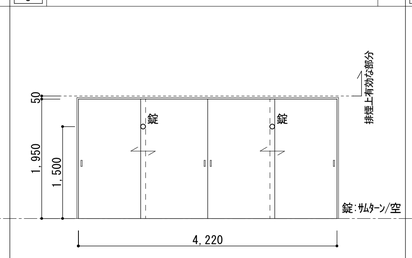
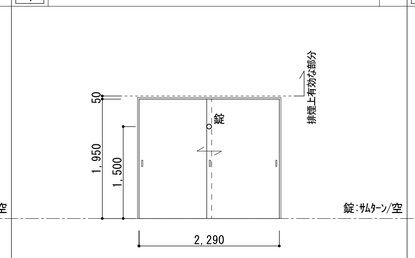
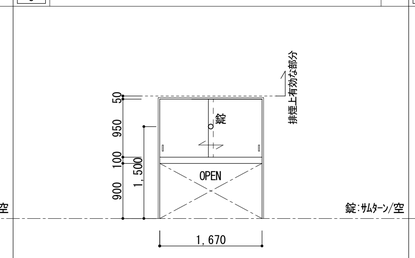
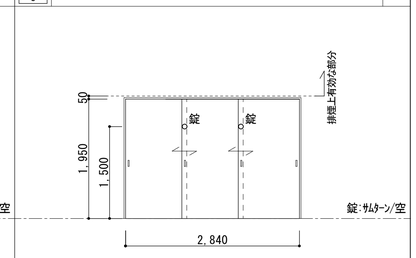
記号	名称	個数	LSD 15	LSD 16	LSD 17	LSD 18	LSD 19	LSD 20
			軽量鋼製引込戸	軽量鋼製引込戸	軽量鋼製片開き戸	軽量鋼製片開き戸	軽量鋼製片開き戸	軽量鋼製片開き戸
			1	1	3	1	1	1
建具意匠・寸法								
取付箇所			1階 調理室	1階 検収室	1階 食品庫、調理室前室	1階 調理室前室	1階 調理室前室	1階 通路(EPS)
仕上見込			アクリル焼付 164	アクリル焼付 129	アクリル焼付 129	アクリル焼付 129	アクリル焼付 164	アクリル焼付 164
硝子			T4	FT4	T4	FT4	T4	–
付属金物			棒状取手、吊レール 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式	棒状取手、吊レール 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式	丁番、レバーハンドル、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式	丁番、レバーハンドル錠、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式	丁番、レバーハンドル、サムターン錠、ドアクローザー 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式	丁番、平面ハンドル、サムターン錠 付属金物一式
備考						掃除用具入れ建具のみ、LSDまたはSDとする。常時閉鎖式(ストッパー無し)	常時閉鎖式(ストッパー無し)	

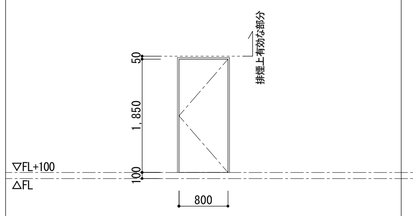
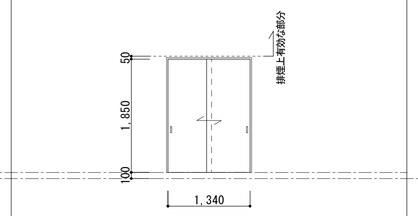
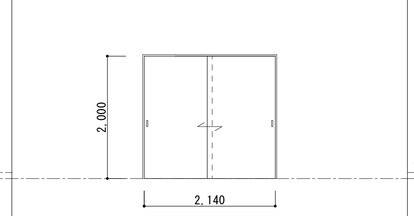
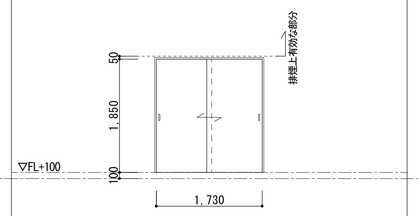
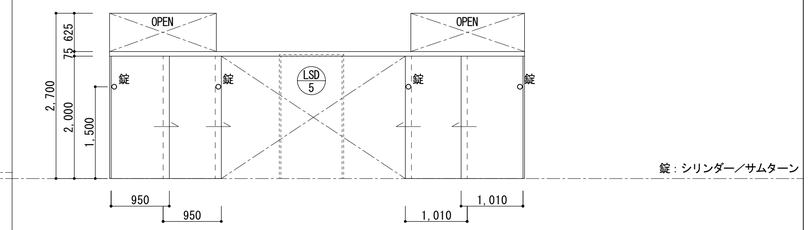
記号	名称	個数	SP 1	SP 2	SP 3	SP 4
			スチールパーテーション	スチールパーテーション	スチールパーテーション	スチールパーテーション
			1	1	1	1
建具意匠・寸法						
取付箇所			1階 3歳以上児室(2)	1階 3歳以上児室(3)	1階 1,2歳児室	1階 0,1歳児室
仕上見込			アクリル焼付 164	アクリル焼付 164	アクリル焼付 164	アクリル焼付 164
硝子			T4[引違い戸部]、PW6.8[FIX部]	T4[引違い戸部]、PW6.8[FIX部]	T4[引違い戸部]、PW6.8[FIX部]	T4[引違い戸部]、PW6.8[FIX部]
付属金物			掘込引手、ダンパー付吊レール、クレセント錠 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式	掘込引手、ダンパー付吊レール、クレセント錠 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式	掘込引手、ダンパー付吊レール、クレセント錠 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式	掘込引手、ダンパー付吊レール、クレセント錠 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式
備考			指詰め防止ゴム、三角ストッパー	指詰め防止ゴム、三角ストッパー	指詰め防止ゴム、三角ストッパー	指詰め防止ゴム、三角ストッパー

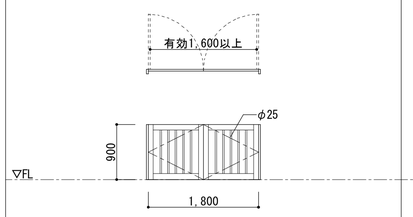
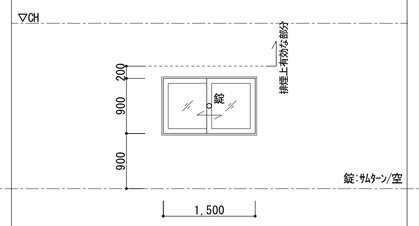
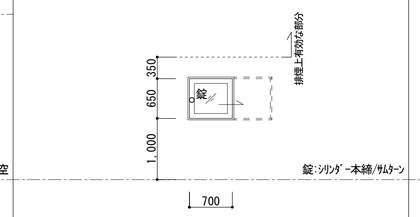
記号	名称	個数	SP 5	SP 6		
			スチールパーテーション	スチールパーテーション		
			1	1		
建具意匠・寸法						
取付箇所			1階 遊戯室	1階 以上児トイレ(2)		
仕上見込			アクリル焼付 164	アクリル焼付 164		
硝子			T4[引違い戸部]、PW6.8[FIX部]	T4		
付属金物			掘込引手、ダンパー付吊レール、クレセント錠 戸当り、SUS製沓摺、付属金物一式	掘込引手、ダンパー付吊レール 戸当り、SUS製沓摺、アルミ製ガラリ、付属金物一式		
備考			指詰め防止ゴム、三角ストッパー	指詰め防止ゴム		

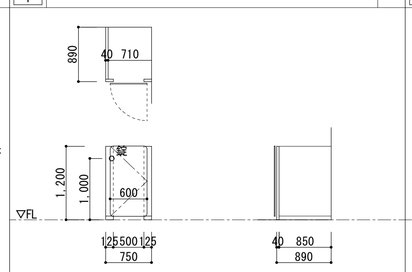
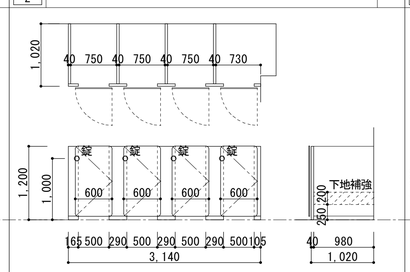
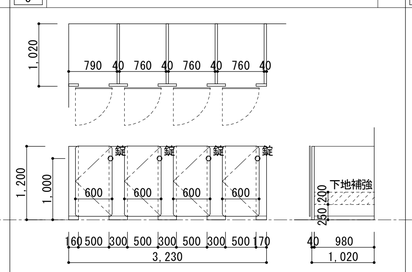
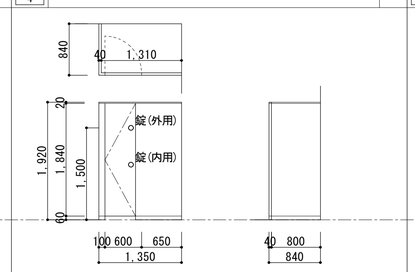
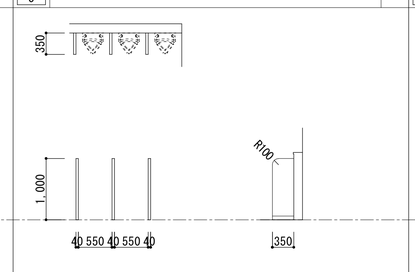
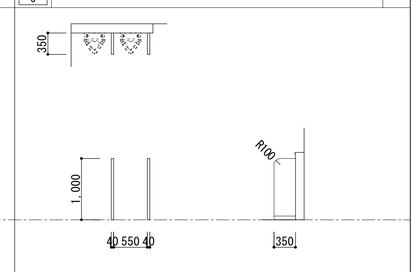
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日
			特記事項		特記事項		特記事項	

図面名	建具表-3	縮尺	1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号	A-23

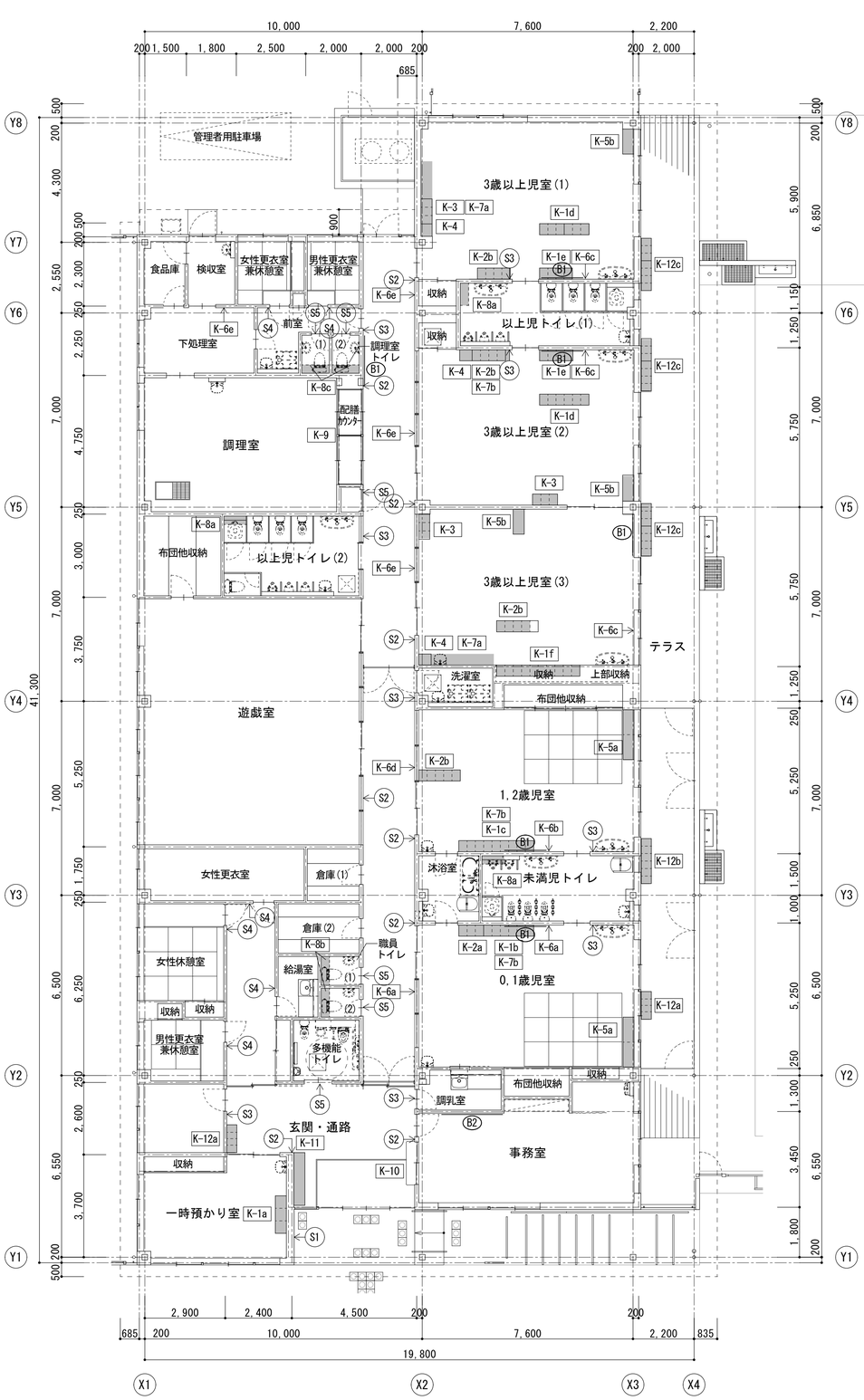
記号	名称	個数	建具意匠・寸法	取付箇所	仕上見込	硝子	付属金物	備考
WD 1	木製引違い戸	2		1階 3歳以上児室(1)(2)	枠:木製 EP-G、扉:メラミン化粧合板　枠:100、扉:35	–	引手、サムターン錠、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WD 2	木製引違い戸	1		1階 3歳以上児室(3)	枠:木製 EP-G、扉:メラミン化粧合板　枠:100、扉:35	–	引手、サムターン錠、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WD 3	木製引違い戸	1		1階 1,2歳児室	枠:木製 EP-G、扉:メラミン化粧合板　枠:100、扉:35	–	引手、サムターン錠、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WD 4	木製引違い戸	1		1階 0,1歳児室	枠:木製 EP-G、扉:メラミン化粧合板　枠:100、扉:35	–	引手、サムターン錠、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WD 5	木製引違い戸	1		1階 0,1歳児室	枠:木製 EP-G、扉:メラミン化粧合板　枠:100、扉:35	–	引手、サムターン錠、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WD 6	木製引違い戸	1		1階 一時預かり室	枠:木製 EP-G、扉:メラミン化粧合板　枠:120、扉:35	–	引手、サムターン錠、SUS製レール、戸車、付属金物一式	

記号	名称	個数	建具意匠・寸法	取付箇所	仕上見込	硝子	付属金物	備考
WD 7	木製両開き戸	1		1階 男性更衣室兼休憩室	合板フラッシュ ビニルクロス貼　枠:100、扉:35	–	丁番、引手、付属金物一式	
WD 8	木製両開き戸	1		1階 女性休憩室	合板フラッシュ ビニルクロス貼　枠:100、扉:35	–	引手、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WD 9	木製引違い戸	1		1階 廊下	合板フラッシュ EP-G　枠:100、扉:35	–	引手、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WD 10	木製引違い戸	1		1階 調理室女性更衣室兼休憩室	合板フラッシュ ビニルクロス貼　枠:100、扉:35	–	引手、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WD 11	木製二連引込戸	1		1階 廊下	木製 UC　枠:100、扉:35	–	引手、シリンダー錠、面付シリンダー錠、SUS製レール、戸車、フランス落とし、付属金物一式	

記号	名称	個数	建具意匠・寸法	取付箇所	仕上見込	硝子	付属金物	備考
WD 12	木製両開き扉(ベビーゲート)	2		1階 廊下	木製 UC　枠:75、扉:30	–	打掛錠、戸当り、フランス落とし、付属金物一式	打掛錠その他付属金物を含み有効1600mmを確保すること
WW 1	木製引違い窓+FIX	1		1階 事務室	木製 UC　枠:164、扉:35	T4[引違い窓部]	引手、サムターン錠、SUS製レール、戸車、付属金物一式	
WW 2	木製片引き窓	1		1階 調乳室	木製 UC　枠:109、扉:35	T4	引手、シリンダー錠、SUS製レール、戸車、付属金物一式	

記号	名称	個数	建具意匠・寸法	取付箇所	仕上見込	硝子	付属金物	備考
TB 1	トイレブース(汚物流し用)	1		1階 未満児トイレ	高圧メラミン化粧板　40	–	丸棒ハンドル、ヒンジ、打掛錠、戸当り、ステンレス巾木、付属金物一式	
TB 2	トイレブース	1		1階 以上児トイレ(1)	高圧メラミン化粧板　40	–	丸棒ハンドル、ヒンジ、打掛錠、戸当り、ステンレス巾木、外開きストッパー、付属金物一式	
TB 3	トイレブース	1		1階 以上児トイレ(2)	高圧メラミン化粧板　40	–	丸棒ハンドル、ヒンジ、打掛錠、戸当り、ステンレス巾木、外開きストッパー、付属金物一式	
TB 4	トイレブース	1		1階 以上児トイレ(2)	高圧メラミン化粧板　40	–	スライドボルト(内用、外用)、ヒンジ、戸当り、アルミ笠木、ステンレス巾木付属金物一式	
TB 5	トイレブース	2		1階 以上児トイレ(1)(2)	高圧メラミン化粧板　40	–	ステンレス巾木、付属金物一式	
TB 6	トイレブース	1		1階 未満児トイレ	高圧メラミン化粧板　40	–	ステンレス巾木、付属金物一式	

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日　令和 8 年 1 月 25 日 特記事項	変更年月日　令和　年　月　日 特記事項	変更年月日　令和　年　月　日 特記事項	図面名　建具表-4	縮尺　1/50(A1) 1/100(A3)	図面番号　A-24



凡例

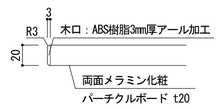
- K-** 家具
- S* サイン
- B* 掲示板

家具共通仕様書

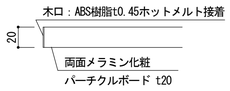
1. 本体・棚板　室内ＶＯＣ（ ホルムアルデヒド等 ）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した両面メラミン化粧パーティクルボード（ ユニボードピュアＨｉ ）厚さ２０mm、Ｆ☆☆☆☆を使用する。上記材料は、ＪＩＳ－Ａ５９０８適合、１８タイプ（ 曲げ強さ１８Ｎ／平方ミリメートル以上 ）とし、
2. 木口処理　躯体からの水分浸入を防ぐために、本体は背面も含めてフラットエッジ（ ＡＢＳ製樹脂をホットメルト練付 ）加工とする。ただし、見付木口は全てセフティーエッジ（ ＡＢＳ製　厚さ３mm　ホットメルト練付 ）加工とする。開き扉・抽斗前板はセフティーエッジ（ ＡＢＳ製　厚さ３mm　ホットメルト練付 ）加工とする。
3. 表面処理　本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制するために鉛筆硬度　９Ｈ　以上の表面材を使用する。本体色については色見本帳（ ４５色以上 ）を提出の上決定する。
4. 裏板　ポリエステル化粧合板　Ｆ☆☆☆☆　厚さ４mmもしくはUV塗装ＭＤＦボード　Ｆ☆☆☆☆　厚さ４mmを使用し、片面フラッシュ（ ４５０mm　ピッチ以内に格子状桟組構造 ）等により補強する。
5. 本体組立て　組立ては、製作工場での木製ダボ組接合とし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。戸枠付きガラス戸は、安全性のため透明強化の刻印入り　厚さ４mmを使用しメンテナンスが容易な樹脂成型（ ＡＢＳ製 ）の押縁で固定する。
6. 巾木・台輪　ポリエステル化粧合板　Ｆ☆☆☆☆（塗装不要）もしくはUV塗装ＭＤＦボード　Ｆ☆☆☆☆　とする。
7. 建具　板戸・戸枠は、くるいやホゾ抜け防止のため、かまち組み等は不可とし１枚物とする。
8. 把手・蝶番　樹脂成型品（ ＡＢＳ製 ）の把手・引手を使用する。蝶番は、メンテナンスが容易なキャッチ機構付１０７°程度開き（ ソフトクローズ機構付 ）を使用する。［ 掃除用具入れの吊元側板への蝶番固定は、５点吊中３ヶ所のみ貫通ボルト止めとする。］
10. 棚板受け　安全で外れにくいネジ込み式で錆びにくいステンレス製ダボを使用し、棚板は外れ止めの為ダボ受けシャクリ加工を施す。
11. 抽斗　幼児用ロッカーの抽斗には、抽斗落下防止のためのストッパーを設けること。
12. 特記事項　環境配慮及び品質確保のため、取り扱いは ＩＳＯ １４００１、製作は ＩＳＯ ９００１ 取得企業かつ日本家具保証協会認定工場とする。製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料と接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。室内空気清浄保持のために、学校環境衛生基準に対して参考となる類似製品のＶＯＣ測定データを提出する。
13. 施工　家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。

両面メラミンパーチクルボード t20　木口詳細図　S=1/3

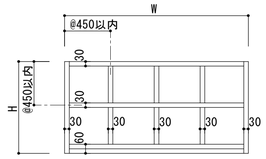
【セフティエッジ】



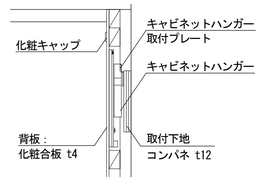
【フラットエッジ】



背板（片面フラッシュ）詳細　S=1/20

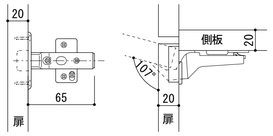


吊戸棚固定金物　詳細図　S=1/5

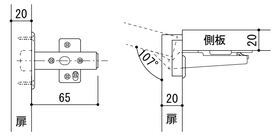


蝶番詳細図　S=1/3

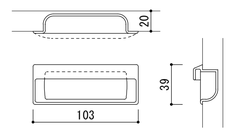
【半かぶせ】



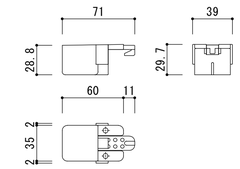
【全かぶせ】



把手（抗菌性ＡＢＳ成型品）詳細図　S=1/3

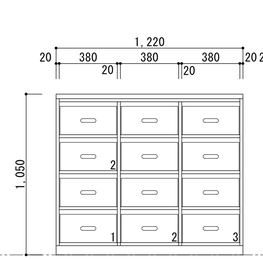


吊戸棚固定金物　詳細図　S=1/3

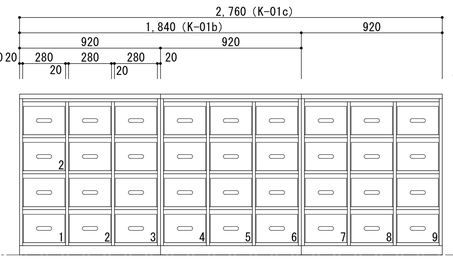


K-1　幼児用ロッカー

	使用人数	部屋名	数量
a	6人	一時預かり室	1
b	12人	0・1歳児室	1
c	18人	1・2歳児室	1
d	12人	3歳以上児室(1)	1
		3歳以上児室(2)	1
e	8人	3歳以上児室(1)	1
		3歳以上児室(2)	1
f	20人	3歳以上児室(3)	1

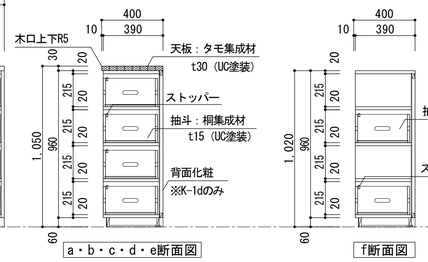


K-1a：6人用



K-1b：12人用

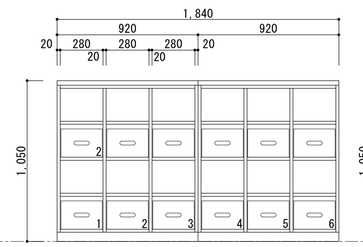
K-1c：18人用



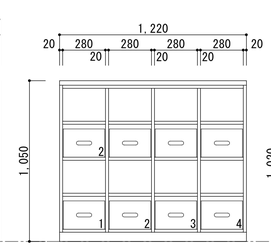
a・b・c・d・e断面図

※d・eの抽斗は1・3段目のみとする

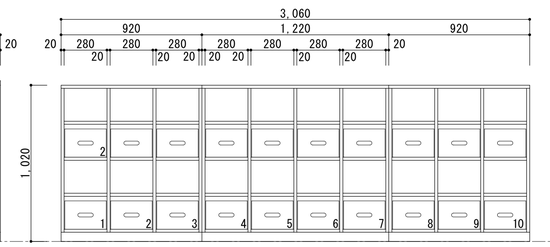
f断面図



K-1d：12人用



K-1e：8人用

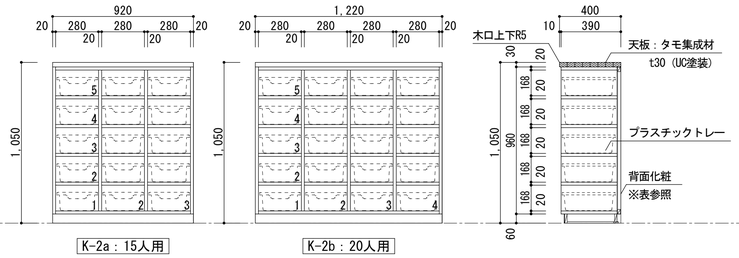


K-1f：20人用

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和　8 年　1 月 25 日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名：家具・掲示板・サインキープラン 家具詳細図-1（参考図）
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺：1/20,100(A1) 1/40,200(A3)
									図面番号：A-25

K-2 汚れ物ロッカー

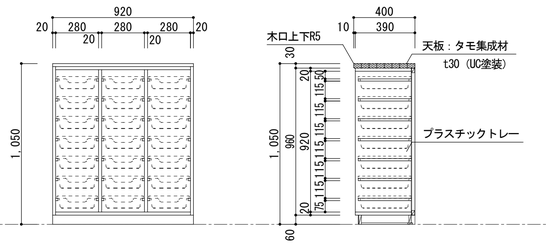
	使用人数	部屋名	背面化粧	数量
a	15人	0・1歳児室	無し	1
b	20人	1・2歳児室	有り	1
		3歳以上児室(1)	無し	1
		3歳以上児室(2)	無し	1
		3歳以上児室(3)	有り	1



K-2a：15人用　K-2b：20人用

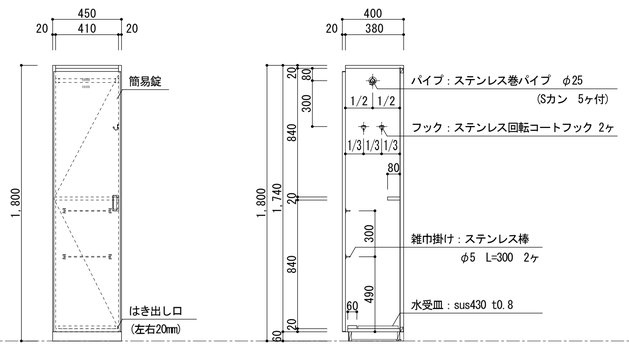
K-3 道具整理棚

部屋名	数量
3歳以上児室(1)	1
3歳以上児室(2)	1
3歳以上児室(3)	1



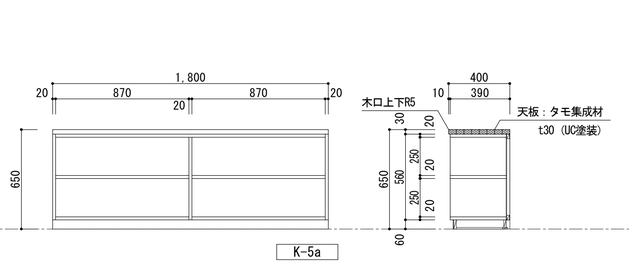
K-4 掃除用具入れ

部屋名	数量
3歳以上児室(1)	1
3歳以上児室(2)	1
3歳以上児室(3)	1

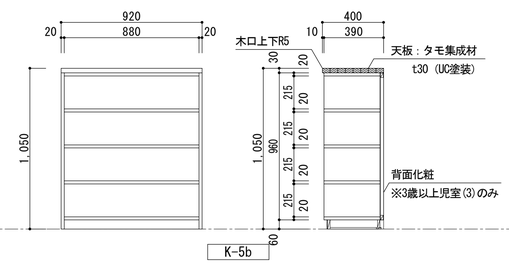


K-5 遊具用ロッカー

	部屋名	背面化粧	数量
a	0・1歳児室	無し	1
	1・2歳児室	無し	1
b	3歳以上児室(1)	無し	1
	3歳以上児室(2)	無し	1
	3歳以上児室(3)	有り	1



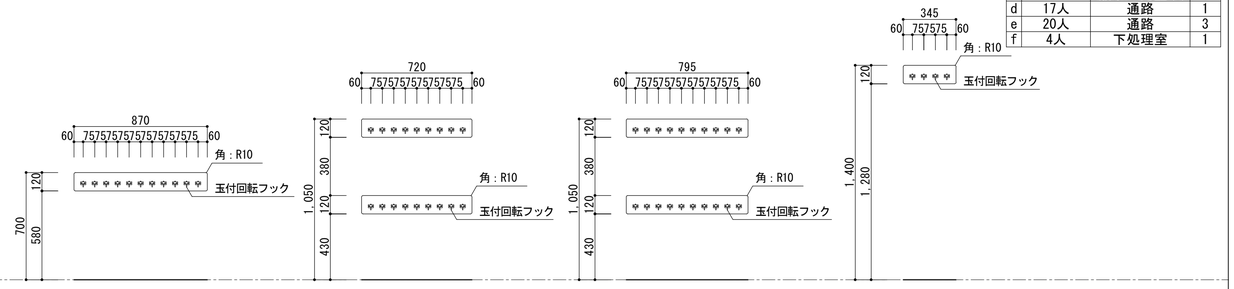
K-5a



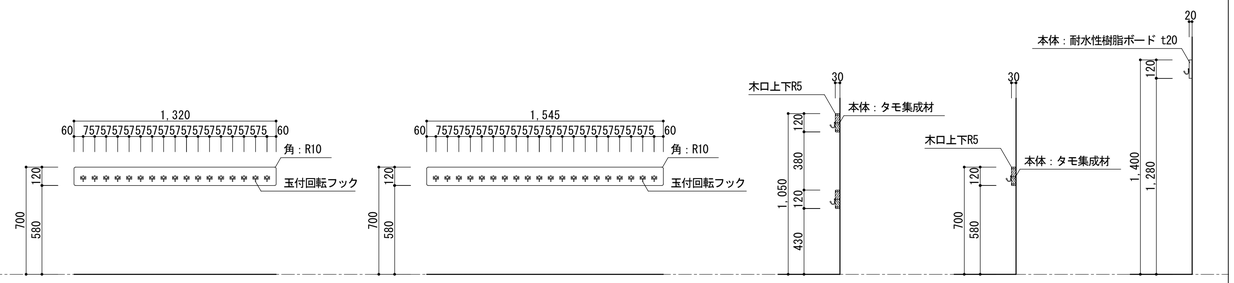
K-5b

K-6 フック

	使用人数	部屋名	数量
a	11人	0・1歳児室	1
		通路	1
b	18人	1・2歳児室	1
c	20人	3歳以上児室(1)	1
		3歳以上児室(2)	1
		3歳以上児室(3)	1
d	17人	通路	1
e	20人	通路	3
f	4人	下処理室	1



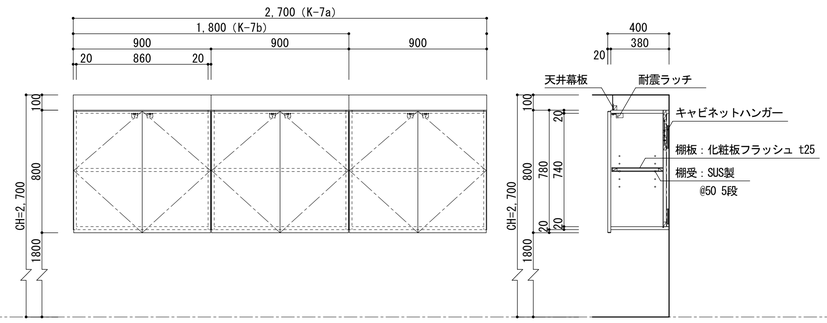
K-6a：11人用　K-6b：18人用　K-06c：20人用　K-6f：4人用



K-6d：17人用　K-6e：20人用　b・c断面図　a・d・e断面図　f断面図

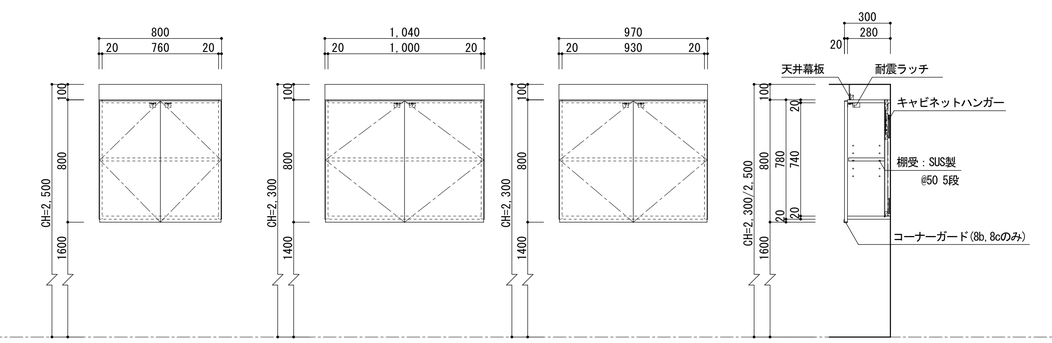
K-7 吊戸棚

	部屋名	数量
a	3歳以上児室(1)	1
	3歳以上児室(3)	1
b	0・1歳児室	1
	1・2歳児室	1
	3歳以上児室(2)	1



K-8 吊戸棚

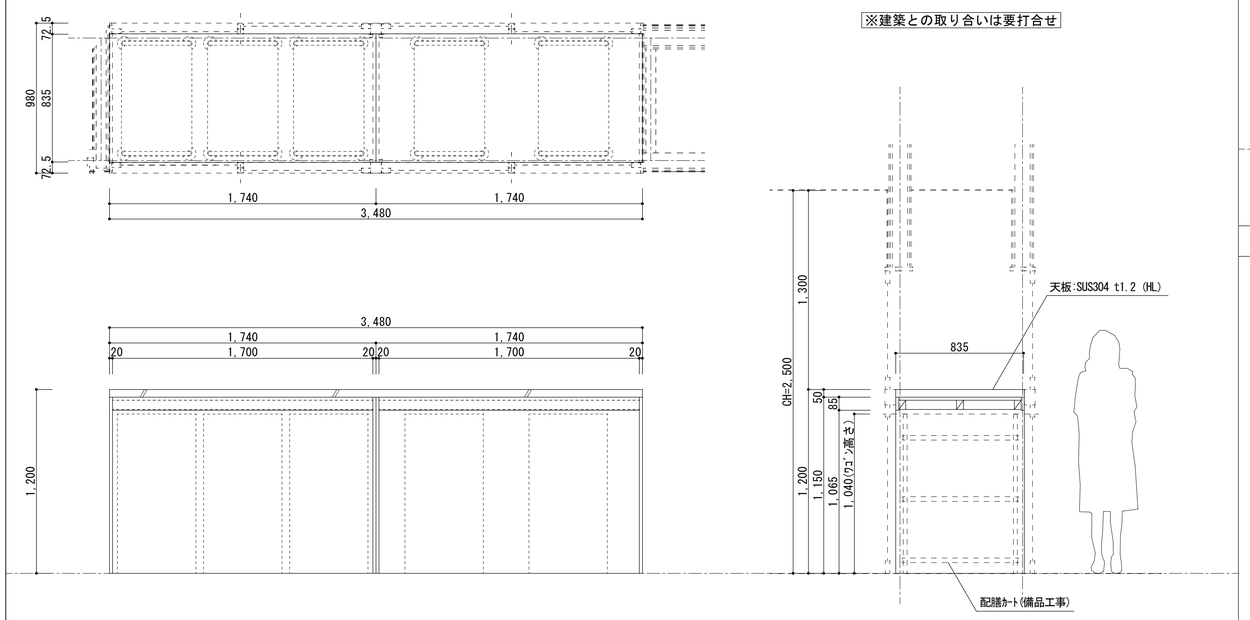
	部屋名	数量
a	未満児トイレ	1
	以上児トイレ(1)	1
	以上児トイレ(2)	1
b	職員トイレ(1)	1
	職員トイレ(2)	1
c	調理室トイレ(1)	1
	調理室トイレ(2)	1



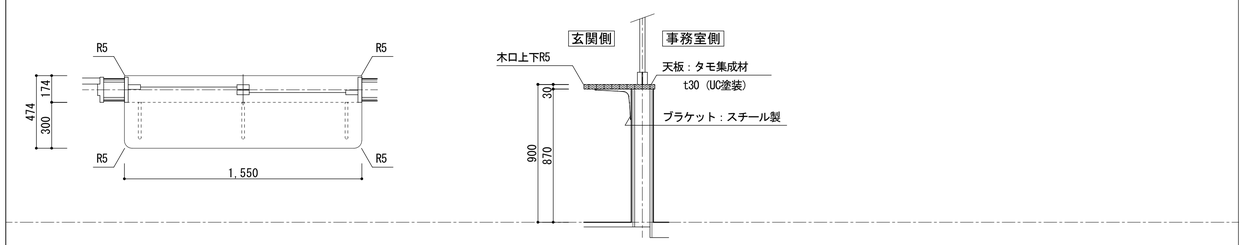
K-8a　K-8b　K-8c

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	家具詳細図-2（参考図）	縮尺	1/20(A1) 1/40(A3)	図面番号	A-26
			特記事項		特記事項		特記事項							

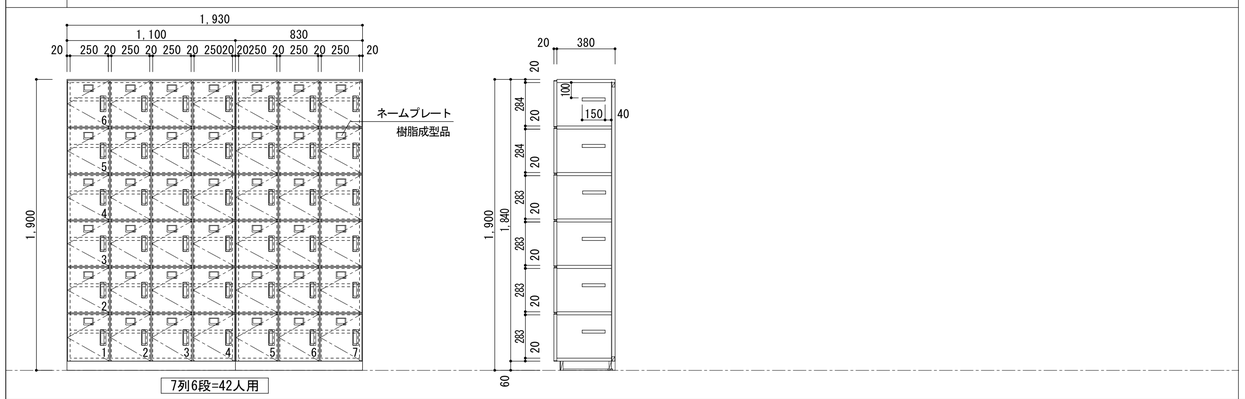
K-9 受渡ｶｳﾝﾀｰ



K-10 受付ｶｳﾝﾀｰ

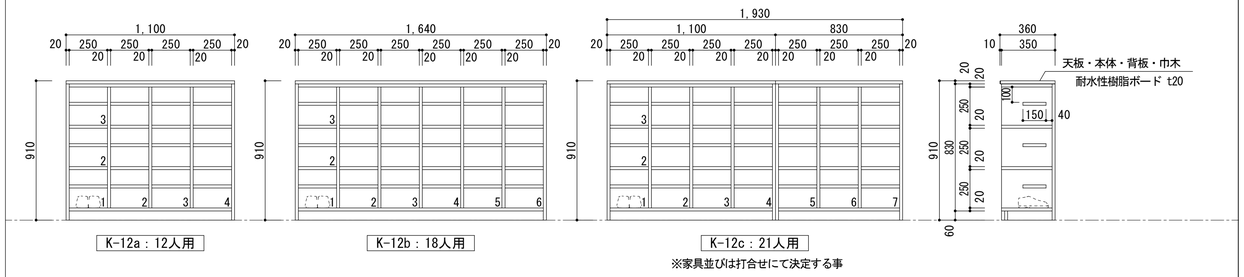


K-11 下足箱



K-12 幼児用下足箱

	使用人数	数量
a	12人	2
b	18人	1
c	21人	3



K-12a：12人用　K-12b：18人用　K-12c：21人用

※家具並びは打合せにて決定する事

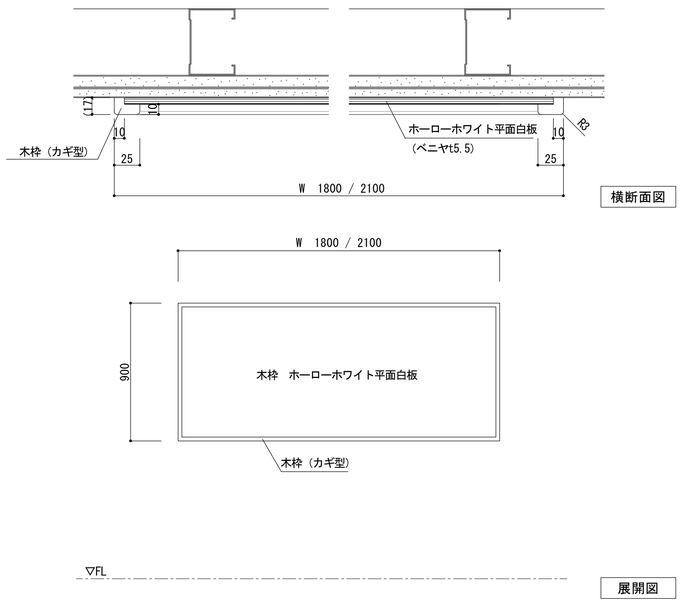
B-1,2 ホワイトボード

S=1/3

（白板　共通仕様）

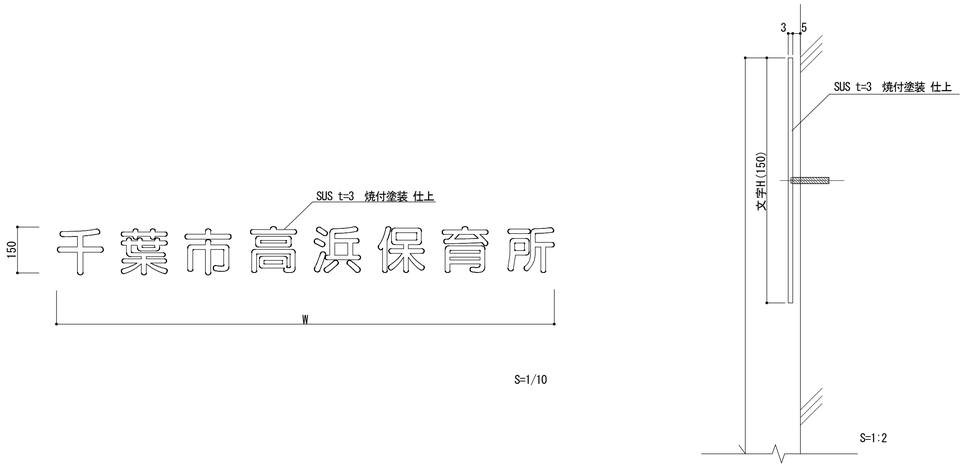
1.　白板　：　白板は黒板JIS規格(JIS S 6007)認定工場で製作する。
2.　表面材　：　白板の表面材はホーロー焼付鋼板を使用する。
　　板面色については色見本を提出の上決定とする。
3.　枠材　：　木枠はタモ集成材 UC塗装仕上とする。
4.　取付　：　取付壁・下地別に施工図を作成し、承認を受けて施工すること。
5.　その他　：　品質確保のため、製作はISO 9001取得企業とする。
　　環境配慮のため、製作はISO 14001取得企業とする。
　　製作にあたり、事前に製品の品質証明書および材料と接着の安全データシートを提出し承認を受ける。

部屋名	W×H	数量
0・1歳児室	1800×900	1
1・2歳児室	1800×900	1
3歳以上児室(1)	1800×900	1
3歳以上児室(2)	1800×900	1
3歳以上児室(3)	1800×900	1
通路	1800×900	1
事務室	2100×900	1

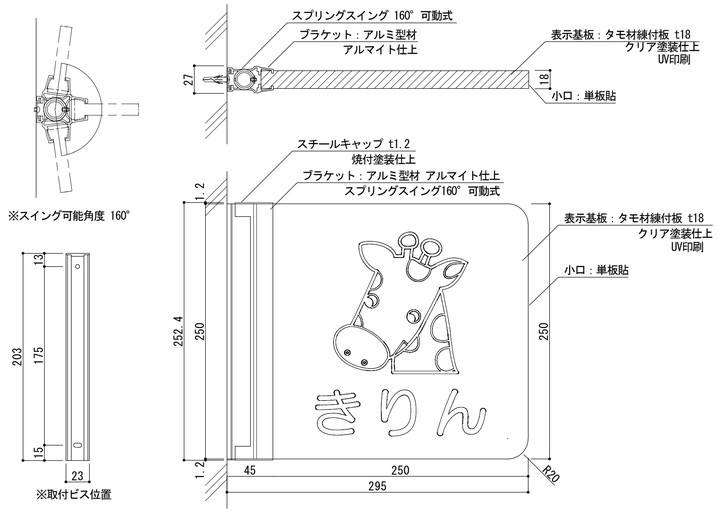


千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	図面名	家具詳細図-3、掲示板詳細図(参考図)
縮尺	1/3,20(A1) 1/6,40(A3)	図面番号	A-27				

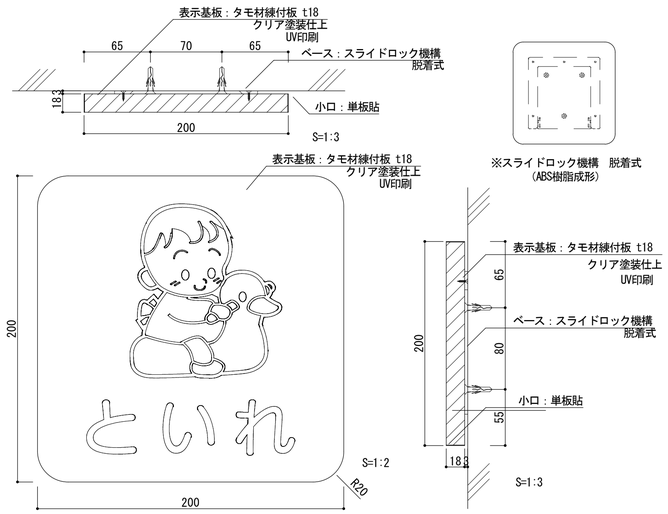
S-1	施設名称サイン	S=1:2,1:10	数量 1



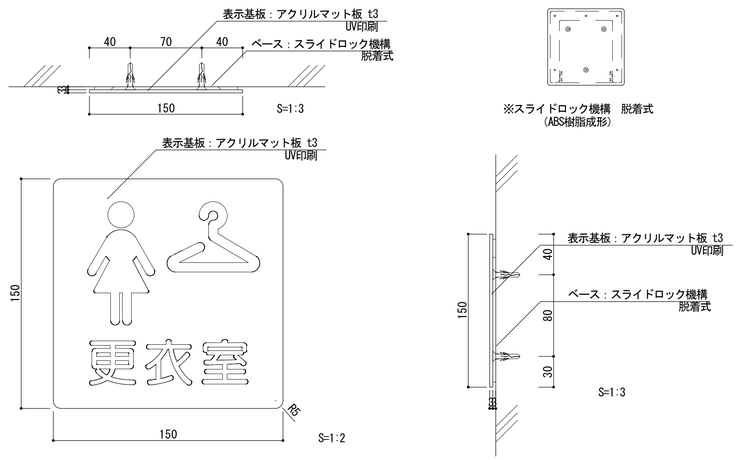
S-2	側面型室名札	S=1:3	数量 9



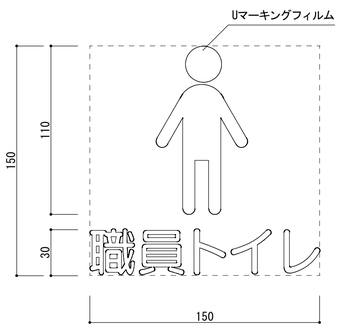
S-3	平付型室名札（木製）	S=1:2,1:3	数量 9



S-4	平付型室名札（アクリル）	S=1:2,1:3	数量 6



S-5	バックヤードサイン	S=1:1	数量 6



■サイン特記仕様

［1］使用材料
　a．木材　　：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆☆対応）とする。
　b．アルミ　　：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
　c．アクリル　　：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８－１（キャスト板），ＪＩＳ－Ｋ－６７１８－２（押出板）
　d．ステンレス　：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上

［2］フォント
　a．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
　　※ただし、係員より特定の書体の指示があった場合にはこの限りではない。

［3］ピクトグラム
　a．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受けること。

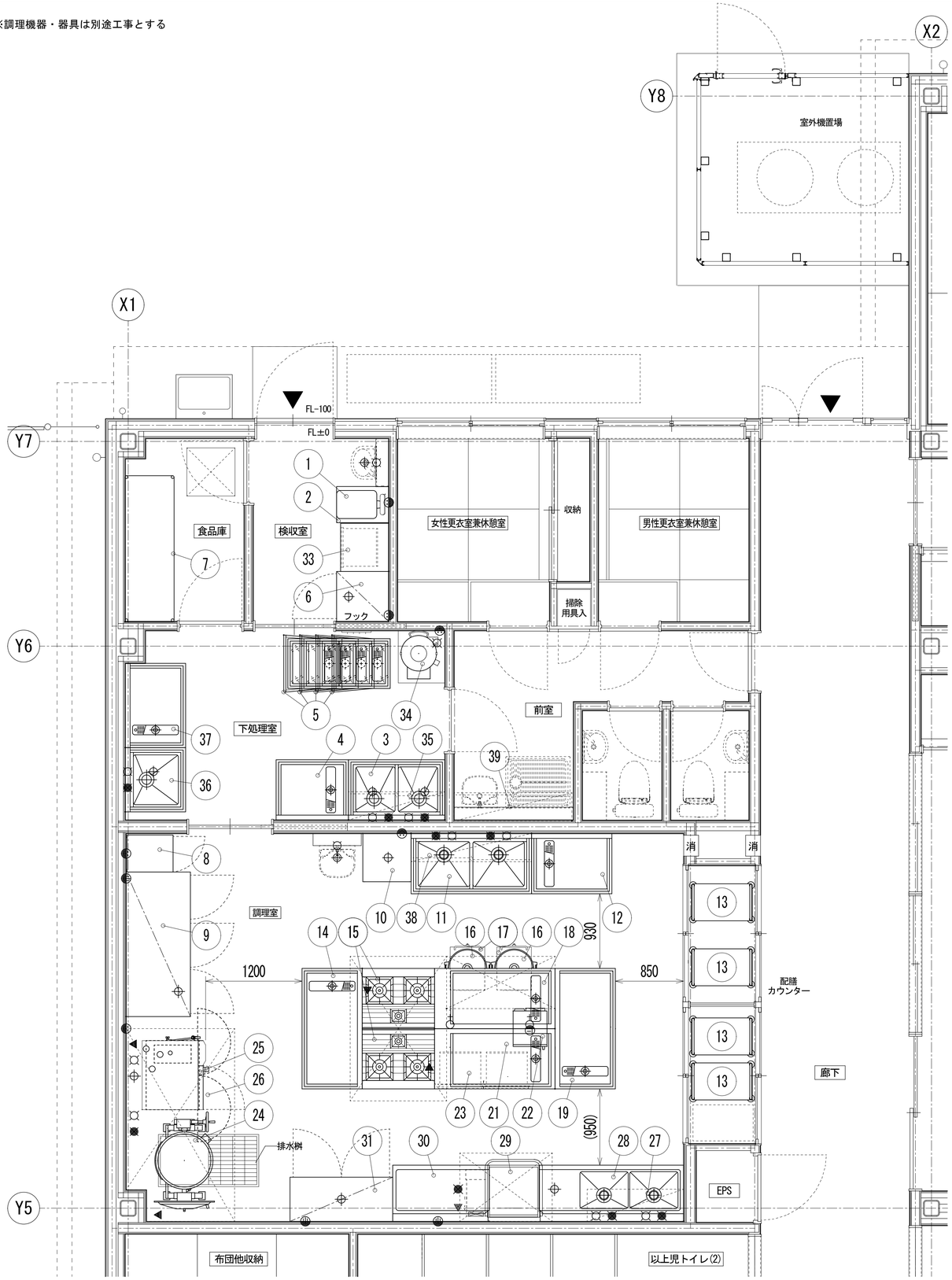
［4］ユニバーサルデザイン
　a．ピクトグラム表示や点字サインの導入を推奨する。

［5］取付位置・方法
　a．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
　b．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取り付けを行うこと。
　c．障害者用サインについては、自治体福祉要綱に基づき、係員と協議の上決定する。

［6］その他
　a．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
　　又、室名札脱着の際には　スライドロック機構、専用吸盤などを利用し
　　商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様とすること。
　b．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をすること。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	サイン詳細図(参考図)	縮尺	図示(A1) 図示/2(A3)	図面番号	A-28
			特記事項		特記事項		特記事項							

※調理機器・器具は別途工事とする



No.	品名	MODEL	台数	寸法(mm) 間口	奥行	高さ	配管接続口径(A) 給水	給湯	排水	ガス(kW) 口径(A)	消費量 kW	電気(kW) 1φ100V	1φ200V	3φ200V	フード	備考 KZ42-Y20B
1	デジタル台秤	DP-6701K-32-KS	1	350	605	802						0.01				秤量32Kg
2	秤置き台		1	650	450	500										
3	二槽シンク		1	1200	750	850	15x2	15x2	50x2							
4	水切り作業台		1	900	750	850			40							
5	スタッキングカート		4	675	620	800			40x4							
6	冷凍冷蔵庫	HRF-63AT-1-KS	1	625	650	1910			40			0.42				R:241リットル F:96リットル
7	ソリッドエレファントシェルフ	NS-TES-19-6118	1	1818	610	1930										棚4段
8	検食用冷凍ストッカー	VF-K120X-KS	1	460	585	1110						0.13				117リットル
9	冷凍冷蔵庫	HRF-180LAF3-2-KS	1	1800	800	1910			40					0.49		R:1049リットル F:492リットル
10	乾燥機付き包丁まな板殺菌庫	TNS-60HF2-KS	1	600	600	1800			25			0.33				包丁20本 まな板10枚 しゃもじ20本
11	二槽シンク		1	1500	750	850	15x2	15x2	50x2							
12	水切り作業台		1	1000	750	850			40							
13	配膳カート		4	755	460	1040										棚3段
14	水切り作業台		1	1500	750	850			40							
15	ガステーブル	TGTA-0921A-KS	2	900	750	850				20x2	40.1x2				GF	
16	炊飯器	RR-550CF-KS	2	569	485	447				ホース 13φx2	11x2				○	4~10リットル
17	スライド式炊飯台		2	430	540	240										
18	水切り作業台		1	1500	750	850			40							
19	水切り調理台		1	1500	750	850			40							中棚一段
20																
21	二段棚		1	1350	500	800										
22	電子レンジ	NE-1802VTA-KS	1	422	476	337							2.80			
23	水切り引出付調理台		1	1500	750	850			40							引出2ヶ
24	ガス煮炊釜	K1G2DX-10R(SF)-KS	1	1210	930	780	15	15	ピット	20	18				GF	55リットル
25	スチームコンベクションオーブン	TGSC-A10MKR-KS	1	860	790	1030	15 G.V		40 鋼管	15	34.9	0.54			GF	軟水器付、1/1ホテルパン10段 涼厨
26	スチコン専用架台		1	860	660	700										
27	ラックシェルフ		1	1200	400	一段										
28	ソイルドテーブル		1	1800	700	850	15x2	15x2	50x2							
29	ドアタイプ食器洗浄機	TDWG-6DR-KS	1	920	650	1448		15 G.V	40 耐熱管	15	18.6			4.70	○	59~106秒/ラック
30	クリーンテーブル		1	1200	700	850										
31	電気式食器消毒保管庫(片面)	TNHE-15-KS	1	1280	550	1900			25					6.50		カゴ収納数15個
32																
33	引出付作業台		1	600	600	850										引出1ヶ
34	球根皮剥機	P-47(1)-KS	1	442	600	850	15 G.V		ピット			0.40				13~15kg/回
35	吊戸棚		1	1200	350	600										中棚1段
36	一槽シンク		1	900	750	850	15x2	15x2	50x2							
37	水切り作業台		1	1050	750	850			40							
38	吊戸棚		1	1500	350	600										中棚1段
39	吊戸棚		1	(1470)	350	600										中棚1段
	総合設備容量										173.7	1.83	2.8	11.69		

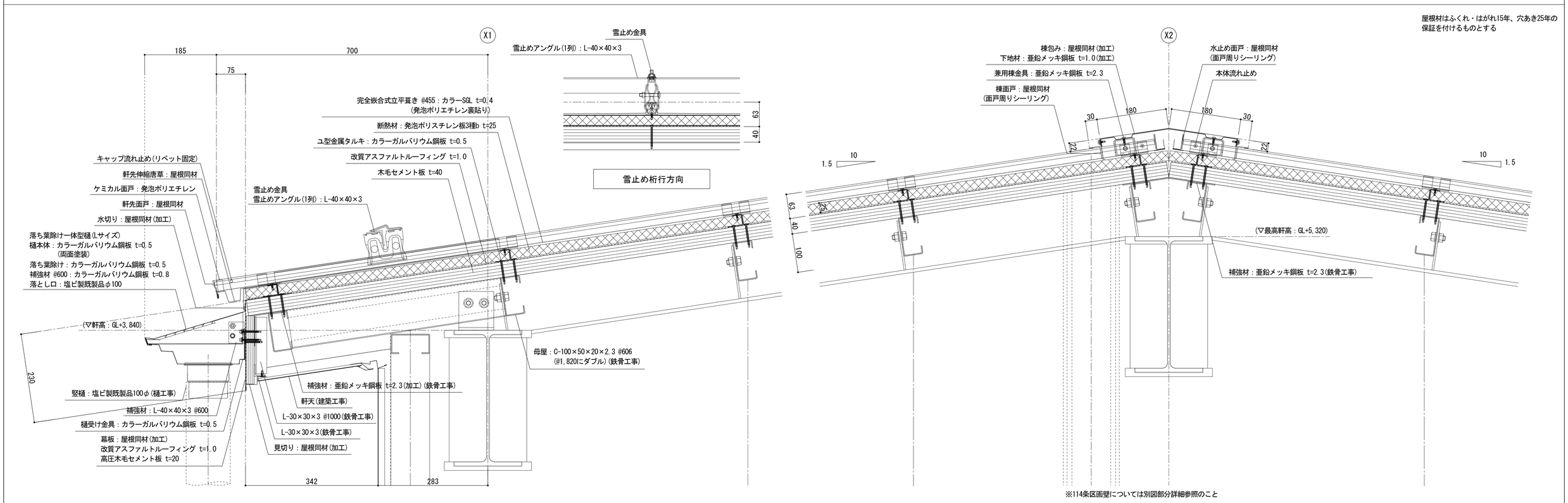
注記
別途工事…給水・給湯・排水・蒸気・ガス・電気等の一次側接続工事、給湯器、水栓、側溝、グリストラップ、手洗器、吊ボルト工事、壁下地補強
二次側接続工事(給水・給湯・排水・ガスの立上り配管への接続、手元開閉器及びコンセントへの接続)は工事に含む
本図面上でトラップ付属の厨房機器はシンク類・冷機器のみ。排水温度が100℃になる可能性がある機能製品には「鋼管」、80℃以下の機能製品には「耐熱管」と表記。
13の配膳カート選定においては配膳カウンター及び周辺の建具との調整を図ること。

設備シンボル凡例

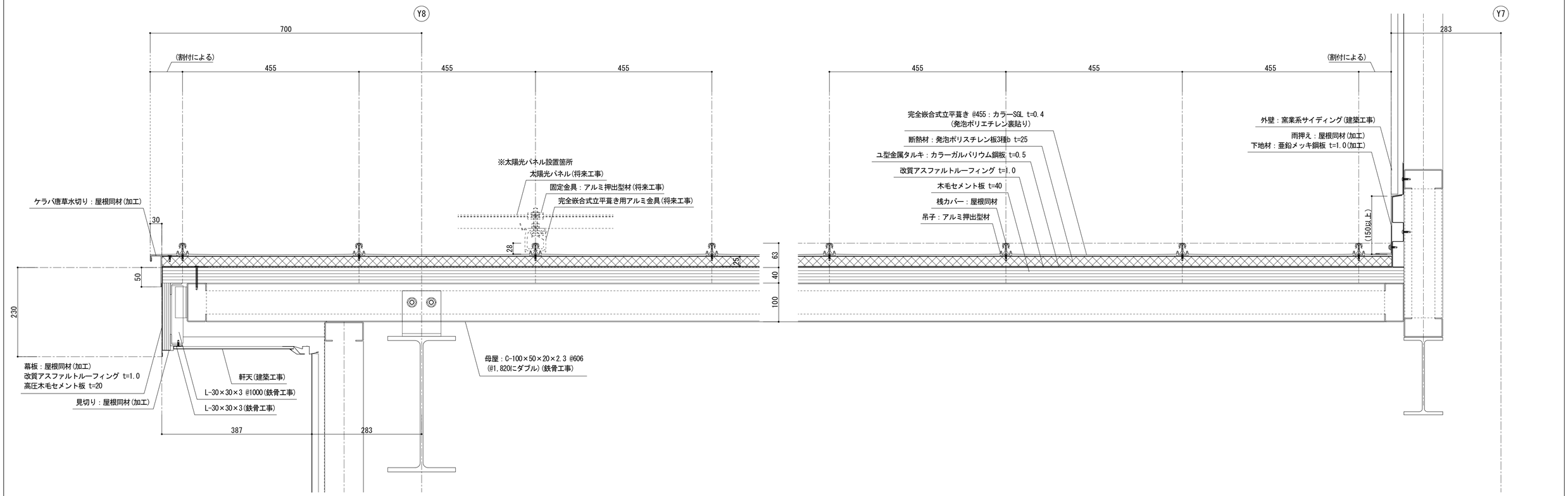
	給水		ガス		1φ100V		排気フード
	給湯		ガスホース		1φ200V		換気扇
	排水		冷却水		3φ200V		天井扇(HS)
	床排水		蒸気				

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	(仮称)千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日	図面名	調理室配置平面図・機器表(参考図)
			特記事項	特記事項	特記事項	縮尺	1/30(A1) 1/60(A3)
						図面番号	A-29

軒先・棟断面図

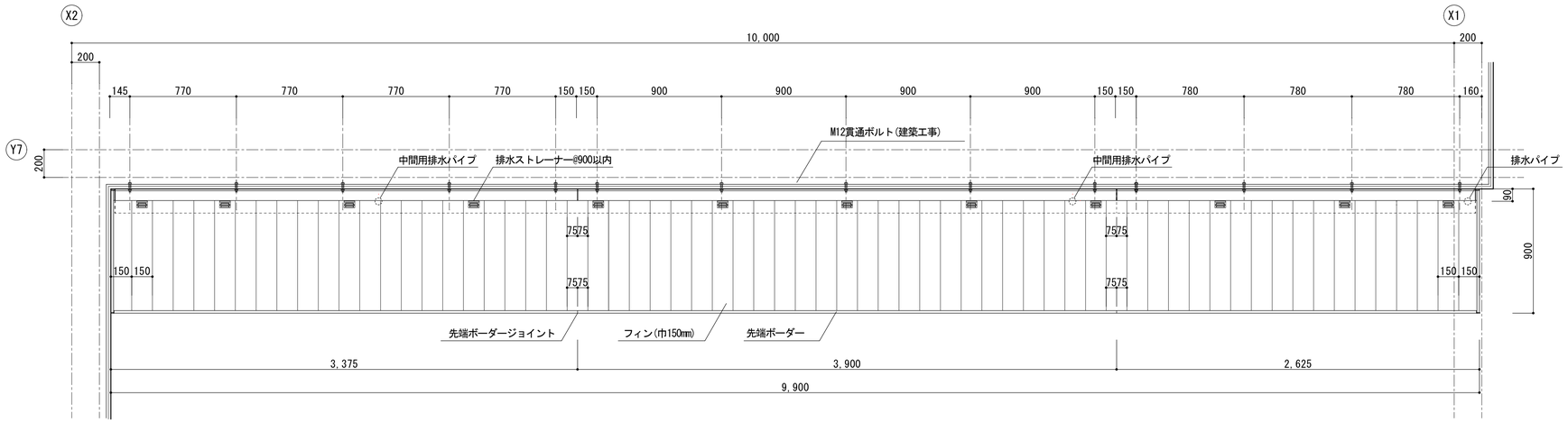


ケラバ・壁捨て谷断面図

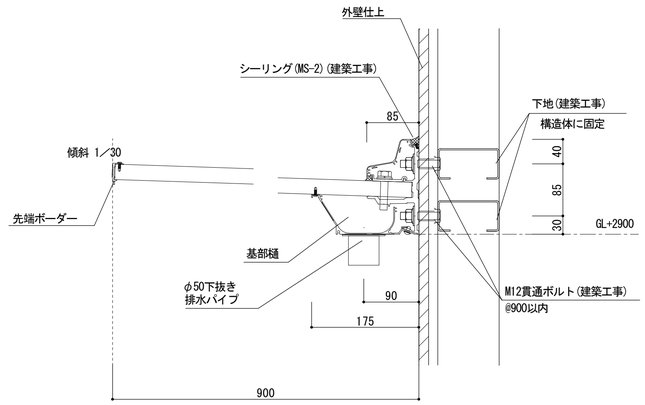


千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日	図面名	部分詳細図-1	縮尺	1/5(A1) 1/10(A3)	図面番号	A-30
			特記事項	特記事項	特記事項						

庇



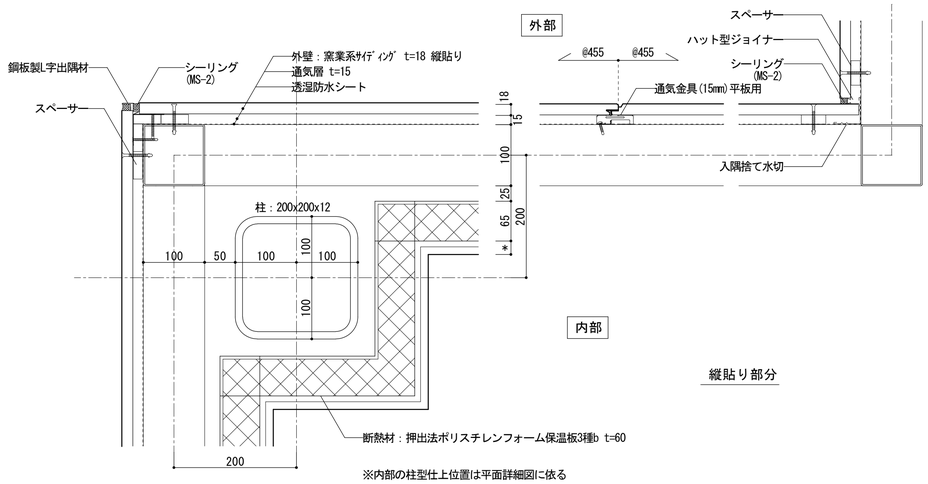
庇 平面図 S=1/20

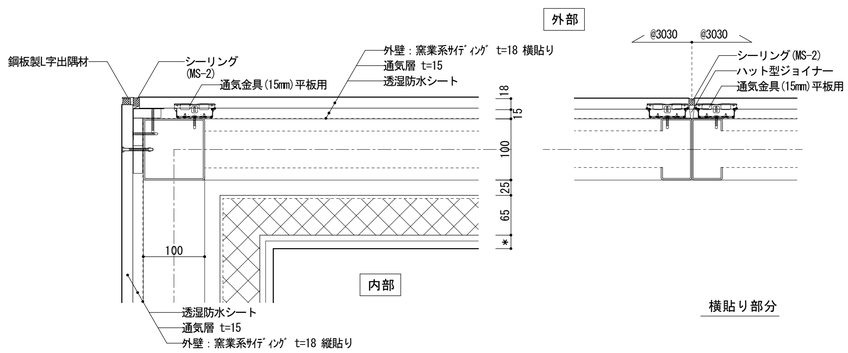


庇 断面図 S=1/5

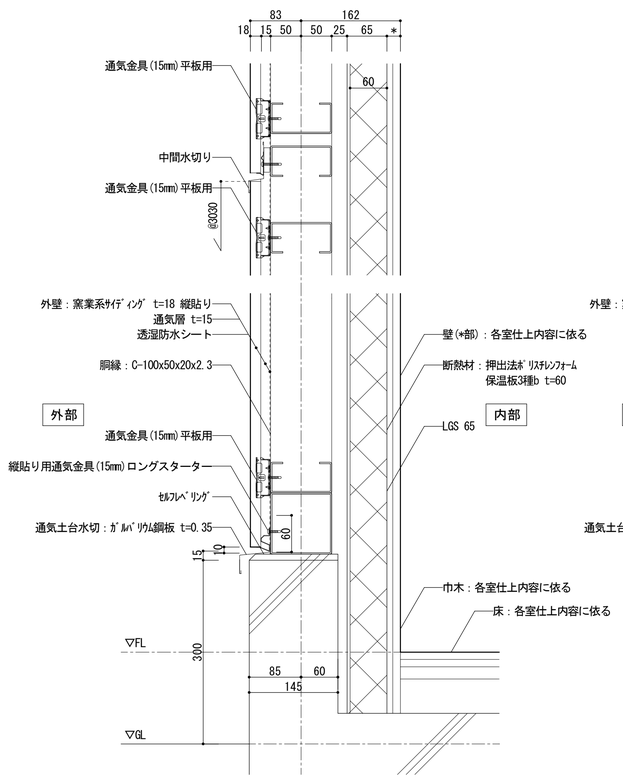
外壁

柱廻り・左右接合部・入隅平面図 S=1/5

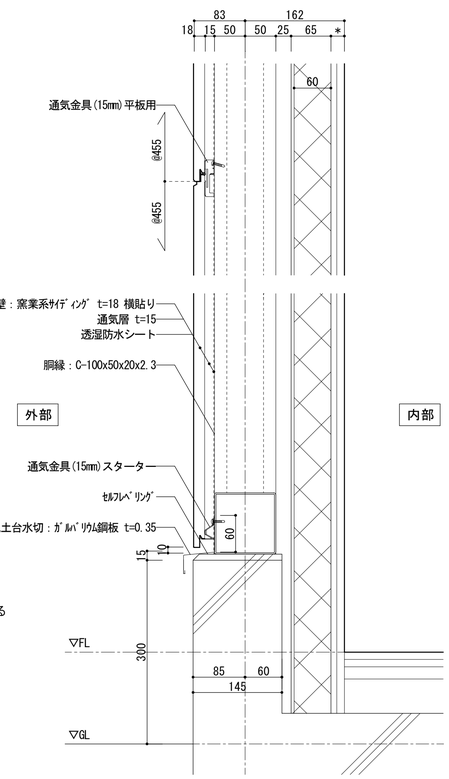




土台廻り・上下接合部断面図 S=1/5

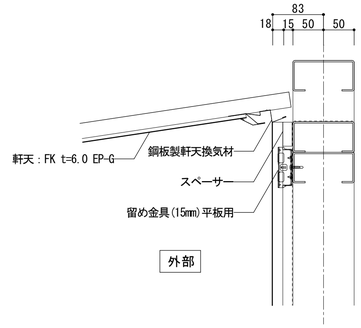


縦貼り部分

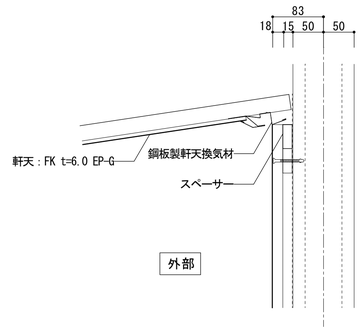


横貼り部分

軒天廻り断面図 S=1/5



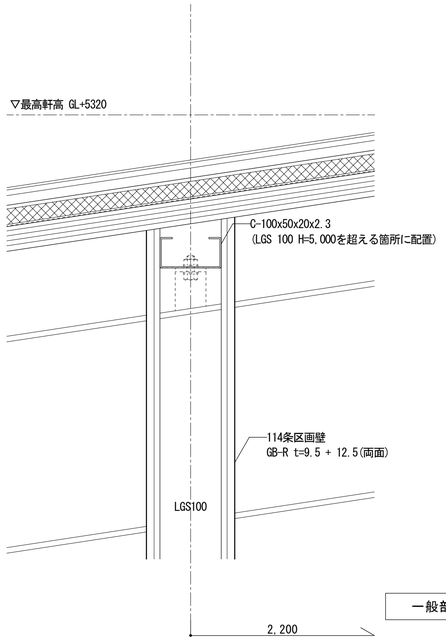
縦貼り部分



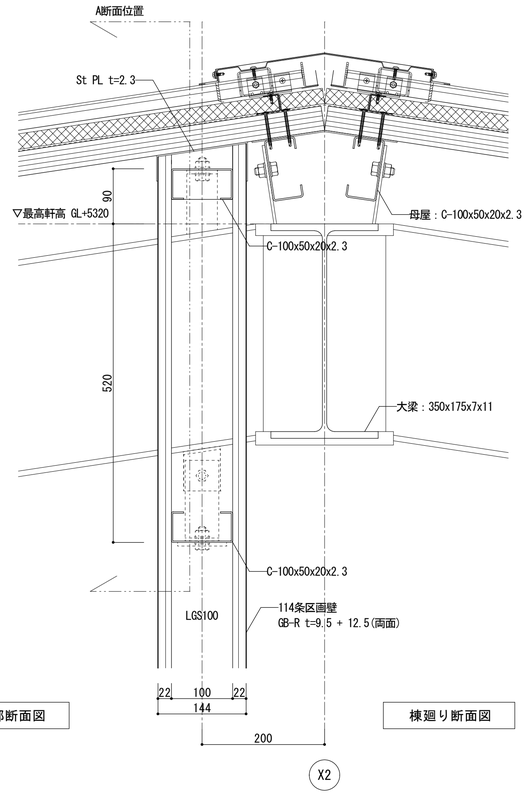
横貼り部分

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日	図面名	部分詳細図-2	縮尺	図示(A1) 図示/2(A3)	図面番号	A-31
			特記事項	特記事項	特記事項						

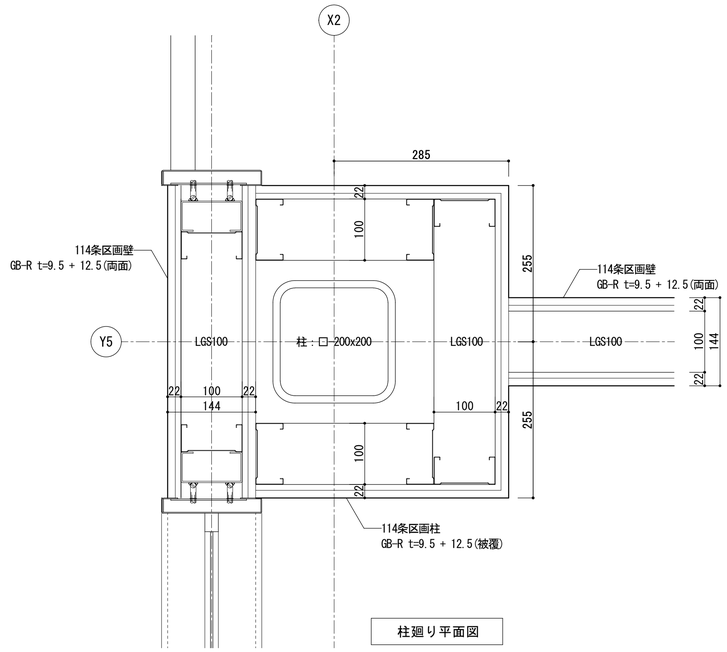
114条区画壁 S=1/5



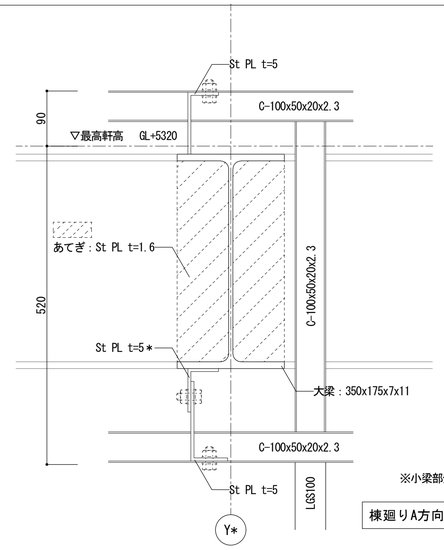
一般部断面図



棟廻り断面図



柱廻り平面図



※小梁部分では＊のPLを延長

棟廻りA方向断面図(参考図)

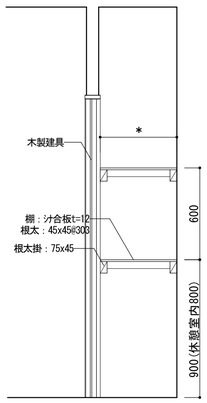
※令114条区画の形成方法
壁：鉄材下地 GB-R t=12.5 + 9.5(両面)
平成12年建設省告示第1358号 第1二ハ(ハ(1)(iv))
柱：鉄材下地 GB-R t=12.5 + 9.5(全周)
平成12年建設省告示第1358号 第2三(ハ(1)(iv))

※鋼材は全て錆止め塗装を行う

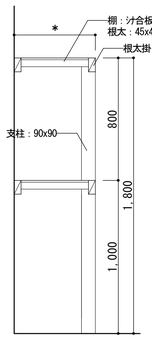
※告示仕様の令114条区画の壁の取合い部分、目地の部分、その他これらに類する部分については、炎の侵入を防止するため、すき間なく区画を形成し、やむを得ずすき間が生じた場合は、不燃パテ(大臣認定品)を充填する。

※棟廻りA方向断面図は取合い等の部分の裏面にあてぎを設けることで内部への炎の進入を有効に防止する方法の参考図であり、区画の形成方法については監督員と協議すること。

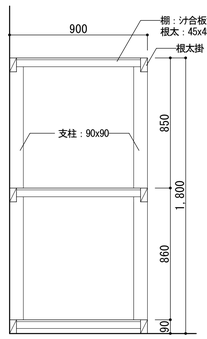
収納内固定棚・可動棚 S=1/20



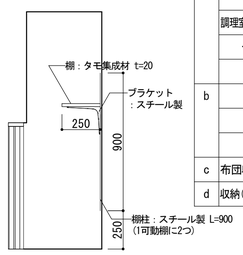
固定棚
a断面図



固定棚
b断面図



固定棚
c断面図

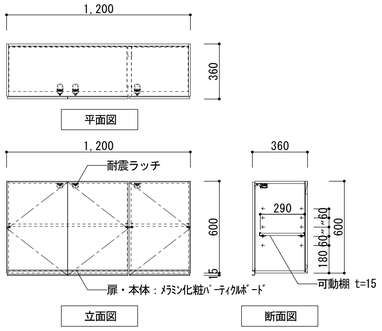


可動棚
d断面図

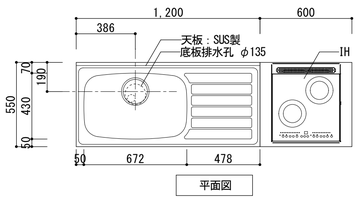
	室名	段数	奥行D(＊)	数量
a	0,1歳児室	2	600/800	1
		2	335	1
	1,2歳児室	2	600/800	1
	3歳以上児室(1)	2	600/800	1
	3歳以上児室(2)	2	600/800	1
	3歳以上児室(3)	1	棚d/490	1
	男性更衣室兼休憩室	2	500	1
	女性休憩室	2	500	1
	調理室女性更衣室兼休憩室	2	410	1
	一時預かり室	2	465	1
	通路	2	430	1
b	倉庫(1)	2	480	2
	倉庫(2)	2	530	2
	洗濯室	1	715	1
c	布団収納他(遊戯室内)	3	900	2
d	収納(3歳以上児室(3)内)	1	1150	4

※木材はUC塗装とする。

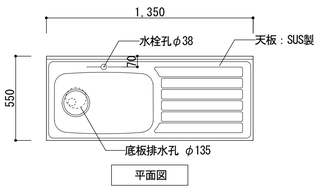
キッチンユニット・流し台・吊戸棚(既製品) S=1/20



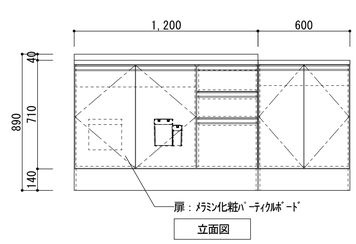
吊戸棚(共通)

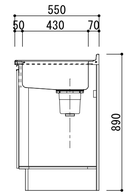


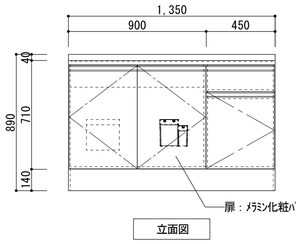
キッチンユニット

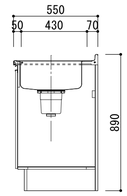


流し台





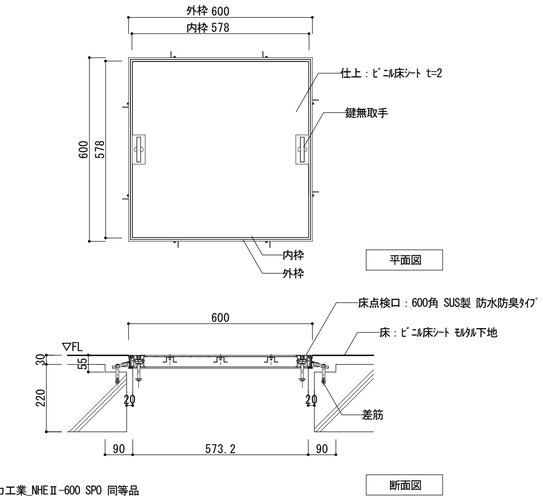




断面図

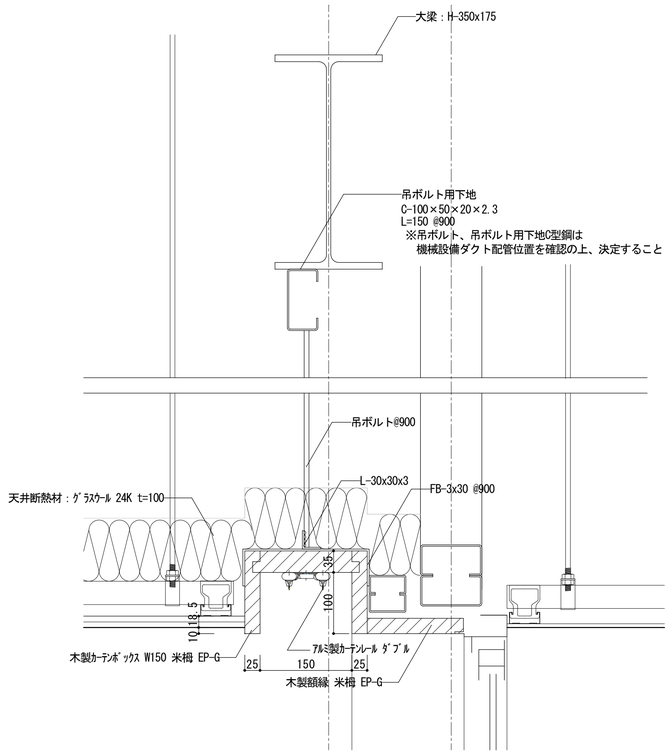
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	(仮称) 千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日	図面名	部分詳細図-3	縮尺	図示(A1) 図示/2(A3)	図面番号	A-32
			特記事項	特記事項	特記事項						

床下点検口(参考図)　S=1/10

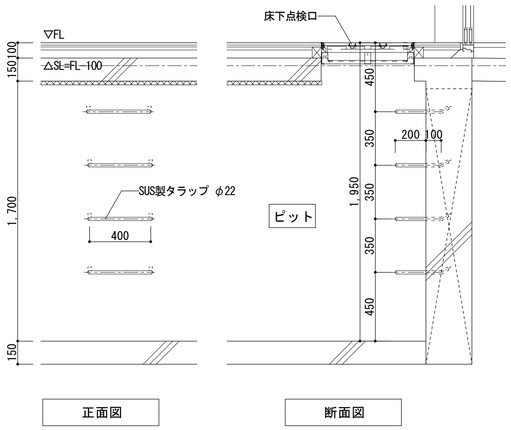


※ナカ工業_NHEⅡ-600 SPO 同等品

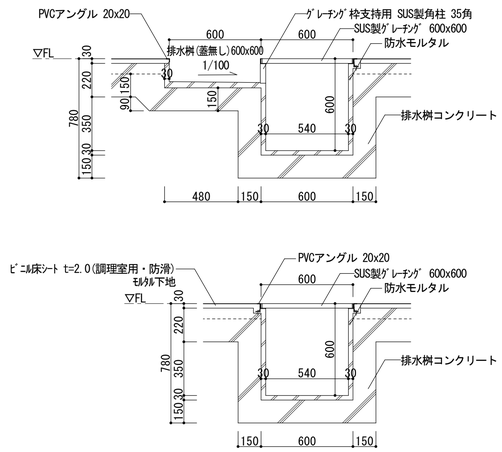
ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ　S=1/10



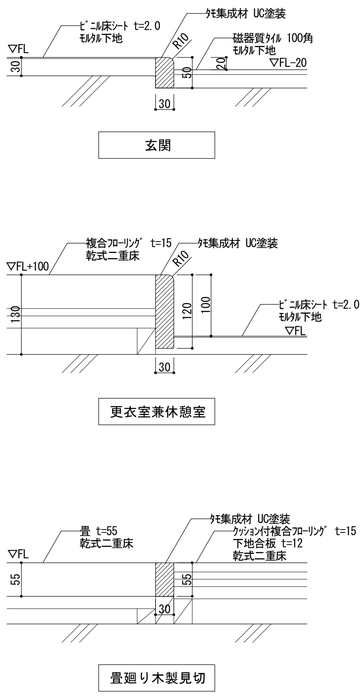
タラップ　S=1/20



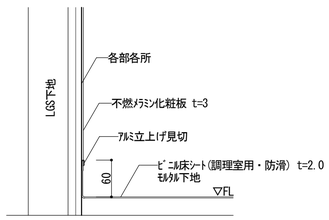
調理室排水桝　S=1/20



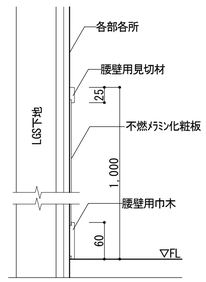
上り框・畳廻り木製見切　S=1/5



床立上り巾木　S=1/5

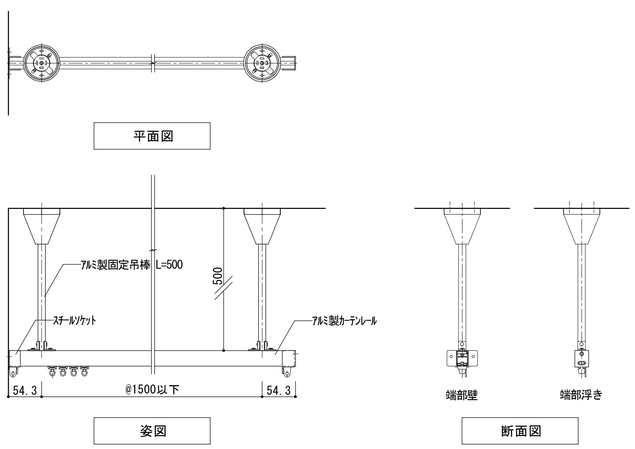


腰壁廻り　S=1/5

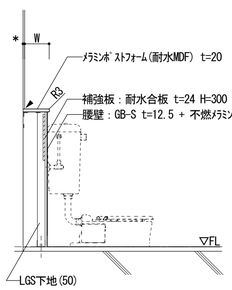


※AICA_腰壁システム 同等品

吊カーテンレール　S=1/5



ライニング　S=1/20

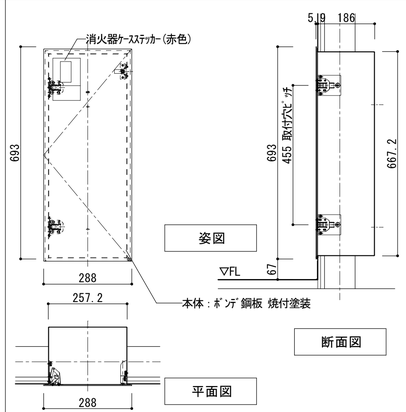


※H寸法は、展開図による
※他のライニングも同様とする
※＊はLGS上の仕上厚とする
ただし、114条区画壁の場合は
GB-R t=9.5 + 12.5の厚みを除く
※114条区画壁の部分は
ライニング裏の壁を床まで
たち下げるものとする

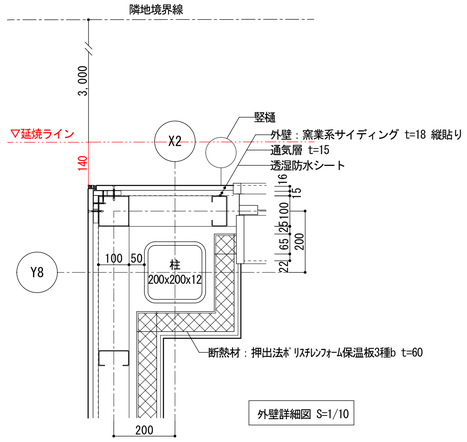
※補強板サイズ
・小便器：H=200×2箇所
・SK：H=450
・汚物流し：H=200

※その他補強が必要な部分は、
適切な位置に設置すること。

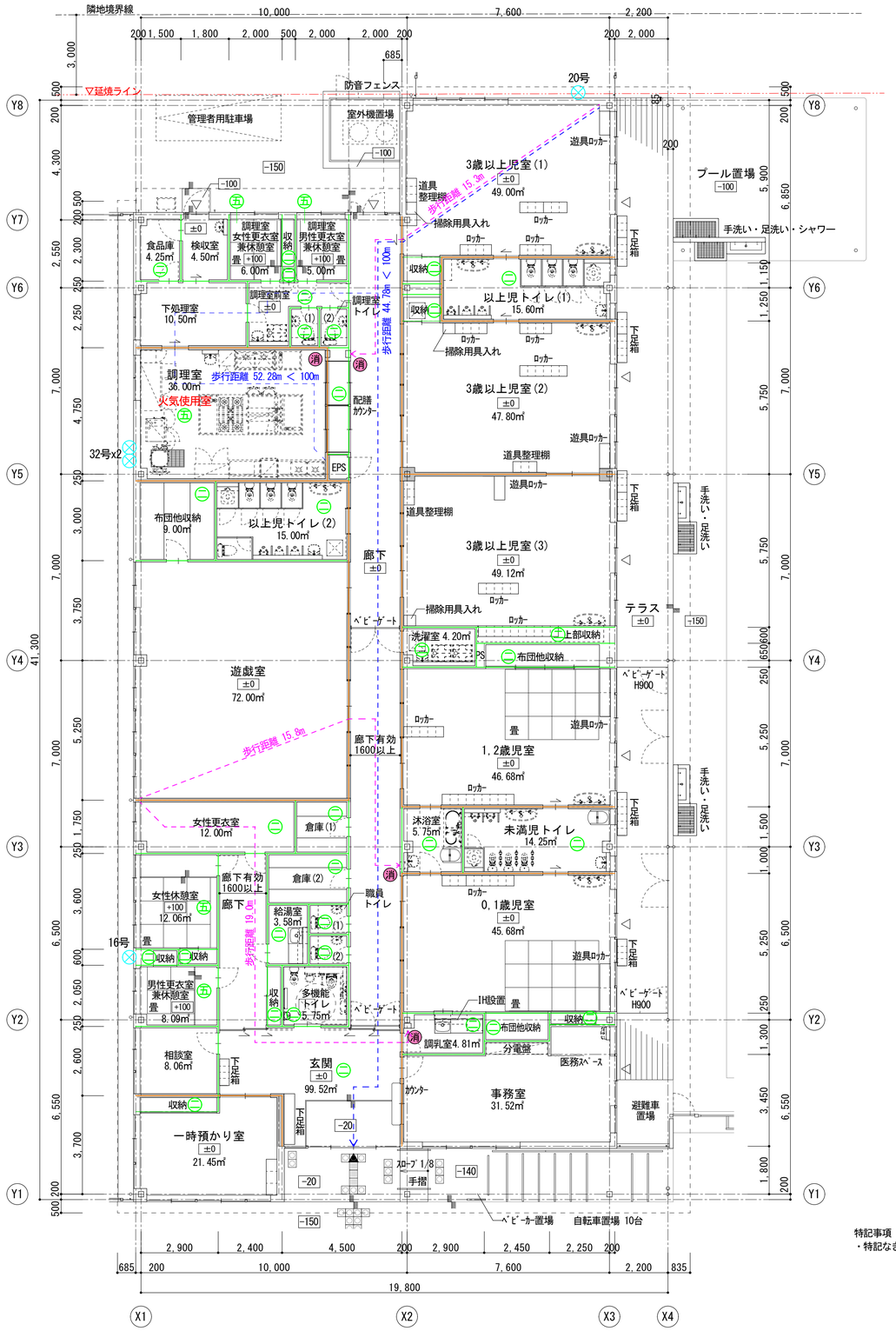
消火器埋込ボックス(参考図)　S=1/10



千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	図面名	部分詳細図-4	縮尺	図示(A1) 図示/2(A3)	図面番号	A-33



外壁詳細図 S=1/10



1階平面図 S=1/100

凡例

令114条2項　防火上主要な間仕切壁(45分準耐火)位置を示す
小屋裏又は天井裏まで達せしめる
防煙区画を兼ねる
3室以下かつ100㎡以内ごとに区画する

防煙区画
㊀：告示H12.1436号4号ヘ(2)防煙区画H=500
㊄：告示H12.1436号4号ヘ(5)下地仕上不燃(壁・天井)

※自然排煙とする居室の防煙壁は不燃材で覆うものとする。
※H=500に満たない防煙垂壁は、
H=300以上の垂壁と常時閉鎖式の不燃扉により、防煙壁に替わるものとする

：居室から屋外の出口の一に至る歩行距離(50×2=100m以下(令120条1項表(2)、令125条1項))
※出口に設ける施錠装置は、屋内から鍵を用いることなく開錠できるものとし、
該当戸の近くの見やすい場所にその開錠方法を表示する。

延焼の恐れのある部分
外壁の開口部：防火設備（法2条9号-2ロ）
外壁：防火構造
該当範囲無し

・必ず建物北東側外壁が延焼ラインに干渉しないようにすること。
干渉した場合は延焼のおそれのある部分の外壁を防火構造、開口部を防火設備とすること。

消防法関係

当該建築物：防火対象物　6項（ハ）3

：消火器設置位置を示す（粉末〈ABC〉10型）
（強化液消火器：調理室のみ）

：給湯器位置を示す

（歩行距離については、最大部分を示す、20m以下）

収容人員
児童：88人，職員：37人

キュービクル無し

準耐火構造 ロ-2 かつ　壁及び天井の仕上 難燃以上
延床面積1400㎡以下のため、屋内消火栓設備設置免除

無窓階判定：必要開口面積(1/30) 26.22 ㎡ < 有効開口面積 28.95㎡ →有窓階

火気ダクトは亜鉛鉄板製スパイラルダクトとし、遮熱処理を実施する。

特記事項
・特記なき限り、基準FL=設計GL+150 とする。

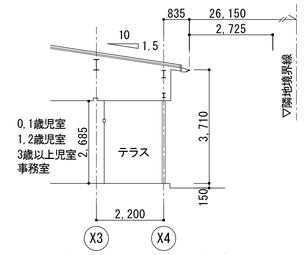
凡例
±0 基準FLからの高低差を示す
114条2項 区画壁
点字タイル(警告ブロック)
点字タイル(誘導ブロック)
床下点検口 600角
消 消火器ABC粉末10号(壁埋込BOX共)
▼ 主要な出入口
▽ 出入口

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	法規チェック-1	縮尺	1/100(A1) 1/200(A3)	図面番号	A-34
			特記事項		特記事項		特記事項							

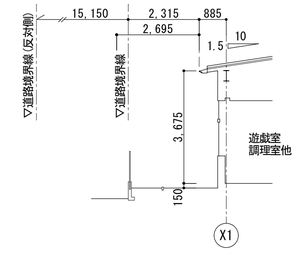
■採光面積検討

階	室名	室面積	天井高	採光面積検討	必要面積	有効面積	建具記号	W	H	箇所	係数	採光補正係数
1	0.1歳児室	45.68㎡	2,700mm	(1/5)	9.14 ㎡	10.14 ㎡	AD-2	1.8	2.685	1	2.1 = 10.14	2725/3710x6-1.4≒3 3x0.7(縁側)=2.1
1	1,2歳児室	46.68㎡	2,700mm	(1/5)	9.34 ㎡	10.14 ㎡	AD-2	1.8	2.685	1	2.1 = 10.14	2725/3710x6-1.4≒3 3x0.7(縁側)=2.1
1	3歳以上児室(1)	49.00㎡	2,700mm	(1/5)	9.80 ㎡	10.71 ㎡	AD-1	1.9	2.685	1	2.1 = 10.71	2725/3710x6-1.4≒3 3x0.7(縁側)=2.1
1	3歳以上児室(2)	47.80㎡	2,700mm	(1/5)	9.56 ㎡	10.71 ㎡	AD-1	1.9	2.685	1	2.1 = 10.71	2725/3710x6-1.4≒3 3x0.7(縁側)=2.1
1	3歳以上児室(3)	49.12㎡	2,700mm	(1/5)	9.83 ㎡	10.71 ㎡	AD-1	1.9	2.685	1	2.1 = 10.71	2725/3710x6-1.4≒3 3x0.7(縁側)=2.1
1	遊戯室	72.00㎡	2,700mm	(1/5)	14.4 ㎡	26.37 ㎡	AW-10	4.925	1.785	1	3.0 = 26.37	2695/3675x6-1.4=3
1	事務室	31.52㎡	2,700mm	(1/20)	1.58 ㎡	7.85 ㎡	AD-3	1.87	2.0	1	2.1 = 7.85	2725/3710x6-1.4≒3 3x0.7(縁側)=2.1
1	男性更衣室兼休憩室	8.09㎡	2,700mm	(1/20)	0.41 ㎡	4.50 ㎡	AW-7	1.7	0.885	1	3.0 = 4.50	2695/3675x6-1.4=3
1	女性休憩室	12.06㎡	2,700mm	(1/20)	0.61 ㎡	9.00 ㎡	AW-8	1.7x2	0.885	1	3.0 = 9.00	2695/3675x6-1.4=3
1	調理室	36.00㎡	2,500mm	(1/20)	1.80 ㎡	2.98 ㎡	AW-12	1.7	0.585	1	3.0 = 2.98	2695/3675x6-1.4=3
1	下処理室	10.50㎡	2,300mm	(1/20)	0.53 ㎡	2.04 ㎡	AW-13	1.7	0.4	1	3.0 = 2.04	2695/3675x6-1.4=3
1	検収室	4.50㎡	2,300mm	(1/20)	0.23 ㎡	1.91 ㎡	AD-6	0.75	0.85	1	3.0 = 1.91	3625/4940x6-1.4=3
1	調理室 男性更衣室兼休憩室	5.00㎡	2,700mm	(1/20)	0.25 ㎡	4.77 ㎡	AW-14	1.8	0.885	1	3.0 = 4.77	3625/4940x6-1.4=3
1	調理室 女性更衣室兼休憩室	6.00㎡	2,700mm	(1/20)	0.30 ㎡	4.77 ㎡	AW-14	1.8	0.885	1	3.0 = 4.77	3625/4940x6-1.4=3
1	一時預かり室	21.45㎡	2,700mm	(1/5)	4.29 ㎡	12.34 ㎡	AW-5	2.77	1.485	1	3.0 = 12.34	2695/3675x6-1.4=3
1	相談室	8.06㎡	2,700mm	(1/20)	0.41 ㎡	7.12 ㎡	AW-6	1.6	1.485	1	3.0 = 7.12	2695/3675x6-1.4=3

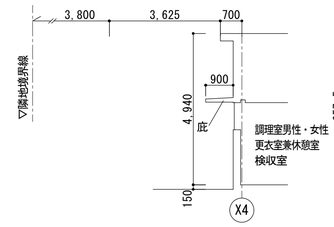
■採光補正係数

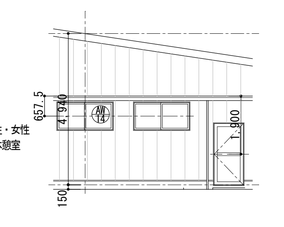


d=2725は、hを最も不利なFLから軒先までの高さ3710、かつ、採光補正係数を3として求めた。



d=2695は、hを最も不利な1FLから軒先までの高さ3675、かつ、採光補正係数を3として求めた。





d=3625は、hを最も不利なFLから軒先まで(調理室男性更衣室兼休憩室のAW-14の中心の位置で)の高さ4940、採光補正係数を3として求めた。

■換気面積検討 (1/20)

階	室名	室面積	天井高	必要面積	有効面積	建具記号	W	H	箇所
1	0.1歳児室	45.68㎡	2,700mm	2.284 ㎡	2.51 ㎡	AD-2	0.875 0.85	2.0 0.9	1 1
1	1,2歳児室	46.68㎡	2,700mm	2.34 ㎡	2.51 ㎡	AD-2	0.875 0.85	2.0 0.9	1 1
1	3歳以上児室(1)	49.00㎡	2,700mm	2.45 ㎡	2.68 ㎡	AD-1	0.925 0.925	2.0 0.9	1 1
1	3歳以上児室(2)	47.80㎡	2,700mm	2.39 ㎡	2.68 ㎡	AD-1	0.925 0.925	2.0 0.9	1 1
1	3歳以上児室(3)	49.12㎡	2,700mm	2.456 ㎡	2.68 ㎡	AD-1	0.925 0.925	2.0 0.9	1 1
1	遊戯室	72.00㎡	2,700mm	3.60 ㎡	4.18 ㎡	AW-10 AW-11	0.77x3 0.82	1.10 2.0	1 1
1	事務室	31.52㎡	2,700mm	1.58 ㎡	1.82 ㎡	AD-3	0.91	2.0	1
1	男性更衣室兼休憩室	8.09㎡	2,700mm	0.41 ㎡	0.73 ㎡	AW-7	0.825	0.885	1
1	女性休憩室	12.06㎡	2,700mm	0.61 ㎡	1.46 ㎡	AW-8	0.825x2	0.885	1
1	調理室	36.00㎡	2,500mm	1.80 ㎡	換気無窓				
1	下処理室	10.50㎡	2,300mm	0.53 ㎡	0.63 ㎡	AW-13	0.79x2	0.4	1
1	検収室	4.50㎡	2,300mm	0.23 ㎡	1.9 ㎡	AD-6	0.95	2.0	1
1	調理室 男性更衣室兼休憩室	5.00㎡	2,700mm	0.25 ㎡	0.77 ㎡	AW-14	0.875	0.885	1
1	調理室 女性更衣室兼休憩室	6.00㎡	2,700mm	0.30 ㎡	0.77 ㎡	AW-14	0.875	0.885	1
1	一時預かり室	21.45㎡	2,700mm	1.08 ㎡	2.59 ㎡	AW-4	0.875x2	1.485	1
1	相談室	8.06㎡	2,700mm	0.41 ㎡	1.15 ㎡	AW-6	0.775	1.485	1

■排煙面積検討 (1/50)

階	室名	室面積	天井高	必要面積	有効面積	建具記号	W	H	箇所
1	0.1歳児室	45.68㎡	2,700mm	0.92 ㎡	1.83 ㎡	AD-2	0.815x2 0.840x2	0.555 0.555	1 1
1	1,2歳児室	46.68㎡	2,700mm	0.94 ㎡	1.83 ㎡	AD-2	0.815x2 0.840x2	0.555 0.555	1 1
1	3歳以上児室(1)	49.00㎡	2,700mm	0.98 ㎡	1.97 ㎡	AD-1	0.89x4	0.555	1
1	3歳以上児室(2)	47.80㎡	2,700mm	0.96 ㎡	1.97 ㎡	AD-1	0.89x4	0.555	1
1	3歳以上児室(3)	49.12㎡	2,700mm	0.99 ㎡	1.97 ㎡	AD-1	0.89x4	0.555	1
1	遊戯室	72.00㎡	2,700mm	1.44 ㎡	1.82 ㎡	AW-11	1.645x2	0.555	1
1	事務室	31.52㎡	2,700mm	0.64 ㎡	0.97 ㎡	AD-3	0.875x2	0.555	1
1	男性更衣室兼休憩室	8.09㎡	2,700mm	0.17 ㎡	0.56 ㎡	AW-7	0.825	0.685	1
1	女性休憩室	12.06㎡	2,700mm	0.25 ㎡	1.13 ㎡	AW-8	0.825x2	0.685	1
1	調理室	36.00㎡	2,500mm	0.72 ㎡	有効面積	排煙無窓			
1	下処理室	10.50㎡	2,300mm	0.21 ㎡	0.44 ㎡	AW-13	0.79x2	0.4	1/√2
1	検収室	4.50㎡	2,300mm	0.09 ㎡	0.17 ㎡	AD-6	0.95	0.18	1
1	調理室 男性更衣室兼休憩室	5.00㎡	2,700mm	0.1 ㎡	0.59 ㎡	AW-14	0.875	0.685	1
1	調理室 女性更衣室兼休憩室	6.00㎡	2,700mm	0.12 ㎡	0.59 ㎡	AW-14	0.875	0.685	1
1	一時預かり室	21.45㎡	2,700mm	0.43 ㎡	1.19 ㎡	AW-4	0.875x2	0.685	1
1	相談室	8.06㎡	2,700mm	0.17 ㎡	0.53 ㎡	AW-6	0.775	0.685	1

■消防無窓階算定

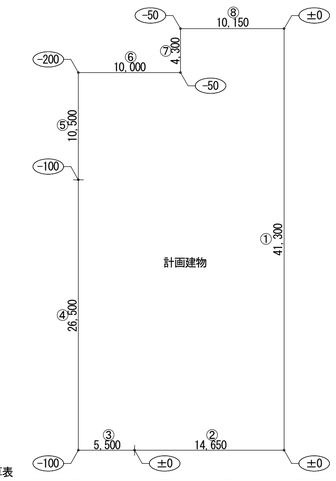
床面積：786.58 ㎡

必要開口面積(1/30)：26.22 ㎡ ＜ 有効面積 28.95㎡ → 有窓階

建具記号	W	H	箇所
AD-1	1.9/2	2.0	3 = 5.70
	1.9/2	0.9	3 = 2.56
AD-2	1.8/2	2.0	2 = 3.60
	1.75/2	0.9	2 = 1.57
AD-3	1.87/2	2.0	1 = 1.87
AD-5	1.25	2.0	1 = 2.50
AD-6	0.95	2.0	1 = 1.90
AW-4	1.8/2	1.485	2 = 2.67
AW-5	1.8/2	1.485	1 = 1.33
AW-10	1.595/2	1.1	3 = 2.63
AW-11	1.695/2	1.1	1 = 0.93
	1.695/2	2.0	1 = 1.69

※各建具は、強化ｶﾞﾗｽ t=5以下＋強化ｶﾞﾗｽ t=5以下の範囲にクレセント錠を設ける。

■平均地盤算定図 (S=1/250)



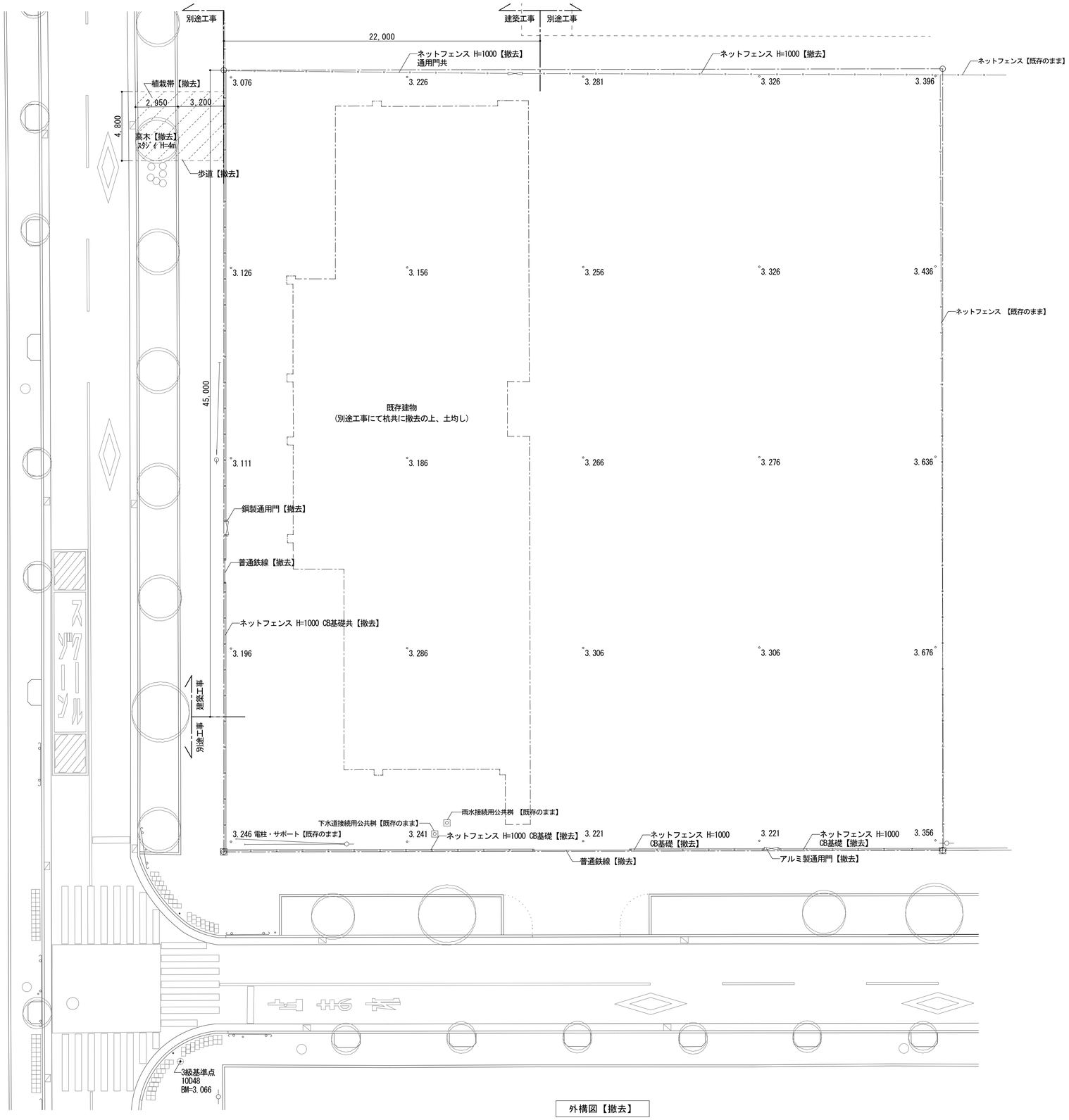
座標面積計算表

区間	建物周長	地盤高さ		平均高さ	建物周長×平均高さ
①	41.300	0.000	0.000	0.000	0.000000
②	14.650	0.000	0.000	0.000	0.000000
③	5.500	0.000	-0.100	-0.050	-0.275000
④	26.500	-0.100	-0.100	-0.100	-2.650000
⑤	10.500	-0.100	-0.200	-0.150	-1.575000
⑥	10.000	-0.200	-0.050	-0.125	-1.250000
⑦	4.300	-0.050	-0.050	-0.050	-0.215000
⑧	10.150	-0.050	0.000	-0.025	-0.253750
計	122.900				-6.218750

平均地盤 ＝ -6.218750 ÷ 122.900 ＝ -0.050600　　平均地盤 ＝ 設計GL -0.06m

(±0)：地盤高さ(設計GLからの高低差)を表す
設計GL=BM+0.334

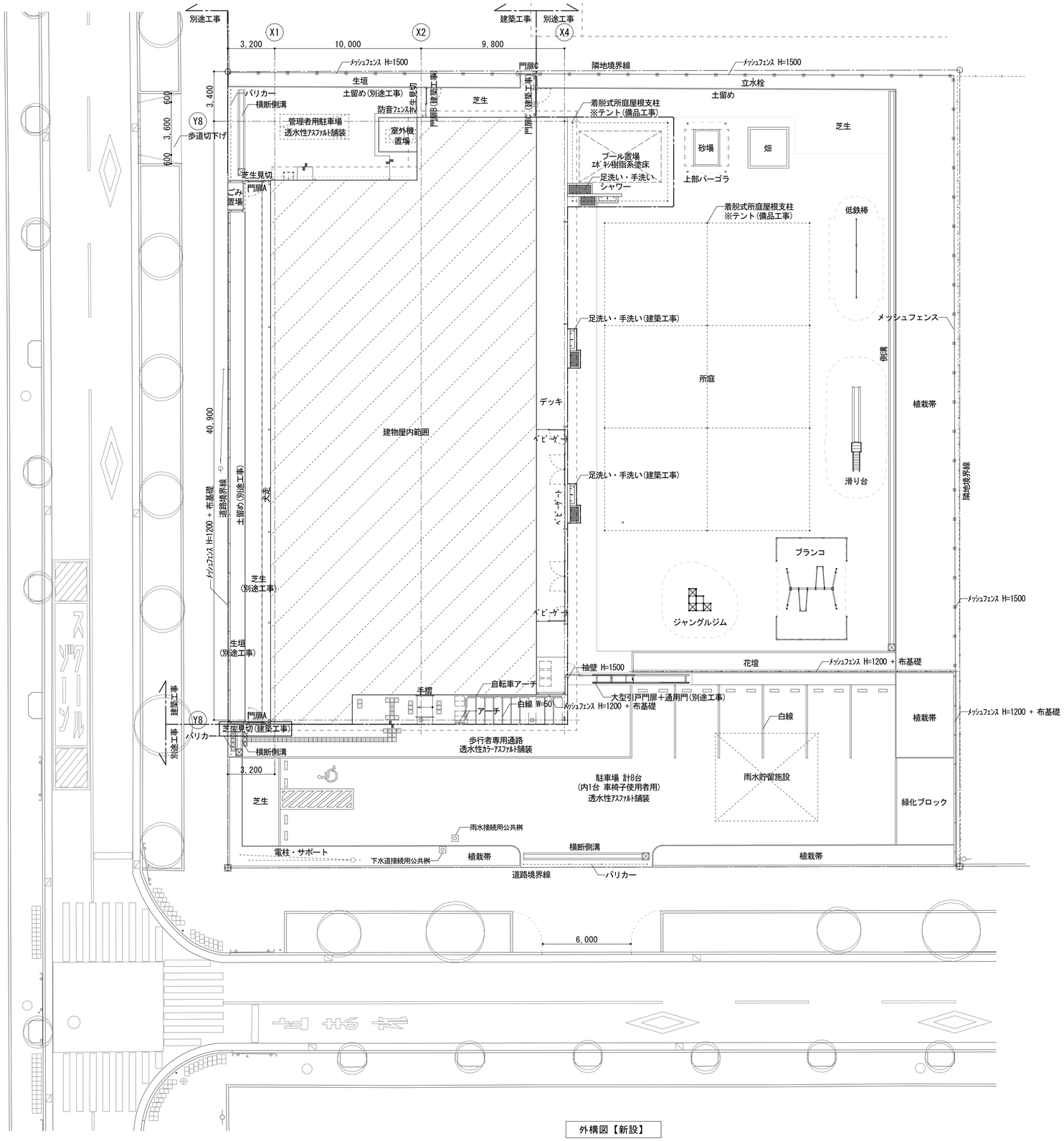
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	法規チェック-2	縮尺	図示(A1) 図示/2(A3)	図面番号	A-35
			特記事項		特記事項		特記事項							



外構図【撤去】

特記事項
・建築工事と別途工事は ──・── 線部で区切るものとし
区画内のものの内、新設のごみ置場のみ別途工事とする。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	外構図-1	縮尺	1/150(A1) 1/300(A3)	図面番号	A-36
			特記事項		特記事項		特記事項							

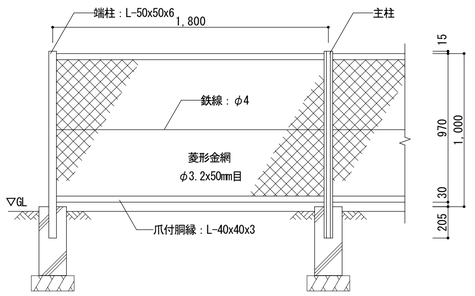


外構図【新設】

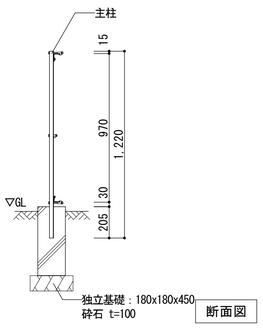
特記事項
・建築工事は特記なき限り　　の範囲とする。
　範囲外のもので、＊＊＊(建築工事)部分は建築工事とする。
・植栽工事は全て別途工事とする。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名 外構図-2
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺 1/150(A1) 1/300(A3)
									図面番号 A-37

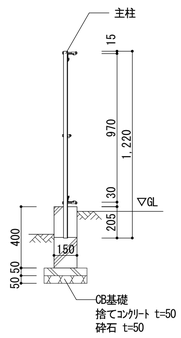
ネットフェンス【撤去】 S=1/20



姿図

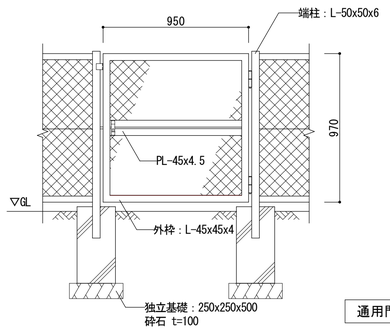


断面図



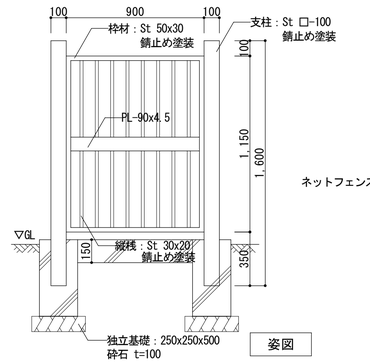
断面図

CB基礎部

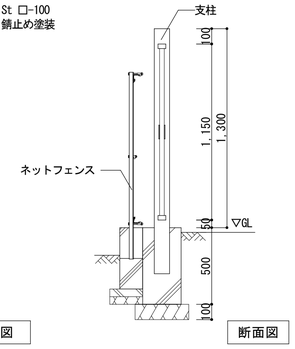


通用門姿図

鋼製通用門【撤去】 S=1/20

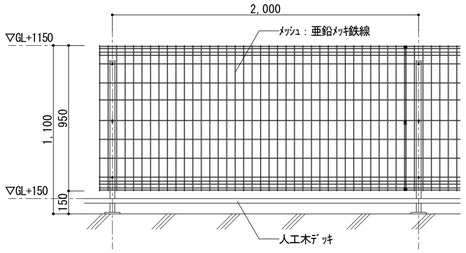


姿図

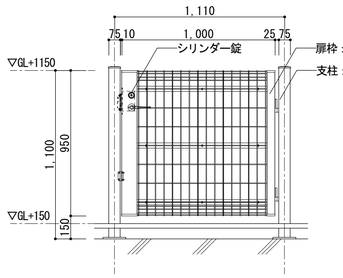


断面図

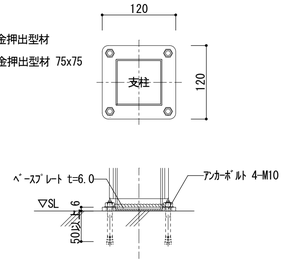
ﾍﾞﾋﾞｰｹﾞｰﾄ(参考図) S=1/20



一般部姿図

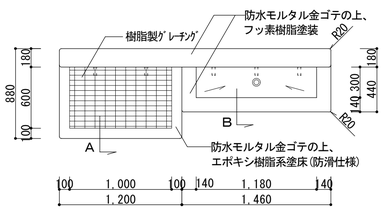


扉部姿図

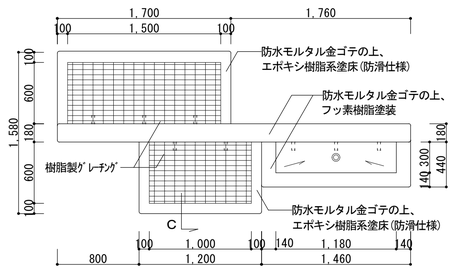


ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ詳細図 S=1/5

手洗い・足洗い・シャワー S=1/20



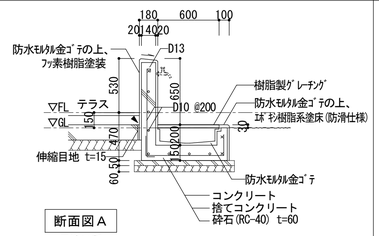
手洗い・足洗い平面図



手洗い・足洗い・シャワー平面図

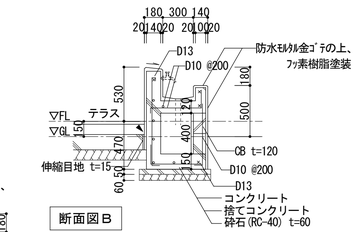
▶：シーリング (MS-2)

※端部は必ずR加工すること



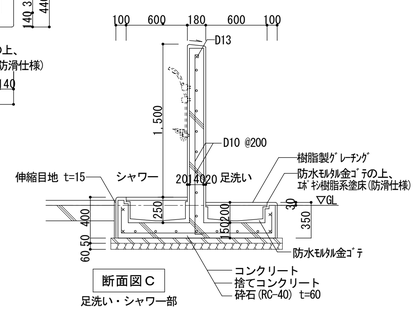
断面図A

足洗い部



断面図B

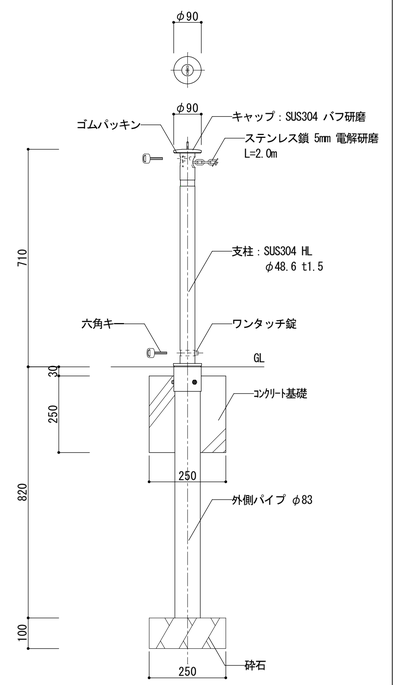
手洗い部



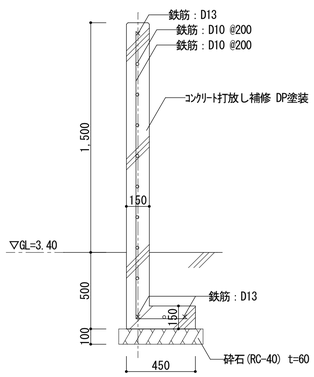
断面図C

足洗い・シャワー部

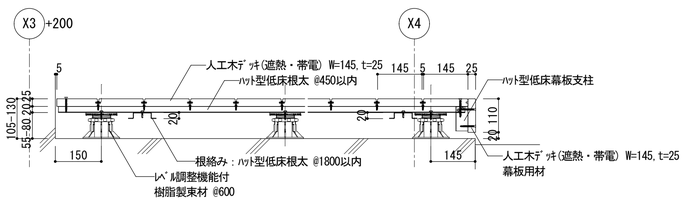
バリカー(参考図) S=1/10



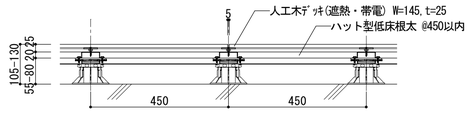
袖壁 S=1/20



人工木デッキ(参考図) S=1/10

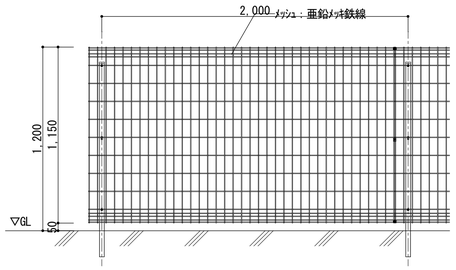


扉部姿図

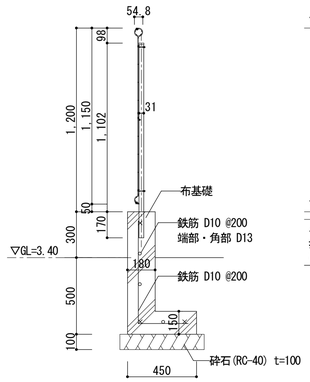


千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	図面名 外構詳細図-1	縮尺 図示(A1) 図示/2(A3)	図面番号 A-38

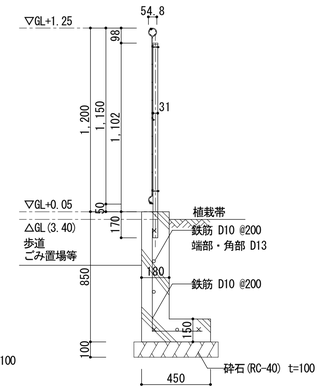
メッシュフェンス(参考図)　　S=1/5,20



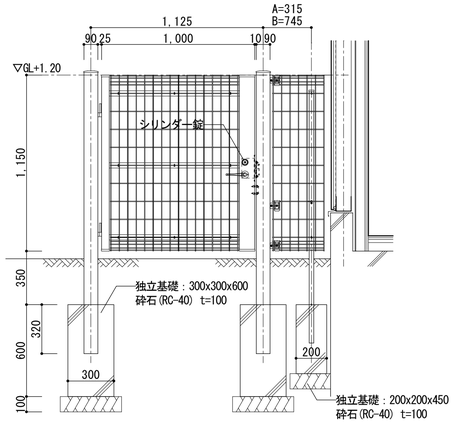
H=1200 姿図



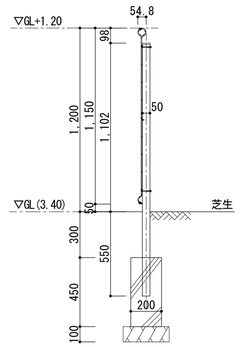
自転車置場廻り断面図



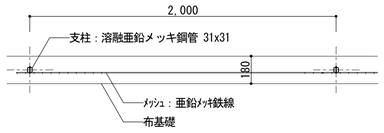
生垣廻り断面図



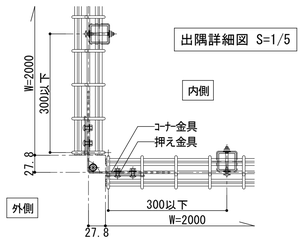
門扉A,B 姿図



門扉A,B廻り 断面図

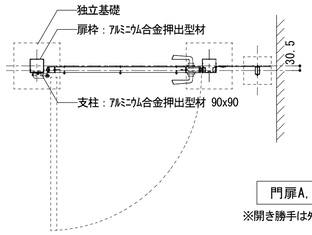


H=1200 平面図



出隅詳細図 S=1/5

内側

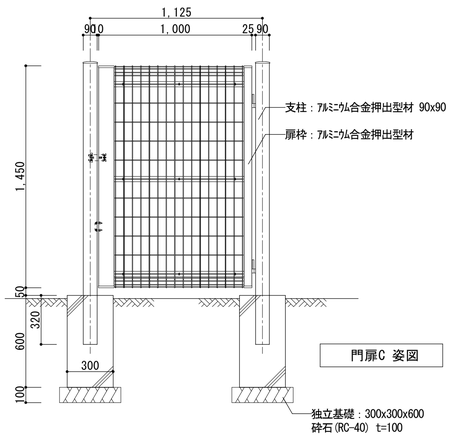


門扉A,B 平面図

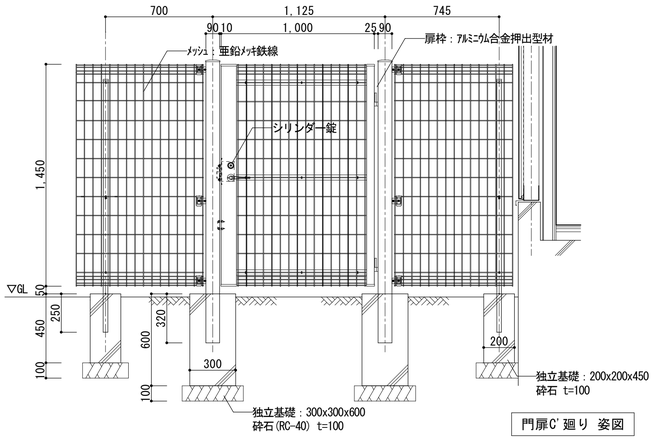
※開き勝手は外構図参照のこと

基礎サイズは、千葉市の基準風速Vo=36m/sに耐えられるものとすること。

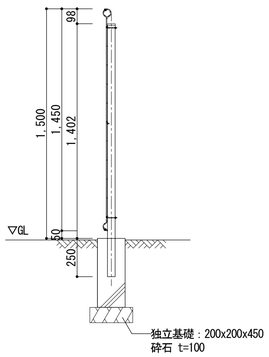
メッシュフェンス(参考図)　　S=1/20



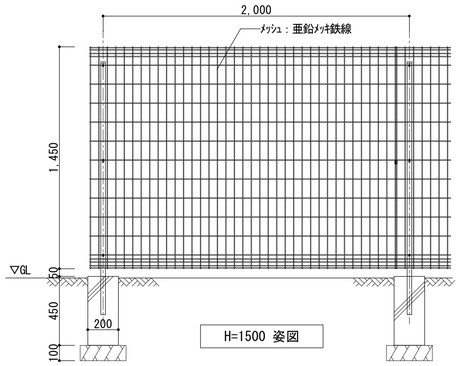
門扉C 姿図



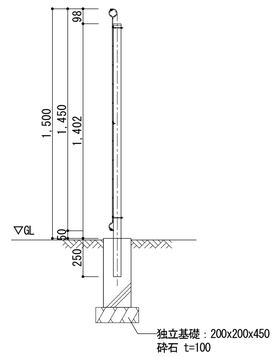
門扉C'廻り 姿図



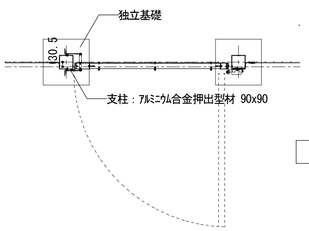
門扉C,C' 断面図



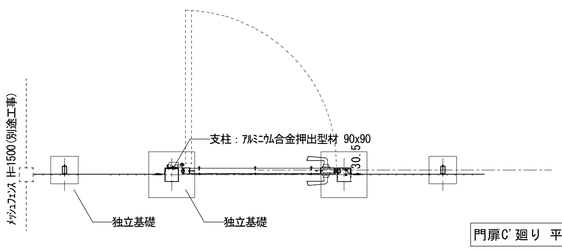
H=1500 姿図



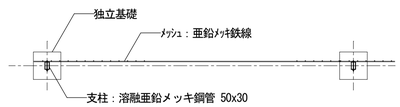
H=1500 断面図



門扉C 平面図



門扉C'廻り 平面図



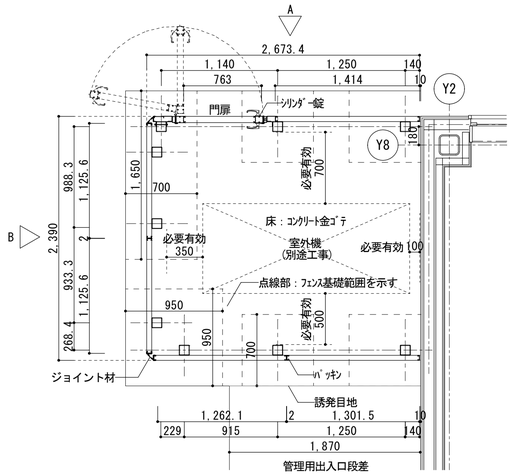
H=1500 平面図

基礎サイズは、千葉市の基準風速Vo=36m/sに耐えられるものとすること。

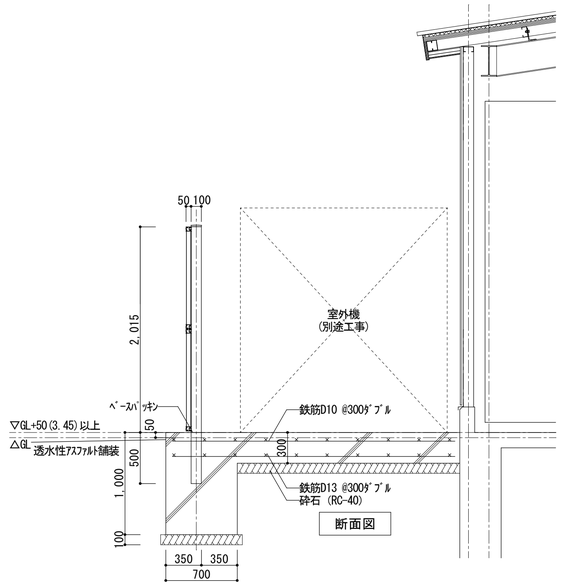
基礎サイズは、千葉市の基準風速Vo=36m/sに耐えられるものとすること。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	外構詳細図-2	縮尺	図示(A1) 図示/2(A3)	図面番号	A-39
			特記事項		特記事項		特記事項							

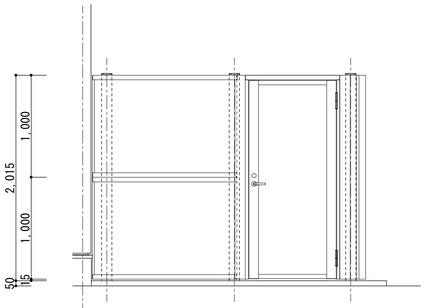
防音フェンス・設備基礎 S=1/30



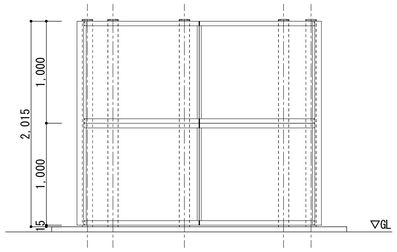
配置図



断面図



A面立面図



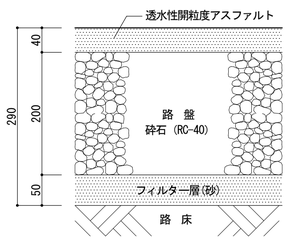
B面立面図

材質仕様表

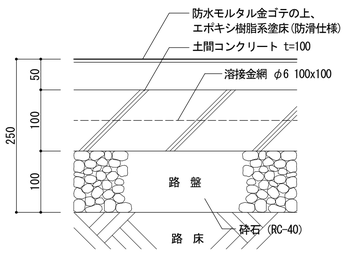
遮音パネル	面材 アルミ・樹脂積層複合材
	枠材 アルミニウム合金押出形材
支柱	一般構造用角形鋼管 STKR400

基礎サイズは、千葉市の基準風速Vo=36m/sに
耐えられるものとすること。
平板載荷試験にて長期地耐力100N/㎡を確認すること。

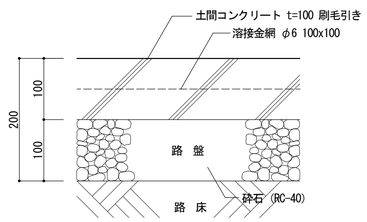
透水性アスファルト舗装 S=1/5



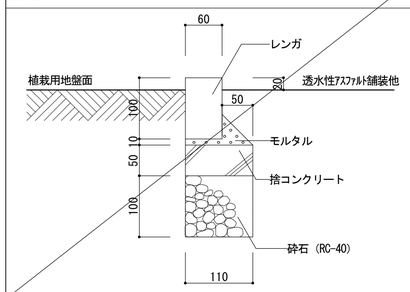
プール置場床 S=1/5



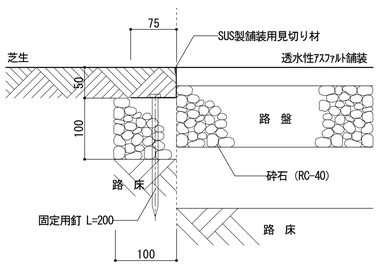
ごみ置場 S=1/5



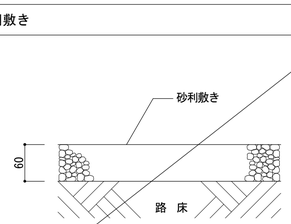
土留めレンガ S=1/5



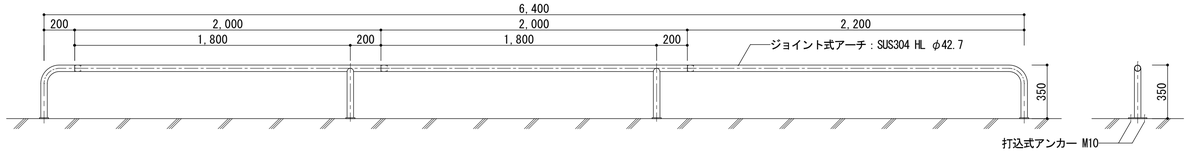
芝生見切 S=1/5



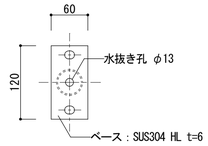
砂利敷き S=1/5



自転車アーチ S=1/20

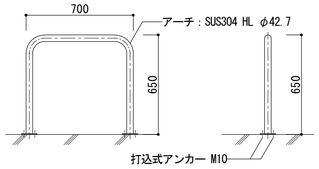


姿図　断面図

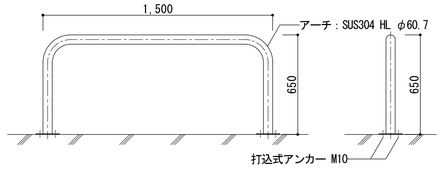


ベース平面図

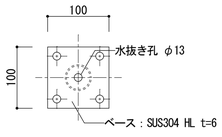
アーチ S=1/20



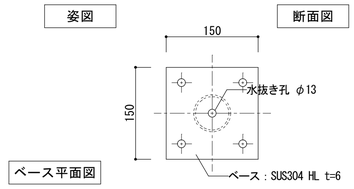
姿図　断面図



姿図　断面図

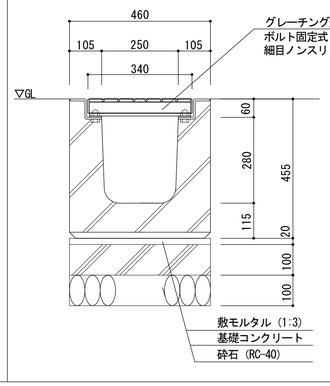


ベース平面図

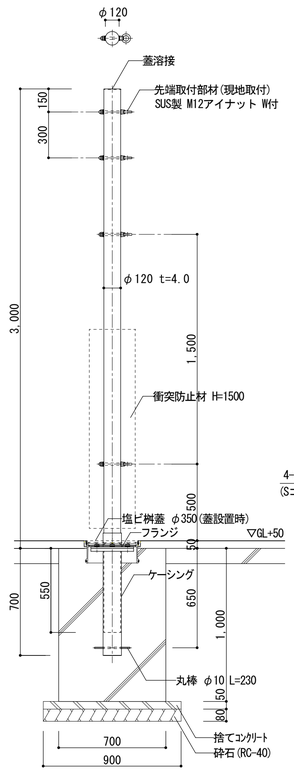


ベース平面図

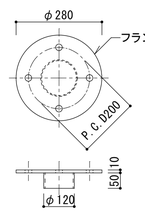
横断側溝 S=1/10



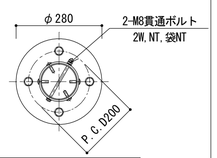
アルミ製プール屋根支柱 S=1/5,20



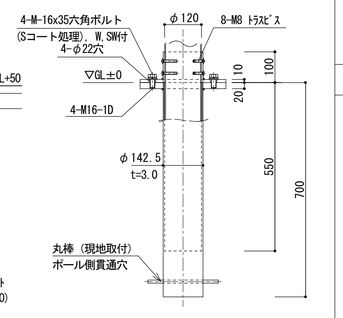
断面図



蓋詳細図 S=1/5

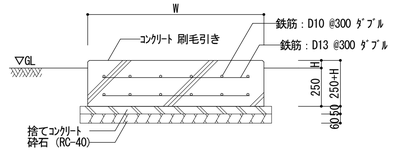


フランジ詳細図 S=1/5



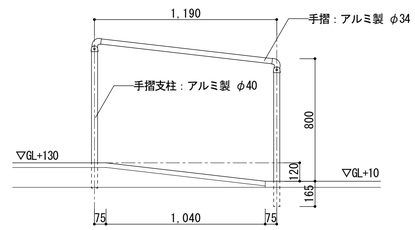
ケーシング・フランジ詳細図 S=1/5

管理用出入口段差、犬走 S=1/20

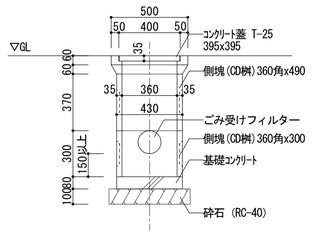


W	D	H	個数
1870	1660	50	1
1050	900	50	1
37150	580	50	1

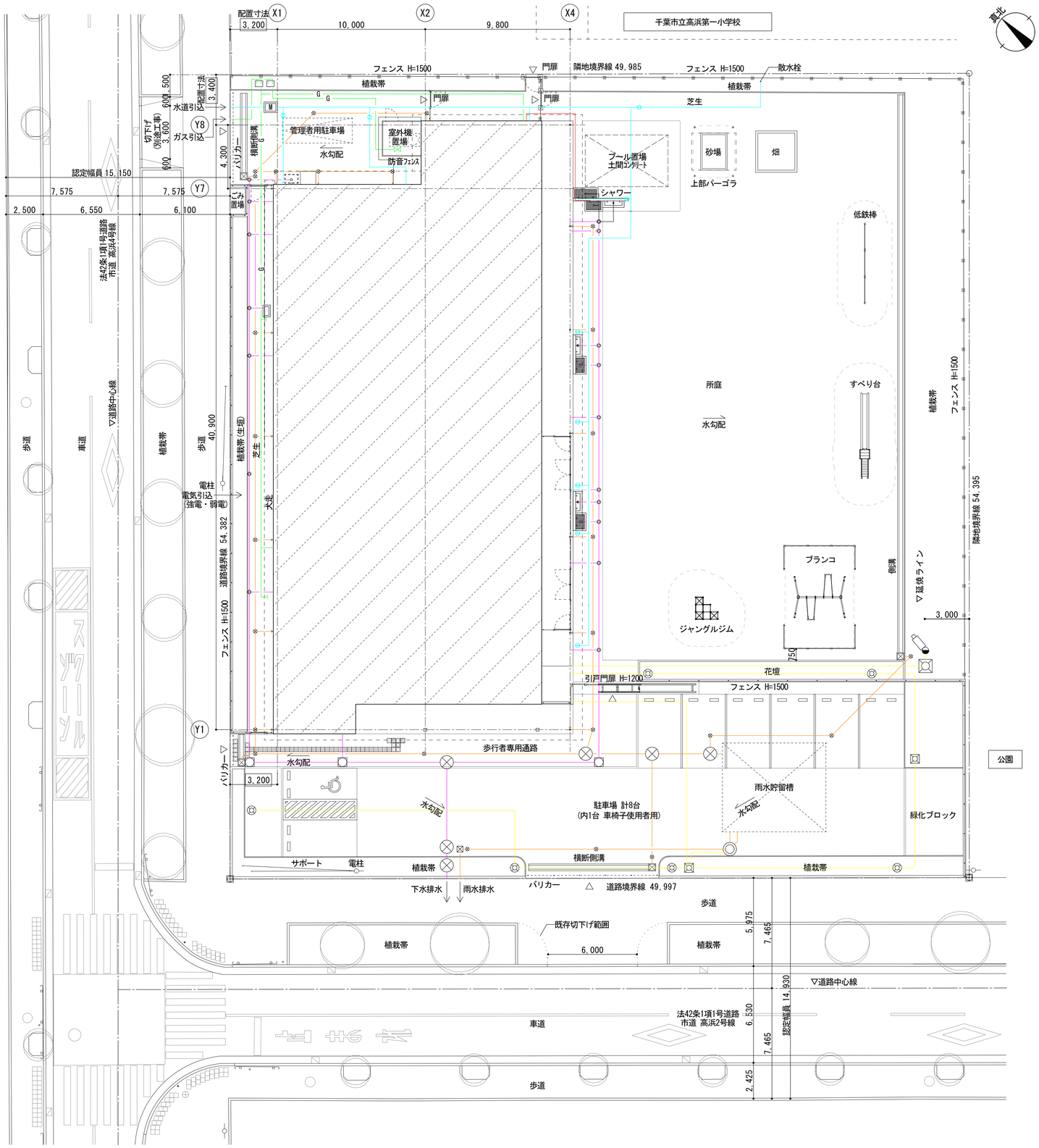
エントランススロープ 手摺 S=1/20



雨水枡 S=1/20

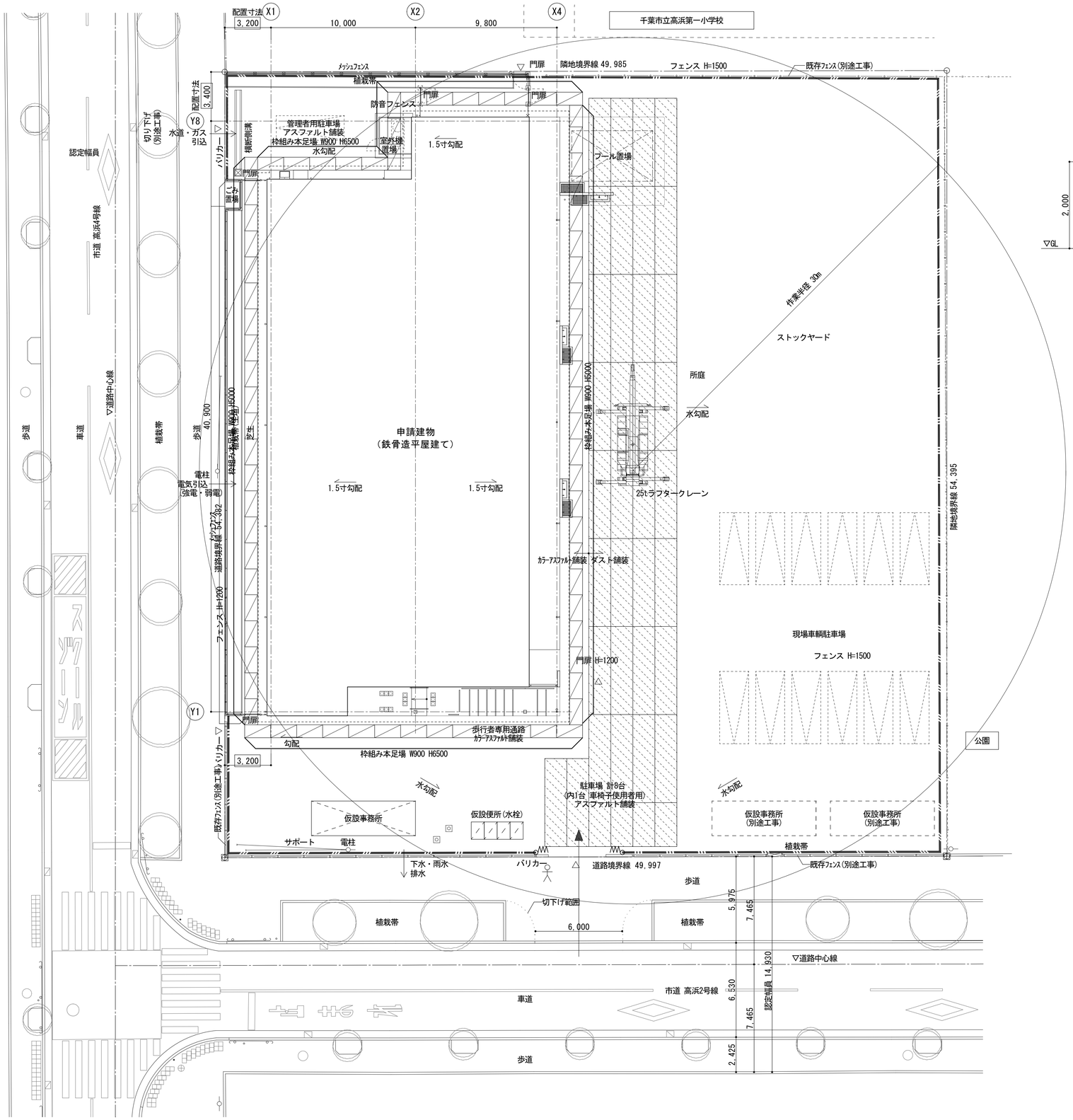


千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日	図面名	外構詳細図-3	縮尺	図示(A1) 図示/2(A3)	図面番号	A-40
			特記事項	特記事項	特記事項						



配置図　S=1/150

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和　8 年　1 月　25 日	変更年月日	令和　　年　　月　　日	変更年月日	令和　　年　　月　　日	図面名	埋設管配置図	縮尺	1/150(A1) 1/300(A3)	図面番号	A-41
			特記事項		特記事項		特記事項							

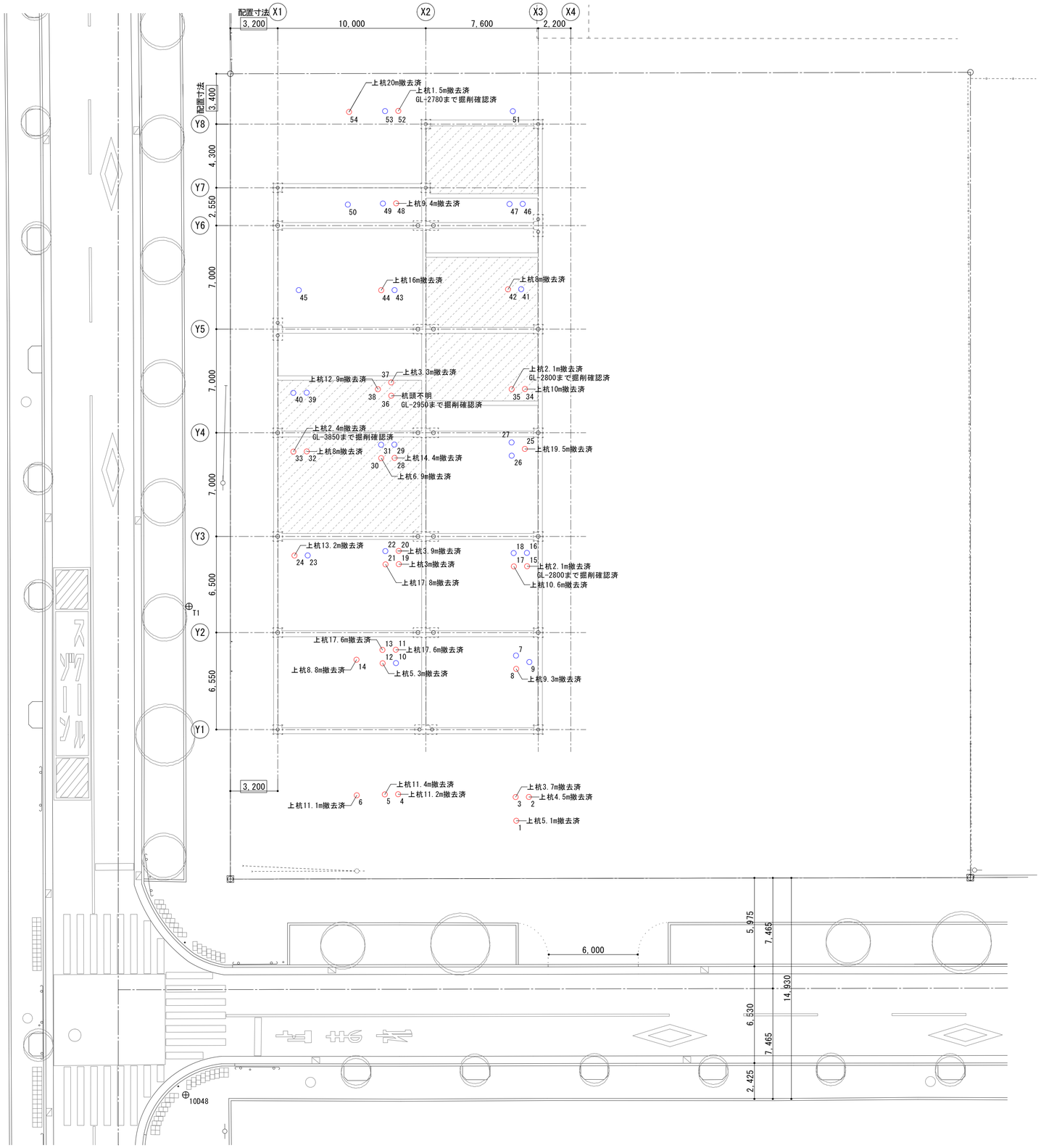


凡 例	
	仮囲い：成形鋼板 H=2000
	シートゲート W6000
	手摺先行くさび緊結式足場 ＋ 養生シート
	敷き鉄板 t=22
	工事作業者動線
	交通誘導員

特記事項

- 本図は参考図である為、仮設計画・工事工程の策定にあたっては、現地調査を行った上で、監督員と協議し決定すること。
- 作業車輌の出入口には、適宜誘導員を配置し、安全対策に留意すること。
- 工事中における騒音・振動・粉じん等に係る近隣住民への対応については近隣住民への配慮し、苦情が発生した場合には責任をもって対処すること。
- 関連工事の屋外整備工事と工事時期が重複する場合は、現場事務所・敷き鉄板等の仮設物について関連工事と調整し、適宜撤去等を行うこと。
- 工事に伴い周辺道路・器物等を破損した場合は、請負者の負担にて補修すること。万一第三者に危害を及ぼした場合は、請負者の責任で対処し解決すること。
- 工事に伴い草刈り800㎡を見込むこと。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	仮設計画図(参考図)	縮尺	1/150(A1) 1/300(A3)	図面番号	A-42
			特記事項		特記事項		特記事項							



凡例

- 既存杭(先端まで撤去済)
- 既存杭(一部残置)
- 新設杭、フーチング
- 埋戻し(ハッチ部以外はピット)

基準点座標一覧表

点名	X座標	Y座標
10D48	-42203.940	21843.262
T1	-42181.250	21867.218

既存杭座標一覧表

点名	X座標	Y座標
1	-42207.224	21872.084
2	-42206.728	21873.842
3	-42206.087	21873.211
4	-42200.227	21867.851
5	-42199.586	21867.220
6	-42198.258	21865.865
7	-42200.440	21880.433
8	-42200.114	21879.481
9	-42199.483	21880.122
10	-42193.984	21874.137
11	-42193.353	21874.779
12	-42193.343	21873.506
13	-42192.712	21874.147
14	-42191.905	21872.455
15	-42195.844	21885.000
16	-42195.212	21885.641
17	-42195.202	21884.368
18	-42194.570	21885.010
19	-42189.496	21879.093
20	-42188.865	21879.735
21	-42188.855	21878.462
22	-42188.224	21879.103
23	-42184.645	21875.260
24	-42184.004	21874.629
25	-42190.246	21890.613
26	-42189.920	21889.661
27	-42189.289	21890.302
28	-42184.315	21884.072
29	-42183.684	21884.714
30	-42183.674	21883.441
31	-42183.043	21884.082
32	-42179.735	21880.276
33	-42179.094	21879.645
34	-42187.448	21893.531
35	-42186.807	21892.900
36	-42181.247	21886.949
37	-42180.616	21887.590
38	-42180.190	21886.638
39	-42176.981	21883.134
40	-42716.340	21882.503
41	-42182.595	21898.223
42	-42181.954	21897.592
43	-42176.462	21892.247
44	-42175.821	21891.616
45	-42171.798	21887.763
46	-42178.678	21902.449
47	-42178.037	21901.818
48	-42172.484	21896.550
49	-42171.843	21895.919
50	-42170.183	21894.228
51	-42173.857	21906.492
52	-42168.267	21901.153
53	-42167.626	21900.522
54	-42165.911	21898.796

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	(仮称) 千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	既存杭配置図(参考図)	縮尺	1/150(A1) 1/300(A3)	図面番号	A-43
			特記事項		特記事項		特記事項							

構造設計特記仕様

適用は ◉ 印を記入する。

1．建築物の構造内容

(1) 建築場所　千葉県千葉市美浜区高浜１丁目４番３号
(2) 工事種別　◉新築　□増築　□増改築　□改築
(3) 構造設計一級建築士の関与　□必要　◉必要としない
□法第 20 条一号（高さ60m超）
□法第 20 条二号（□ＲＣ造20m超　□Ｓ造４階建以上　□木造高さ13m超　□その他）
(4) 構造種別
□木造 (W)　□補強コンクリートブロック造 (CB)　◉鉄骨造 (S)
□鉄筋コンクリート造 (RC)　□壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
□鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
□プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)　□
(5) 階　数
地下　０階　地上　１階　搭屋　０階
(6) 主要用途　保育所
(7) 屋上付属物
□キュービクル　kN　□発電機　kN　□広告塔　□煙　突
(8) 特別な荷重
□エレベータ　人乗（マシンルームレス式・ロープ式・油圧式）　□リフト　kN
□倉庫積載床用　N/m²　□ホイスト　kN　□受水槽　kN
(9) 付帯工事
□門塀　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場
(10)増築計画　有（　　）　◉無
(11)構造計算ルート　Ｘ方向　ルート１－（２）、Ｙ方向　ルート１－（２）

2．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート　（レディーミックスコンクリート　JIS Q 1001，JIS Q 1011，JIS A 5308 ）

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質基準強度 Fq=N/mm²	スランプ cm	備　考
捨コンクリート	◉普通	18	18	18	躯体コンクリートと同様の仕様とする
土間コンクリート	◉普通	24	24	18	躯体コンクリートと同様の仕様とする
基礎～１階床	◉普通	24	24	18	
	□普通・□軽量				比重
	□普通・□軽量				比重
押えコンクリート	□普通・□軽量				比重

細骨材の種類	◉砂　◉山砂　□人工
粗骨材の種類	◉砂利　◉砕石　□人工
水の区分	◉水道水　◉地下水　◉工業用水
混和材料の種類	◉ＡＥ減水剤　◉高性能ＡＥ減水剤　□
呼び強度を保証する材齢	◉材齢　（◉２８日　□５６日　□　　）
	◉養生　（□現場封かん□現場水中　◉標準　）

◉単位水量は 185kg/m³以下、単位セメント量は 270kg/m³以上、水セメント比は 60% 以下。
空気量は4.5%。

(2) コンクリートブロック　（□JIS A 5406）
□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種　厚□100　□120　□150　□190

(3) 鉄筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	◉SD295	D10~D16	基礎～１階床	◉重ね継手
	□			◉ガス圧接継手
	◉SD345	D19~D22	基礎～１階床	□溶接継手
	□SD390			□特殊継手
	□			（　　）
高強度せん断補強筋	□材種			各継手の使用詳細については本仕様 5.(2)鉄筋の項の鉄筋継手等の◉にて表示する。
	□大臣認定番号 MSRB-			
丸　鋼 (JIS G 3112)	□SR235			
溶接金網 (JIS G 3551)	□JIS規格品			

(4) 鉄骨

種　類	使用箇所	現場溶接	ＪＩＳ規格・認定番号等
□SS400　□SN400A　◉SN400B　□SN400C	大梁、小梁	□有　◉無	JIS G 3136
□STKR400　□STKR490　◉STK400	間柱	□有　◉無	JIS G 3475
◉BCR295　□BCP235　□BCP325	柱	□有　◉無	大臣認定品　認定番号 MSTL-0142
□SM490A　□SM490B　□SN490B　◉SN490C	通し ダイアフラム	□有　◉無	JIS G 3136
□SM490A　□SM490B　□SN490B　□SN490C		□有　□無	
◉SSC400　□	母屋、胴縁	□有　◉無	JIS G 3350
溶接材料　□JIS Z			

・使用箇所の詳細については、構造図による。

(5) ボルト
◉高力ボルト
◉F10T(JIS B1186)　◉S10T 認定品（　）　□S8T 認定品（　）
（□M12、◉M16、◉M20、□M22、□M24）
◉中ボルト (JIS B1180)　M12　M　◉4.8 (4T)　□
◉アンカーボルト （構造図参照）
□SS400　M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
□SS400　M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
□頭付スタッド
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

(6) 屋根、床、壁

材　種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様　・　構法
□ＡＬＣ版 (JIS A 5416)	厚	□壁　□床版	□スライド　□ボルト止め　□ロッキング　□
□折　版 (JIS G 3352)	H=　厚	□屋根　□	□
□デッキプレート (JIS G 3352)	型式　厚	□床版　□	□
□キーストンプレート (JIS G 3352)	型式　厚	□床版　□	□

※　屋根・外壁・屋根ふき材について、令第３９条、昭和４６年建設告第１０９号に適合すること。

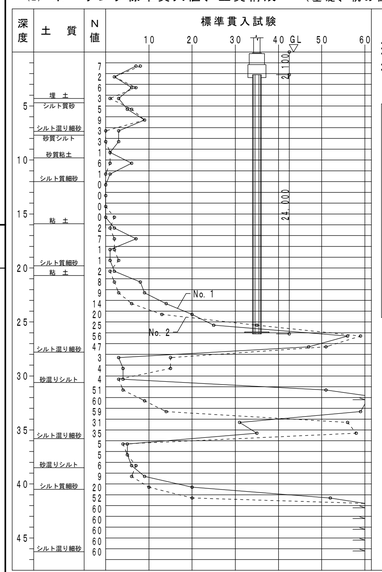
3．地　盤

(1) 地盤調査資料と調査計画
◉有　（◉敷地内　□近隣）　□無　（調査計画　□有　□無）

調　査　項　目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定	●		土質試験	●		物理探査		
試験堀			平板載荷試験			液状化判定	●	
スェーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

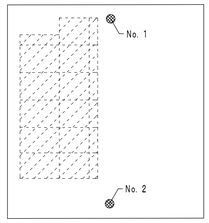
注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに●を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成　（基礎、杭の位置を明記すること）



○調査地番
敷地内

○位置図



○支持地盤、地層及び深さについてのコメント

○孔内水位
地盤面－ 2.41m

○近隣データの調査地番と設計地番とは約　mの距離がある

○備考

注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4．地業工事

(1) 直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験掘　□有　□無
深さ　支持層－　長期許容支持力度　載荷試験　□有　□無

(2) 杭基礎　支持層－シルト混り細砂

杭　種	材　料	施　工　法	備　考
□ＲＣ　□ＰＲＣ □ＰＨＣ□Ｈ鋼 ◉鋼管　□摩擦杭 □ＳＣ	PRC(□Ｉ種□Ⅱ種□Ⅲ種) PHC(□Ａ種□Ｂ種□Ｃ種) 鋼　材　□SS400　□STK400 ◉STK490	□打ち込み □埋込み（セメントミルク工法） ◉先端羽根付き鋼管杭工法 □　（G-ECS パイル工法）	国住指第　755 号 認定番号 TACP-0585 令和元年　7月23日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート スランプ セメント量 単位水量 鉄筋　主　筋 ＨＯＯＰ	□オールケーシング　□拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル　□ミニアース □ＢＨ　□深礎（□手掘　□機械掘）	拡底杭 日本建築センター認定 第　号 年　月　日

杭仕様　◉施工計画書承認　◉杭施工結果報告書
試験杭　（◉有・□無）　（◉打ち込み・□載荷・□孔壁測定）　１本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項
267.4φx12.7	560	GL-26.10m	19	
216.3φx10.3	390	GL-26.10m	10	

5．鉄筋コンクリート工事　（施工方法等計画書）

(1) コンクリート
◉ コンクリートは JIS A 5308（レディーミックスコンクリート）に適合するJIS認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS5(2009)による。ただし、鉄筋の定着・継手に係わる内容については、JASS5(1997)を用ること。
◉ 耐久設計基準強度　Fd　□短期　◉標準　□長期　□超長期
◉ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
◉ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
◉ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法などの必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
◉ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
◉ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、標準養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打込み量が150m³を超える場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当たり６本以上とし、その内４週用に３本を用いる。
◉ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
◉ コンクリート打込み中及び打込み後５日間は、コンクリートの温度が２度を下がらないようにする。
◉ 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

(2) 鉄　筋
◉ 鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工は標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様にJASS5による。
◉ 高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるＤ種１号適合品とする。
◉ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
◉ 鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 (1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位(注) Ａ級	Ｂ級	ＳＡ級	鉄筋の径
◉重ね継手	□40d　◉35d　□				◉D16以下
◉圧接継手	◉告示1463号第２項各号	□			◉D19以上
□溶接継手	□告示1463号第３項各号	□	□		□Ｄ　以上
□機械式継手	□告示1463号第４項各号	□	□	□	□Ｄ　以上

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準（建築物の構造計算関係技術基準解説書 2007）」によって検討した部材の条件・仕様によること。

◉ Ｄ19未満は、すべて重ね継手とする。
◉ 継手部分の施工要領は、社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法：・外観検査　◉有　□無　・引張試験　□有　◉無
・超音波探傷試験　◉有　□無
ガス圧接部の超音波探傷試験は、１組の作業班が同一日に施工した圧接箇所を１ロットとし、１ロットに対して　30か所を無作為に行う。
◉ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、◉Ｈ型（タガ型）□Ｗ型（溶接型）□Ｓ型（スパイラル型）とする。
◉ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第４条の試験機関で行うこと。
試験機関名　未　定　（監理者が決定の事）
代行業者名　未　定　（監理者が決定の事）
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行するものをいう。

(3) 型　枠
◉ 材料　合板厚 12m/mを標準とする。　◉ 施工は、コンクリートと同様にJASS5による。
◉ 型枠存置期間

種類 / 部位 / セメントの種類 / 存置期間の平均気温	せき板 基礎、はり側、柱、壁 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種	スラブ下、はり下 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	支柱 スラブ下 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	はり下 早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種
コンクリートの材令日 15°C以上	2	3	4	6	8	17	28
5~15°C	3	5	6	10	12	25	28
5°C未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5N／mm²		設計基準強度の５０％		設計基準強度の 100%		100%

注）１　片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）２　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受け板、角材またはこれに代わるものを置く。
注）５　支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。
注）７　使用するスペーサーの材質は、建築工事特記仕様書によること。

6．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
◉日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
◉社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
◉鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
◉製作工場　◉製作要領書　◉工作図　◉施工計画書
◉認定または登録工場（Ｒグレード　、　都登録　ランク）
◉材料規格証明書※、または試験成績書
◉鋼材　◉高力ボルト　□特殊ボルト　□頭付スタッド
※社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
◉社内検査表　□　□

(3) 工事監理者が行う検査項目
（◉印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
◉原寸検査　◉組立・開先検査　◉製品検査
◉建方検査　□　□

(4) 接合部の溶接は下記によること
◉平成12年建設省告示1464号第二号　イ、ロ
◉鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
□日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ，Ⅶ，Ⅷ，Ⅸ」
□日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査
◉溶接部の検査　（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
◉完全溶込み溶接部（突合せ溶接）□	外観検査（※）	100 %	100 %	100 %	（※）平成12年建設省告示第1464号二号による（目視及び計測）
	超音波探傷試験	100 %	30 %	0 %	
	内質検査（注）□硬さ試験	%	%	%	
	□示温塗料塗布	%	%	%	（注）東京都の要請に基づき、必要となる建築物の場合に実施する。
	マクロ試験・その他	個	個	個	
◉隅肉溶接部	外観検査（※）	100 %	100 %	100 %	
第三者検査機関名	ＣＩＷ認定検査会社				
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注１）現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷試験を１００%行うこと。
注２）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること。

◉　高力ボルトの検査　（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　□要　◉否　、高力ボルトすべり係数試験　□要　◉否
◉一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
◉トルシヤ形高力ボルトは、二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

(6) 防錆塗装
◉ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。　（フォースター　Ｆ☆☆☆☆）
錆止めペイントは、□ JIS K5621　◉ JIS K5674　□　を使用して、４つ星２回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
◉ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料
◉ 意匠図による。

(8) 溶融亜鉛めっき工法
◉ 外部に面する鉄部（屋外階段・庇など）は、溶融亜鉛めっきを行うこと。

7．設備関係

◉ 建築設備の構造、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
◉ 建築設備の支持構造部及び緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
◉ 建築物に設ける屋上から突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□　煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５cm以上とた鉄筋コンクリート造とすること。
◉ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
◉ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□　エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
◉ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
◉ 床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの 1/3以下とし、管の間隔を管径の３倍かつ５ｃｍ以上を原則とする。
◉ 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

8．その他

◉ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
◉ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
◉ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名 構造設計標準仕様
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺 / 図面番号 S-01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1．一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は，本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

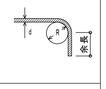
d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値、丸鋼では径　D…部材の成　R…直径

@…間隔　r…半径　℄…中心線　Lo…部材間の内法距離　ho…部材間の内法高さ

ST…あばら筋　HOOP…帯筋　S.HOOP…補強帯筋　φ…直径又は丸鋼

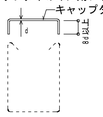
2．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折り曲げの形状

折り曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（*4d以上）	8d以上（*4d以上）

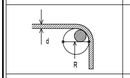
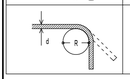
折曲げ内法寸法Rは、SR235～SD345の径16及びD16以下は3d以上。
SD295～SD345のD19～D38は4d以上、D41及びSD390は5d以上。
スラブ筋・壁には、丸鋼は使用しない。

折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打込むT形及びL形梁のキャップタイのみに用いる。



＊片持スラブ上端筋の先端

(2) 鉄筋中央部の折り曲げの形状　鉄筋の折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法の寸法（R）
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SR295 SD295A・B SD345	16φ D16　以下	3d以上
			19φ D19　以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A・B SD345 SD390	D16　以下	4d以上
			D19～D25	6d以上
			D29～D41	8d以上

(3) 鉄筋定着及び重ね継手の長さ

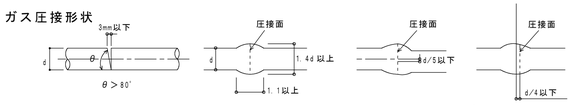
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)	定着の長さ：一般 (L_2)	定着の長さ：下端筋 (L_3) 小梁	定着の長さ：下端筋 (L_3) スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
SD295A	18	40d又は30dフック付	25d　または 15dフック付	10d　かつ 150mm　以上	45d又は35dフック付
SD295B	21・24	35d又は25dフック付			40d又は30dフック付
SD345	27～36	30d又は20dフック付			35d又は25dフック付
SD390	21・24	40d又は30dフック付			45d又は35dフック付
	27～36	35d又は25dフック付			40d又は30dフック付

［注］許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は、40dとする。

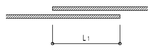
継　手

1. 末端のフックは，定着及び重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は，応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは，細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は，原則として，重ね継手としてはならない
5. 鉄筋の径の差が7mmを超える場合は，圧接としてはならない

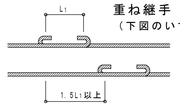
ガス圧接形状

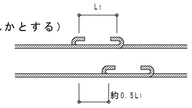


直線重ね継手

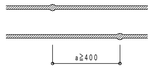


重ね継手
（下図のいずれかとする）



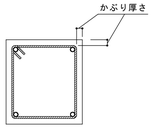


圧接継手



(4) かぶり厚さ（単位：mm）

※右表数値以上確保すること
ひび割れ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても、最小かぶり厚さを確保する。

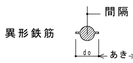


部位			設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床　スラブ 非耐力壁	屋　内	30	20
		屋　外	40 (1)	30 (20)
	柱　・　梁	屋　内	40	30
	耐　力　壁	屋　外	50 (2)	40 (1) (30)
	擁　　壁		50 (3)	40
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁		50	40 (4)
	基　礎　・　擁　壁		70	60 (4)

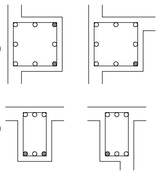
［注］(1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる
(3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mm以上とすることができる
(4) 軽量コンクリートの場合は10mm増しの値とする。
(5) （　）内は仕上がる場合。

(5) 鉄筋のあき

呼び名に用いた数値1.5d以上かつ
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上



図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

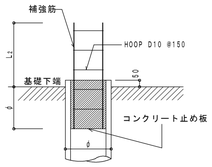
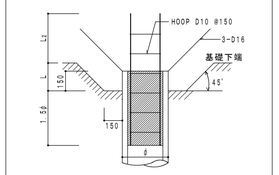


(6) 鉄筋のフック　（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

a. 丸鋼　b. あばら筋、帯筋　c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

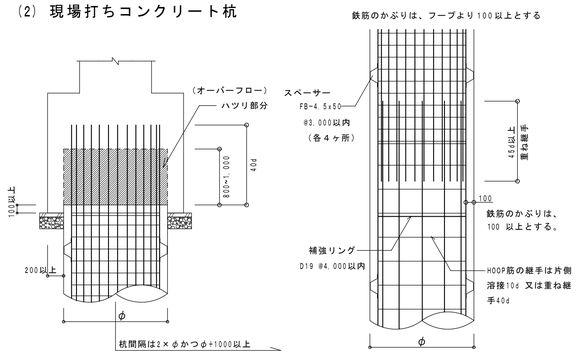
3．杭　（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

(1) ＰＣ杭，又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う

所定の位置にとまった場合	所定より低くとまった場合
	但しL≦φの場合 （L＞φの場合は工事監理者の指示による。） 

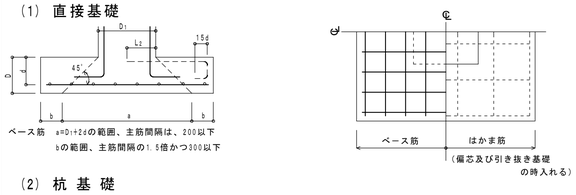
杭　径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
ＨＯＯＰ	D10 @150				

(2) 現場打ちコンクリート杭

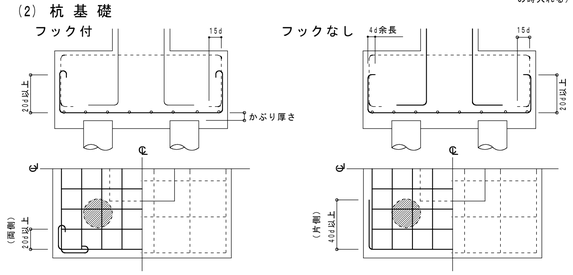


4．基　礎

(1) 直接基礎

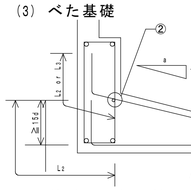


(2) 杭 基 礎



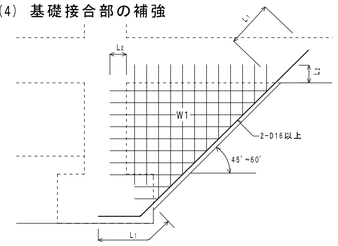
(3) べた基礎

ハンチを付けた場合（a≧3）

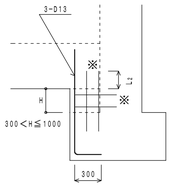


1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう。但し、上筋と下筋を読み替える
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋め戻し土のある場合は40を70とする

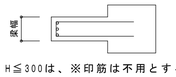
(4) 基礎接合部の補強



W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう。



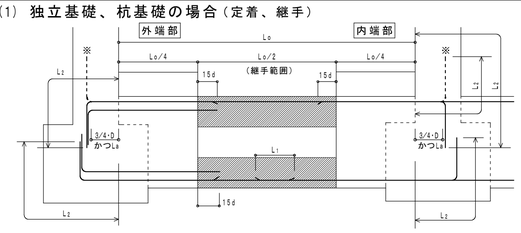
※印は、D10-@200とする



H≦300は、※印筋は不用とする。

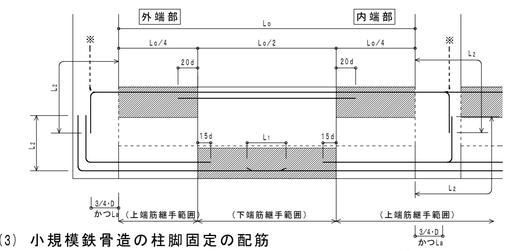
5．地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



(2) 布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

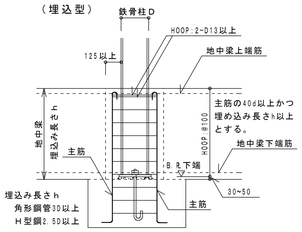
※印の上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる



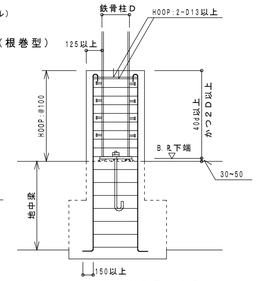
(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

地中梁の主筋、スタッドボルト（スタッドジベル）による納まりに注意する。

（埋込型）

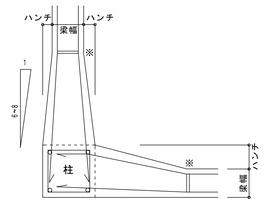


（根巻型）



ベース下の施工を慎重にする

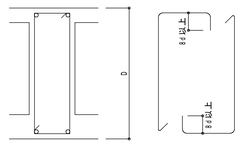
(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



※印は、一般のあばら筋と同様のものを２本束ねる。

(5) せいの高い梁のあばら筋加工要領

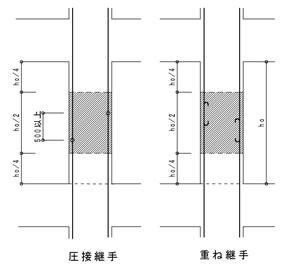
D：1,500を超える場合



上下スラブ付きの場合に限る

6．柱

(1) 主筋の継手

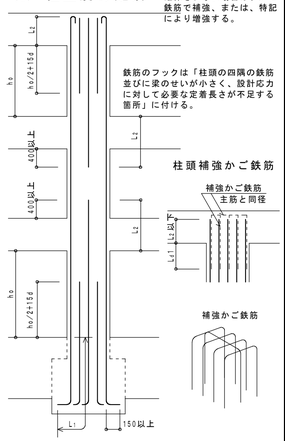


継手位置

［注］SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。

(2) 柱主筋の定着

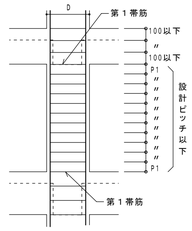
柱、貼りの定着L2以上が確保されない場合は、かご筋で補強、または、特記により増強する。



鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びに梁のせいが小さく、設計応力に対して必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

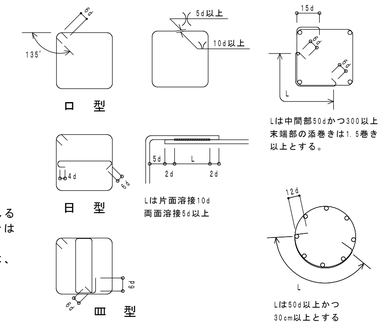
柱頭補強かご鉄筋

(3) 帯　筋



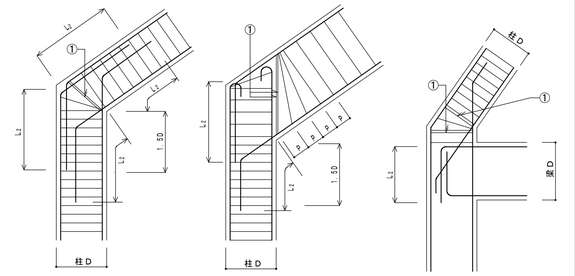
注１．第１帯筋は、梁づらに入れる
注２．W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注３．フックおよび継手の位置は、交互とする。

イ：H型（タガ型）　ロ：W型（溶接型）　ハ：S型（スパイラル型）



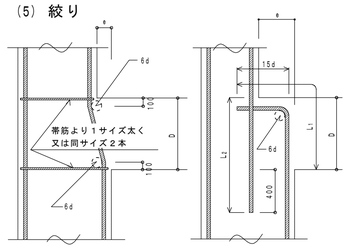
(4) 斜め柱・斜め梁

・柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　・柱幅と斜材幅が異る　・柱脚で斜材となる

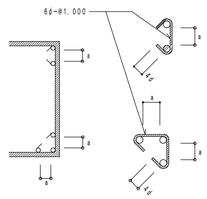


注１．1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし、@100以下とする。
注２．①の鉄筋は2-D13かつ、２本の一段太い鉄筋とする。

(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和　8　年　1　月　25　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	縮尺		図面番号	S-02
			特記事項		特記事項		特記事項							

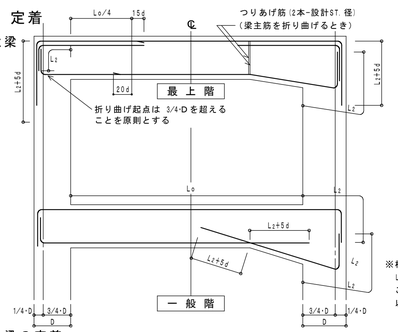
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L＝鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

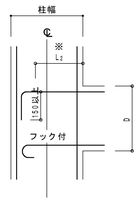
7．大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

ⓐ大梁

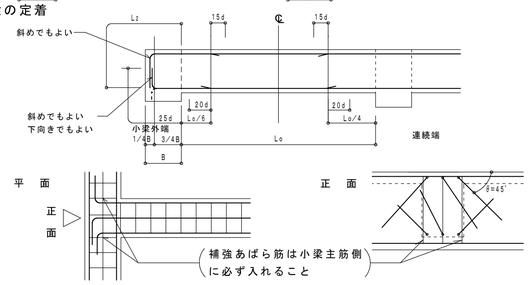


柱幅が大きい場合

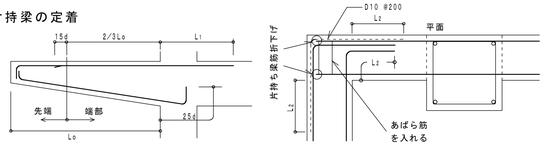


※柱幅が大きくて、直線部だけでL₂がとれる場合でも柱中心線をこえて中間折曲げテール長 150 以上又は180°フック付とする

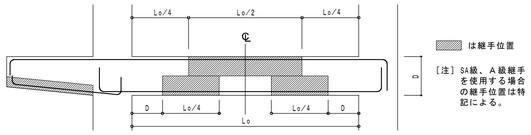
ⓑ小梁の定着



ⓒ片持梁の定着

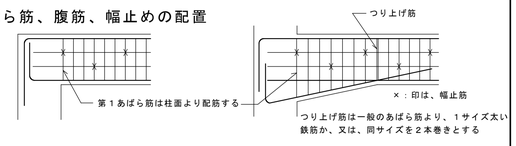


(2) 大梁主筋の継手

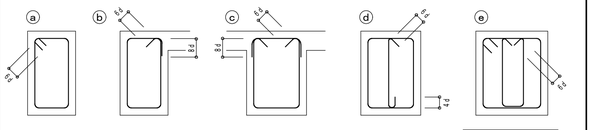


［注］SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。

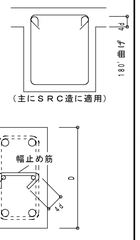
(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



(4) あばら筋の型（注：床版がない場合は１３５°以上のフックとする。）



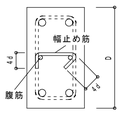
（イ）原則としてⓐのフック先曲げとする。片側床版付（Ｌ型）梁でⓑ、両側床版付（Ｔ型）梁でⓒ又はⓑとすることができる。
（ロ）フックの位置はⓐにあっては交互、ⓑにあってはスラブ側を厳守すること。



（主にＳＲＣ造に適用）

(5) 幅止め筋の本数、加工

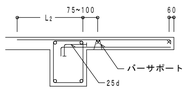
腹筋	D ＜ 600 不要	
	600≦ D ＜ 900	2-D10(9ϕ) 1段
	900≦ D ＜1,200	4-D10(9ϕ) 2段
	1,200≦ D	D10(9ϕ)@300以内
幅止め筋	D10(9ϕ)@1,000以内で割り付ける。	



8．床　版

(1) 定着及び継手

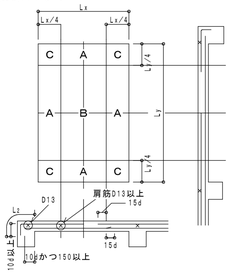
ⓐ片持床スラブ



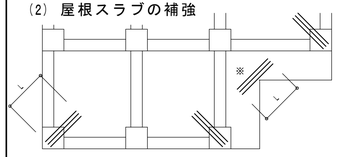
継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C

ⓑ一般床スラブ



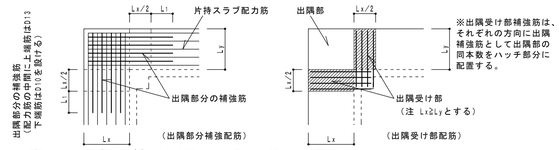
(2) 屋根スラブの補強



ⓐ補強筋は　各3-D13 又はスラブ主筋の同一径でL=1,500とし、上端筋の下に配置する
ⓑ※の個所（入隅）は、各階補強する

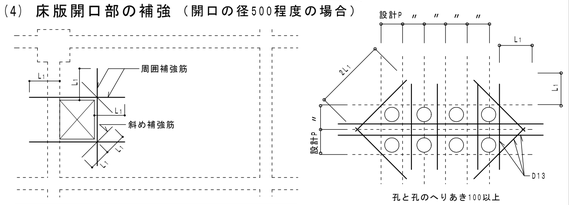
(3) 片持スラブ出隅部補強

注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



※出隅受け部補強筋は、それぞれの方向に出隅補強筋として出隅部の同本数をハッチ部分に配置する。

(4) 床版開口部の補強（開口の径500程度の場合）

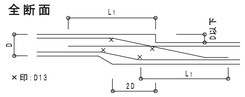


床版厚さD	周　囲	斜　め
D≦150	各2-D13	各1-D13
150＜D≦200	各2-D16	各1-D13
200＜D≦300	各2-D19	各2-D16

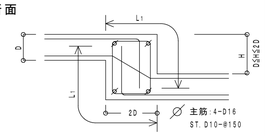
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜筋補強とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口を避けて補強する。

(5) 床版段差配筋補強

全断面

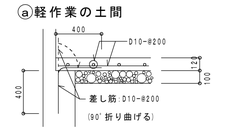


全断面

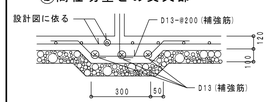


(6) 土間コンクリート

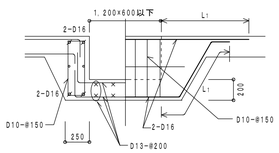
ⓐ軽作業の土間



ⓑ間仕切壁との交叉部



(7) 釜場



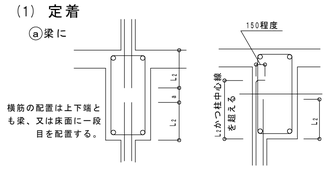
(8) 打継ぎ補強（ダメ穴打継ぎ面について）

- 設計配筋間隔の1/2ピッチ　長さ2L₁以上
- 無筋部分D10-@200　長さ800以上

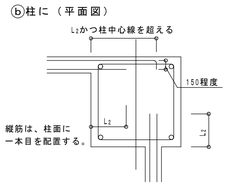
9．壁

(1) 定着

ⓐ梁に

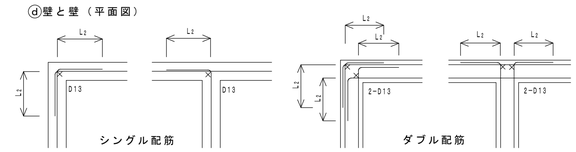


ⓑ柱に（平面図）



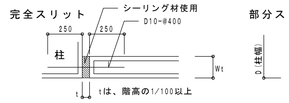
ⓒ床に　（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

ⓓ壁と壁（平面図）

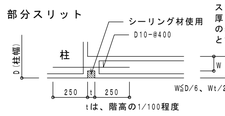


(2) スリット部

完全スリット



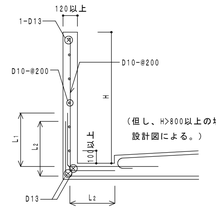
部分スリット



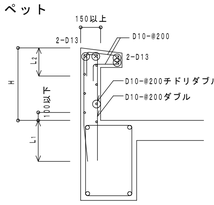
スリット部の鉄筋のかぶり厚さは、2-(4) かぶり厚さの表、最少かぶり厚さ以上とする。

(3) 手摺、パラペット

手すり

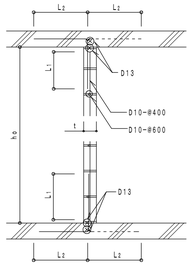


パラペット

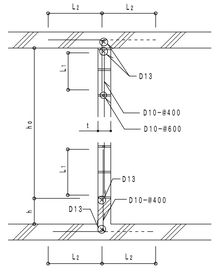


(4) コンクリートブロック帳壁

一般の場合



下部防水立上りのある場合

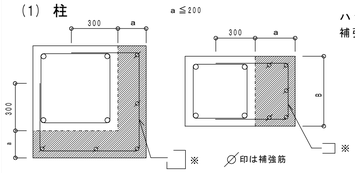


注）h₀≦25tかつ3,500以下とする。但し、直交方向25t以内に壁、又は柱のある場合は除く
注）hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200≦h≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

10．柱、梁増打コンクリート補強

（増打ちする時は事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

(1) 柱

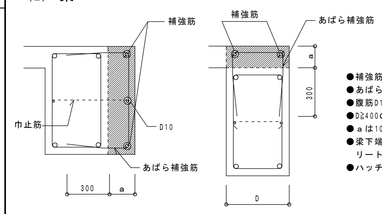


ハッチ部分の面積　Ａｃ㎡
補強タテ筋

A<500	500≦A<1,000	1,000≦A<1,500
3-D16	4-D16	6-D16

※印は、柱フープと同径、同ピッチとする。
ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

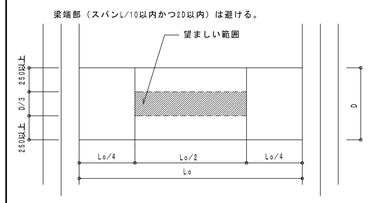
(2) 梁

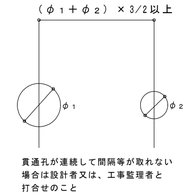


- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（D16以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
- D2400の場合は、補強筋を３本とする。
- ａは100~200程度。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリートの補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11．梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲　（但しφ≦D/3とする。既製品の場合は、評定の仕様に従う。）

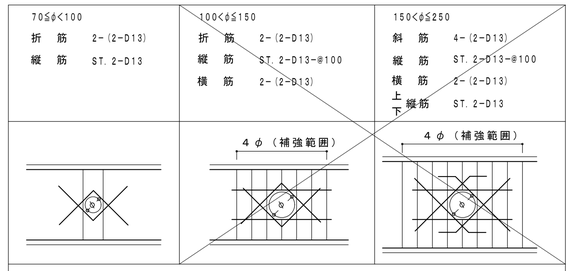




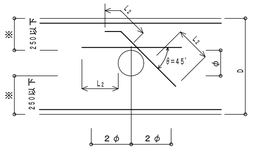
貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は、工事監理者と打合せのこと

(2) 鉄筋標準配筋

70≦φ＜100	100＜φ≦150	150＜φ≦250
折筋　2-(2-D13)	折筋　2-(2-D13)	斜筋　4-(2-D13)
縦筋　ST.2-D13	縦筋　ST.2-D13-@100	縦筋　ST.2-D13-@100
	横筋　2-(2-D13)	横筋　2-(2-D13)
		上下縦筋　ST.2-D13



φ>250
孔補強の有効範囲と定着長さの取り方



※部分について計算で確認された場合は、右記の位置、寸法によらなくて良い

・梁幅が 400を超える場合は補強筋でD13はD16又は、2-D13は3-D13と、各々読み替える

(3) 既製品

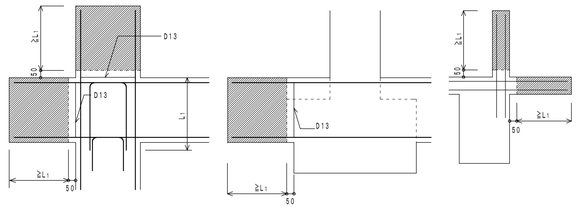
◉リング型　□パイプ型　□金網型　□プレート型

人通孔を含め梁貫通孔補強は、すべてリング型の既製品とする。使用する製品は、日本建築センターによる評定を取得した製品とし構造計算により安全を確認し、構造計算書を提出の上、設計者の承認を得て使用すること。
（ 70≦φ＜100 は、上記補強を行う）

12．増築予定

（将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する。）

（１）柱、梁　（２）地中梁　（３）床版、壁



千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名：鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺
									図面番号：S-03

鉄 骨 構 造 標 準 図 (1)

1．一般事項

(1) 材料及び検査

(a) 構造設計特記仕様による

(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
但し、ベースプレートの厚さは除く

(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

(2) 工作一般

(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による

(c) 高張力鋼のひずみきょう正は冷間矯正とする

(3) 高力ボルト接合

(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮等を座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するように注意して行う。

(4) 溶接接合

(a) 平成12年建設省告示第1464第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。

(b) 溶接技能者

溶接技能者は施工する溶接に適応するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

(c) 溶接機器

(イ) 交流アーク溶接機 (300A~500A)　(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機

(ロ) アークエアーガウジング機(直流)　(ホ) 溶接電流を測定する電流計

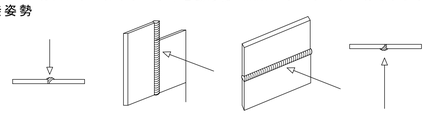
(ハ) サブマージアーク溶接機１式　(ヘ) 溶接棒乾燥機

(d) 溶接方法

アーク手溶接 (MC)　ガスシールドアーク (GC)

セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接 (NGC)　アークエアーガウジング (AAG)

(e) 溶接姿勢

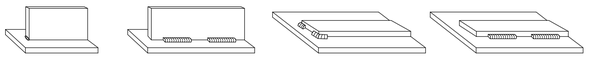


下向 F　立向 V　横向 H　上向 O

(f) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う

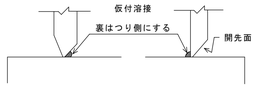
(イ) 仮付位置

組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部等強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



仮付不良　良　仮付不良　良

(ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



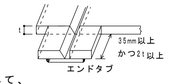
(f) 溶接施工

(イ) エンドタブ

Ⅰ）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける

Ⅱ）エンドタブの材質は、母材と同質とする

Ⅲ）エンドタブの長さは、MC:35mm以上
NGC,GC:40mm以上とし、特記のない
場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする

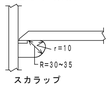


Ⅳ）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る

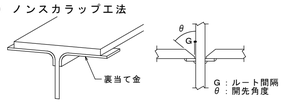
(ロ) 裏あて金

材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。

(ハ) スカーラップ　半径は30~35mmと、10mmのダブルアールとする
但し、梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはR=20mmとする



(ニ) ノンスカラップ工法



(ホ) 裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける

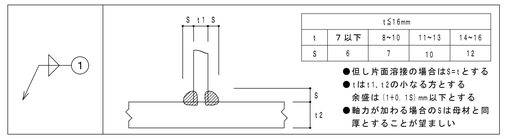
(ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う

(5) 塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で，コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2．溶接規準図 （注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長 （単位mm）

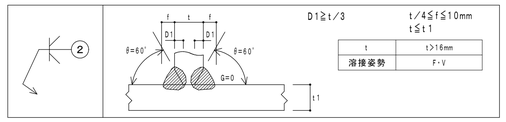
(1) 隅肉溶接



	t≦16mm			
t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

●但し片面溶接の場合はS=tとする
●tはt1,t2の小なる方とする
余盛は(1+0.1S)mm以下とする
●軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

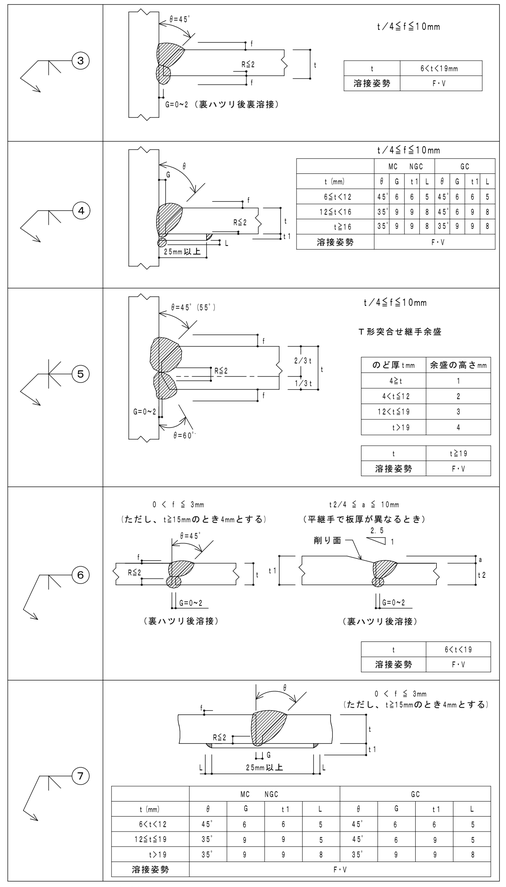
(2) 部分溶け込み溶接 （使用箇所に注意）



D1≧t/3　t/4≦f≦10mm　t≦t1

t	t>16mm
溶接姿勢	F・V

(3) 完全溶込み溶接 （平継手　Ｔ形継手）



T形突合せ継手余盛

のど厚t mm	余盛の高さ mm
4≧t	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
t>19	4

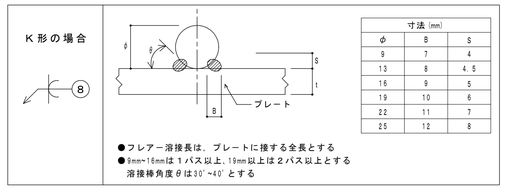
t	t≧19
溶接姿勢	F・V

t	6<t<19
溶接姿勢	F・V

t/4≦f≦10mm

t (mm)	MC θ	MC G	MC t1	MC L	GC θ	GC G	GC t1	GC L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
t>19	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F・V							

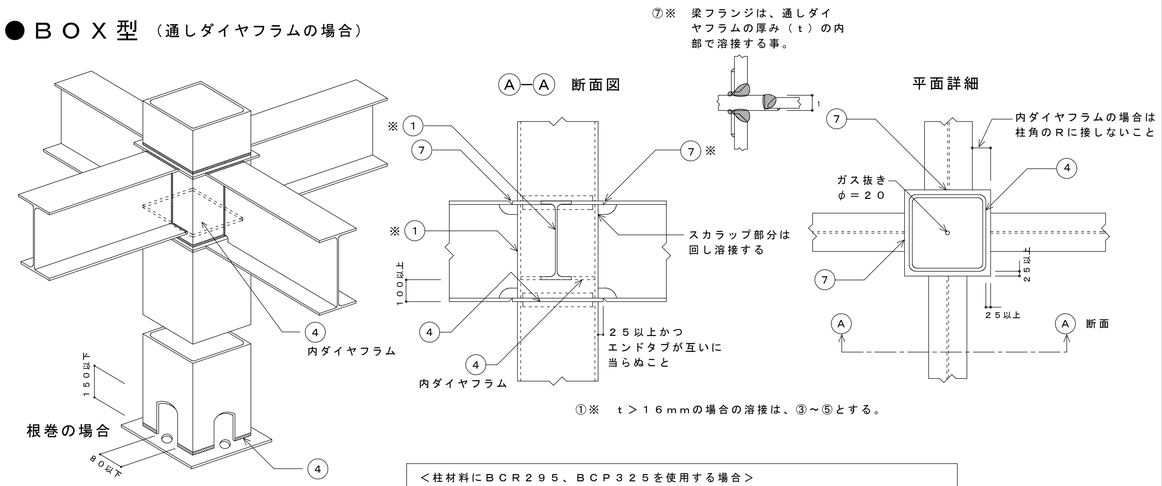
(4) フレアー溶接



寸法 (mm) φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

●フレアー溶接長は，プレートに接する全長とする
●9mm~16mmは１パス以上，19mm以上は２パス以上とする
溶接棒角度θは30°~40°とする

●ＢＯＸ型 （通しダイヤフラムの場合）



①※　ｔ＞１６ｍｍの場合の溶接は、③～⑤とする。

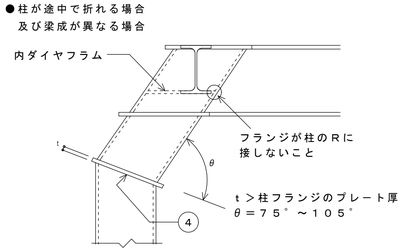
＜柱材料にＢＣＲ２９５、ＢＣＰ３２５を使用する場合＞
・通しダイヤフラムは、ＳＮ４９０Ｃ同等以上の鋼材を使用する事。
・通しダイヤフラム厚は、接続する柱、梁の最大フランジ厚の２サイズアップとする事。
・内ダイヤフラム厚は、接続する梁の最大フランジ厚の２サイズアップとする事。

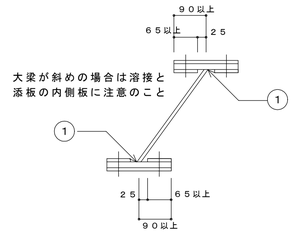
●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料		入熱 (KJ/cm)	パス温度差 (℃)
400Ｎ級鋼	JIS Z 3211,3212,3214		40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11,15		
		YGW-18,19		
	JIS Z 3315	YGA-50W,50P		
490Ｎ級鋼	JIS Z 3212,3214		40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11,15	30以下	250以下
		YGW-18,19	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W,50P		

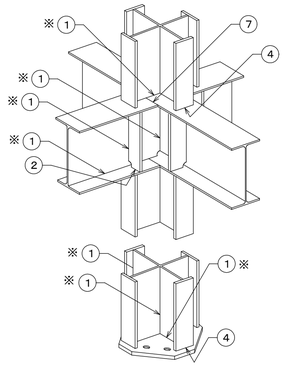
注）STKR,BCR,BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
「構造設計特記仕様　6.鉄骨工事　(2)口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による

●柱が途中で折れる場合
及び梁成が異なる場合

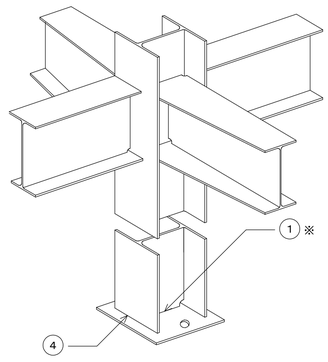




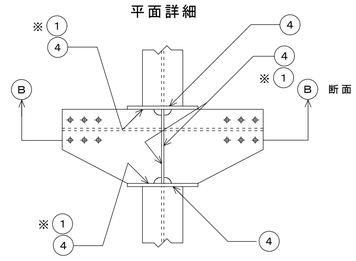
●⊞ 方式



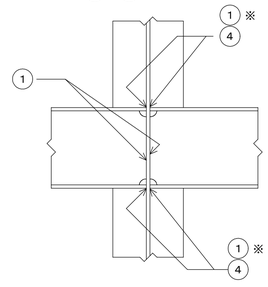
●ＢＨ方式



平面詳細



Ⓑ—Ⓑ 断面図



①※　t>16mmの場合の溶接は、③～⑤とする。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名 鉄骨構造標準図（１）
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺

図面番号 S-04

鉄 骨 構 造 標 準 図 (2)

5． 継手規準図、その他

（ボルト本数及びピッチ等で設計図書で表示している場合は、その指示に従う）

(1) ボルトピッチ (P)

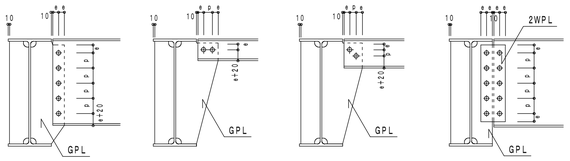
(mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70

[注] (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト

タイプ－１　タイプ－２　タイプ－３　タイプ－４



タイプ－１～タイプ－３

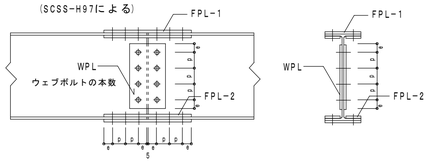
タイプ	部　材	ボルト径	本　数	GPL厚さ	備　考

タイプ－４

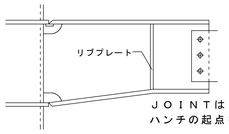
タイプ	部　材	ボルト径	本　数	GPL厚さ	WPL厚さ

(3) 梁剛接合継手

(SCSS-H97による)



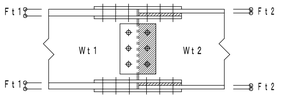
(4) ハンチ部の継手



ＪＯＩＮＴは
ハンチの起点を避ける。

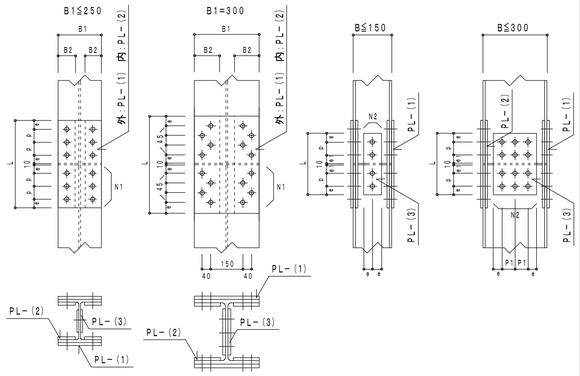
ハンチ勾配は普通１：４程度であるが構造図による。

フランジ及びウェブ厚の差のある場合

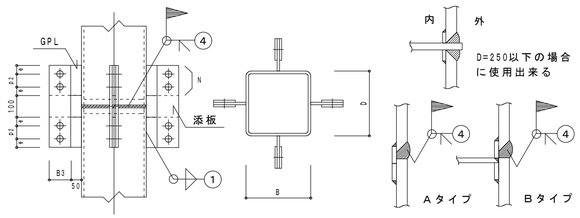


Ft1−Ft2
Wt1−Wt2 ≧1mm フィラプレート併用の事

(5) 柱継手リスト （ＳＣＳＳ－Ｈ９７による）

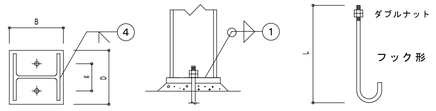


部　材	ボルト径	フランジ					ウェブ			
		ボルト本数	g	外添板 PL−(1)	B2	内添板 PL−(2)	ボルト本数	添板 PL−(3)	e1	p1



部　材	ボルト径	ボルト本数	エレクションピース				
			e	p2	B3	GPL	添板

(6) 柱脚リスト

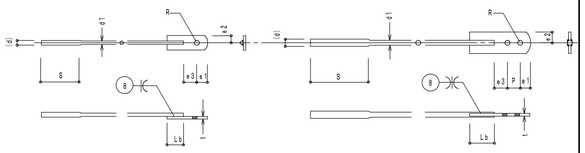


部　材	B.P (txBxD)	g	A.BOLT	L	備　考

(7) 鉄筋ブレース継手リスト (JIS規格品とする‥JIS5540~5542‥1982)

羽子板ボルト

（Ｍ１２～Ｍ２２のとき）　（Ｍ２４のとき）

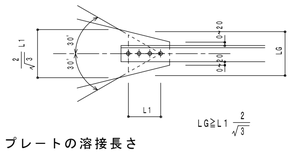


ねじの呼び （ｄ）			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径ｄ１	最　大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最　小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差 +0. -0.5mm		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
端あき（最小）(1)		e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (1)（最小）	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (1)（最小）	e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき（最小）		e3	14	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小）		L	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト本数 (2)			1−M12	1−M16	1−M16	1−M20	1−M20	1−M22	2−M20

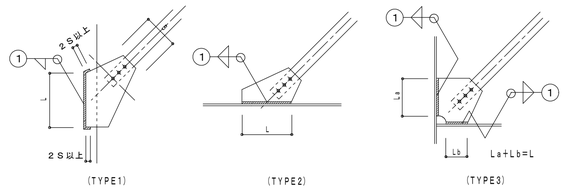
[注] (1) ｅ１、ｅ２が確保されていれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガッセットプレートの接合は表に示す取り付けボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする。

(8) 山形鋼・平鋼ブレース継手リスト

ガセットプレートの大きさ



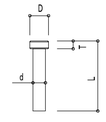
ガセットプレートの溶接長さ



	部　材	高力ボルト本数－径	ガセットＰＬ厚×幅	溶接長さ (L) mm			サイズ S
				TYPE1	TYPE2	TYPE3	
平鋼							
山形鋼（シングル）							

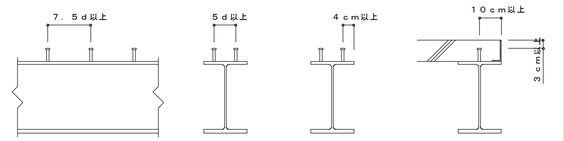
(9) 頭付きスタッド (JIS 1198)

スタッド材の標準寸法

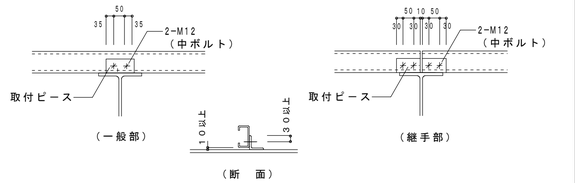


呼び名	軸径 d (mm)	頭径 D (mm)	頭高さ T (mm)	溶接後の長さ L (mm)
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50, 80, 100, 130
φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80, 100, 130
φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80, 100, 130, 150
φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100, 130, 150

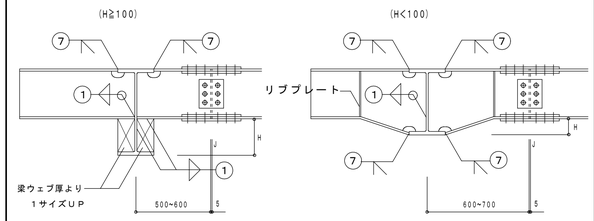
注） 鉄骨梁のウェブ直上に溶接される場合を除き、溶接するスタットコネクタの軸径は、フランジ板厚の２．５倍以下とする。



(10) 母屋・胴縁取付要領

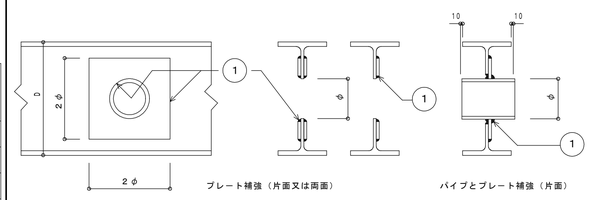


(11) 小梁剛接合要領

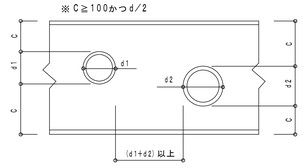


(12) 梁貫通補強要領

- 日本建築センターによる評定を取得した既製品を、設計者の承認を得て使用する。
- 梁端部（スパンのL/10以内かつ2D以内）は避ける。
- φ≦0.4D
- スリーブ径及び位置、補強方法の図面を作成し、設計者の承認を得ること。



梁貫通の範囲
※C≧100かつd/2



プレート補強の板厚

スリーブ径 φ	補　強　板　厚（最低板厚）
φ≦0.15D	補強板不要
φ≦D/4	ウェブ板厚以上（片面）
φ≦D/3	ウェブ板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦0.4D	ウェブ板厚以上（両面）

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	鉄骨構造標準図（２）	縮尺		図面番号	S-05
			特記事項		特記事項		特記事項							

先端羽根付き鋼管杭基礎設計施工標準

2025.06. 改訂

【許容支持力および適用範囲】

1 件名

G-ECSパイル工法

（くい先端地盤：砂質地盤（礫質地盤含む） TACP-0585）

（くい先端地盤：粘土質地盤 BCJ基評-FD0178-01）

2 地盤の許容支持力

本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1）長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力（kN）

$$R_a=\frac{1}{3}\{\alpha\overline{N}A_p+(\beta\overline{N}_sL_s+\gamma\overline{q}_uL_c)\psi\}$$

2）短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力（kN）

$$R_a=\frac{2}{3}\{\alpha\overline{N}A_p+(\beta\overline{N}_sL_s+\gamma\overline{q}_uL_c)\psi\}$$

ここで、

α：くい先端支持力係数（砂質地盤（礫質地盤含む） α=184）

（粘土質地盤 α=150）

β：砂質地盤におけるくいの周面摩擦力係数（β=0）

γ：粘土質地盤におけるくいの周面摩擦力係数（γ=0）

$\overline{N}$：基礎ぐいの先端付近（杭先端より下方に1Dw、上方に1Dwの範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数（N値）の平均値（回）

（砂質地盤 5≦$\overline{N}$≦60）

（粘土質地盤 10≦$\overline{N}$≦50）

Dw：基礎ぐい先端の実断面積（Ag）と等価な円の直径（以下、等価円直径という）

Ap：基礎ぐいの先端の有効断面積（㎡）

Ap=e・Ag

e ：有効率（くい径300mm未満で1.0、300mm以上で0.97）

Ag：基礎ぐい先端の実断面積（㎡）

$\overline{N}_s$：基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

Ls：基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（m）

$\overline{q}_u$：基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（kN/㎡）

Lc：基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（m）

ψ：基礎ぐいの周囲の長さ（m）

基礎ぐい先端の有効断面積（Ap）、および等価円直径（Dw）

くい径 Dp（mm）	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	400.0 406.4
Ap（㎡）	0.0514	0.0780	0.1089	0.1562	0.1993	0.2884	0.4058	0.4228	0.5105
Dw（mm）	256.9	314.7	372.3	446.0	503.7	606.0	729.9	745.0	818.6

3 くい材から決まる許容支持力

1）くい材から決まる長期許容支持力

$$L_{Na}=\frac{F^{*}}{1.5}A_e(1-\alpha_1-\alpha_2)$$

ただし、

$F^{*}=F\cdot(0.80+2.5\cdot t_a/r)$ （$0.01\leqq t_a/r<0.08$）

$F^{*}=F$ （$t_a/r\geqq 0.08$）

ここで、

F^{*}：上記の式より計算した数値（N/mm²）

F ：設計基準強度（N/mm²）

t_a：腐食しろを除いた鋼管の厚さ（mm）

r ：鋼管の半径（mm）

Ae ：腐食しろを除いた鋼管の断面積（mm²）

α_1：長さ径比による低減率

L＞100Dpの場合、α_1=（L/Dp-100）/100

L≦100Dpの場合、α_1=0

α_2：溶接継手による低減率（α_2=0）

2）くい材から決まる短期許容支持力

$L_{Na}=1.5\times L_{Na}$

4 引抜き方向の短期支持力 （GBRC性能証明第11-05号改2）

1）地盤から決まる引抜き方向の短期許容支持力

$$t_{Ra}=\frac{2}{3}\kappa\cdot\overline{N}_t\cdot A_{tp}+W_p$$

ここで、

κ ：先端抵抗係数（砂質地盤（礫質地盤含む） κ=56）

（粘土質地盤 κ=56）

$\overline{N}_t$ ：基礎ぐいの先端付近（くい先端より上方に3Dwの範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数（N値）の平均値（回）

（砂質地盤 10≦$\overline{N}_t$≦60 $\overline{N}_t$を算出する時の個々のN値は、N<5のときN=0、N>100のときN=100）

（粘土質地盤 5≦$\overline{N}_t$≦50 $\overline{N}_t$を算出する時の個々のN値は、N<2のときN=0、N>50のときN=50）

A_{tp}：基礎ぐいの先端の有効断面積（㎡）

Wp ：浮力を考慮したくいの有効自重（kN）

2）くい材から決まる引抜き方向の短期支持力

$t_{Na}=F^{*}\cdot A_e$

基礎ぐい先端の有効断面積（Atp）一覧表

くい径 Dp（mm）	等価円直径Dw（mm）	有効断面積 Atp（㎡）	適用地盤
114.3	256.9	0.0416	砂質地盤（礫質地盤含む）、粘土質地盤
139.8	314.7	0.0624	
165.2	372.3	0.0874	
190.7	446.0	0.1277	
216.3	503.7	0.1625	
267.4	606.0	0.2323	
318.5	729.9	0.3388	
355.6	745.0	0.3366	
400.0	818.6	0.4006	
406.4	818.6	0.3966	

5 適用範囲

1）適用する地盤の種類

a.くいの許容支持力（押込み方向）

くい先端地盤 ：砂質地盤 （礫質地盤含む）

：粘土質地盤（φ267.4まで）

くいの周囲の地盤：砂質地盤、および粘土質地盤

b.引抜き方向の短期支持力

くい先端地盤 ：砂質地盤 （礫質地盤含む）

：粘土質地盤（φ267.4まで）

くいの周囲の地盤：砂質地盤、および粘土質地盤

最小くい長 ：砂質地盤 3mと10Dpの大きい方

：粘土質地盤 5m

2）最大施工深さ

くい径（Dp）の130倍とし下表による

くい径 Dp（mm）	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	400.0	406.4
最大施工深さ（m）※1	14.86	18.17	21.48	24.79	28.12	34.76 ※2	41.40	46.22	52.00	52.83

※1 最大施工深さは、施工地盤からくい先端までの施工深さ

※2 くい先端が粘土質地盤で引抜き方向支持力を使用する場合は31.70m

3）適用する建築物の規模

延べ面積が、500,000 ㎡以下の建築物

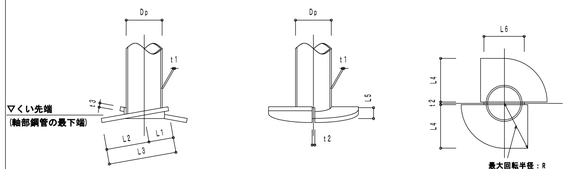
【G-ECSパイルの構造・規格】

1 G-ECSパイルの寸法

Dp（mm）	Dw（mm）	t1（mm）	t2（mm）	t3※1（mm）	L1（mm）	L2、L4（mm）	L3（mm）	L5（mm）	L6（mm）	R（mm）
114.3	256.9	4.5 6.0	12	16	70	140	210	52	135	162
139.8	314.7	4.5 6.6	12	19	90	170	260	60	165	198
165.2	372.3	5.0 7.1 9.3	12	19	110	200	310	65	185	234
190.7	446.0	5.3 7.0 8.2	16	22	130	240	370	80	225	280
216.3	503.7	8.2 10.3 12.7	16	22	150	270	420	90	250	316
267.4	606.0	8.0 9.3 12.7 16.0 19.0	19	28	180	325	505	110	305	380
318.5	729.9	6.9 7.9 10.3 12.7 16.0 19.0	22	32	220	390	610	115	360	457
355.6	745.0	9.5 12.7 16.0 19.0	22	32	220	400	620	120	390	466
(400.0)	818.6	9.0 12.0	25	36	240	440	680	135	440	512
406.4	818.6	7.9 9.5 12.7 16.0 19.0	25	36	240	440	680	135	440	512

※1 φ216.3の質部のみ材質はSM490Aとし、これ以外はSS400とする

※ 寸法公差は性能評価書の内容に準じる



※掘進が困難と想定される地盤では掘削刃付きタイプを使用する。

2 G-ECSパイルの材質

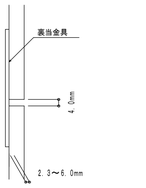
部位	使用材料
基礎ぐいの軸部	JIS G 3444（1994）に定めるSTK400、STK490、及びSTK540※ JIS A 5525（1994）に定めるSKK400、及びSKK490 JIS G 3475（1996）に定めるSTKN400W、STKN400B、及びSTKN490B
くい先端部の質、及び組立版	JIS G 3101（1995）に定めるSS400 JIS G 3106（1999）に定めるSM400A、SM400B、SM400C、SM490A、SM490B、SM490C、SM490YA、及びSM490YB
キー材、及び裏当て金具	JIS G 3101（1995）に定めるSS400 JIS G 3106（1999）に定めるSM400A、SM400B、SM400C、SM490A、SM490B、SM490C、SM490YA、及びSM490YB

※ 国住参建第2401号、2402号（令和3年12月20日）による基準強度の指定

3 継手

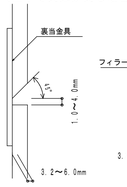
1）溶接継手標準図

a.φ139.8以下の場合

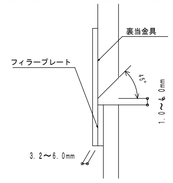


b.φ165.2以上の場合

（上下で肉厚が同じ場合）



（肉厚が異なる場合）



2）現場自動溶接ロボット工法（ECS-AW）を適用する場合

a.ロボット本体仕様

本体外形寸法：幅388mm、奥行120mm、高さ236mm

レール寸法：幅120mm、厚さ20mm

本体重量：約4.5kg

※上記数値は標準タイプの場合

b.溶接方法

セルフシールドアーク溶接

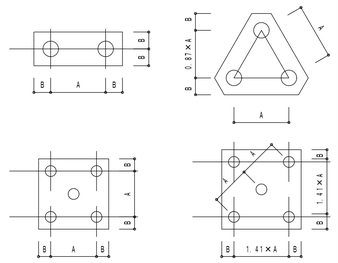
c.適用くい径

Dp=165.2～406.4mm

【くい芯間隔とへりあきの推奨値】

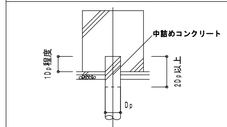
※ 下表の推奨値は施工偏心を見込まない場合

呼称	くい径 Dp（mm）	くい芯間隔 A（mm）	へりあき B（mm）
114.3	114.3	440	140
139.8	139.8	540	150
165.2	165.2	640	175
190.7	190.7	760	210
216.3	216.3	850	240
267.4	267.4	1030	300
318.5	318.5	1250	400
355.6	355.6	1300	400
400.0	400.0	1500	500
406.4	406.4	1500	500

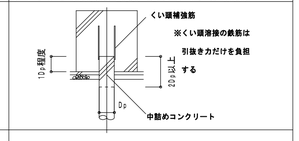


【くい頭部の接合例 】

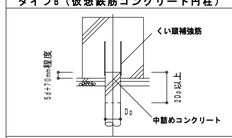
タイプA-1（引抜力を負担しないくいの場合）



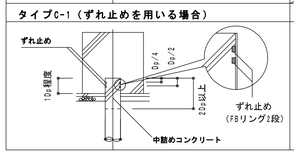
タイプA-2（引抜力を負担させるくいの場合）



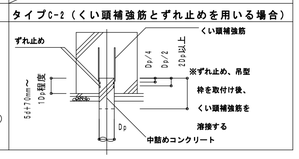
タイプB（仮想鉄筋コンクリート円柱）



タイプC-1（ずれ止めを用いる場合）



タイプC-2（くい頭補強筋とずれ止めを用いる場合）



※ くい頭補強筋については別途検討が必要

【施工管理方法】

G-ECSパイル工法では、以下の管理方法により現場ごとの「支持層確認管理値」を決定し、くいの先端が確実に支持層に到達していることを確認して、打ち止め管理を行う。

1）PR値

G-ECSパイル工法は「PR値」により施工管理を行う（PR値：くい1回転あたりの地中への貫入量（mm））

2）施工管理方法

a.本ぐいの施工に先立ち、地盤調査（標準貫入試験）位置または近傍にて試験ぐいの施工を行う。試験ぐいでは、地表面からくい先端所定位置まで全長に亘り、深度・PR値・トルクを測定し、地盤調査資料と比較して整合性を検証する。このとき、地盤調査位置近傍に本ぐいがある場合には、これを試験ぐいとすることができる。 ※くい先端所定位置：設計上必要とされるN値の発現深度

b.試験ぐいに不整合が無ければ、試験ぐいの施工データと比較しながら本ぐいを3本施工し、支持層上端より1.0m上部（引抜き方向の支持力を負担するくいについては3Dwかつ1.0m上部）から試験ぐいと同一の押圧力でPR値を測定する。

c.試験ぐいを含めた管理値設定ぐい計4本について、支持層上端におけるPR値の平均値を求める。また、合わせてトルクの最小値を求める。

d.c.で求めた平均値の130%を当該現場における「支持層確認管理値」とする。また、トルクの最小値とバラつきの程度を考慮して打ち止め参考トルクを設定する。

e.本ぐいの施工時には、支持層上端と想定される深度より1.0m上部（引抜き方向の支持力を負担させるくいについては3Dwかつ1.0m上部）から試験ぐいと同一の押圧力でPR値・トルクを測定し、「支持層確認管理値」以下となった深度を支持層上端とする。

f.支持層上端より1Dp以上くいを根入れし、打ち止めとする。根入れの時はくいを正転させ、打ち止める。

※ PR値が「支持層確認管理値」以下となった後、根入れの際に施工トルクがくい体の短期許容ねじり強さを超える場合、またはPR値が「支持層確認管理値」の30%以下となる場合には、1Dpの根入れと同等として扱う。

g.くいの高止まり時の処置：打ち止め条件は満たしているが、貫入が困難な場合で支持層上端以深の地盤にN値の落ち込みがないことが確実な場合は、その位置で打ち止めとし、くい頭は地面で切断とする。

※ 高止まり時の支持層上端より以深の地盤にN値の落ち込みが予想される場合には、くいに逆回転を与えて引抜き、アースオーガー等にて掘削して施工困難な層を打抜き後、再施工とする。アースオーガー等による先行掘削は支持層上端の1.0m程度上部（引抜き方向の支持力を適用するくいについては3Dwかつ1.0m上部）とする。

h.くい長不足の処置：打ち止め条件を満たさないくいは適宜継いで、「支持層確認管理値」以下になるまで施工する。ただし、最大施工深さを超える場合には、監理者・設計者と協議の上、指示による。

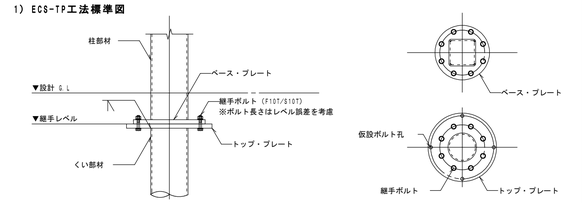
i.トルク値について、全数を監督員及び監理者と協議し、報告を行うこと。

j.高止まりが発生した場合の杭頭処理は、杭工事業者が実施すること。

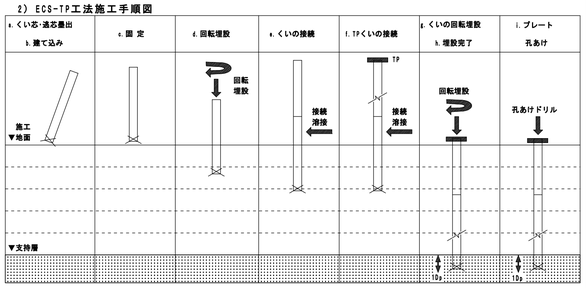
【ECS-TP工法】 （特許第6660446号）

ECS-TP（エクス・ティーピー）工法とは、回転貫入鋼管杭として大臣認定を取得したG-ECSパイル工法を用いた、柱杭一体型の施工方法をいう

1）ECS-TP工法標準図



2）ECS-TP工法施工手順図



3）施工手順

a.～b. 逃げくいは、直角方向2か所設定する。基準は、地面に固定したもの（鉄板等）に印す。

c.～d. くいの位置を固定し、回転埋設を行う。

e. くいの接続を行う。

f.～g. TPくい（上くい）に、TP治具を取付け、回転埋設する。

h. G-ECSパイル工法打ち止め管理基準を満足していることを確認し、所定レベル0～-10mmで埋設完了とする。

i. テンプレートを用いてトップ・プレート上にボルト孔の墨出しを行い、位置再確認の後、ボルト孔あけドリルにより施工する。

j. レベル調整用フィラーを敷設し、柱の建方を行う（鉄骨建て入れ直しの前工程でくい頭周辺に捨てコンクリートを打設しておくことが望ましい）。

4）管理値

ECS-TP工法の水平方向施工管理許容値は±20mm以内、鉛直方向の施工管理許容値は0～-10mmとし、これを超える場合は対処方法について監理者・設計者と協議を行うものとする。

【国土交通省大臣認定、性能評価】

G-ECSパイル工法

（くい先端地盤：砂質地盤（礫質地盤含む））

認定番号 TACP-0585

認定書 国住指第755号

指定書 国住指第755-2号

性能評価書 BCJ基評-FD0124-04

G-ECSパイル工法

（くい先端地盤：粘土質地盤）

性能評価書 BCJ基評-FD0178-01

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 特記事項	図面名	先端羽根付き鋼管杭基礎設計施工標準

縮尺 | 図面番号 S-06

角形鋼管
F値295N/mm² 以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

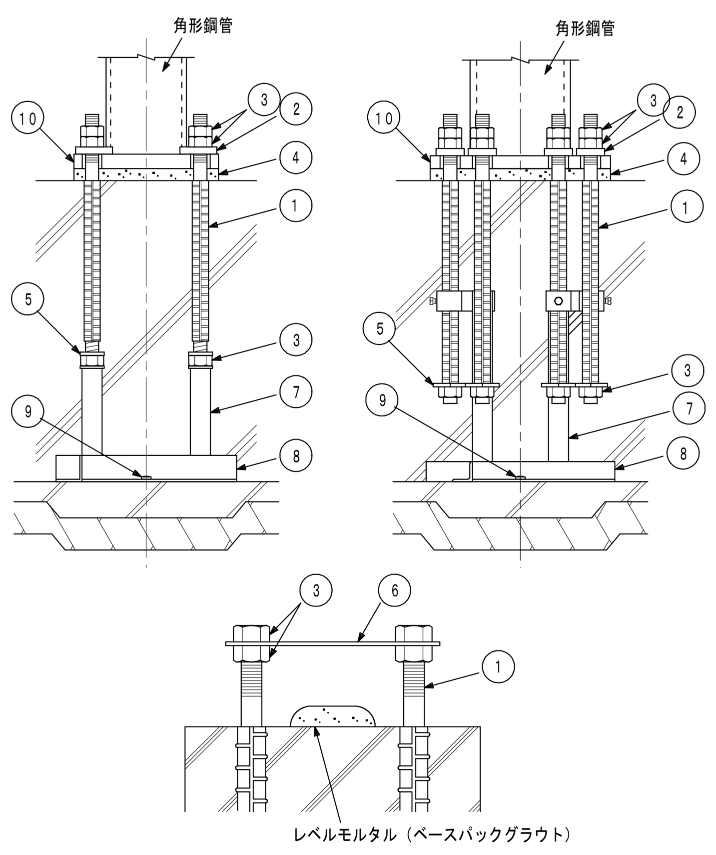
鉄骨柱脚部設計施工標準図

（財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」（令和６年６月21日付）

2024年10月作成

１．工法概要

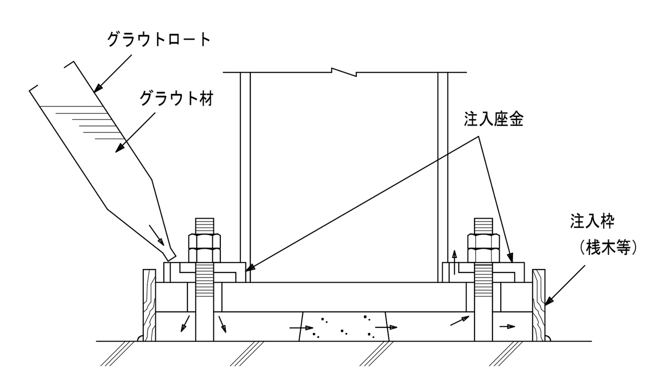
１．１　構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤定着座金
⑥テンプレート
⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ベースプレート

(注) 上記①～⑩ の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注) 上記⑥～⑨ は現場状況により仕様が異なる場合がある。

１．２　柱脚の定着方法概要



２．柱

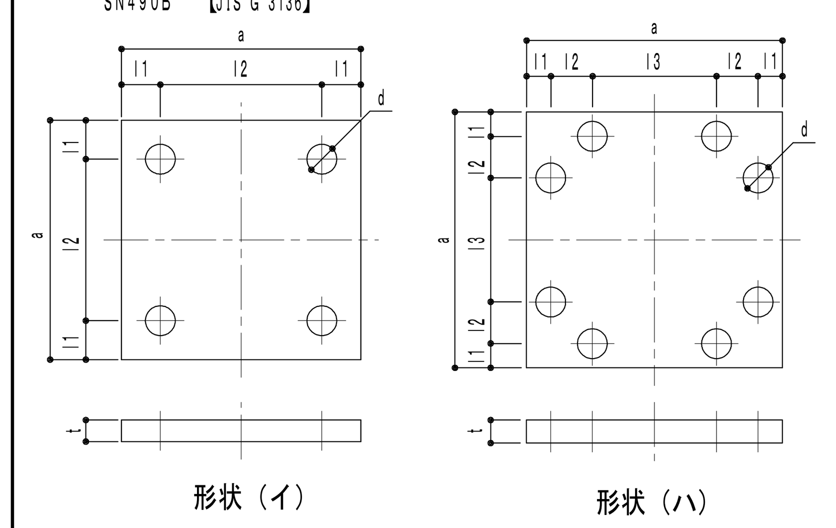
F値 (N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	●
	TSC295	

３．構成部材・寸法

３．１　ベースプレート

●材質

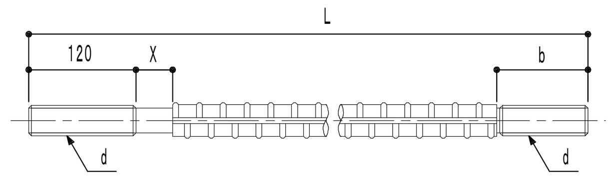
SN490B　【JIS G 3136】



３．２　アンカーボルト（Mアンカーボルト）

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム A タイプの場合

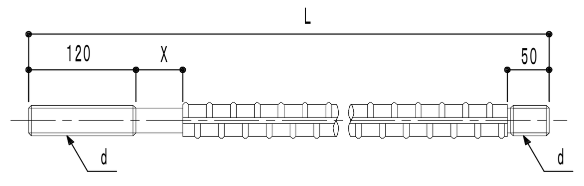


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii) アンカーフレーム C タイプ の場合

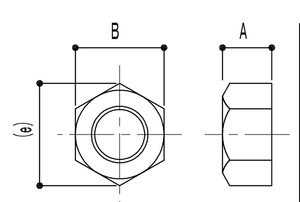


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

３．３　Mナット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

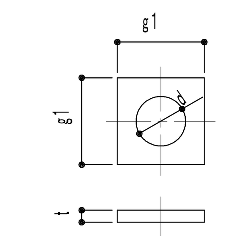


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

３．４　定着座金

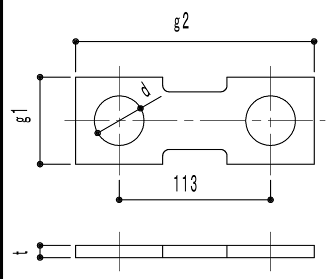
i) アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

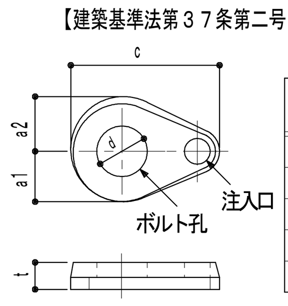


単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

３．５　注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

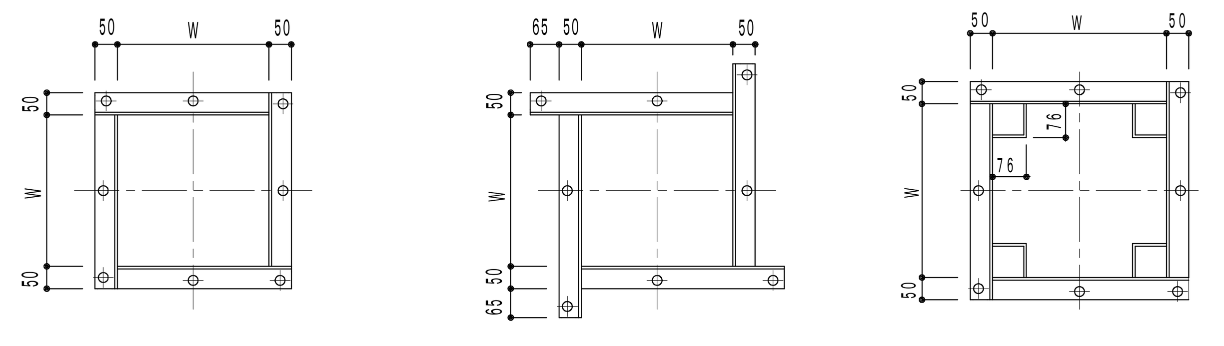


単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

３．６　フレームベース

i) Aタイプ　ii) Cタイプ　iii) 特Cタイプ

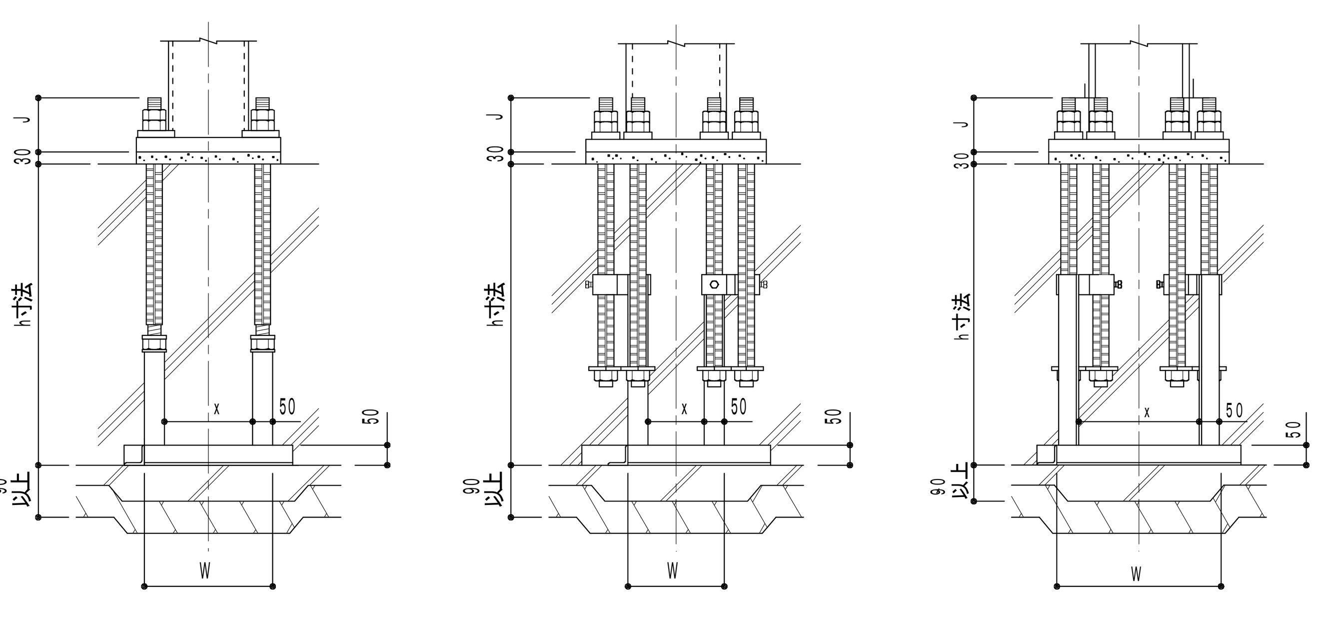


３．７　アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉　〈 Cタイプ ※ 〉　〈 特Cタイプ 〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。



単位 mm

採用	ベースパック記号	柱 外径 (mm)	柱 板厚 (mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法 a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度 (N/mm²)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D (mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度 (N/mm²)	フレームベース 寸法W (mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法X (mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135
●	20-09V	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
●	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	□-250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150
	25-12V	□-250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150
	25-16V	□-250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	□-300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□-300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

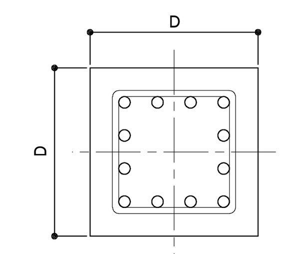
※　コンクリート柱型の断面・配筋などは、構造図（柱脚リスト）による。

４．コンクリート柱型

４．１　形状・材質

●形状

形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。



●コンクリート

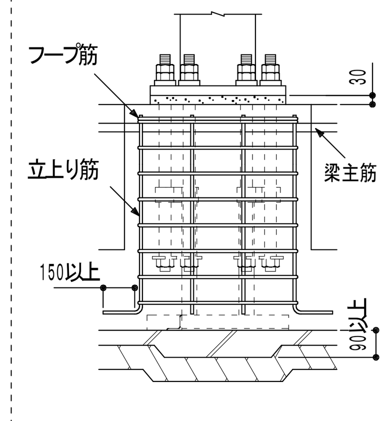
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm² 以上とする。

●鉄筋

SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

４．２　配筋

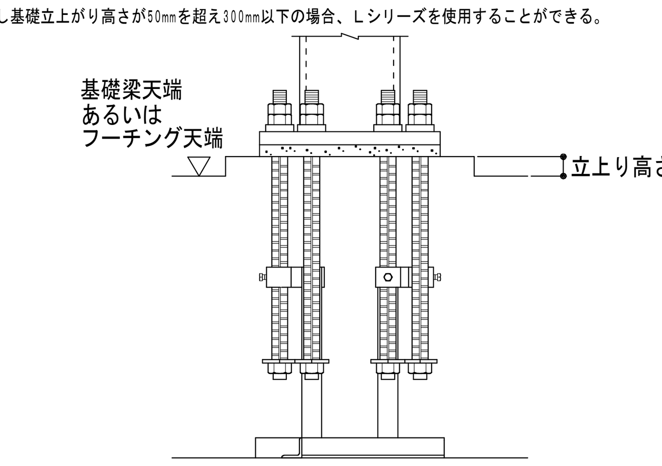
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

４．３　基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



４．４　特記事項　上記内容によらない場合は下記による。

採用

- □　下表標準柱型寸法からの変更あり （「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
- □　下表標準配筋仕様からの変更あり
- □　立上り筋に頂部フックが必要

５．工場製作（溶接）

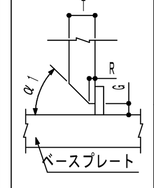
■組立

●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）

●完全溶込み溶接とする。（JASS 6　鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6　鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚 T (mm)	ルート間隔G (mm) 標準値	許容差	ルート面R (mm) 標準値	許容差	開先角度α1 (°) 標準値	許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		

許容差　・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温（鋼材表面温度）が5° C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm) t＜32	32≦t＜40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50 ℃	50 ℃
CO2 ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

６．工事場施工

６．１　基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

６．２　アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

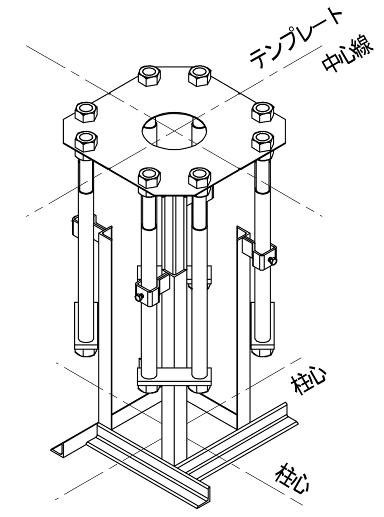
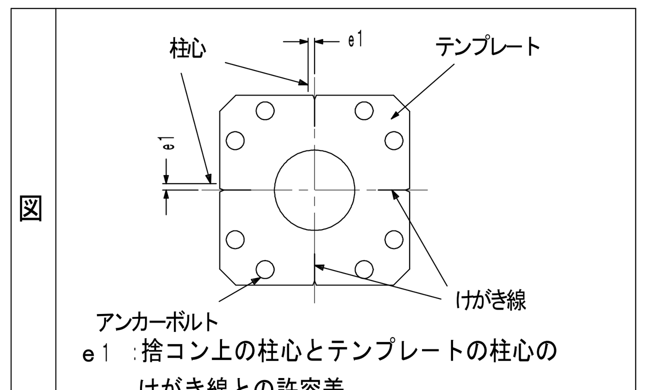


図	 柱心 / テンプレート / けがき線 / アンカーボルト e1 ：捨コン上の柱心とテンプレートの柱心のけがき線との許容差
標準許容差	-2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦e≦10

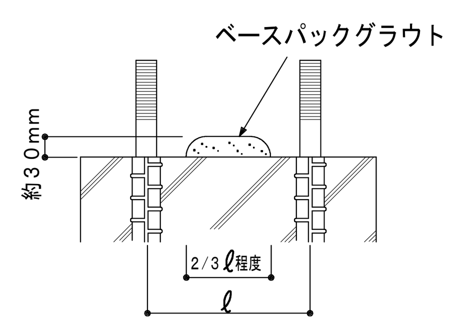
６．３　配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

６．４　建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



６．５　アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

６．６　ベースパックグラウト（グラウト材）の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（6kg）に対して、計量カップで1.0～1.1ℓ の水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

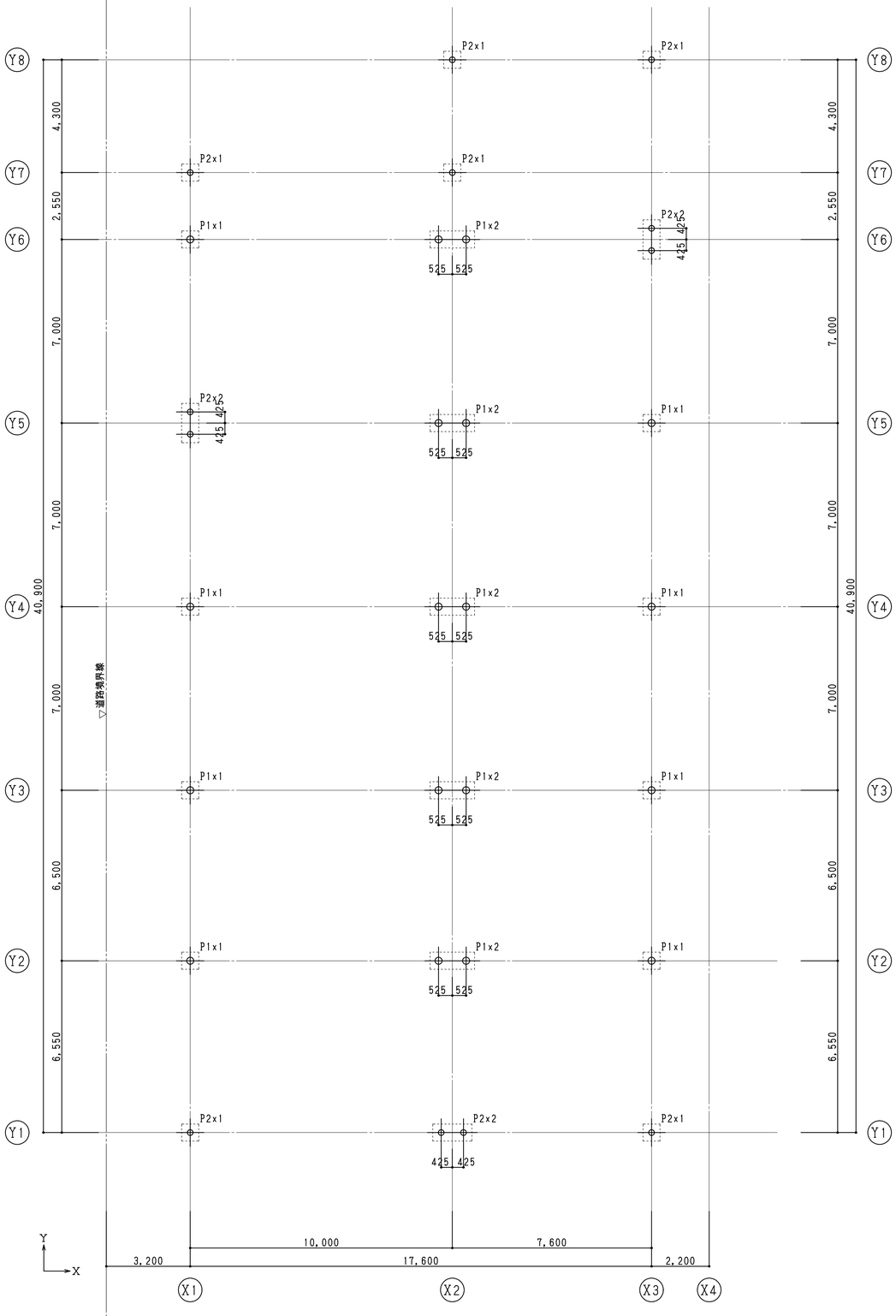
７．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称 （仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	変更年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	図面名 鉄骨柱脚部設計施工標準図	縮尺	図面番号 S-07



杭　伏図　S=1:100

註）特記なき限り下記による。
・試験杭の位置は、工事監理者と協議の上決定する。

※施工完了時下記表を記載すること

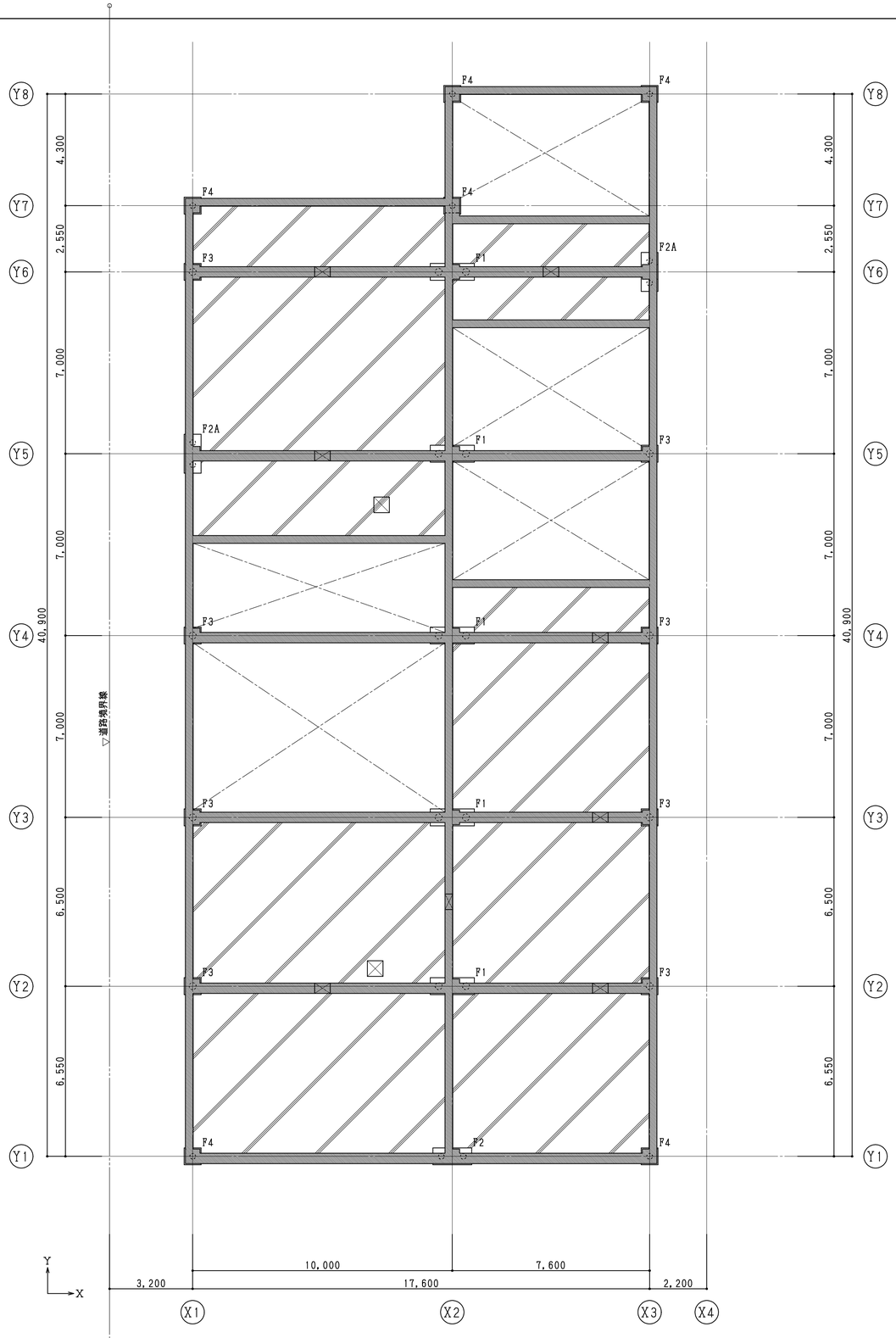
杭No.	偏心量 x	偏心量 y	支持層到達時 深度(m)	支持層到達時 施工回転トルク(kN・m)	最終深度(m)	根入れ深さ(m)
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

杭　仕　様

杭　種		先端羽根付き鋼管杭	
工　法		先端羽根付き鋼管杭工法	
符　号		P1	P2
杭頭　深さ		GL- 2.10m	GL- 2.10m
杭先端深さ		GL-26.10m	GL-26.10m
杭　実　長		L=24.00m	L=24.00m
支　持　層		シルト混り細砂	シルト混り細砂
上杭	本体径	267.4φ	216.3φ
	厚　さ	12.7	10.3
	杭　長	L=8.0m	L=8.0m
	材　質	STK490	STK490
中杭	本体径	267.4φ	216.3φ
	厚　さ	8.0	8.2
	杭　長	L=8.0m	L=8.0m
	材　質	STK490	STK490
下杭	本体径	267.4φ	216.3φ
	厚　さ	8.0	8.2
	杭　長	L=8.0m	L=8.0m
	材　質	STK490	STK490
	翼部径 Dw	606.0	503.7
本　数		18　本	12　本
杭　耐　力		560kN/本	390kN/本

・杭の継手は、現場溶接継手を採用する。
・設計図は、G－ECSパイル工法使用時のものとする。
他工法採用の場合、これにかかる費用・手間は工事請負者が負担すること。

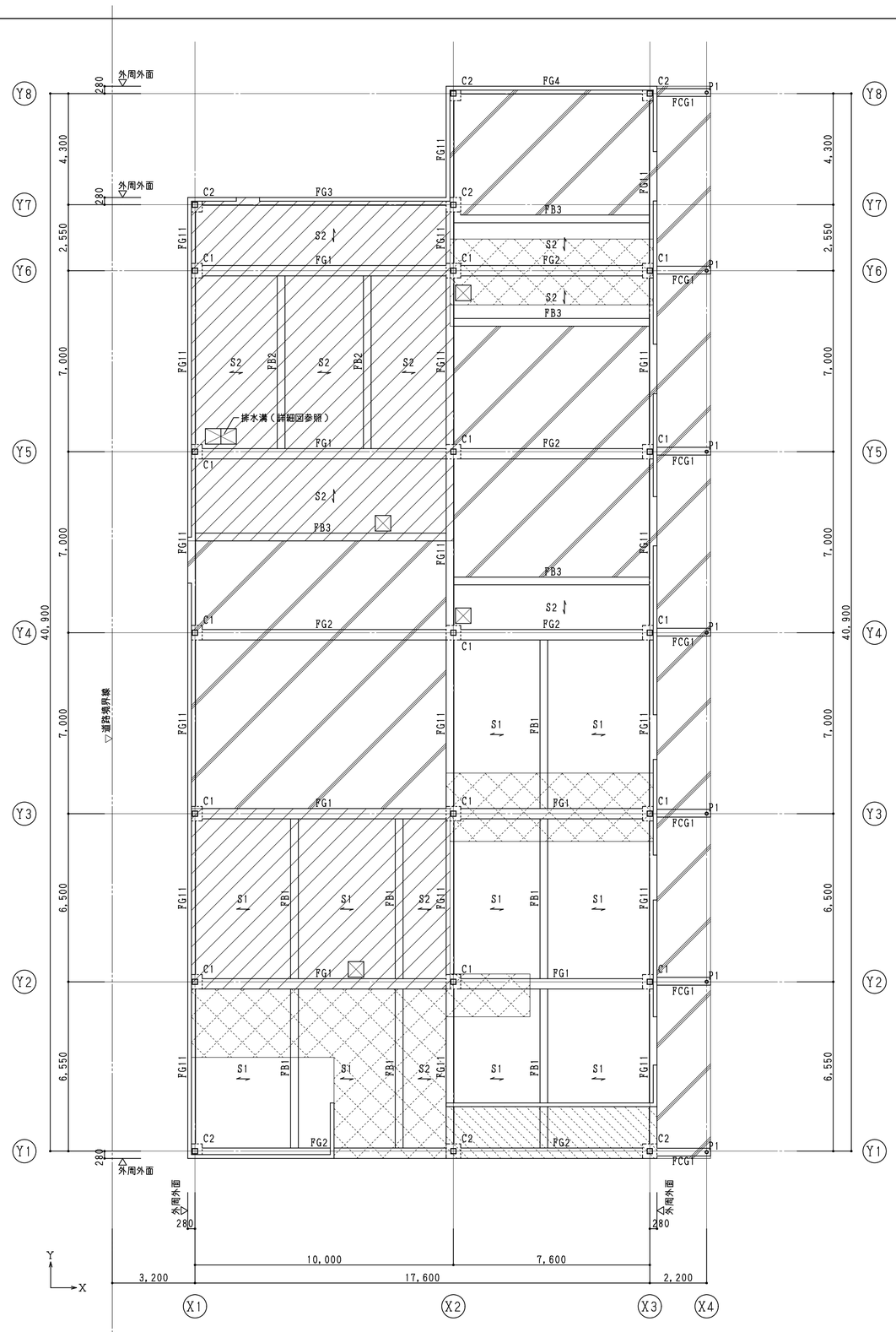
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名 杭　伏図
			特記事項		特記事項		特記事項		縮尺 1/50 (A1) 1/100 (A3)
									図面番号 S-08



基礎　伏図　S=1:100　（見下げ図）

註）特記なき限り下記による。

- 人通孔（600φ）（通気管・通水管は、意匠図による）
- 土間コンクリート
- 埋め戻し部分
- 釜　場
- 基礎下端レベル　1FL-2,450(GL-2,300)



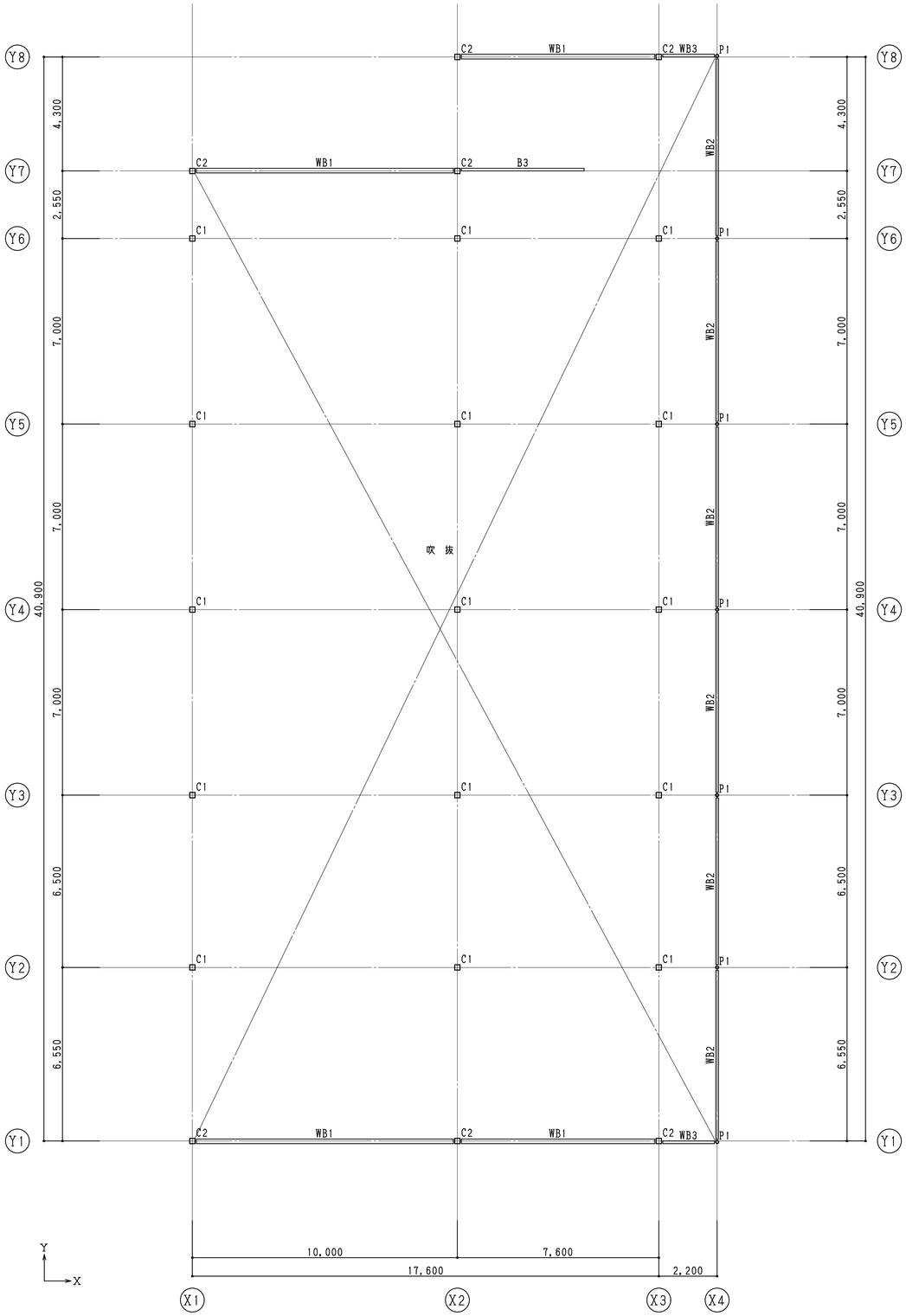
1階　伏図　S=1:100　（見下げ図）

註）特記なき限り下記による。

- RC立上り壁　W145
- 短辺方向を示す。
- 土間コンクリート
- 点検口
- 特記なき鉄骨柱位置は、柱芯とする。

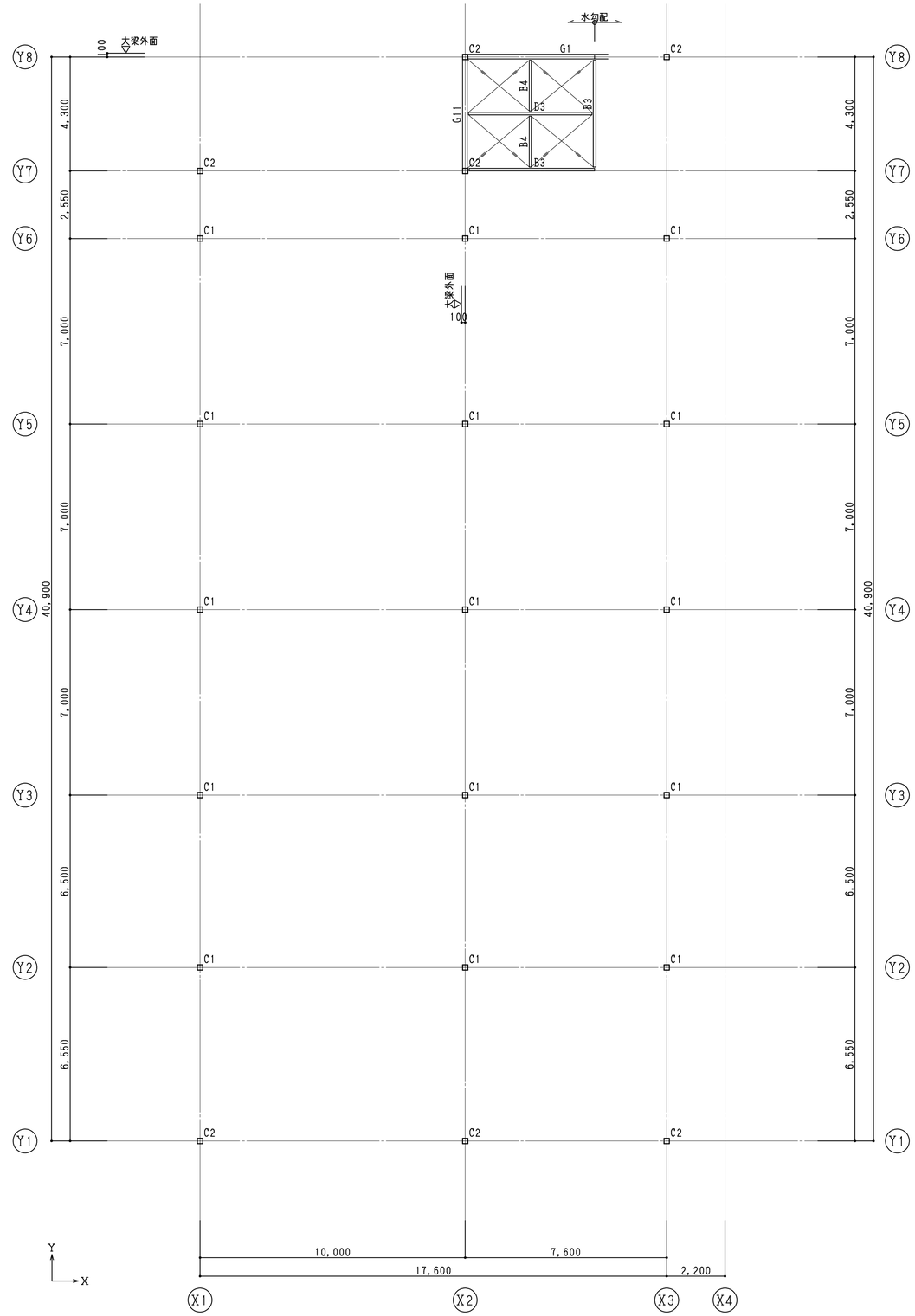
- スラブ上端
  - 1FL-100(GL+ 50)
  - スラブ上カシの範囲を示す。（フカシ厚 70）
  - 1FL- 30
  - 1FL-180
- 地中梁上端レベル　1FL-300(GL-150)
- 土間コンのレベルは、意匠図による。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	基礎・1階　伏図	縮尺	1/50 (A1) 1/100 (A3)	図面番号	S-09
			特記事項		特記事項		特記事項							



中２階　伏図　S=1:100　（見下げ図）

註）特記なき限り下記による。
・鉄骨梁下端　1FL+2800

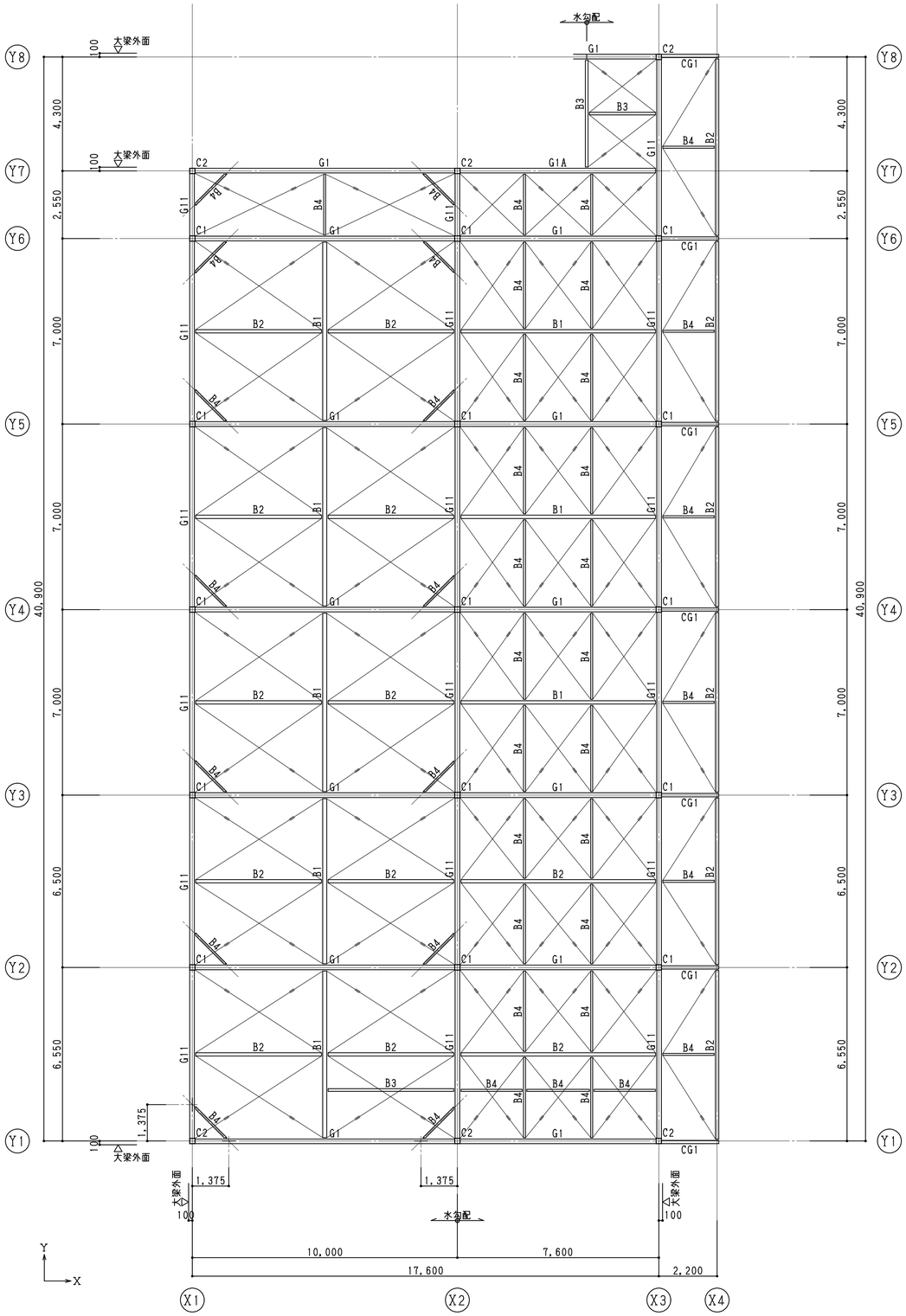


Ｍ２ＳＬ層伏図　S=1:100　（見下げ図）

註）特記なき限り下記による。
・　水平ブレース

・特記なき鉄骨柱位置は、柱芯とする。
・鉄骨梁上端　RSL（軒高）+758~1,480

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	中２階・Ｍ２ＳＬ層伏図	縮尺	1/50 (A1) 1/100 (A3)	図面番号	S-10
			特記事項		特記事項		特記事項							



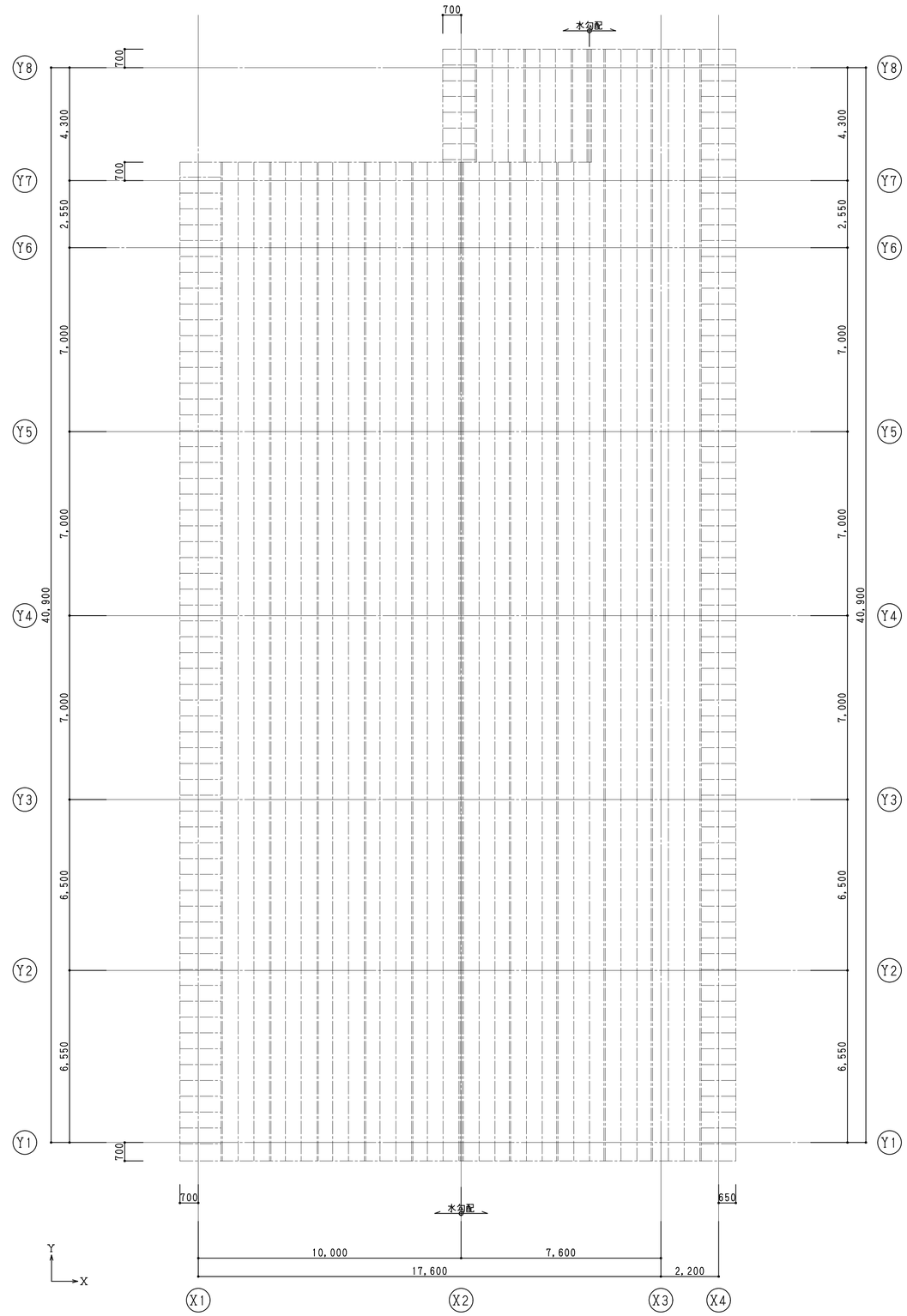
R階　伏図　S=1:100　（見下げ図）

註）特記なき限り下記による。

・ ╳ 水平ブレース

・特記なき鉄骨柱位置は、柱芯とする。

・鉄骨梁上端　RSL（軒高）±0~1,480

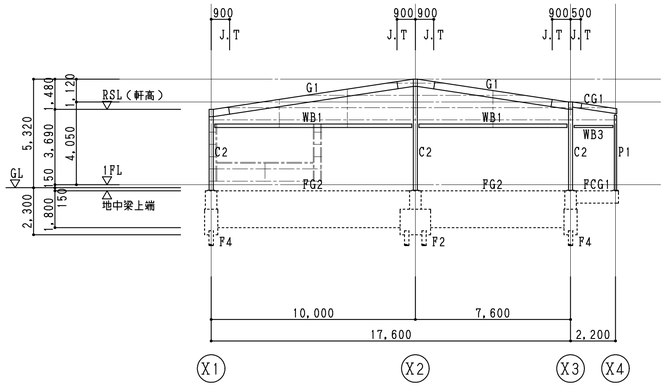


母屋　伏図　S=1:100　（見下げ図）

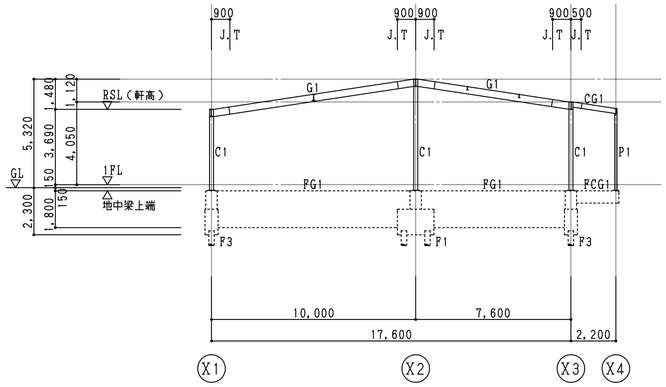
註）特記なき限り下記による。

・ ——·—— 母屋

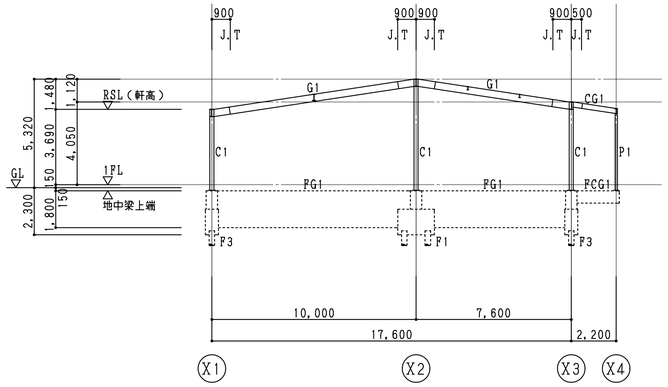
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	R階・母屋　伏図	縮尺	1/50 (A1) 1/100 (A3)	図面番号	S-11
			特記事項		特記事項		特記事項							



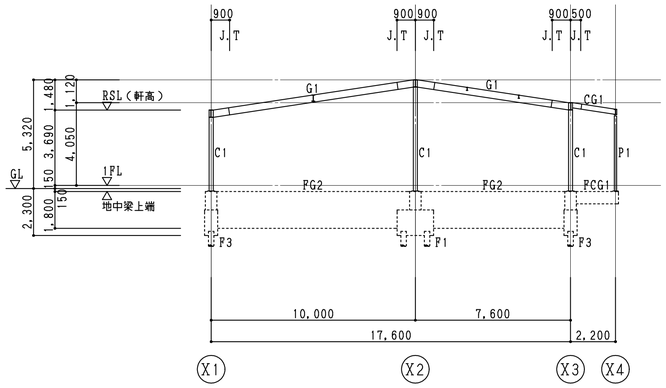
Y1通り　軸組図　S=1:150



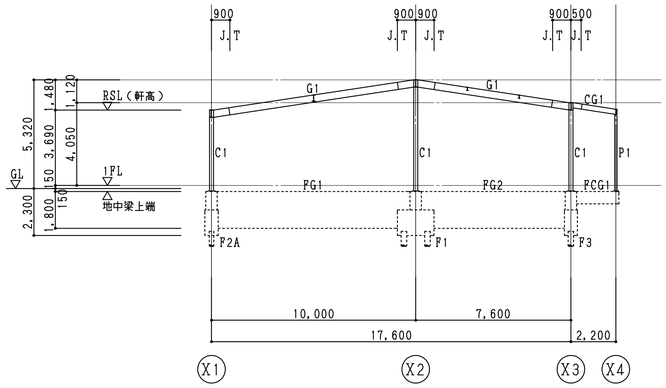
Y2通り　軸組図　S=1:150



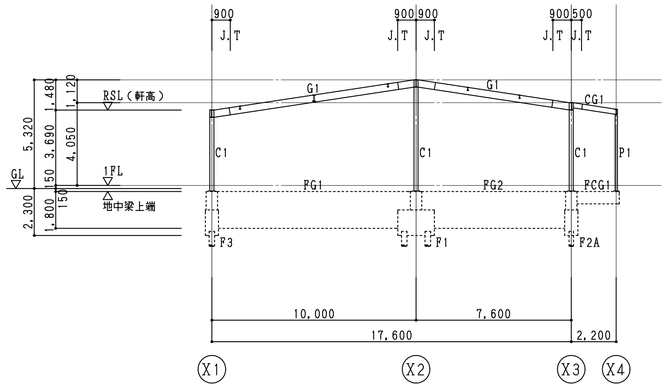
Y3通り　軸組図　S=1:150



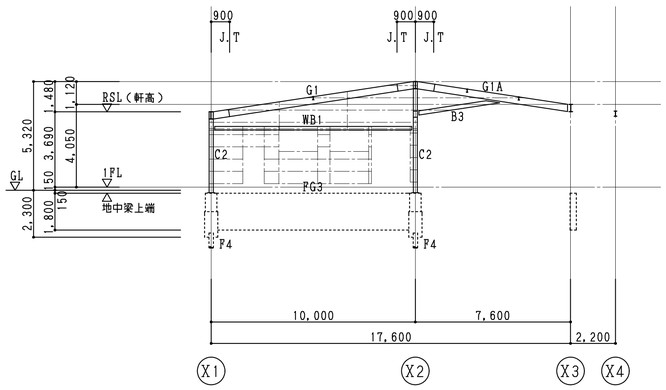
Y4通り　軸組図　S=1:150



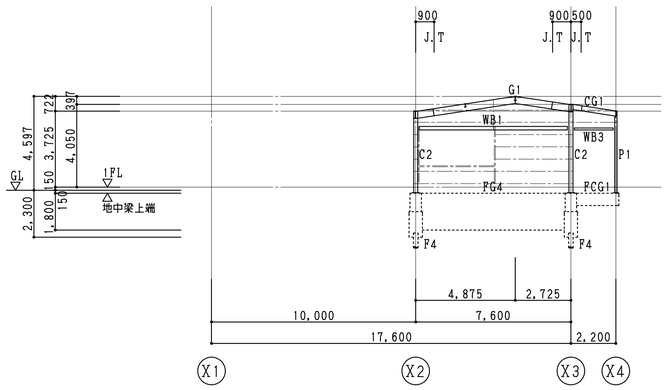
Y5通り　軸組図　S=1:150



Y6通り　軸組図　S=1:150



Y7通り　軸組図　S=1:150



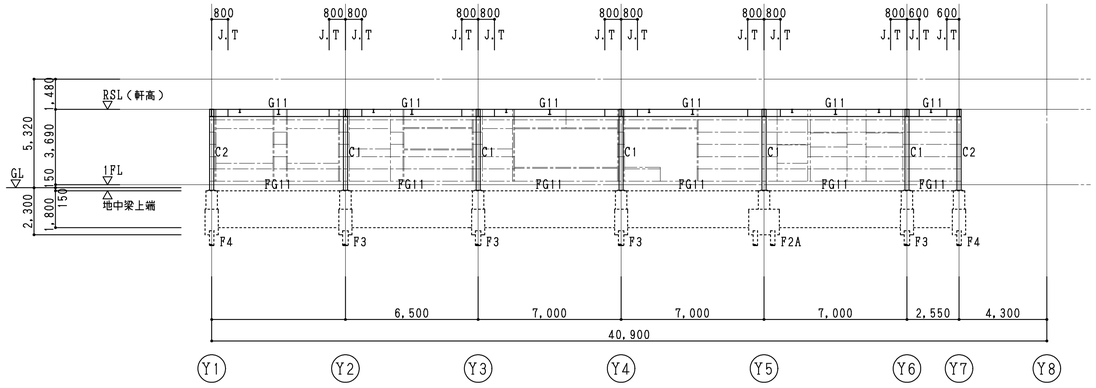
Y8通り　軸組図　S=1:150

共通事項

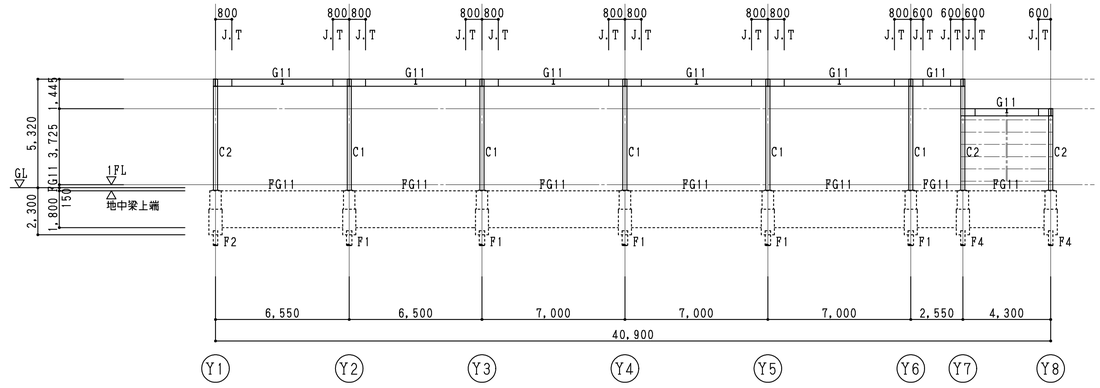
註）特記なき限り下記による。

- 横胴縁
- 縦胴縁
- （ダブル線は、２本揃合せて使用する。）

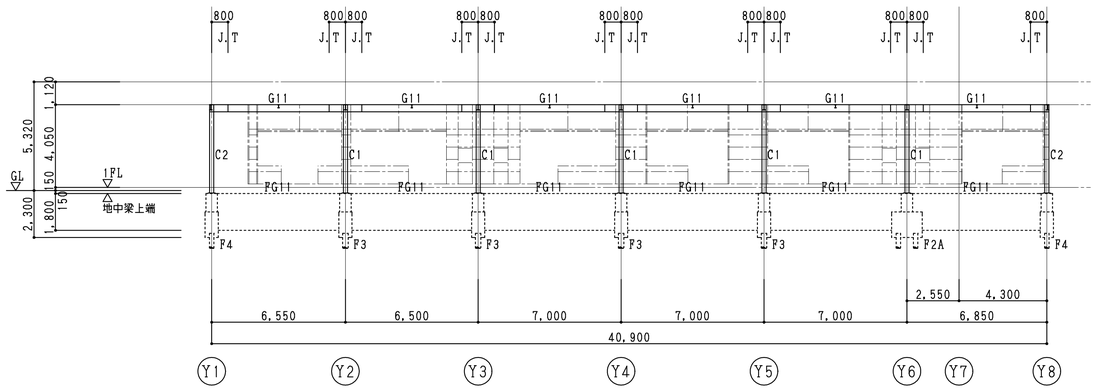
千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日 令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日	図面名	軸組図（1）	縮尺	1/150 (A1) 1/300 (A3)	図面番号	S-12
			特記事項	特記事項	特記事項						



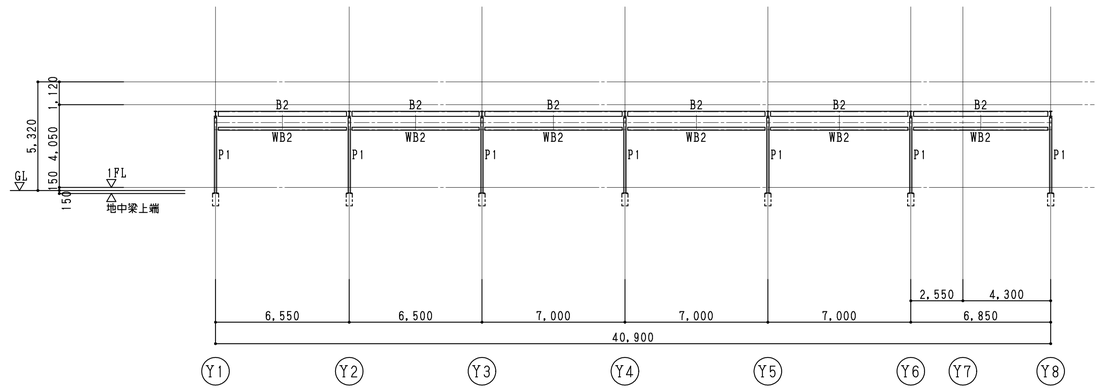
X1通り　軸組図　S=1:300



X2通り　軸組図　S=1:300



X3通り　軸組図　S=1:300



X4通り　軸組図　S=1:300

共通事項

註）特記なき限り下記による。

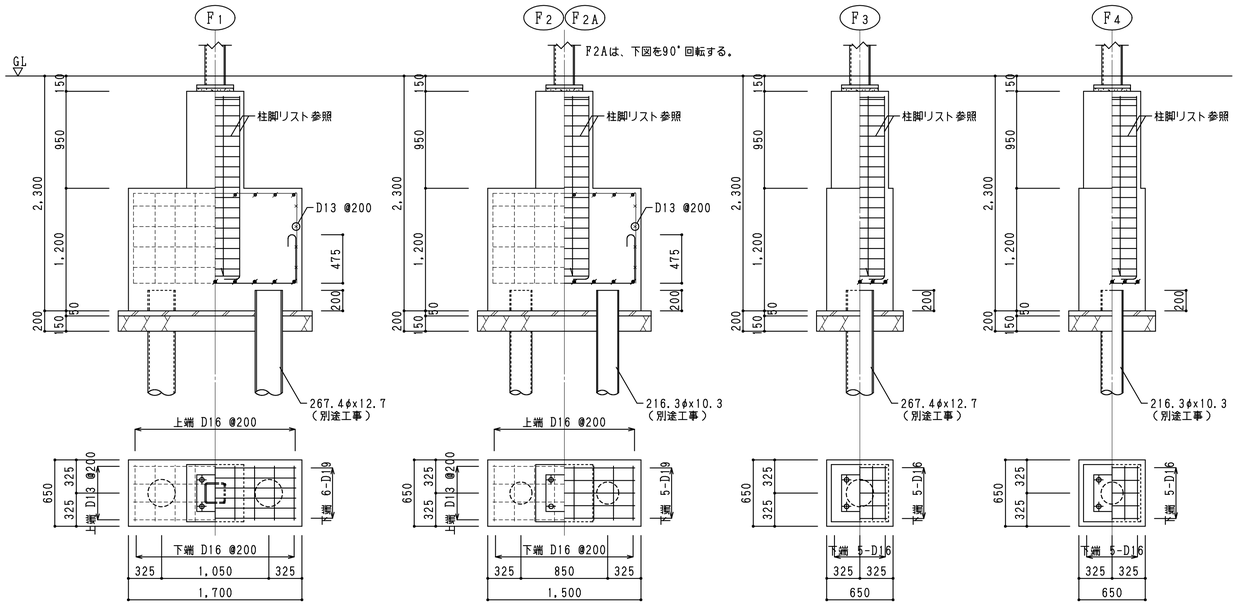
横胴縁

縦胴縁

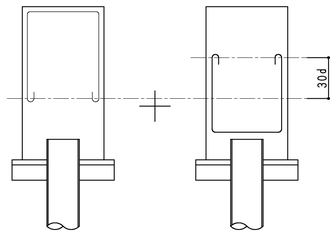
（ダブル線は、２本抱合せて使用する。）

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	軸組図（２）	縮尺	1/150 (A1) 1/300 (A3)	図面番号	S-13
			特記事項		特記事項		特記事項							

基礎　リスト　S=1:30

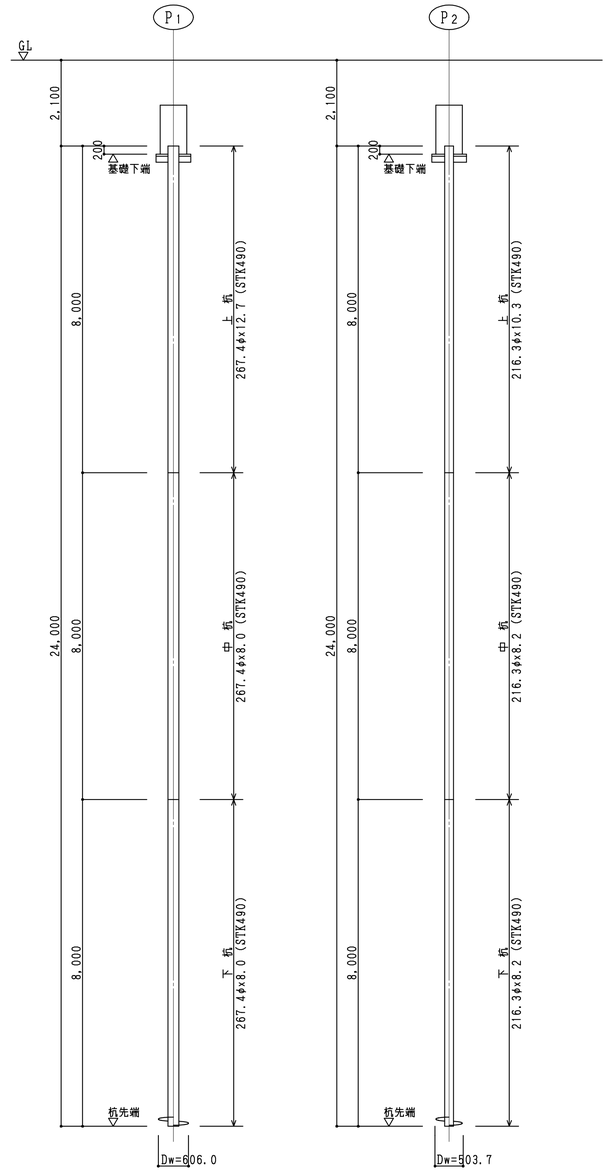


F1,F2,F2A 基礎の長辺方向の上端下端筋の加工要領



杭　リスト　S=1:75

注）杭の継手は、現場溶接継手を採用する。



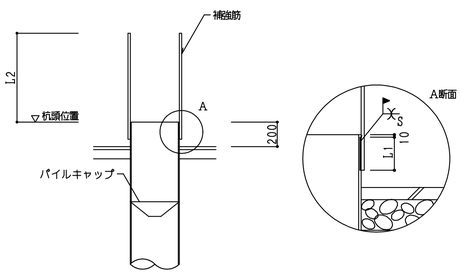
柱脚　リスト　S=1:30

（註）柱脚の詳細は、S－06図参照。
P1のアンカーボルトは、ダブルナット締め、先端フック付とする。

符　号	C1	C2		P1	
部　材	□-200x200x12	□-200x200x 9		φ-114.3x6.0	
ベースプレート断面	50 260 50 / 360	50 260 50 / 360		40 / 160 / 275	
ベースプレート	ベースパック 20-12V	ベースパック 20-09V		B.P-12 (SS400)	
アンカーボルト	4-M33(BPM-SD490)	4-M30(BPM-SD490)		2-M16 L=450 (SS400)	
RC柱型断面	560 / 560	560 / 560			
主　筋	12-D19	12-D16			
フ　ー　プ	□-D13 @100	□-D13 @100			

杭頭補強リスト　S=1:30

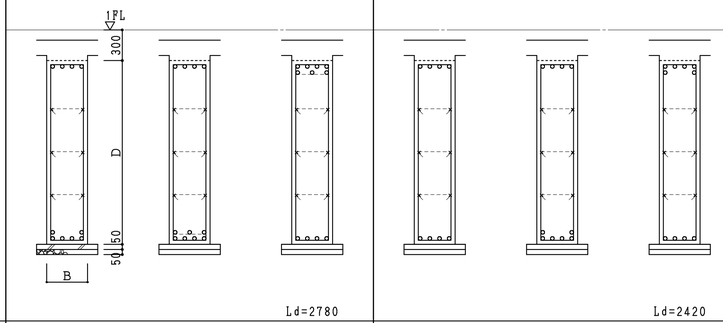
符　号	P1	P2	
杭　径	267.4φx12.7	216.3φx10.3	
断　面	(STK490) 267.4	(STK490) 216.3	
補強筋	10-D19	8-D19	
主筋長さ	L1=120,L2=760,S=6	L1=120,L2=760,S=6	



千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	杭・杭頭補強・基礎・柱脚リスト	縮尺	1/30(A1) 1/60(A3)	図面番号	S-14
			特記事項		特記事項		特記事項							

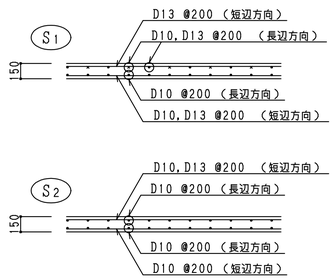
地中梁リスト　S=1:30

（註）特記なき限り　・巾止筋　D10　@800,　・梁貫通孔補強は、すべてリング型の既製品を使用する。
・Ld は、柱面からのカットオフ筋長さを示す。

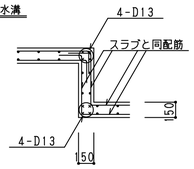
符号	FG1			FG2			FG3		FG4	FG11	FCG1		FB1		FB2		FB3	
位置	Y1，Y3端	中央	Y2 端	Y1，Y3端	中央	Y2 端	両端	中央	全断面	全断面	全断面		両端	中央	両端	中央	全断面	
断面																		
B X D	400 x 1800			400 x 1800			300 x 1800		300 x 1800	300 x 1800	300 x 600		300 x 800		300 x 800		300 x 1800	
上端筋	4-D22	4-D22	7-D22	4-D22	4-D22	6-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22		4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	
下端筋	6-D22	7-D22	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22		3-D22	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22	
スターラップ	□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @200		□-D13 @200	
腹筋	6-D13			6-D13			6-D13		6-D13	6-D13	2-D10		2-D10		2-D10		6-D13	

1階スラブ　リスト　S=1:30

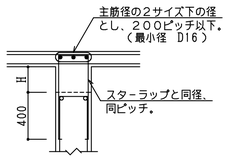
（註）段差スラブは、S-03図　鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)参照。



1階排水溝

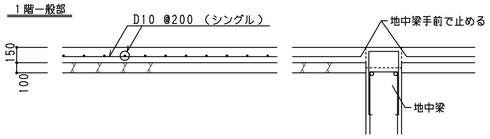


地中梁フカシ配筋図　S=1:30

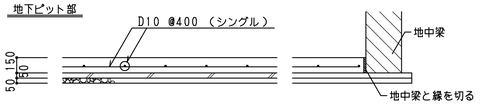


土間コンクリート配筋図　S=1:30

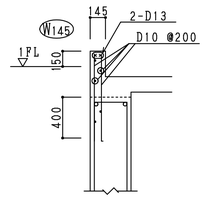
1階一般部



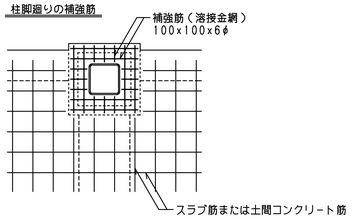
地下ピット部



RC立上り壁配筋図　S=1:30



柱脚廻りの補強筋



鉄骨柱　リスト

（註）特記なき材質は BCR295 とする。

階＼符号	C1	C2		
1	□-200x200x12 〈73〉	□-200x200x 9 〈84〉		

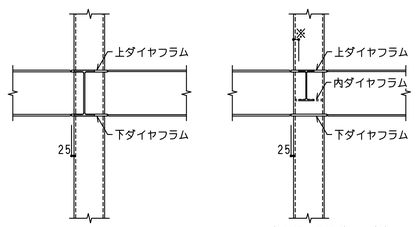
<>内は、有効細長比を示す。

鉄骨柱　通しダイヤフラム　リスト

（註）材質は SN490C とする。

符号		C1	C2	C2		
位置		すべて	右記以外	X2-Y7		
R 階	上ダイヤフラム	PL-19x250x250	PL-19x250x250	PL-19x250x250		
	下ダイヤフラム	PL-22x250x250	PL-22x250x250	PL-22x250x250		
M2階	上ダイヤフラム			PL-19x250x250		
	下ダイヤフラム			PL-19x250x250		

凡例



※：柱の隅のRを避けた寸法

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	地中梁・スラブ・鉄骨柱リスト	縮尺	1/30 (A1) 1/60 (A3)	図面番号	S-15

鉄骨大梁・片持梁リスト

（註）材質は SN400B とする。

階＼符号	G1			G1A			G11			cG1					
	位置	部材	継手	位置	部材	継手	位置	部材	継手	位置	部材	継手	位置	部材	継手
R			J1			J1 (J11)			J1			J2			
	全断面	H-350x175x 7x11		全断面	H-350x175x 7x11		全断面	H-350x175x 7x11		全断面	H-250x125x 6x 9				

（ ）内の継手符号は、X3端の継手を示す。

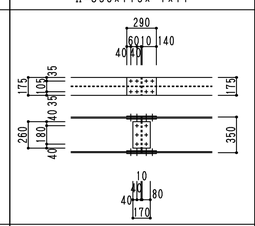
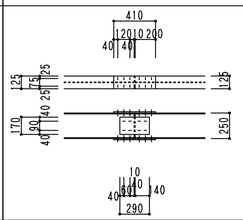
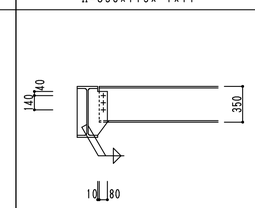
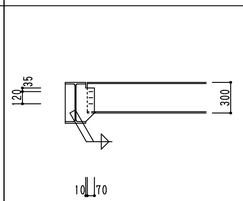
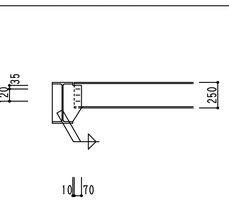
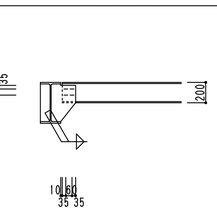
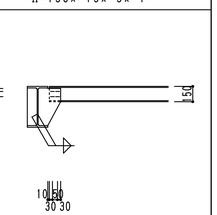
鉄骨二次部材リスト

（註）材質は SN400B,SSC400 とする。

符号	部材	継手	備考	符号	部材	継手	備考
B1	H-300x150x6.5x 9	J12		母屋	C-100x50x20x3.2 @606	J41	
B2	H-250x125x 6x 9	J13		水平ブレース	1-M16 （ターンバックル付）	J32	JIS A 5540
B3	H-200x100x5.5x 8	J14					
B4	H-150x 75x 5x 7	J15					
				外壁 横胴縁	C-100x50x20x3.2 @600	J42	
wB1	H-175x175x7.5x11	J21	横使い	外壁 横胴縁	2C-100x50x20x3.2	J43	開口部上下
wB2	H-148x100x 6x 9	J22	縦使い	外壁 縦胴縁	C-100x50x20x3.2	J44	開口部左右
wB3	H-100x100x 6x 8	J23	縦使い	外壁 縦胴縁	2C-100x50x20x3.2	J45	開口部左右
P1	φ-114.3x6.0	J31	STKN400				

鉄骨継手リスト（1） S=1:30

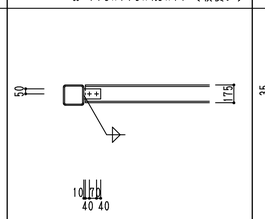
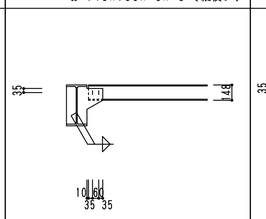
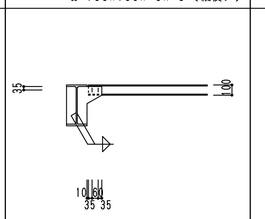
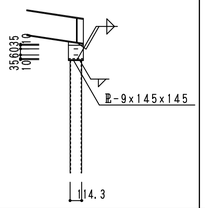
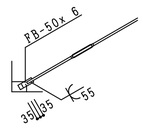
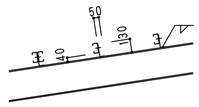
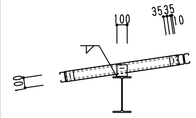
（註）プレートの材質は全て、母材と同材質とする。
特記なきボルトは、HTBとする。

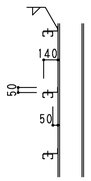
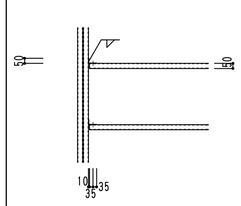
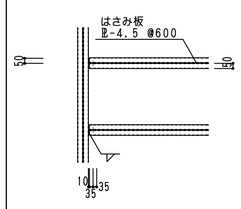
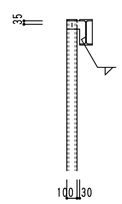
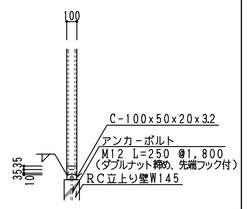
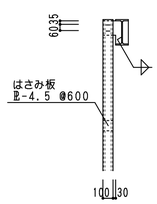
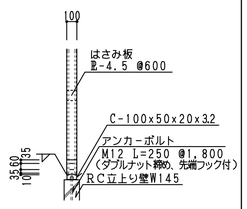
符号		J1	J2			J11	J12	J13	J14	J15
母材		H-350x175x 7x11	H-250x125x 6x 9			H-350x175x 7x11	H-300x150x6.5x 9	H-250x125x 6x 9	H-200x100x5.5x 8	H-150x 75x 5x 7
断面										
フランジ	プレート	SM- 9x175x290	SM-12x125x410			――	――	――	――	――
		2SM- 9x 70x290	――			――	――	――	――	――
	ボルト	4 -M20	6 -M16			――	――	――	――	――
ウェブ	プレート	2SM- 6x170x260	2SM- 6x290x170			GM-12	GM- 9	GM- 6	GM- 6	GM- 6
	ボルト	3 -M20	4 -M16			3 -M20	3 -M16	3 -M16	4 -M16	4 -M16

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	鉄骨大梁・二次部材・継手リスト	縮尺 1/30 (A1) 1/60 (A3)	図面番号 S-16
			特記事項		特記事項		特記事項					

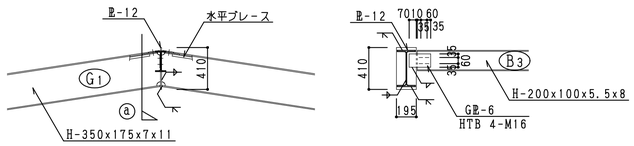
鉄骨継手リスト（2）　S=1:30

（註）プレートの材質は全て、母材と同材質とする。
特記なきボルトは、HTBとする。

符号		J21	J22	J23		J31	J32		J41	J41（庇）
母材		H-175x175x7.5x11（横使い）	H-148x100x 6x 9（縦使い）	H-100x100x 6x 8（縦使い）		φ-114.3x6.0	1-M16（ターンバックル付）		C-100x50x20x3.2 @606	C-100x50x20x3.2 @606
断面										
ウェブ	プレート	GPL- 9	GPL- 6	GPL- 6		GPL- 6	GPL- 6		PL-4.5	PL-4.5
	ボルト	2 -M20	2 -M16	2 -M16		2 -M16	1 -M16		1 -M12（中ボルト）	1 -M12（中ボルト）

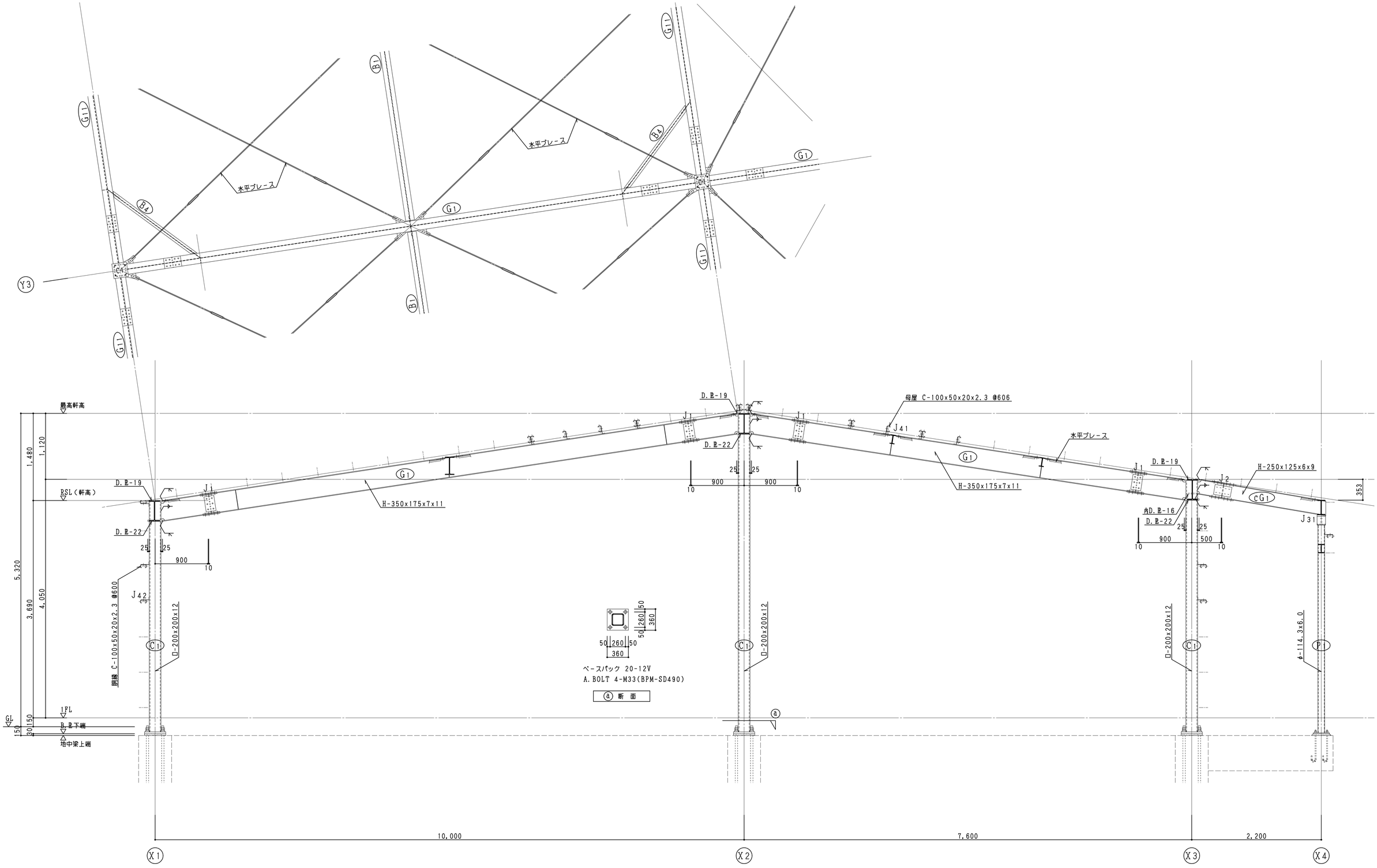
符号		J42	J42（胴縁－間柱）	J43	J44（柱頭）	J44（柱脚）	J45（柱頭）	J45（柱脚）		
母材		C-100x50x20x32	C-100x50x20x3.2	2C-100x50x20x3.2	C-100x50x20x3.2	C-100x50x20x3.2	2C-100x50x20x3.2	2C-100x50x20x3.2		
断面										
ウェブ	プレート	PL-4.5	PL-4.5	PL-4.5	PL-4.5	PL-4.5（L型）	PL-4.5	PL-4.5（L型）		
	ボルト	1 -M12（中ボルト）	1 -M12（中ボルト）	1 -M12（中ボルト）	1 -M12（中ボルト）	1 -M12（中ボルト）	2 -M12（中ボルト）	2 -M12（中ボルト）		

Y8通り　梁部詳細図



ⓐ 断面

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	継手リスト（2）	縮尺	1/30（A1） 1/60（A3）	図面番号	S-17
			特記事項		特記事項		特記事項							



Y3通り　鉄骨詳細図　S=1:30

註）鉄骨材質　柱材　：　C1 - BCR295
　　P1 - STK400
　　梁材　：　SN400B
　　ダイヤフラム　：　SN490C

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	（仮称）千葉市高浜保育所新築工事	設計年月日	令和 8 年 1 月 25 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	鉄骨詳細図	縮尺	1/30 (A1) 1/60 (A3)	図面番号	S-18
			特記事項		特記事項		特記事項							